



Title	ロシア語母語話者における因果関係の表現の習得について
Author(s)	Marina, Sereda-Linley
Citation	大阪大学, 2008, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/647
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大阪大学大学院言語社会研究科

博士論文

題目：ロシア語母語話者における因果
関係の表現の習得について

提出年月 2007年12月

氏名：Marina Sereda - Linley

日本語要旨

1. 本稿の目的

本稿はロシア語を母語とする日本語学習者における原因・理由を表わす表現の習得を中間言語体系の観点から考察する研究である。

従来の学習者の因果関係を表す表現能力に関する研究では、木山（2003）を除き、因果関係を表す表現は、産出された接続助詞・接続詞のごく一部であり、研究の主眼点となっていない。そして、多様な母語及び背景を持つ日本語学習者の発話には、母語を問わず、原因・理由を表わす表現のうち、「から」及び「だから」の過剰使用が見られるのに対し、「ので」「し」「～テ形」の使用が日本人のインフォーマントに比べて特に少ないという研究結果が目立っている。そこで、これまでほとんど研究対象とされてこなかったロシア語母語話者が原因・理由を述べる際、ロシア語に影響を受けて独自の中間言語を生み出すのか、それとも彼らの発話には多様な言語を母語とする日本語学習者に共通のパターンが見られるのかを調べようとした。

本研究の目的は、ロシア語を母語とする日本語学習者が原因・理由を述べる際、どんな表現を用いるのか、発話をどのように構成していくのかに関して考察し、学習者の中間言語の理解に貢献することである。ここに、研究課題として下記の3点を定める。

- (ア) ロシア語を母語とする日本語学習者の原因・理由に関する発話における中間言語を分析すること
- (イ) 学習者の母語が原因・理由に関する発話の構成、表現の選択に何らかの影響を与えるかを検討すること
- (ウ) ロシアの大学という目標言語のインプットが限られた環境において日本語を身につけようとする学習者にとって習得が困難な原因・理由を表わす表現を明らかにすること

2. 研究構想と実施手順

本研究の目的を達成するために、質的及び量的な研究を結合したデザインを用いた。まず、質的研究を仮説形成のために用い、それを質的・量的両方のアプローチにより検証した。仮説形成の段階では、1) 学習者の因果関係を表す表現能力に関する文献研究、2) 日本語及びロシア語における原因・理由を表わす表現の対照研究、3) 「半構造化インタビュー

一」によるロシア語を母語とする日本語学習者の自然発生的な中間言語のサンプル収集及び解釈という3つを循環的に組み合わせながら考察し、仮説を構築した。そして、ロシアでの教室環境において日本語を学ぶ学習者が原因・理由を述べる発話には以下の特徴が見られると推論を立てた。

- ① 原因・理由を表す言語形式の産出には、習得段階に応じて、まず「から」の過剰使用が見られ、続いて「だから」及び「ので」、そして「のだ」が開始されることが予想される。
- ② 産出には中間言語的な形式が多くみられる。
- ③ 因果関係を表す言語形式を使わずに表現する傾向がある。

次に、仮説を検証するために、ロシアのS大学の日本文学科・極東諸国歴史学科の2年生から4年生（46名）を対象に質的及び量的調査を実施した。その際、データ収集方法には「半構造化インタビュー」、「ストーリー構成法」、「フォローアップタスク」を用いた。「半構造化インタビュー」の内容は学習者にとって身近な話題に限定されているが、「ストーリー構成法」の場合、アカデミック・ジャパニーズの枠内で原因・理由の説明を必要とするいくつかの異なる場面を設定した。インフォーマントの調査対象項目に関する宣言的知識を測定するフォローアップタスクに関しては、学習者にとって説明しやすい言語で因果関係を表す表現について自由形式で書いてもらった。

文字化された口頭データ及び書面にしたデータを分析し、仮説の①-③の条項それぞれを検証した。

3. 結果

本調査の分析結果から、仮説①については、より低いレベルの学習者に「から」の過剰使用が見られ、続いて「だから」及び「ので」が開始されると言う部分が証明されたが、「のだ」が最も遅いという仮説の一部は証明されなかった。「から」に関する言語知識はある程度運用能力に繋がり、他の表現と比べて習得段階が最も進んでいることが観察できた。しかし、最初の段階では「から」の過剰使用が目立つが、学年が上がると、言語形式の使用に幅が見られ、「から」に依存することが少なくなっていくという傾向もみられる。「だから」に関しては、実際の使用が少なく、その丁寧形である「ですから」はより早い段階に観察されたが、フォローアップ・インタビューの結果から、「だから」の不使用は「先生

と学生」という上下関係への配慮によるとも考えられる。「から」とほぼ同じ時期に導入される「ので」は、原因・理由を表わす表現として多くの学習者に意識されてはいるが、運用場面が少なく、比較的遅い段階に観察された。一方、「のだ」は習得が早い段階に始まるが、不適切な使用が少なくないことから、習得しにくい表現でもあると判断される。仮説②については、先行語との不適切な接続という中間言語的な言語形式が「から」、「ので」、「のだ」のみに見られ、その産出合计数における割合は相当低く、仮説と異なる結果が出た。仮説③については、ロシア語においては因果関係を担う二つの事態について述べる際、言語形式を用いずに表現できるという特徴が、日本語の発話にも、学習期間に係わらず、影響を与え得ると言える。

また、本調査では仮説①-③で取り上げられた「から」、「だから」、「ので」、「のだ」の他に、「ですから」、「それで」、「～テ形」、「し」、「せいで」、「で」、「なぜなら」、「もの」、「理由」の使用も観察された。これらの表現に関しては、接続詞「ですから」は原因・理由を表す表現の使用数及び使用者数のいずれからみても、第2位をとり、比較的進んだ習得段階にあると言える。続いて、「～テ形」に関しては習得が早い段階に始まるが、この表現はかかる範囲が狭く、不適切な使用が少なくないことから、習得しにくい表現でもあると判断される。また、「し」、「せいで」、「で」、「なぜなら」、「もの」、「理由」の場合、原因・理由を表す表現として意識されていても、多くの学習者の場合、まだ運用能力に繋がっていない習得段階にあると言える。尚、全体としては学習期間が長くなると、学習者が用いる原因・理由を表す表現はより多様なものとなり、その使用数も増加していく。

こうして、本研究で得られた結果は先行研究の結果といくつかの点で共通していることから、因果関係を表す表現の習得を伴う学習者の中間言語の形成には、母語を問わず、普遍的な要素が見られるが、母語であるロシア語にも大いに関わる部分もあると指摘できる。

4. 結論

本研究を通じて以下の結論に至った。

1. ロシア語を母語とする日本語学習者の原因・理由に関する発話における中間言語について、最初の段階では「から」の過剰使用が目立つが、学習期間が長くなると、学習者が用いる原因・理由を表す表現はより多様なものとなり、その使用数も増加していくと共に「から」の使用が減少していくことが分かった。これらの表現の習得状況を見ると、ロシアの大学で日本語を身につけようとする学習者の場合、全体

2. ロシアの大学という目標言語のインプットが限られた環境において日本語を身につけようとする学習者にとって習得が困難な原因・理由を表わす表現としては、「ので」、「のだ」「～テ形」が考えられる。
3. 学習者の母語が原因・理由に関する発話の構成、表現の選択に与える影響に関しては、母語干渉は目標言語のインプットが限られた環境において日本語を学ぶ学習者に観察された。学習期間が長くなっても、ロシア語から日本語への転移は言語知識にアクセスする際の処理手続きに割く時間が十分に与えられないリアルタイムでの対話では生じると考えられる。本研究の結果から、母語干渉としては、1) 学習者が因果関係を持つ事態について述べる際、原因・理由を表わす特定の言語形式を用いずに表現できるというロシア語の特徴を日本語にも転移させていること、2) 「だから」の使用において、文頭に現れるという共通点に基づいて「П О Т О М У Ч Т О」の意味（カラ・ノダ等）で不適切に用いたことが挙げられる。いずれも、因果関係の表現の習得を阻害させていると考える。

以上、本研究では、ロシア語を母語とする日本語学習者を対象にし、因果関係を表す表現の習得状況を分析した結果、母語を問わず普遍的に見られる「目標言語規則の過剰使用」及び母語の特徴を転移させている「母語干渉」のいずれも、学習者の中間言語の形成に関わるという結論に至った。

5. 本研究の意義と限界

本研究の意義は、我々の日常生活においてよく起こる原因・理由を述べる言語行為を中間言語体系の観点から考察し、これまで対象とされてこなかったロシア語母語話者の原因・理由を表わす表現の習得に伴ういくつかの特徴を明らかにすることができたことである。「から」の過剰使用の問題は習得が進むと共に解消されていくという点、またその一方で、学習期間が長くなっても依然として解消されないロシア語から日本語への転移の問題が存在するという点は、従来から行われてきた対照研究や、誤用分析だけでは解明されてこなかったが、本研究では、目標言語の知識がゼロの状態から目標言語に近いレベルに移

行していく学習者の中間言語体系に目を向けた中間言語研究を行ったことによって明らかにできたと考えている。

本研究では、教室で日本語を身につけようとする学習者の話し言葉に焦点を絞ったため、今回得られた結果の一般化には限界がある。また、学習者の中間言語を多面的にとらえようと相互交流論 (interactionist) の観点から調査研究を行ったが、因果関係を表す表現の習得に関する知見を得るためには単一の視点のみでなく複数の視点さらにはトライアングレーションの手法を用いるなどデータの信頼性を高めるような工夫をする必要があるであろう。しかし、このような制限にも関わらず、ロシア語母語話者における因果関係の習得について新しい論点が多少なりとも提供できたと考えている。

英語要旨

On the Acquisition of Expressions of Causal Relation

by Native Speakers of Russian

Learner's competence in using expressions of causal relation is described in several studies, yet most of them approach this problem as a by-product of a study on conjunctions and do not focus on it entirely. However, considering the amount of time spent on giving explanations of cause and reason in our day-to-day life, a study on acquisition of expressions of causal relation appears to be essential. This study attempts to make a contribution by investigating the distinctive features of acquisition of expressions of causal relation by Russian native speakers through a focus on interlanguage.

There were three purposes to the study. The first was to gain a general understanding of learner's interlanguage in making utterances expressing cause and reason typical for Russian learners of Japanese language. Secondly, an investigation into how the informant's first language influences the choice of the linguistic forms and utterance construction in giving explanations of cause and reason. The final purpose was to provide feedback for those involved in teaching Japanese as a foreign language on expressions posing difficulty in acquisition. These aims were addressed through a qualitative approach with elements of quantitative analysis in order to obtain an insight into learner language.

Prior to the main part of the study three preliminary courses of study were conducted: 1) an analysis of previous studies on learner's competence in using expressions of causal relation, 2) a contrastive analysis of linguistic forms in Japanese and Russian languages, 3) an analysis of naturally occurring samples of learner language produced during semi-structured interviews. The following hypotheses were made on the basis of these studies.

- ① Learner's interlanguage production of utterances expressing cause and reason is characterized by the initial overuse of Kara with subsequent emergence of

Dakara, Node and Noda.

- ② Learner's interlanguage production is characterized by an excessive use of non-target-like linguistic forms.
- ③ As a result of L1 transfer a tendency to give explanations of cause and reason without using the specific linguistic forms expressing causal relation exists.

Forty six Japanese language learners from second, third and fourth years of formal instruction at a leading university in Russia were asked to participate in a study in order to test these hypotheses. A semi-structured interview in the target language followed by picture composition tasks were used to elicit production of utterances expressing cause and reason. The informants were also asked to give a written account of linguistic forms expressing causal relation.

From the data collected in this study it was verified that learner's interlanguage production of utterances expressing cause and reason is characterized by overuse of Kara followed by the emergence of Dakara and Node. However, the study results did not correspond to the part of hypothesis regarding Noda to be the last in the acquisition sequence. Overall, learner's ability to use their linguistic knowledge in actual communication was most evident in the case of Kara. It was found that Kara was used most frequently at the early stage followed by an increase in the variation of linguistic forms employed by learners, thus showing that overuse of Kara at the early stage of acquisition does not necessarily lead to fossilization and learner's language continues to change in the direction of target language. As for Dakara, it was not used frequently, instead the data collected demonstrates the shift in favour of its polite form Desukara. Furthermore, in several cases Dakara was used incorrectly and this choice was influenced by the incorrect mapping of first language and target language expressions. It was also found that despite being introduced at about the same time as Kara and largely acknowledged as an expression of causal relation Node starts to appear in free language production at a much later stage than its counterpart. As for Noda, though the data collected demonstrates that its acquisition starts at an early stage, the relatively high rate of inaccurate usage also indicates that this particular expression poses a difficulty in acquisition.

The study results did not support the hypothesis regarding the excessive use of non-target-like linguistic forms of expressions of causal relation, suggesting that form competence is fairly easy to achieve. However, the data collected in this study supports a hypothesis that as a result of transfer from Russian language a tendency to give explanations of cause and reason without using the specific linguistic forms expressing causal relation exists at every stage of acquisition, demonstrating that a special treatment of this non-target-like feature is required.

The data collected has also provided some evidence regarding the acquisition of Desukara, Sorede, Te-form, Shi, Seide, De, Nazenara, Mono and Riyu. Desukara was observed at the same stage as Kara, demonstrating a high rate of usage second only to Kara. Te-form also started to appear at an early stage but the relatively high rate of incorrect usage indicates that it is a difficult expression to acquire. As for Shi, Seide, De, Nazenara, Mono and Riyu, though the correspondents were aware of these expressions of causal relation, many did not employ them in their output, suggesting that these expressions have not been fully acquired.

On the basis of this and previous studies the conclusion was reached that overuse of target language linguistic material, universal to L2 learners of Japanese, and first language both influence the construction of learner's interlanguage of Russian native speakers. Furthermore, the study results demonstrate that though some of the expressions of causal relation require specific instruction in order to help learner language develop in the direction of target language, others can be acquired in the context of general language instruction of Japanese as a foreign language.

目次

第1章 序章	9
1.1. はじめに.....	9
1.2. 本研究の目的.....	11
1.3. 研究方法と研究範囲（本研究の構想と範囲）	11
1.4. 本論文の構成.....	13
第2章 第二言語習得研究と本研究の位置づけ.....	14
2.1. 第二言語習得の研究と第二言語習得の解釈.....	14
2.2. 学習者の中間言語の研究.....	17
2.3. 日本語学習者における因果関係を表す表現の先行研究.....	22
2.3.1. 口頭表現能力を主眼とする先行研究	23
2.3.2. 作文における表現能力に焦点を当てるもの.....	26
2.4. 本研究の位置づけ.....	28
第3章 日本語とロシア語の原因・理由を表す言語形式の対照研究	29
3.1. 因果関係の構成と原因・理由の説明	29
3.2. 日本語における言語形式.....	33
3.2.1. 原因・理由を表す言語形式の概要と研究対象.....	34
3.2.2. 原因・理由を表す格助詞「で・から・に」	34
3.2.3. 原因・理由を表す複合格助詞「につき・とあって・のせいで・のおかげで・のため に・ゆえに・によって」	36
3.2.4. 原因・理由を表す接続助詞「から・ので・ため・～テ形・のに・し」	41
3.2.5. 「から」を含む原因・理由の表現.....	65

3.2.6.	原因・理由を表す接続詞「だから・それで・そのために・そこで・ゆえに・それゆえに・なぜなら・なぜかというと・というのは・だって」	69
3.2.7.	原因・理由を表す名詞「原因」、「理由」、形式名詞「わけ」、終助詞「もの」	78
3.2.8.	原因・理由を表す助動詞「のだ」	81
3.3.	ロシア語における言語形式	84
3.3.1.	ロシア語における原因・理由を表す言語形式の概要	85
3.3.2.	無接続詞複文による原因・理由の表示	92
3.4.	日本語とロシア語の類義表現	96
3.4.1.	両言語の比較対照の枠組み	96
3.4.2.	言語形式の比較対照	97
第4章	原因・理由の説明に関する中間言語研究	100
4.1.	パイロット・スタディ	100
4.1.1.	目的	100
4.1.2.	インフォーマントのプロフィール	100
4.1.3.	調査方法と実施手順	101
4.1.3.1.	データとしての自然発話とインタビューで取り扱ったテーマ	101
4.1.3.2.	資料収集方法	102
4.1.4.	分析方法	103
4.1.4.1.	データ資料	103
4.1.4.2.	口頭データ資料の文字化の方法	104
4.1.4.3.	表現の形式的な分類	105
4.1.4.4.	表現の文中位置という観点からの分類	107
4.1.5.	調査結果	109
4.1.5.1.	言語形式の出現回数	109
4.1.5.2.	中間言語的な形式	110
4.1.5.3.	言語形式の非用	112
4.1.5.4.	言語形式の文中の位置と節の構成にみられる特徴	114

4.1.5.5.	まとめ	116
4.2.	仮説	117
4.3.	本調査	118
4.3.1.	S大学における日本語教育	118
4.3.2.	インフォーマントのプロフィール	120
4.3.3.	調査方法と手順	121
4.3.3.1.	半構造化インタビュー	121
4.3.3.2.	ストーリー構成法	123
4.3.3.3.	フォローアップタスク(日本語の因果関係を表す表現の記述)	123
4.3.3.4.	実施手順	123
4.3.4.	データ資料及び分析方法	124
4.3.4.1.	データ資料	124
4.3.4.2.	分析方法	125
第5章	結果と考察	127
5.1.	仮説①の検証	127
5.1.1.	原因・理由を表す表現の合計使用数	127
5.1.2.	学年別結果	128
5.1.3.	言語形式の文中位置と節の構成	135
5.1.4.	意味・用法から見た学習者の中間言語	140
5.1.4.1.	「半構造化インタビュー」	140
5.1.4.2.	「ストーリー構成法」	146
5.1.5.	宣言的知識と手続き的知識	159
5.2.	仮説②の検証	163
5.3.	仮説③の検証	167
5.4.	結果考察	170

5.5.	日本語教育への提言	172
5.6.	今後の課題	173
第6章	終章	174
6.1.	結論	174
6.2.	本研究の限界	176
6.3.	本研究の意義	177
	参考文献	178
	用例出典一覧	194
	謝辞	195
	巻末資料	196
資料 1.	パイロット・スタディの発話の文字化資料	196
資料 1.1	インフォーマント B の発話	196
資料 1.2	インフォーマント C の発話	212
資料 1.3	インフォーマント D の発話	239
資料 1.4	インフォーマント E の発話	255
資料 2.	本調査の資料	271
資料 2.1	「ストーリー構成法」の絵カード	271
資料 2.2	本調査の発話の文字化資料	274
資料 2.2.1	インフォーマント 2g1 の発話	274
資料 2.2.2	インフォーマント 2g2 の発話	280

資料 2.2.3 インフォーマント 2g3 の発話	283
資料 2.2.4 インフォーマント 2g4 の発話	287
資料 2.2.5 インフォーマント 2g5 の発話	290
資料 2.2.6 インフォーマント 2k1 の発話	294
資料 2.2.7 インフォーマント 2k2 の発話	297
資料 2.2.8 インフォーマント 2k3 の発話	300
資料 2.2.9 インフォーマント 2k4 の発話	303
資料 2.2.10 インフォーマント 2k5 の発話.....	307
資料 2.2.11 インフォーマント 2k6 の発話.....	311
資料 2.2.12 インフォーマント 2k7 の発話.....	314
資料 2.2.13 インフォーマント 2k8 の発話.....	317
資料 2.2.14 インフォーマント 2k9 の発話.....	320
資料 2.2.15 インフォーマント 2k10 の発話.....	323
資料 2.2.16 インフォーマント 3g1 の発話.....	325
資料 2.2.17 インフォーマント 3g2 の発話.....	328
資料 2.2.18 インフォーマント 3g3 の発話.....	331
資料 2.2.19 インフォーマント 3g4 の発話.....	335
資料 2.2.20 インフォーマント 3g5 の発話.....	339
資料 2.2.21 インフォーマント 3g6 の発話.....	342
資料 2.2.22 インフォーマント 3g7 の発話.....	346
資料 2.2.23 インフォーマント 3g8 の発話.....	349
資料 2.2.24 インフォーマント 3k1 の発話.....	352
資料 2.2.25 インフォーマント 3k2 の発話.....	354
資料 2.2.26 インフォーマント 3k3 の発話.....	356
資料 2.2.27 インフォーマント 3k4 の発話.....	359
資料 2.2.28 インフォーマント 3k5 の発話.....	361
資料 2.2.29 インフォーマント 3k6 の発話.....	364
資料 2.2.30 インフォーマント 4g1 の発話.....	367
資料 2.2.31 インフォーマント 4g2 の発話.....	369
資料 2.2.32 インフォーマント 4g3 の発話.....	372

資料 2. 2. 33 インフォーマント 4g4 の発話.....	376
資料 2. 2. 34 インフォーマント 4g5 の発話.....	379
資料 2. 2. 35 インフォーマント 4g6 の発話.....	382
資料 2. 2. 36 インフォーマント 4g7 の発話.....	385
資料 2. 2. 37 インフォーマント 4g8 の発話.....	388
資料 2. 2. 38 インフォーマント 4g9 の発話.....	392
資料 2. 2. 39 インフォーマント 4g10 の発話.....	397
資料 2. 2. 40 インフォーマント 4k1 の発話.....	400
資料 2. 2. 41 インフォーマント 4k2 の発話.....	403
資料 2. 2. 42 インフォーマント 4k3 の発話.....	406
資料 2. 2. 43 インフォーマント 4k4 の発話.....	409
資料 2. 2. 44 インフォーマント 4k5 の発話.....	412
資料 2. 2. 45 インフォーマント 4k6 の場合.....	415
資料 2. 2. 46 インフォーマント 4k7 の場合.....	418
資料 2. 3 フォローアップタスクの資料.....	421
資料 2. 3. 1 インフォーマント 2g1 の場合.....	421
資料 2. 3. 2 インフォーマント 2g2 の場合.....	421
資料 2. 3. 3 インフォーマント 2g3 の場合.....	422
資料 2. 3. 4 インフォーマント 2g4 の場合.....	422
資料 2. 3. 5 インフォーマント 2g5 の場合.....	422
資料 2. 3. 6 インフォーマント 2k1 の場合.....	423
資料 2. 3. 7 インフォーマント 2k2 の場合.....	423
資料 2. 3. 8 インフォーマント 2k3 の場合.....	423
資料 2. 3. 9 インフォーマント 2k4 の場合.....	423
資料 2. 3. 10 インフォーマント 2k5 の場合.....	424
資料 2. 3. 11 インフォーマント 2k6 の場合.....	424
資料 2. 3. 12 インフォーマント 2k7 の場合.....	424
資料 2. 3. 13 インフォーマント 2k8 の場合.....	424
資料 2. 3. 14 インフォーマント 2k9 の場合.....	424

資料 2. 3. 15 インフォーマント 2k10 の場合.....	425
資料 2. 3. 16 インフォーマント 3g1 の場合.....	425
資料 2. 3. 17 インフォーマント 3g2 の場合.....	425
資料 2. 3. 18 インフォーマント 3g3 の場合.....	426
資料 2. 3. 19 インフォーマント 3g4 の場合.....	426
資料 2. 3. 20 インフォーマント 3g5 の場合.....	426
資料 2. 3. 21 インフォーマント 3g6 の場合.....	426
資料 2. 3. 22 インフォーマント 3g7 の場合.....	427
資料 2. 3. 23 インフォーマント 3g8 の場合.....	427
資料 2. 3. 24 インフォーマント 3k1 の場合.....	428
資料 2. 3. 25 インフォーマント 3k2 の場合.....	428
資料 2. 3. 26 インフォーマント 3k3 の場合.....	428
資料 2. 3. 27 インフォーマント 3k4 の場合.....	429
資料 2. 3. 28 インフォーマント 3k5 の場合.....	429
資料 2. 3. 29 インフォーマント 3k6 の場合.....	429
資料 2. 3. 30 インフォーマント 4g1 の場合.....	430
資料 2. 3. 31 インフォーマント 4g2 の場合.....	430
資料 2. 3. 32 インフォーマント 4g3 の場合.....	430
資料 2. 3. 33 インフォーマント 4g4 の場合.....	431
資料 2. 3. 34 インフォーマント 4g5 の場合.....	431
資料 2. 3. 35 インフォーマント 4g6 の場合.....	432
資料 2. 3. 36 インフォーマント 4g7 の場合.....	432
資料 2. 3. 37 インフォーマント 4g8 の場合.....	433
資料 2. 3. 38 インフォーマント 4g9 の場合.....	433
資料 2. 3. 39 インフォーマント 4g10 の場合.....	434
資料 2. 3. 40 インフォーマント 4k1 の場合.....	434
資料 2. 3. 41 インフォーマント 4k2 の場合.....	434
資料 2. 3. 42 インフォーマント 4k3 の場合.....	434
資料 2. 3. 43 インフォーマント 4k4 の場合.....	435
資料 2. 3. 44 インフォーマント 4k5 の場合.....	435

資料 2.3.45 インフォーマント 4k6 の場合.....	435
資料 2.3.46 インフォーマント 4k7 の場合.....	436

第1章 序章

1.1. はじめに

私たちの世界は、あらゆる因果関係によって支えられている（田中寛、2004：282）。確かに、日常生活における言語使用を振り返ってみると、行動の理由あるいは事態の原因を述べる場面が少なくないことが分かる。その際、母語話者の多くは、意図した意味を的確に伝えるために文脈に応じて因果関係を表す言語形式の選択を自動的に行う。一方、第二言語として日本語を学ぶ人の場合、その知識を言語運用において使用するための処理体系を構築するまでには時間がかかることから、リアルタイムでの対話において既に習得された表現の過剰使用あるいは母語からの転移が観察される。例えば、あるロシア語を母語とする日本語学習者の例 1.1-1.2 の発話をみてみよう。

（例 1.1）学習者：（4）この写真でロシア（1.5）{笑いながら} と思います。あのー、雪がたくさん降りましたからー、電車はー（1.5）あのー（1）来ません。

（例 1.2）筆者：どうして北海道へ行きたいですか。

学習者：うーん、北海道は、khm（1）うーん、一番、あー、寒い（1）あー、一番寒い（1）あー（0.5）あ、日本、で、北海道は、一番寒い、ところと思う。

例 1.1 のような発話において、日本語母語話者であっても因果関係の表現の選択の判断に揺れが生じる場合がある。しかし、それは適切な使用の範囲内での揺れであって、不適切な使用あるいは非用は話し手と聞き手の意思疎通に影響する可能性があるため、円滑なコミュニケーションを行う上で重要な問題となる。

L2 学習者の言語使用に関する諸問題については、これまで研究の蓄積もあり、先行研究の多くは、学習者が産出した言語を研究対象としてきた（Ellis and Barkhuizen, 2005：359）が、もちろん全ての言語項目及び学習者の母語が扱われているわけではない。ロシア語母語話者の発話における因果関係を表す表現もその一つである。筆者も一日本語学習者として母語であるロシア語で因果関係を表す事象をとらえた場合、第二言語である日本語でとらえた場合とのずれを感じ、ここに中間言語を生み出す要素があると常々考えてきた。

1990 年以降、ロシア連邦における日本語教育は大きな広がりを見せており、国際交流基

金の 2005 年の発表によれば同国の日本語教育機関数は初中等教育 55、高等教育 82、学校教育以外 14 機関、学習者数は初中等教育 3662 名、高等教育 5683 名、学校教育以外 1441 名に上る¹とされる。しかし、学習者は日本に留学する機会が少なく²、多くの場合、目標言語のインプットが限られた状況におかれている。そのような現状を踏まえ、より効果的な指導法・学習法のためにはロシア語を母語とする日本語学習者を対象にした研究は極めて重要であると考えられる。

因果関係を表す表現に関しては、日本語学の分野において、文法的研究（南 1974、田窪 1987、岩崎 1995、益岡 1997、仁田 2003）、文章論研究（市川 1978、佐久間 1989）、意味論的研究（永野 1952、森田 1989、望月 1990、国広 1992、尾方 1993、塩澤 1997）、談話機能研究（Maynard 1989、蓮沼 1991、水谷 1992、岡本・多門 1998）など各領域の焦点となってきた。これらの研究成果から、原因・理由を述べる時の発話に表れる言語形式は多様であり、それぞれの選択は統語論的、意味論的、語用論的ないくつかの要因に左右されることがわかる。また、ロシア語学の分野においても、Крючков С.Е., Максимов Л.Ю. (1977)、Шведова Н.Ю. (1980)、Метс Н.А (1985)、Ширяев (1986)、Всеволодова М.В., Яценко Т.А. (1988)、小野 (1988)、Формановская Н.И. (1989)、城田 俊 (1993)、Хаясида Р., Уэхара Д. (1996)、Хааг Э.О. (2001) などの研究が行われてきた。ロシア語の場合も日本語と同じく原因・理由を表わす言語形式は多数ではあるが、ロシア語の特徴としては、無接続詞複文の使用により、原因・理由及び結果を特定の表現形式を使用せずに述べることも可能であるということが挙げられる。

学習者の因果関係を表す表現能力に関しては、遠藤 (1978)、横林 (1988)、横林 (1994)、徳田 (1995)、栃木 (1995)、新村 (1996)、濱田 (2000)、木山 (2003)、清水 (2003)、近藤 (2004)、Sereda (2005) 等の先行研究がある。多様な母語及び国籍を持つ学習者を対象とした栃木 (1995)、新村 (1996)、木山 (2003)、清水 (2003)、近藤 (2004) の研究成果を集約すると、日本語学習者の発話には、母語を問わず、原因・理由を表わす表現のうち、「から」及び「だから」の過剰使用が見られるが、「ので」「し」「～テ形」の使用が日本人

¹ 国際交流基金の公式サイト

http://www.jpjf.go.jp/j/japan_j/oversea/kunibetsu/2005/russia.html 2007年11月8日現在

² 独立行政法人日本学生支援機構が行われた留学生受入れの概況調査では、2005年にロシアからの日本への留学生数が346名であるとされている。(独立行政法人日本学生支援機構の公式サイト http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/data06.html 2007年11月8日現在)

のインフォーマントに比べて特に少ないことが分かる。遠藤（1978）、Sereda（2005）はロシア語を母語とする日本語学習者を対象とした数少ない研究である。遠藤（1978）では、「それでは」及び「それで」の誤用を提示しているのみに留まり、その要因に関する考察、習得過程との関連付けはなされていない。Sereda（2005）の研究は「ロシア語母語話者における「から」と「ので」の習得について―「から」と「ので」の使い分けの誤用を中心に―」というテーマで行われた研究である。その研究では、日本語学習者には使い分けが困難な順接の接続語「から・ので」について考察されているのだが、調査にあたり「から」及び「ので」以外に、原因・理由を表す言語形式も多く観察された。そこで、本稿ではロシア語母語話者が原因・理由を述べる際、ロシア語に影響を受けて独自の中間言語を生み出すのか、それとも彼らの発話には多様な言語を母語とする日本語学習者が共通しているパターンが見られるのかを調査し考察する。

1.2. 本研究の目的

本研究の目的は、ロシア語を母語とする日本語学習者が原因・理由を述べる際、どんな表現を用いるのか、発話をどのように構成していくのかに関して考察し、学習者の中間言語の理解に貢献することである。ここに、研究課題として下記の3点を挙げる。

- (ア) ロシア語を母語とする日本語学習者の原因・理由に関する発話における中間言語を分析すること
- (イ) 学習者の母語が原因・理由に関する発話の構成、表現の選択に何らかの影響を与えるかを検討すること
- (ウ) ロシアの大学という目標言語のインプットが限られた環境において日本語を身につけようとする学習者にとって習得が困難な原因・理由を表わす表現を探求すること

1.3. 研究方法と研究範囲（本研究の構想と範囲）

本研究の目的を達成するためには、質的及び量的な研究を結合したデザインを用いる。まず、質的研究を仮説発展のために用い、それを質的・量的両方のアプローチにより検証する。本研究の研究プロセスを図示すると図1-1のようになる。

図 1-1：本研究における研究プロセス

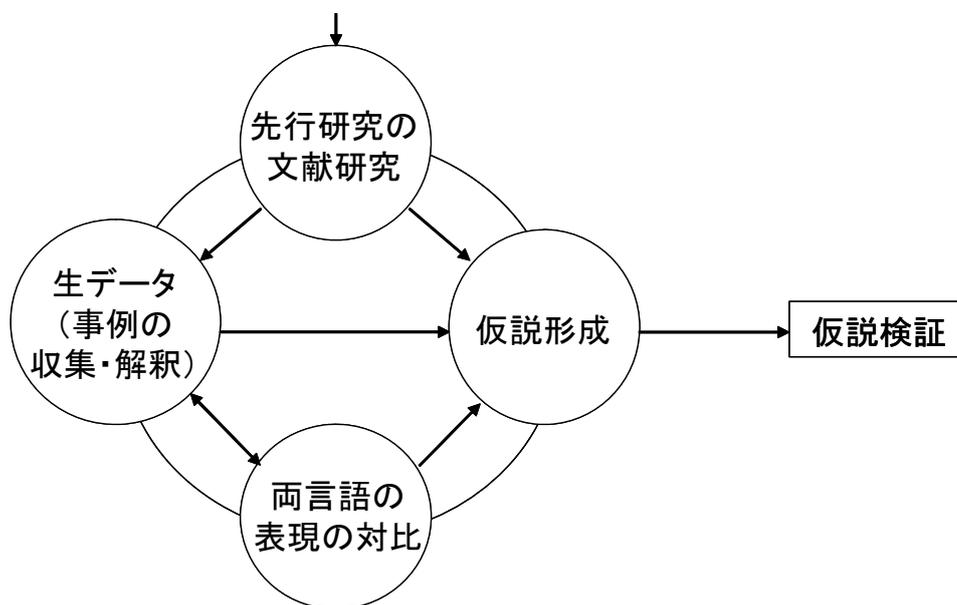


図 1-1 から分かるように、仮説形成の段階では、1) 学習者の因果関係を表す表現能力に関する文献研究、2) 日本語及びロシア語における原因・理由を表わす表現の対照研究、3) ロシア語を母語とする日本語話者の自然発生的な中間言語のサンプル収集及び解釈という 3 つを循環的に組み合わせながら考察し、仮説を構築する。次に、そこから導かれた仮説を検証するために、S 大学の東洋学部長、日本語講座主任教授、担当教員の協力を得て、日本文学科・極東諸国歴史学科の 2 年生から 4 年生 (46 名) を対象に質的及び量的研究を実施する。口頭データ収集の手法には「半構造化インタビュー」及び「ストーリー構成法」を用いて、ロシア語を母語とする日本語学習者の目標言語による原因・理由の説明の質的及び量的サンプルを集める。その詳細は第 4 章に記述する。

中間言語のサンプルに関しては、本研究では学習者の話し言葉に主眼を置く。話し言葉において原因・理由を述べる場面は数多くみられるが、本研究で扱う範囲としてはアカデミック・ディスコースに限定する。それは、教室環境において日本語を学習する場合、アカデミック・ディスコースが主なコミュニケーション領域となっているからである。アカデミック・ディスコースには、以下のタイプがある (Barthel 1996)。

① フォーマルのコンテキストにおけるもの (formal contexts)

(例：セミナーにおけるフォーマルで査定可能な発表、フォーマルで評価可能なインタビュー及びロール・プレイ、口頭試験及び講義)

- ② セミフォーマルのコンテキストにおけるもの (semi-formal contexts)
(例：個別指導 (チュートリアル)、勉強会、学生と教職員の学習・宿題に関する話し合い等)
- ③ インフォーマルのコンテキストにおけるもの (informal contexts)
(例：学生同士及び学生と教職員の交流 (socialising³))

本研究では、フォーマル及びセミフォーマルなアカデミック・ディスコースにおける原因・理由の説明が考察の対象となっている。

1.4. 本論文の構成

本論文は6章から構成されている。第1章では、本研究の目的、構想を提示する。第2章では第二言語習得研究を支える各理論的枠組みの中で因果関係を表す表現の習得の文献研究を行い、第二言語習得研究における本研究の位置づけをする。その際、「第二言語習得」、「学習者の中間言語」という概念を中心に置く。第2章に引き続いて、第3章では日本語とロシア語における原因・理由を表わす表現の対照研究を行う。具体的には、「因果関係」及び「原因・理由の説明」という概念をおさえた上で、それぞれの言語における言語形式を考察し、類義表現について述べる。第4章ではロシア語を母語とする日本語話者の原因・理由の説明に関する中間言語研究をまとめる。仮説を形成するために用いられた自然発生的な中間言語のサンプルの考察をパイロット・スタディとして記述した上で、文献研究、対照研究と質的に比較しながら導かれた仮説を構築し、その仮説を検証するために用いた質的・量的研究について述べる。この章では、仮説構築のためのパイロット・スタディ及び仮説検証を目的とした本調査という2つの研究を取り上げる。第5章は仮説を検証するための本調査の結果をまとめたものである。その章ではロシア語を母語とする学習者の原因・理由に関する言語形式を取り上げ、学習者の中間言語と認定されるものを考察し、原因・理由を表す表現の習得の難易度について述べた上で、実際の日本語教育において注意すべき事項について指摘する。最後に第6章では、結論を述べ、本研究の意義と限界を提示する。本稿末には、パイロット・スタディの発話の文字化資料、本調査の発話の文字化資料、フォローアップタスクの資料を揃える。

³ Gumperz (1982)、Stubbs (1983) が指摘しているように、多くの場合、インフォーマルなディスコースはセミフォーマル及びフォーマルのコンテキストにおけるディスコースの先行要素となっている。会議の前に起こる雑談、オフィス・アワー中のちょっとしたおしゃべりなどはその例である。

第2章 第二言語習得研究と本研究の位置づけ

本章では、第二言語習得研究の発展の経緯を振り返り、「第二言語習得」、「学習者の中間言語」という概念を中心に、因果関係を表す表現の習得研究を考察し、第二言語習得研究における本研究の位置づけについて述べる。

2.1. 第二言語習得の研究と第二言語習得の解釈

第二言語習得研究における本研究の位置づけについて論じる前に、「第二言語習得」という多義的な用語を整理しておきたい。

第二言語習得の定義を考察すると、この用語の解釈には理論的な立場によって顕著な違いがみられる。Doughty & Long (2003:725-729) は第二言語習得への理論的なアプローチを 1) 生成文法理論 (generativist)、2) 相互交流論 (interactionist)、3) 創発説⁴(emergentism)、4) 社会文化理論 (sociocultural theory) の、大きく四つに分け、最初の三つのアプローチにおける特徴を認識論及び構成解釈、標的行動⁵、誘出タスク・場面という観点から取り上げている。彼らの分類を基に、各アプローチにおける第二言語習得の捉え方を表 2-1 にまとめた。

表 2-1：第二言語習得理論と第二言語習得の解釈

生成文法理論 (generativist)	相互交流論 (interactionist)	創発説 (emergentism)	社会文化理論 (sociocultural theory)
<ul style="list-style-type: none"> ● 知能とは独立している記号体系としての言語 ● 普遍文法 (UG) 及び第一言語を媒介とする学習 ● 文法能力 ● 特性理論 (Property theory) : 第二言語習得における初期状態⁶と最終的に 	<ul style="list-style-type: none"> ● 認知に律則される記号体系としての言語 ● 社会変数、情意変数及び認知変数を媒介とする学習 ● コミュニケーション能力 ● 移行理論 (Transition theory) : 第二言語習得の発達過程 (情報 	<ul style="list-style-type: none"> ● 複雑な規則のような行動及び機能的なニーズの随伴現象的結果としての言語 ● 環境との相互作用としての学習 ● 神経回路網 ● 移行理論 (Transition theory) : インプットの頻度及び秩序、ま 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人間の精神活動を社会に繋ぐ心理的道具としての言語 ● 本質的に個別的な活動というよりはむしろ社会的な活動としての学習 ● 活動理論 Activity theory : 言語発達の証拠

⁴ 『第二言語習得用語』 <http://www.geocities.jp/itomohitos/jentrance> 2007年5月8日現在

⁵ 一つの研究や実践で変容の対象とする行動 (鳴門教育大学学校教育実践センター教育メディア開発分野コラボネット「行動分析学用語集」2007年5月8日現在)

到達する状態	処理理論の場合、宣言的知識の自動化)	た学習のメカニズム	
--------	--------------------	-----------	--

表 2-1 から分かるように、1)の生成文法理論 (generativist approach) では、言語を知能から独立した複雑な記号体系 (I-言語) として捉えており、外からの刺激、インプットによるだけでは習得できないとの見解が示されている。言語の習得は、L1 の場合、生得的な言語機能 (language faculty) である言語獲得装置 (Language Acquisition Device) ⁷ によって可能となり、そのメカニズムは次の通りである。生後、LADが内蔵する生成文法 (generative grammar)、すなわち普遍文法⁸ (Universal Grammar:UG) は初期状態にはあるが、特定言語のインプットにより、普遍原理⁹に付随している全てのパラメータ原理¹⁰がその特定言語のインプットと合致する値に適切に設定されていく過程を通じて、最終的に安定状態に至る。L2 の場合、言語の習得は普遍文法 (UG) 及びL1 を媒介するとみなされているが、普遍文法に対するアクセスの仮説は(1)完全に可能である、(2)部分的に可能である、(3)完全に不可能であるの¹¹、3つに分かれる。生成文法理論に基づく第二言語習得研究は運用能力 (E-言語) ではなく言語能力 (I-言語) を調査対象とするため、L2 に関する直感的な文法判断テストに留まることが多い。

一方、2)の相互交流論 (interactionist approach) では言語がコミュニケーション上のニーズから発達し、認知に律則される記号体系として捉えていることから、言語習得も環境とのかかわりによって形式と機能を対応させていく (form-function mapping) プロセスとしてみなされている。その際、言語能力と言語運用という二項対立ではなく、言語運用が言語能力を促進するとされている。そこで、「習得された」とは、(i)「学習者の発話に形式が出現した (“emerged”) こと」、(ii)「学習者が形式及び形式のパターンを認識する (“aware”) こと」、(iii)「形式が相応しくかつ流暢 (“appropriately and fluently”) に

⁶ 初期状態とは、言語獲得の過程で、人間が誕生し、外界からの情報や経験をまったく取り込んでいない状態を言う。(『応用言語学事典』 p. 140)

⁷ 言語獲得装置 (LAD) は脳/心の機能の一つであり、言語運用に関与する他の認知機能と境界面を持つが、その作用は自律的である。(『応用言語学事典』 p. 141)

⁸ 生成文法あるいは普遍文法は「言語の普遍的かつ抽象的な知識体系」である。(『応用言語学事典』 p. 141)

⁹ 普遍原理とは「全ての個別言語に存在し、普遍文法の中心となる言語知識」である。(迫田、2002 : 217)

¹⁰ パラメータ原理とは「普遍原理に付随してそれを構成する下位原理の各々にあり、普遍原理の作用の仕方を特徴づけるものである」。(『日本語教育重要用語 1000』 p. 185)

¹¹ 『応用言語学事典』 p. 167

用いられていること」¹²という発達段階をたどることである。この立場に基づく第二言語習得研究は言語の発達に着目し、学習者の中間言語、認知構造及び学習環境を分析することにより第二言語習得プロセスの理解に貢献することを目指す。こうしたデータを誘出するには認識タスク、コミュニケーション・ギャップ・タスク、ロール・プレイ、文章の再構築、ストーリー構成法、口頭インタビューなどのタスクが用いられている。

3)の創発説(emergentism)では、機能的・神経生物学的という複合アプローチの観点から、言語が人間における非常に単純な学習のメカニズム(人間の脳の構造)と環境(多量のインプット)とのインターアクションから生じる体系¹³としてみなされている。この体系は規則のようではあるが、規則に支配されていない。L2学習は脳の神経回路の作成により一次知覚経験に合わせていくという神経生物学的な体質の所産であり、脳神経細胞が刺激に対応しつながることで起こる¹⁴。そこで、創発説を背景にした第二言語習得研究は処理システムが言語的なパターンと一致する神経回路を作り上げるために必要なインプットの頻度及び秩序を説明しようとしている¹⁵ことから、研究焦点が言語的な領域から認知構造の領域に移る。そのため、調査方法としてはコンピュータ上のシミュレーション及びEEG・MEG¹⁶を用いた電気生理学的な測定方法、PET・fMRI¹⁷などを用いた血流力学的な測定方法による脳機能計測が使用される。創発説(emergentism)の場合、「習得された」とは証明された学習曲線(learning curves)¹⁸を通して、楽々とこなしているように見える迅速かつ正確なパフォーマンスが達成されたことである(Doughty & Long, 2003 : 728)。

4)の社会文化理論(sociocultural theory)で、「人間の精神は言語が媒介となって生まれ

¹² Doughty & Long (2003) p. 727

¹³ 同上 (2003) p. 728

¹⁴ Doughty & Long (2003 : 724)、JACET SLA 研究会編著 (2005 : 48)

¹⁵ Doughty & Long (2003) p. 728

¹⁶ EEG (electroencephalography) では、頭皮上に発生する電位の変化を測定し、MEG (magnetoencephalography) では電気信号の発生により生じた磁場の変化を測定する。EEG と MEG では、言語処理により、脳内のどの部位の神経細胞が活性化され、どのような脳内反応が時系列に沿って生じるのかを観察でき、また、1000分の1秒(1ミリ秒=0.001秒)の単位での測定が可能であるため、言語処理に伴う時間的な変化の観察をするのに適している(JACET SLA 研究会編著、2005 : 45)。

¹⁷ PET (positron emission tomography) と fMRI (functional magnetic resonance imaging) では言語活動により、どの部位で血流量の変化が起きているか、という脳内の活動部位を正確に観察することができる。PET は放射線で、fMRI は磁場変化により血流量の変化を測定する。

¹⁸ 練習量と反応時間の関係を表す曲線(フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AD%A6%E7%BF%92%E6%9B%B2%E7%B7%9A> 2007年9月22日現在)

るものであると考えられ、その過程で対話が重要な役割を果たす¹⁹とされている。つまり、言語が人間の精神活動を社会に繋ぐ心理的道具として捉えている。言語習得の場合には、学習者が言語を学習対象だけではなく、媒介的な道具としても充当している。L2の場合も、L1及び思考と同様に、まず社会的かつ精神間レベル（inter-mental plane）で発達した後、個人の精神内レベル（intramental plane）で取り込まれる。このように、習得は個別的な活動というよりはむしろ社会的な活動であるとされている。社会文化理論（sociocultural theory）では、「発達が教師の働きかけによってもっとも促されるのは、学習者が最近接発達領域（zone of proximal development: ZPD）²⁰にいる場合である」²¹とみなされている。そこで、この理論に基づく第二言語習得研究は、教師と学習者の間で行われる協同的対話（collaborative dialogue）が効果的である場合、その協同的対話がどういうふう言語習得に繋がるのかを対話データから明らかにする試みである。

上記のように、「第二言語習得」は多義的であり、この用語に含まれる意味は各論理的なアプローチの枠組みに左右されると言える。本研究では、一つの立場からのアプローチを絶対視するのではなく、人が母語を習得した後で別の言語を学ぶ過程に関する知見を得られるための複数の選択肢であるとみなす。ただし、便宜上、2)の相互交流論（interactionist）の観点から「第二言語習得」という用語を用いており、L2学習者が「習得した」という状態に至るまでには（i）「学習者の発話に形式が出現したこと」、（ii）「学習者が形式及び形式のパターンを認識すること」、（iii）「形式が相応しくかつ流暢に用いられていること」という発達段階をたどると考える。

2.2. 学習者の中間言語の研究

2.1節では「第二言語習得」という用語を中心に考察してきたが、ここでは、本研究が学習者の中間言語を対象としたものであるため、中間言語またはそれに関連のある概念について述べていく。

概念とその由来

第二言語習得研究においては、L2学習者が身につけている第二言語の言語知識体系のこ

¹⁹ 小池（2006）p. 109

²⁰ 最近接発達領域（zone of proximal development: ZPD）とは、学習者が現在いる発達段階のすぐ上の領域を意味している。現在の発達段階よりは上ではあるが、他者の助けを借りれば次の発達段階に属する課題が遂行できる場合、その学習者がZPDの中にあると考えられる（小池、2006：109）。

²¹ 小池（2006）p. 109

とをL2 学習者の言語としており、その言語はその個人に特有なもの (Corder (1971) の「特異通語idiosyncratic dialect」²²⁾ である。また、学習者がたゆみない仮説形成と仮説検証の試行錯誤を経てゼロレベルから徐々に目標言語にかなり近いレベルまでに連続的に向上していくことから、「近似体系」²³⁾ (Nemser (1971) の「approximative system」) でもある。さらに、構造的に母語と目標言語の中間に位置するもの (Selinker (1972) の「中間言語」) でもある。このように、L2 学習者の発達体系を描写するにはいくつかの用語が導入されてきたが、「学習者のL1にも目標言語にも完全には基づいていない」²⁴⁾ という点を示すSelinkerの「中間言語」が第二言語習得研究において最も多く用いられている²⁵⁾。このL2 学習者の独自の言語体系を図式で表すと図2-1のようになる。

図2-1：中間言語の特徴²⁶⁾

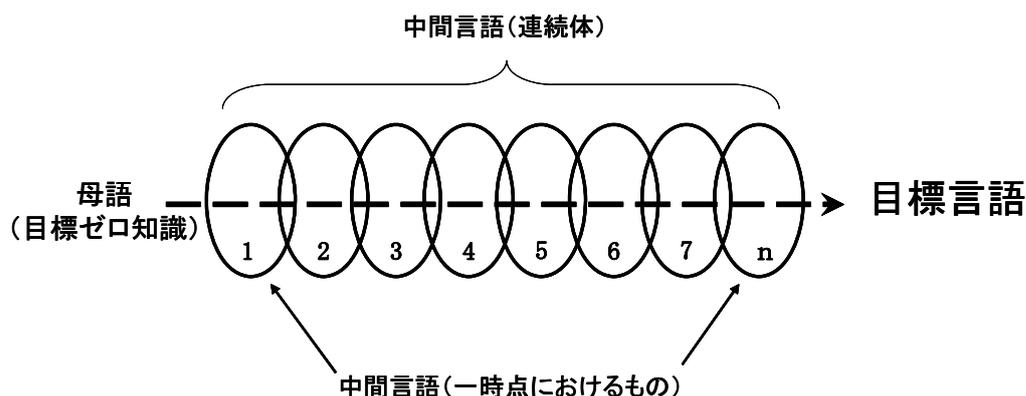


図2-1から分かるように、中間言語という用語は目標言語ゼロ知識から目標言語に近いレベルに移行する連続体を示すものとして用いられることもあれば、その過程においてさまざまな段階のある時点での言語体系という意味で使用されることもある²⁷⁾。後者の一時点におけるそれぞれの中間言語の特徴としてはある部分で重なりあう²⁸⁾ことが挙げられる。さらに、独自の言語体系としての中間言語に関しては、母語及び目標言語からだけではな

²²⁾ 大喜多 (2000) p. 23

²³⁾ レスリー・M. ビービ (1998) p. 26

²⁴⁾ 同上、p. 28

²⁵⁾ Brown (2000) p. 215

²⁶⁾ レスリー・M. ビービ (1998 : 26)、大喜多 (2000 : 25)、迫田 (2002 : 28) を参照に作成した。

²⁷⁾ 迫田 (2002) p. 28

²⁸⁾ 大喜多 (2000) p. 25

く、個人と個人の間においても独立したものとして形成されている²⁹とみなされている。

中間言語の形成にかかわる要素

第二言語習得研究においては中間言語がどのように形成されていくのかに関する見解は統一されてはいないが、Selinker (1972) が取り上げた下記の5つの要素がその過程に影響を与える³⁰とみなされている。

- ① 言語転移 (language transfer)
- ② 目標言語規則の過剰般化 (overgeneralization of target language linguistic materials)
- ③ 訓練の転移 (transfer of training)
- ④ 第二言語のコミュニケーション・ストラテジー (strategies of second language communication)
- ⑤ 第二言語学習者のストラテジー (strategies of second language learning)

①の言語転移とは、学習者の母語あるいは既習の言語がL2学習に与える影響のことである。学習者が使用したL1・既習言語のパターンにはプラスに働く場合を「正の転移」、マイナスに働く場合を「負の転移」(「干渉」)とされる (Weinreich (1953)、Lado (1957) などが詳述)。②の目標言語規則の過剰般化は学習者がある一つの規則を適用できない項目にまで拡大してしまう不正確な一般化である。③の訓練上の転移も習得にマイナスに影響することであり、その原因としてはテキストの単語や構造の不適切な提示、教師のあいまいな説明、適切な文脈を欠く練習などが挙げられる。④の第二言語のコミュニケーション・ストラテジーとは、「既存の言語知識が不十分であっても目標言語でコミュニケーションしなければならない場合に、そのギャップを埋め合わせるために使用される手段」³¹である。主なストラテジーには、他の表現を使用する「言い換えparaphrase」、ジェスチャーなどの非言語的手段で助けを求める「身振りmime」、分からない表現の使用を避ける「回避avoidance」、L2発話中に母語・既習言語を使用する「コード・スイッチングcode switching」などが挙げられる。⑤の第二言語学習者のストラテジーとは「意識的あるいは無意識的に仮説を立

²⁹ 同上、p. 24

³⁰ レスリー・M. ビービ (1998: 26)、大喜多 (2000: 25)、迫田 (2002: 28)、小池 (2003: 151-152)

³¹ 小池 (2003) p. 152

てたり検証したりしてL2の規則をたくわえ、それらの規則を自動化するために使用される手段」³²のことである。これらの5つの要素は複雑に作用し、学習者独自の言語知識体系を生み出すとされている。

言語知識の種類：宣言的知識と手続き的知識

さて中間言語を作り出す学習者のL2の言語知識には下記の異なった種類のものがある³³。

- 1) 意識的なのか無意識的なのかの区別に基づく「顕在的知識（明示的知識）と潜在的知識（暗示的知識）」
- 2) 静的・動的という二項対立の枠組みで類別された「宣言的知識と手続き知識」
- 3) 表出や理解において内的な構造分析が行われるかどうかの区別を基にした「事例的知識と規則的知識」

1)の顕在的知識・潜在的知識（明示的知識・暗示的知識とも呼ばれる）は意識的に把握されているかどうかの観点から区別される。前者は教室における形式指導の直接的な結果としてみなされており³⁴、意識的に把握されることから明確にルールが説明できる³⁵ということがその特徴である。これに対し、後者は指導なしの自然な環境の中において身につく直感的なものである³⁶ため、学習者に知識としては認識されていない³⁷。2)の宣言的知識と手続き的知識の場合、静的・動的という二項対立の枠組みで類別され、「前者から後者を導くことが発達の過程である」とされる（Anderson 1983）。第二言語習得研究においては、宣言的知識が学習者の言語構造についての知識であるのに対し、手続き的知識はその知識を基にして実際に運用するための技能遂行にかかわる手続きのことであるとみなされる³⁸。換言すれば、宣言的知識と手続き的知識はそれぞれ「分かる」と「できる」のように区別される。迫田（2002:67）が指摘しているように、一般的に物事の習得は、「分からなくて、できない」という状態から「分かって、できる」という状態へ進んでいるが、その途中の段階には「分からないが、できる」または「わかっているが、できない」という状態もみ

³² 同上、p. 152

³³ 同上、p. 26

³⁴ 同上、p. 26

³⁵ 迫田（2002）p. 66

³⁶ 小池（2003）p. 26

³⁷ 『日本語教育重要用語1000』p. 185

³⁸ 迫田（2002）p. 67

られる。言語習得を伴う宣言的知識・手続き的知識の養成に関しては、母語を身につける際に並行して行われるが、教室におけるL2学習の場合、宣言的知識が先に形成されると予測される³⁹。いずれにせよ、実際に技能の遂行を体験することが手続き的知識を身につけるための必須条件とされる。3)の事例的知識と規則的知識は表出や理解において内的な構造分析が行われるかどうかにより区別される。前者は丸ごとの定式的な表現項目として処理され、そのように記憶されているものであるのに対し、後者は言語規則の体系的な知識である⁴⁰。

中間言語の研究の実施

学習者の独自の言語知識体系である中間言語を研究対象として扱う研究は、言語の発達に着目しており、分析の枠組みとして相互交流論 (interactionist) を用いている。その際、Ellis and Barkhuizen (2005) では自然発生データの収集が望ましいとしているが、教育現場において自然発生データの収集は極めて難しいため、臨床的及び実験的なデータ収集方法が用いられることも多い⁴¹。中間言語のデータを収集方法、研究者のかかわり度合い、学習者の発話中の配慮の射程という観点からまとめると、図2-2のようになる。

図2-2：中間言語のサンプルの種類

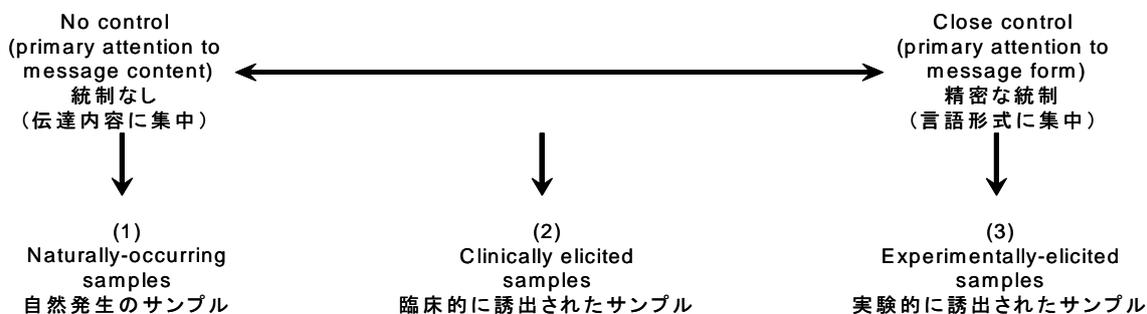


図2-2⁴²から分かるように、(1)の自然発生の中間言語のサンプルの場合、学習者は実際のコミュニケーションにおける伝達内容に意識を集中させる。また、その発話は研究者の統制下のないコンテキストにおいて自発的に発生する。これに対し、(3)の実験的に誘出された中間言語のサンプルは、学習者が研究者によって統制されたコンテキストにおいて特定

³⁹ 同上、p. 67

⁴⁰ 小池 (2003) pp. 28-29

⁴¹ 玉川大学応用言語学研究会 訳 (1988) pp. 79-80

⁴² 図式はEllis and Barkhuizen (2005: 23)の援用で、日本語の訳は著者が付け加えたものである。

の言語形式の産出に集中しながら目標言語を用いるものである。(2)の臨床的に誘出された中間言語のサンプルは(1)と(3)の中間に位置づけられ、研究者がタスクの選択によってある程度サンプルの内容を統制することができるし、また学習者が言語形式ではなく伝達内容に集中することも可能となっている。

中間言語のサンプルの収集の際、次のような方法が用いられる。(1)の自然発生のサンプルは、口頭の場合は、あるコミュニケーション上の目標を満たすために産出された談話の録音及び録画、書面の場合は、多様な目的で書かれた文章の収集が最も相応しいとされている⁴³。(2)の臨床的に誘出されたサンプルの場合、コミュニケーション・ギャップ・タスク (communicative “gap” task)、学習者が自由に話を組み立てていくロール・プレイ (open role play)、文章の再構築 (text reconstruction task)、ストーリー構成法 (picture composition task)、口頭インタビュー (oral interview) などがよく用いられる⁴⁴。(3)の実験的に誘出されたサンプルを集める場合、伝統的な練習法 (多肢選択法 (multiple choice grammar questions)、穴埋め (fill-in-the-blanks)、変形練習 (sentence transformation) など)、クローズ法 (cloze procedure)、誘導模倣法 (elicited imitation)、誘導翻訳 (通訳) 法 (elicited translation)、文完成法 (sentence completion)、ディスコース完成法 (discourse completion)、質問・答えの活動のタスク (question-and-answer) の使用が多い⁴⁵。

中間言語研究においては、自然発生のサンプル (いわゆる生のデータ) の収集は仮説を構築するための段階で用いられている。本研究においてもこのような段階を踏む。この予備的な分析を基に学習者の中間言語に関して具体的な仮説を立て、上記の誘出方法によって収集されたサンプルを用いてその仮説の検証を行う。本研究では、臨床的に誘出されたサンプルを収集するために、ストーリー構成法及び口頭インタビューを用いるが、その詳細に関しては、4.3.3節に述べる。

2.3. 日本語学習者における因果関係を表す表現の先行研究

日本語学習者の産出した用例を取扱う中間言語研究では、<口頭表現能力を主眼とするもの>と、<作文における表現能力に焦点を当てるもの>という2つのアプローチがとられてきた。本節では、2.3.1節「口頭表現能力を主眼とする先行研究」、2.3.2節「作文に

⁴³ Ellis and Barkhuizen (2005) pp. 25–30

⁴⁴ 同上、pp. 30–36

⁴⁵ 同上、pp. 36–40

における表現能力に焦点を当てる先行研究」の順でそれぞれのアプローチにおける代表的な研究の詳細について述べていく。

2.3.1. 口頭表現能力を主眼とする先行研究

日本語学習者の話し言葉における因果関係を表す表現に関しては、栃木（1995）、新村（1996）、木山（2003）、清水（2003）、近藤（2004）の研究を代表的なものとして取り上げたい。

栃木（1995）

栃木（1995）は、中国、韓国、イギリス、フランス、オーストラリア、メキシコの国籍を持つ中級学習者（留学生 12 名）の発話を連続表現の使用という点から、日本人学生（5 名）の発話と比較しながら分析し、中級学習者の発話を「不連続な文レベル」にしている要因を調べた。手順としては、発話データとして、各インフォーマント一人当たり約 20 分のインタビューの録音が行い、その中から以下の共通トピックの発話部分を抽出し、分析している。

表 2-2：栃木（1995）における分析対象の共通トピック⁴⁶

番号	質問内容	機能
①	どうして筑波大学を選んだのか	選択理由の説明
②	一人で暮らすのと家族や友達といっしょに暮らすのはどう違うか	二者の比較
③	一週間で一番忙しい日はどんなスケジュールか	時間的順序に基づく叙述
④	学校の制服はあったほうがいいのかと思うか	意見とその理由説明

調査結果から、中級学習者には、節と節をつなぐ連続表現がうまく使えず、構造上短い文を多く用いる人、逆に文が長すぎて言いたいことが分かりにくくなっている人などがおり、どちらの場合も文頭や節の始めの接続表現がうまく使えていないと主張されている。因果関係を表す表現の使用に関しては、単文を多く用いた学習者の場合、「から」、「ので」、「し」の使用が日本人に比べて特に少ない。また複文をよく用いた学習者の産出には、「から」が「ので」、「し」の使用を上回る。

新村（1996）

新村（1996）は日本語を母語とする金沢学院大学の 3・4 年生 10 名と、インドネシア語、

⁴⁶ 栃木（1995：81）の引用

中国語、マレー語、英語を母語とする金沢大学の教養部1年生10名の8つのタスク（表2-3に詳述）に基づいて行った独話を比較し、留学生における接続詞・接続助詞表現の特徴について述べている。留学生は各タスクに最も適した表現を選択する能力に欠けているために、各文脈について話者によって色々な表現が出てくるとしている。また、彼らは談話レベルに合わせて発話スタイルを変化させる言語能力がまだ不十分であるため、日本人大学生と異なった接続詞・接続助詞を用いたと見なされている。因果関係を表す表現の場合、日本人大学生が独話のタスクに合わせて「ので」を用いたのに対し、留学生の発話には「だから」や「から」の使用が多くみられた。

表2-3：新村（1996）が用いたタスクの内容⁴⁷

日本語母語話者	留学生
1. 今学期一番忙しいのは何曜日ですか。その日のスケジュールについて話してください。（時間的順序）	
2. 銀行のキャッシュマシーンで、カードと通帳を使ってお金をおろすには、どうしますか。（手順の説明）	
3. あなたの部屋の中のどこに何があるか説明してください。（空間的順序）	
4. 女子大のキャンパスについて、どこに何があるか説明してください。（空間的順序）	4. 金沢大学城内キャンパスについて、どこに何があるか説明してください。
5. 高校生の学生生活と大学生の学生生活を比べてみてください。（比較）	5. あなたの出身地と金沢の町のようすや人々の生活を比べてみてください。
6. 大学であなたのかばんがなくなりました、さあ、どうしますか。（問題解決方法）	
7. 一つを選んで話してください。（因果関係の説明） a. 温室効果現象がどのようにして起こるか説明してください。 b. オゾン層破壊のメカニズムを説明してください。	
8. 次の4コママンガを選んで、そのストーリーを話してください。また、このマンガがどうしておもしろいのが考えてください。（ストーリーの説明）（「うっかり父さん」、鈴木ひろし作）	

木山（2003）

木山（2003）は日本の大学に留学中の学習者（18名）を対象にして、来日直後とその約半年後の2度にわたる日本語母語話者との会話資料を分析し、「から」「だから」の習得過程に焦点を当てた。ただし、学習者のレベルは日本語能力試験1級程度の事前テストの正解率が18%から96%までの範囲となっていたため、6名のデータを横断的分析対象とした。木山は接続助詞の「から」と接続詞の「だから」の区別としては、動詞・イ形容詞に後接

⁴⁷ 著者が新村（1996：62-63）を参照に作成した。

する接続助詞の「から」を「から型」、名詞・ナ形容詞に後接する接続助詞の「から」を「だから型」、接続詞を「だから」とし、データ分析を行った。その結果、1回目と2回目のデータにおいては規範的な形式の習得前に「だ+から」の誤用がみられないのに対し、規範的な形式に先行して「だ-から」が産出されるということから、「から」の過剰使用という特徴があるとされている。また、「から」「だから」の習得を伴う特徴としては、学習者が「ので」を習得していない場合、言語形式の習得順序は「から型」⇒「だから型」⇒「だから」の順となり、統語的な役割の習得順序は文中「から」⇒ 文末「から」⇒ 文頭「だから」の順となると指摘している。さらに、言語形式と接続助詞・接続詞としての統語的機能が習得された後、「から」「だから」が別の形態素として使用され、談話的な機能が拡充されると述べている。

清水 (2003)

清水 (2003) は韓国、中国系 (中国系マレーシア人を含む)、タイ、タイ以外の非漢字圏アジア、リトアニア、オーストラリア、アフリカに国籍をおく立命館アジア太平洋大学国際学生 (45 名) を対象に、2 年間にわたる半年ごとの OPI 方式によるインタビューを行った。接続表現使用状況を通じて被験者の口頭表現能力はどのように上達していくかを横断的に考察するために、産出された言語形式の大まかな分類及び産出数を中間報告したものである。具体的には、佐久間 (1990) を参考に学習者が用いた語形を「逆接」、「理由」、「順接」、「時間」、「仮定」、「例示」、「目的」というカテゴリーに分けているが、用法による細かい分類はしておらず、誤用・正用の区別もつけていない。さらに、原因・理由を表す接続表現のうち、「から」、「だから」が産出されたとしているが、細かい使用状況は報告されていない。

近藤 (2004)

近藤 (2004) は日本語母語話者 (20 年半ば～40 代の男女) 40 名と日本語学習者 (香港の大学生) 37 名を対象に、連続した絵の内容を友達に伝えるというタスクを録音し、その文字化した資料を比較しながら談話に見られる言語使用の傾向の違いについて考察している。その際、「談話を談話らしくさせている言語形式」⁴⁸の中で、「接続表現」に焦点を当て、1) 文の種類と接続表現のかかわり、2) 文レベルからみる接続表現の形式の種類と頻度、3) インフォーマントに多用される接続表現の形式とその運用事態、4) 談話レベル

⁴⁸ 近藤 (2004) p. 78

における話題展開の「文の接続関係」、5)「文の接続関係」の基本類型別に現れた接続表現の言語形式について分析している。その結果、母語話者が使用した接続表現の種類は 75 種であったのに対し、日本語学習者の談話資料における接続表現の使用は 13 種に限られ、ほとんどが「～けど」「でも」「～から」「～テ形」「そして」に留まると報告している。その使用に関しては、誤用とされたものが少なく、文レベルにおいて簡単な節同士をつなぐ接続表現は定着してはいるが、これらの運用は非常に限られていると主張している。因果関係を表す言語形式に関しては、「ので」の使用は少なく「～から」が多い。また、「～テ形」は主に順序の意味で用いられており、「理由」で使われた例はわずかであった。

栃木 (1995)、新村 (1996)、木山 (2003)、清水 (2003)、近藤 (2004) の研究成果をまとめると、日本語学習者の発話には、母語を問わず、原因・理由を表わす表現のうち、「から」及び「だから」の過剰使用が見られたが、「ので」「し」「～テ形」の使用が日本人のインフォーマントに比べて特に少ないことが分かる。そこで、ロシア語を母語とする日本語学習者にも同様な結果が見られるのかということに関心をもった。

2.3.2. 作文における表現能力に焦点を当てるもの

日本語学習者の書き言葉における因果関係を表す表現の使用に関する代表的な研究としては、遠藤 (1978)、横林 (1988)、横林 (1994)、徳田 (1995)、濱田 (2000) が挙げられる。

遠藤 (1978)

遠藤 (1978) は、モスクワ大学日本語科で 4-5 年間日本語を学習してきた東海大学日本語研修課程の研修生 (10 名) の作文にみられた誤用を幾つかのグループに分け、考察している。因果関係を表す接続語句の誤用としては「それでは」と「それで」が取り上げられているが、その要因に関する考察はなされていない。

横林 (1988)

横林 (1988) は、上智大学及び国際学友会の 4 年間の学生の作文 (紹介文、描写文、手紙文、随筆風 (?) 文⁴⁹、論説文) を分析対象とし、これらの作文に現れる接続表現を取り上げ、その特徴について考察している。因果関係を表す接続表現の誤用としては、「のに」と「ので」の取り違え、「から」の代わりに「テ形」の不適切な使用が挙げられている。

⁴⁹ 横林 (1988 : 70) の表記に従う。

横林 (1994)

横林 (1994) は、上智大学、早稲田大学、独協大学の上級学生の作文 (読書感想文、要約文、論説文) に現れた接続表現の分析結果を横林 (1988) の分析結果と比較し、その特徴について述べている。因果関係の表現の使用のうち、展開型に関しては中級、上級とも「だから」の使用が多いが、上級は「その結果」「従って」のような表現も増えてくる。誤用に関しては、上級になると、「のに」と「ので」の取り違えがなくなり、「テ形」の多用による文も減ってくるとされている。上級における誤用には、ほとんどが口頭表現の持ち込みという語彙選択の誤りがみられる。また、理由述べの表現を用いる際に文末の「から」の脱落もある。

徳田 (1995)

徳田 (1995) は台湾、中国、香港、韓国、マレーシア、インドネシア、タイ、フィリピン、サウジアラビア、ブラジル、ペルーの国籍を持つ国際学友会日本語学校の学生 (200名) を対象に調査し、一人当たり 400 字詰め原稿用紙 1.5-2 枚程度の作文をデータとし、接続助詞及び接続詞の誤用について述べている。因果関係を表す表現の不適切な使用としては、1) 「適切な接続助詞の代わりに「て」「てから」が用いられている」、2) 「3 つ以上の節 (句) がある複雑な構文の作り方に失敗した例」、3) 「展開型接続詞がうまく使われていない例 - 「だから」と「それで」の問題」を挙げている。

濱田 (2000)

濱田 (2000) は、中国語、マレー語を母語とする中級・上級レベルの富山大学学部 1 年生 (34 名) の作文 145 編を分析し、学習者の誤用には下記の 4 つのパターンがあると指摘している。1) 接続表現 (「シテ節」「カラ・ノデ節」の不適切な使用)、2) 原因・理由を表す従属節が 2 つ現れるもの (「ノデ・カラ節」、2 つの「シテ節」、2 つの従属節が並列の関係にあるもの)、3) 接続表現が表示されていないもの、4) 原因・理由の説明が長すぎるものである。

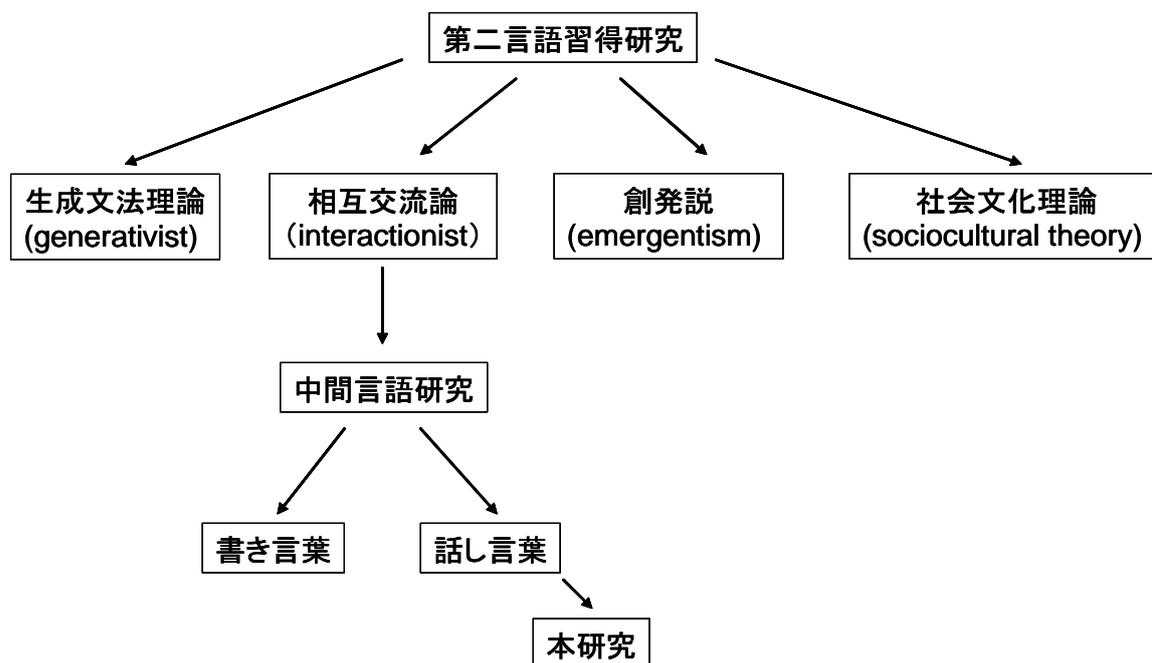
上記のことから、主な作文における表現能力に焦点を当てた先行研究の場合、学習者の不適切な使用のパターンが取り上げられているが、習得過程との関連付けはほとんどなされていないことが指摘できる。また、学習者の話し言葉を扱う研究では、言語形式のレベルごとの産出状況 (産出数、学習レベル) が報告され、習得過程と使用パターンが考察さ

れている。しかし、木山（2003）を除き、因果関係を表す表現は、産出された接続助詞・接続詞のごく一部であり、研究の主眼点となっていない。また、研究対象者の国籍及び母語が多様であり、同じ言語を母語とする学習者が取り扱われていないようである。ロシア語を母語とする学習者に関しては、1.1 節に取り上げた Sereda（2005）及び遠藤（1978）以外の研究が見当たらないと言える。そこで、これまでほとんど研究対象とされなかったロシア語母語話者が原因・理由を述べる際には、筆者の母語でもあるロシア語に影響を受けて独自の中間言語を生み出すのか、それとも多様な言語を母語とする日本語学習者に共通したパターンが見られるのかを調べるために本研究を行った。

2.4. 本研究の位置づけ

本研究の第二言語習得における位置づけを図式でまとめると、図 2-3 のようになる。

図 2-3：本研究の第二言語習得研究における位置づけ



この図から分かるように、本研究では相互交流論（interactionist）における中間言語に焦点を置き、話し言葉のデータを分析対象とする。その中で、ロシア語を母語とする日本語学習者の原因・理由を表わす表現の使用における特徴を考察する。

第3章 日本語とロシア語の原因・理由を表す言語形式の対照研究

本章では、日本語とロシア語の原因・理由を表わす言語形式の比較対照するために、3.1節「因果関係の構成と原因・理由の説明」、3.2節「日本語における言語形式」、3.3節「ロシア語における原因・理由を表す表現」、3.4節「両言語の対比」の順で述べて行く。中川（1995）が指摘しているように、因果関係を表す言語形式を考察する前に、「そもそも因果関係とはいったい何なのか？」⁵⁰という問題に触れるべきである。そのため、3.1節「因果関係の構成と原因・理由の説明」では、言語学における因果関係の捉え方、構成の特徴について論じておく。「日本語における言語形式」及び「ロシア語における原因・理由を表す表現」では、それぞれの言語における原因・理由を述べる際の言語形式に触れる。また、本章の最後に、両言語における原因・理由を表す表現を比較し、類義表現について考察する。

3.1. 因果関係の構成と原因・理由の説明

因果関係の構成

言語学においては、通常、ある事柄Aがある事柄Bを引き起こしたということを因果関係⁵¹と見なす（中川、1995：47）。ここで興味深いのは、「ある事柄A」を表現する際の表記が複数あることである。図3-1から分かるように、ロシア語の場合、「ある事柄A」を示すには П р и ч и н а⁵² という用語が用いられているのに対して、日本語においては「原因」「理由」⁵³ という言葉の使用が一般的である。この違いは、両言語の言語形式の記述に大きく影響を与えるのではないかと思われる。

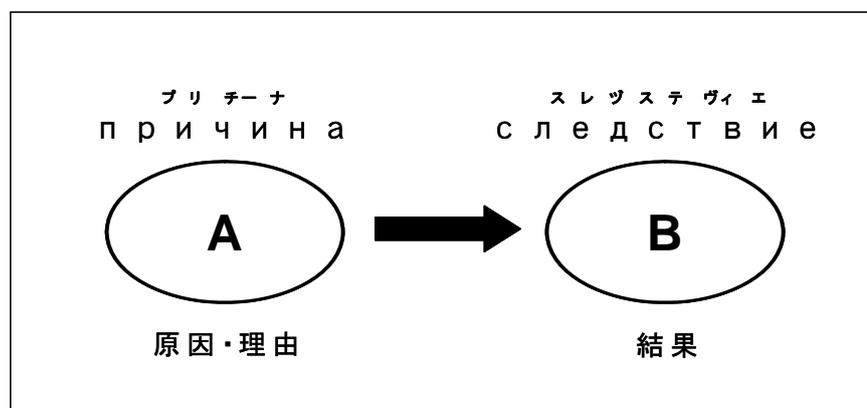
⁵⁰ 中川裕志（1995）p. 47

⁵¹ 因果関係には、結果（RESULT）、理由（REASON）、目的（PURPOSE）、条件（CONDITIONAL）という特定の関係が含まれる（ハリデイ・ハサン、1997：333、336）が、本稿では、ロシア語を母語とする日本語学習者が原因・理由を述べる際、どんな表現を用いるか、発話をどのように構成していくかの考察を研究課題とするために、「目的」及び「条件」は扱わないことにする。

⁵² П р и ч и н аの類義表現としては О с н о в а н и е（根拠）、Р е з о н（訳）、П р е д п о с ы л к а（前提）などが取り上げられる（А пр е с я н、2003：303-309）が、概念としての因果関係について述べる際、П р и ч и н аのみを用いる。

⁵³ 日本語の「原因」「理由」に関しては、次の「原因・理由の区別」で詳しく述べる。

図 3-1：ロシア語及び日本語における因果関係の概念化



しかし、上記の「ある事柄 A」を表す用語の相違点にも係わらず、言葉による因果関係の表示には次のような共通性がある。ハリデイとハサン（1997：335）が指摘しているように、因果関係が言語化される際、構造的な「原因・理由」の表現が以下の2つの方向のどちらかへ進んでいる。一方は、「原因・理由→結果」（Aだから、Bである）の形であり、論理的に「原因・理由」が「結果」よりも先行する形式である。他方は、「結果→その原因・理由」（Bである。なぜならAだから）という因果関係が転倒した（REVERSED）形式である。両方とも、単文の連鎖あるいは複文として表現される。また、転倒した（REVERSED）形式は、次の1）と2）に分けられる。

- 1) 話し手自身が「結果→その原因・理由」のように「原因・理由」の説明を展開していくもの（以下「独話型」）（例 3.1）。

（例 3.1）これは今までの仮説を大きく塗り替える可能性があります【結果】。なぜなら今までは、運命に対して宇宙の始まりから厳然として存在するという前提のようなものがあったからです【理由】⁵⁴。

- 2) 相手に原因・理由を問われた場合、「問い—答え」の隣接ペアとして原因・理由について述べるもの（以下「隣接ペア型」）

このタイプ（「隣接ペア型」）を、「結果」に関しての言語表出があるかどうかにより、さらに細かく分類する。

- 2-1) 話し手の発話が聞き手に関心をもたせ、聞き手の事物の原因・理由に関する質問を促す。この場合、談話の展開は「結果→原因・理由の問い→原因・理由の説明」の

⁵⁴ <http://fushigi.accnnet.co.jp/rss/01/id145082.asp>（2007年5月16日現在）

形を取る（例 3.2）。

- (例 3.2) 松本 : シュミットさん、関西空港は初めてですか。
 シュミット: ええ。本当に海の上にあるんですね。
 松本 : ええ。ここは海を埋め立てて造られた島なんです[結果]。
 シュミット: すごい技術ですね。
 でも、どうして海の上に造ったんですか[理由の問い]。
 松本 : 日本は土地が狭いし、それに海の上なら、騒音の問題がありま
 せんからね[理由]。

（「みんなの日本語Ⅱ」）

2-2) ある行動あるいは事態の発生が、談話の前提となり、話し手と聞き手の発話が、「原因・理由の問い→原因・理由の説明」という方向で展開する。

例えば、例 3.3 を見てみよう。主人公が突然電話で話し始めた若い女性の行為に驚き、彼女の行為の理由についてバーレイに聞くことにした。

- (例 3.3) …両替所に着いて、紺色のブレザーを着た若い女性がこちらをじろじろ見るまで、お金の問題が最大の悩みの種だと思っていた。バーレイが彼女に為替レートをきいた。彼女はすぐに受話器をとり、こちらに背を向けて話し始めた[結果]。

「どうしてあんなことをしているの？」[理由の問い]私はおどおどしてバーレイに小声できいた。

彼は驚いてちらりと私を見た。

「なんだか知らないけど、為替ルートをチェックしてるんだよ」[理由]と、彼は言った。

（「ヒストリアンⅠ」）

上記のように、因果関係の組立てには、順当な語順と、因果関係が転倒した語順があり、後者の形式には、1)「独話型」2)「隣接ペア型」がみられる。本研究では、このような因果関係の構成を考慮に入れ、考察する。尚、「原因」と「理由」の相違点に関しては、次の「原因・理由の区別」に述べる。

原因・理由の区別

「因果関係の構成」に述べたように、日本語において、「ある事柄B」を引き起こした「ある事柄A」のことを「原因・理由」という。「原因」と「理由」を大まかに区別すれば、「原因」は自然的現象、「理由」は人為的現象というふうに解釈ができる。一ノ瀬（2006）⁵⁵は「原因」及び「理由」という対比を次の三つの観点から大まかに整理している。

- (1) 「原因」は時間的推移を包含した概念であるのに対して、「理由」は無時間的である。
- (2) 「原因」は自然的出来事に適用されるのに対して、「理由」は意味的内容に当てはめられる。
- (3) 原則的に、「原因」は外延的(extensional)であり、「理由」は内包的(intensional)である。

一ノ瀬は、(1)を説明するために次のような具体例を用いている。

…痙攣して倒れたという時間的推移を有す出来事に対しては「原因」が適用されるが、友達に意地悪をする根拠は、意地悪をすることを納得させる正当化の論理が問われているのであって、そうした論理はいつ誰が誰に意地悪しようとして当てはまるという意味で時間性から独立なので、「理由」の概念が当てはめられる。

(一ノ瀬、2006 : 5)

また、(2)の自然的出来事・意味的内容の対比に関しては、以下のように述べている。

意味的内容とは人為的・言語的なものであり、よってそこには、意味それ自体以外に、認識、信念、意図、要求などの内容が含まれる。こうした対比は、「因果性」(causality)と「志向性」(intentionality)という哲学での基本的対比とおおよそ対応している。いずれにせよ、ドライアイの「原因」として「老化」という自然的出来事が指定されたりするのであり、眼精疲労が社会問題となった「理由」として労働環境への「理解不足」という認識・信念のありようが割り振られるのである。

(同上、p. 6)

(3)に関しては、一ノ瀬は、これは(2)からの帰結であると指摘し、その趣旨を以下のように解説している。

⁵⁵ 一ノ瀬正樹（2006）pp. 5-6

「原因」は出来事を指示するので、その出来事を指しているのであれば、どういう表現でそれを記述しても事態としては同じことが指示されている。よって、同じ対象を指示する表現（外延を等しくする表現）によって交換可能である。それに対し、「理由」は本質的に言語依存的なので、出来事として同じであったとしても、どう表現するによって（内包によって）異なることを意味していることになる。

（同上、p. 6）

一ノ瀬が指摘しているように、上記の対比はあくまで大筋であり、厳密なものではないが、「原因」「理由」の使用範囲を明確に示すことから、本稿では一ノ瀬の解釈を重視する。

また、『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』に記載されているように、「理由」には「事柄の理由」と「判断の根拠」という2つのタイプがある。「事柄の理由」とは、「動作や出来事が起こる／起こった原因・理由にあたるもの」であるのに対し、「判断の根拠」とは、「判断をする際に基となったことがら」⁵⁶である。次の例文⁵⁷を見てみよう。

（例 3.4）今日は息子の誕生日 {だから／なので} 早く帰ります。

（例 3.5）どうして早く帰るのですか。

（例 3.6）部屋の明かりが消えている {から／ので} 彼はいないのだろう。

（例 3.7）どうして彼がいないと思っているのですか。

例 3.4 の場合、「早く帰る」という動作の理由としては「今日は息子の誕生日」という事柄が取り上げられている。この文は「どうして～のですか」のタイプの質問（例 3.5）と対応している。一方、例 3.6 の場合、「部屋の明かりが消えている」ということから「彼はいない」と判断したと解釈できる。「判断の根拠」を表す文は「どうして～と {思う／考える}」に対応している。

3.2. 日本語における言語形式

ここまでは、因果関係の構成、「原因」「理由」の区別について述べてきたが、この節では日本語における「原因」「理由」を表す言語形式について考察していく。

⁵⁶ 白川監修（2001）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』p. 413

⁵⁷ 同上、pp. 413-414

3.2.1. 原因・理由を表す言語形式の概要と研究対象

日本語においては「原因・理由」を表す言語形式が多く、『教師と学習者のための日本語文型辞典』（1998）では「原因・理由」という見出しに29項目も挙げられている。この29項目の原因・理由を表す表現を品詞の観点から整理すると、表3-1のようになる。

表3-1：原因・理由を表す表現の品詞による分類

格助詞	で、から、に	
複合格助詞	につき、とあって、のせいで、のおかげで、のために、ゆえに、によって	
接続助詞	から、からこそ、からといって、からには、のだから、ものだから、ので、ため、のに、し	
接続詞	原因・理由・帰結	だから、それで、そのために、そこで、ゆえに、それゆえに
	理由述べ	なぜなら、なぜかという、というのは、だって
名詞	理由、原因	
形式名詞	わけ	
終助詞	もの	
助動詞	のだ	
その他	述語の連用形（～テ形）	

このように、原因・理由を述べるときの発話に表れる言語形式は多様であり、それぞれの選択は統語論的、意味論的、語用論的ないくつかの要因に左右されると言える。この表現の詳細に関しては、上記の分類に沿って以下の各節で述べる。ただし、「その他」の述語の連用形（～テ形）の考察は3.2.4節「接続助詞」で取り上げ、「から」を含む表現に関しては、3.2.5節で述べる。

3.2.2. 原因・理由を表す格助詞「で・から・に」

宗田（1993）、久保（1994）が指摘しているように、「で」、「に」、「から」は原因・理由を表す典型的な格助詞であり、ことがらを表す名詞と動詞を組み合わせる点で、共通している。上記の3種のうち、原因・理由の表現としてもっとも広く利用できる格助詞は、「で」であり、ほとんどの場合、「から」「に」を「で」に言い換えられるようである⁵⁸。

宗田（1993）が取り上げる用例を見てみよう。

⁵⁸ 宗田（1993）p. 59

(例 3.8) 風邪で休んだ。

(例 3.9) 議長の欠席で議会議が流れた。

(例 3.10) この名作 {に/×で} 感動した。

(例 3.11) 国民はクーデターのニュース {に/で} 動揺した。

(例 3.12) 柿の枝が実の重さ {に/で} しなっている。

(例 3.13) 民衆は国政に対する不満 {から/×で} ゼネストを決定した。

(例 3.14) 興奮 {から/×で} 毛が逆立った。

(例 3.15) 過労 {から/で} 病気になった。

(例 3.16) ちょっとしたこと {から/で} 口論になった。

格助詞「で」の場合、「因」が後続の「果」から独立して外にあり、同時に「で」を接点とすることによって因果関係としてつながれている。つまり、格助詞「で」が「外的原因」という意味・ニュアンスを持っていると言える。

また、格助詞「に」は前に置かれた名詞が表す出来事がきっかけとなって他の出来事が起こることを表す⁵⁹。そこで、「で」に置き換えられた場合、「に」のきっかけとしての意味が薄れるようである。一方、「で」に置き換えられない「に」の場合、「に」格名詞を含む文が「形」の面と「意味」の面から「一体化」する⁶⁰という性格を持つ。さらに、「に」格名詞は主体の感情変化を引き起こす原因であり、後続する感情動詞の感情の対象となる。

「で」に置き換えられる「から」の用例の場合、「から」には場所の起点をマークするという意味合いが残っている⁶¹。この例文を「で」に置き換えたら、起点の意味合いが薄くなり、「外的要因」という意味合い・ニュアンスが感じられるようである。「で」に置き換えられない用例に関しては、「から」格名詞に感情・心情を表す場合が多く、それが「基」となって後続動詞の示す行為や状態変化に移るという「因」→「果」の方向性が伝わる⁶²。

また、「に」には宗田が言及していない特徴もある。『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』に記載されているように、受身的な出来事が原因・理由になっている場合(例 3.17)、原因を主語にした使役受身文の場合(例 3.18)、この格助詞が用いられる

⁵⁹ 白川監修 (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』 p. 26

⁶⁰ 「形」の面からの「一体化」とは、補語として動詞との結びつきが強いということであり、「意味」からの「一体化」とは変化結果の状態が原因と結びついているのを指す(宗田、1993 : 63)。

⁶¹ 宗田 (1993) p. 65

⁶² 同上、pp. 66-67

ようである。

(例 3.17) 販売員のあまりに熱心な勧誘 {に/×で} つい契約書にサインをしてしまった。

(例 3.18) 彼の無責任な態度にはがっかりさせられた。

上記のような使役受身文の制約としては、述語が「悩む、驚く、びっくりする、落胆する、がっかりする」などの感情を表す無意志動詞の一部および「考える、反省する、思案する」などの思考を表す動詞に限られていることが挙げられる⁶³。

このように、「で」「から」「に」という格助詞はことがらを表す名詞と動詞の組み合わせにより、因果関係を表している。3種のうち、「で」はもっとも普遍的であり、受身文・使役受身文、感情・心情及び思考の表示を除き、「から」「に」を「で」に置き換えることが可能である。

3.2.3. 原因・理由を表す複合格助詞「につき・とあって・のせいで・のおかげで・のために・ゆえに・によって」

複合格助詞の本質

原因・理由を表す「につき」、「とあって」、「のせいで」、「のおかげで」、「のために」、「ゆえに」、「によって」という表現群の名称には、複合格助詞、格助詞相当句、後置詞などがみられる。これらの使い分けに関しては、田中（2004：517）では、「国語学では助詞相当連語、日本語学および日本語教育学では複合格助詞、言語学では後置詞と…位置づけられてきた」と記述されている。いずれにしても、上記の呼称は、格助詞のような働きをする語句のことを指すという点で共通しているといえる。国語学であえて、「相当」との語が名称に用いられているのは、この複合的・慣用的なまとまりとなったものが格を示しているとは言いがたいとの主張が背景にある。言語学においては、「後置詞」という用語が、もともと西欧語などで言われる「前置詞」と対をなす概念として多種多様なものに関して使われ始めたようである⁶⁴。しかし、いまだに、一般呼称として広く定着していない傾向があ

⁶³ 同上、p. 133

⁶⁴ 庭三郎（未公開）『現代日本語文法概説』（第1部 単文（1）基本述語型 8. 格助詞相当句）<http://www.geocities.jp/niwasaburoo/index.html> 2007年5月30日現在

り⁶⁵、「後置詞」という枠組みでどのような表現をすくいあげることができるのか、問題とされている（松木 2006）。本稿では、このような名称の多様性を念頭に入れながら、日本語教育学で使用されている「複合格助詞」という用語を用いる。ただし、先行研究に関して述べる場合は、その参照文献で使用されている原本の形式を保つ。

複合格助詞は、格助詞と比べ、数語からなる構造を持ち、多義的な格助詞の1つの意味をはっきりさせたり、格助詞だけで表せない意味合いを伝えたりするために用いられる。具体的には、田中（2004：519）が指摘しているように、複合格助詞による言い方は「事態に一步踏み込んで記述している様子や、話し手の姿勢を内包していること」が察知できる。例えば、次の例を見てみよう。

（例 3.19）大雪で電車が不通になった。

（例 3.20）大雪のせいで電車が不通になった。

前者はただ事柄の理由を挙げているのに対し、後者はその他に話し手の意識を含んでいる。このように、複合格助詞を用いた言い方は「話し手の思考の過程における選択指向、評価判断の内実をうつつしだす」⁶⁶という特徴を持つ。

以下には、原因・理由を表すそれぞれの複合格助詞について考察していく。

「につき」

「につき」は、後置詞、格助詞相当句などに関する文献に取り上げられてはいるが、この複合格助詞そのものを中心とした日本語学的な考察は見当たらない。下川（1993）は、複合格助詞に関する解説において「につき」に触れ、田中（2004）は、中止形後置詞を分類する際、習慣的に連用中止の形をとるものとして「につき」を挙げてはいるが、両者ともこの表現の用法および特徴については言及していない。日本語教育学的見地から文法を扱った『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』には、「につき」が以下のよう記述されている。

（例 3.21）工事中につき徐行してください。

（例 3.22）店内改装中につきしばらく休ませていただきます。

（例 3.23）本日定休日につき休業いたします。

⁶⁵ 田中（2004）p. 518

⁶⁶ 同上、p. 520

(例 3. 24) 出入り口につき、駐車禁止。

これらの例文⁶⁷から分かるように、「につき」は体言に接する改まった表現であり、「提示など不特定の読み手に対して意思を表明したり、依頼・命令・禁止」⁶⁸を伝達しようとしたりする場合に用いられる。

「とあって」

「とあって」は「につき」のように、後置詞・格助詞相当句などに関する先行研究には多少現れるが、その記述が不十分であると言える。田中（2004）は、ト格支配の動詞中止形（テ形）後置詞に〈引用⁶⁹〉というカテゴリーを設け、その使用頻度の高い表現の一つとして「とあって」を取り上げている。田中が指摘しているように、「とあって」はそもそも「ということで」という状況把握の説明の意味を持ち、婉曲的、選択的に原因・理由づけをする言い方である（例 3. 25⁷⁰）。

(例 3. 25) 新発売とあって長蛇の列。

また、係助詞「モ」との組合せが可能であることから、直接的に断定を下すのを避け、複数の客観的な状況に基づいた判断を示す（例 3. 26）。

(例 3. 26) 教壇に立つのは初めてともあって、少し落ち着かないところがあった。

さらに、係助詞「モ」の併用の場合、ト格が脱落するケースもあり、「せいもあって」、「こともあって」、「ためもあって」のような表現がみられる。このように、田中は「とあって」を、一種の情報提示文をなしているものとしている。

「のせいで・のおかげで」

この表現は、研究者により「形式名詞」あるいは「形式副詞句」などとされるが、本稿

⁶⁷ 例 3. 21 および例 3. 22 は白川監修『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（pp. 25-27）からの引用である。また、例 3. 23 は下川（1993：133）によるものであり、例 3. 24 は田中（2004：523）からの引用である。

⁶⁸ 白川監修『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』pp. 26-27

⁶⁹ この分類に表れる〈引用〉は、判断、認識などの広い心理活動、判断などの姿勢を指す（田中、2004：530）。

⁷⁰ 田中（2004）p. 538

では、日本語教育の立場⁷¹を重視し、複合格助詞と位置づける。「のおかげで」「のせいで」はそれぞれ「名詞」から派生し、心情的な意図を背景に原因・理由を表す点で共通している。次の例文を見てみよう。

(例 3.27) チューターのおかげで良い文章が出来上がった。

(例 3.28) 寝不足のせいで授業中は居眠りをしてしまった。

上記の例から分かるように、「のおかげで」の場合、好ましい結果がもたらされた原因(人・事柄)に対する感謝の気持ちが明確である。これに対して、「のせいで」は、不都合な結果あるいは好ましくない事柄をもたらした理由を表す際に用いられている。田中(2004)が指摘しているように、「のおかげで」は皮肉の言い方として「のせいで」を代行することができる(例 3.29)。

(例 3.29) あーあ、君のおかげでめちゃくちゃだよ⁷²。

これに対し、「のせいで」には、このような機能はなく、「のおかげで」の意味合いで使用するのは不可能である。また、両方とも、述語を受ける用法があるが、詳しくは3.2.4節「接続助詞」で述べる。

「のために」

「のために」は多義的な表現であり、以下の例文⁷³から分かるように、利益、目的、理由を表すことができる。

(例 3.30) あなたのためを思って言うんですよ。(利益)

(例 3.31) 進学のために勉強する。(目的)

(例 3.32) 雨のために中止になる。(原因)

尚、本稿では、原因・理由を表す表現を考察することから、利益および目的を表す「のために」は扱わないことにする。また、述語を受ける「ため(に)」に関しては、3.2.4節「接続助詞」で論じる。

⁷¹ 白川監修『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』p. 25

⁷² 庭三郎(未公刊)『現代日本語文法概説』(第1部 単文(1)基本述語型 14. 形式名詞) <http://www.geocities.jp/niwasaburoo/index.html> 2007年5月30日現在

⁷³ 同上の引用

原因・理由を表す「のために」は、田中（2004）が指摘しているように、「超時的で、常態的⁷⁴」な事態を表す名詞につく。つまり、この複合格助詞の前に現れる名詞は人為的統制の領域を超えた自然環境という性格を持つ。その代表的なものとしては、自然現象の「雨のために」（例 3. 32）、行事や予定の「試験のため」「会議のため」（例 3. 33-3. 34）などが挙げられる。

（例 3. 33）また、就職試験のために期末試験を受けられない場合は、事前に指導教員と科目担当教員に相談してください⁷⁵。

（例 3. 34）ソンミンは緊急会議のためにデートの約束に遅れる⁷⁶。

「ゆえに」

「ゆえに」は、理由を表す「故」という名詞に由来し、事態発生の背景を説明するものである。この表現は書き言葉に表れ、現代口語としては、古い感じを与える（奥津 1986 : 97）。また、下記の例のように、「のために」と同義的であり、置き換えても違和感を覚えない。

（例 3. 35）貧困の{ゆえ/ため}に高等教育を受けられない子供たちがいる。

「ゆえに」にも、「おかげで」、「せいで」及び「ため」のように、述語につくものがあるが、この用法に関しては、3. 2. 4 節「接続助詞」で触れる。

「によって」

以下の例文⁷⁷から分かるように、「によって」は「原因・理由・根拠・手段・受身マーカー・複数の条件設定」⁷⁸（田中 2004 : 521）という多様な用法を持つ表現であるが、本稿での考察は、原因・理由を表すものに限る。

（例 3. 36）地震によって多くの家が倒壊した。（原因・理由）

⁷⁴ 田中（2004）p. 381

⁷⁵ 期末試験・補講に関すること、湘南工科大学[在学生専用ページ]
<http://www.shonan-it.ac.jp/students/kyoumu/000271.html> 2007年6月2日現在

⁷⁶ 「太陽に向かって」ドラマの第8話「通い合う心」の解説
<http://www.tv-hokkaido.co.jp/movie/taiyou.html> 2007年6月2日現在

⁷⁷ 例 3. 36 は『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（p. 25）からの引用であるが、例 3. 37-3. 40 は田中（2004 : 521）によるものである。

⁷⁸ 田中（2004 : 521）

(例 3.37) 表面的な特徴によって採否を決定する。(根拠・基準)

(例 3.38) ミサイルによって攻撃を加える。(手段)

(例 3.39) 夏目漱石によって書かれた作品。(受身のマーカ―)

(例 3.40) 国によって文化習慣が異なる。(複数の条件設定)

原因・理由を表す「によって」は、体言につき、無意志的な述語の場合のみ用いられる。また、この制限下において、原因・理由を表す格助詞「で」を代行する。言い換えれば、意思的な述語の場合は、「で」の代わりに用いられないとのことである(例 3.41)。

(例 3.41) 彼は両親の離婚問題 {で/×によって} 悩んでいる⁷⁹。

この節では、日本語教育の立場を基に複合格助詞に位置づけられた「につき」、「とあって」、「のせいで」、「のおかげで」、「のために」、「ゆえに」、「によって」について論じてきた。この範疇には、上記の表現のほかに、「からこそ」、「からといって」、「からには」、「から以上は」、「から上は」を入れる研究者(下川 1993、田中 2004)もいるが、これらの表現に関しては、3.2.8 節「からを含む表現」で考察する。

3.2.4. 原因・理由を表す接続助詞「から・ので・ため・～テ形・のに・し」

ここまでは、原因・理由を表す格助詞及び複合格助詞について述べてきたが、本節では、原因・理由を表す接続助詞について考察する。下川(1993)が指摘しているように、接続助詞は付属語であり、従属節と主節を繋ぐ働きを持つ。本節では、用言の活用のうち、連用形も接続に関与しているため、述語の連用形(～テ形)についても取り上げる。また、先行研究では、従属節を前件、主節を後件と表記する傾向がある。本稿では、それに従う。

接続の形式から見ると、「から」「し」は以下のように終止形(辞書形・述語形)につき、「ので」「のに」は連体形(名詞修飾形)につく。動詞、イ形容詞の場合、接続の仕方には違いがみられないが、ナ形容詞及び「名詞+だ」の場合、次のように表面に現れる。

(例 3.42) この子はまだ子供 {だから/なので}、自分の名前が書けない。

(例 3.43) 文字の大きさを変更する機能は、JavaScriptが無効なため使用できません。

(例 3.44) 妻が外国人であるために、いろいろと面倒なことが多い。

(例 3.45) この子はまだ10歳だし、体が弱いから留学は無理だ。

⁷⁹ 白川監修『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』p. 26

(例 3.46) 電気屋でも直せないのに、あなたに直せるはずがないじゃないの。

上記の例文のように、「から」「し」は「～だから」「～だし」という形になるのに対し、「ので」「のに」は「～なので」「～なのに」に変形する。また、「ため」は形容動詞の場合、「～なため」となり、名詞の述語の場合、「～の」あるいは「～である」の形に接続する。さらに、「ので」の場合、話し言葉において「んで」という形式が現れる (例 3.47)。

(例 3.47) A : 今日は家にいるんですか。

B : ええ。あした試験があるんで、一日中勉強するんです。

意味・用法に関しては、原因・理由を表す接続助詞のうち、「から」「ので」が最も頻繁に考察 (永野 1952、南 1974、田窪 1987、福間 1989、国広 1992、尾方 1993、岩崎 1995、益岡 1997、田中 2004 など) されていると言える。これに対し、「述語の連用形 (～テ形)」及び「ため」に関しては、多少議論 (望月 1990、今尾 1991、望月 1991、張 1998、田中 2004) がされている。しかし、原因・理由を表す「のに」「し」に関する論述は少ない。本稿では、接続助詞の意味・用法に関する先行研究の方向性 (ア-エ) を基に、原因・理由を表す接続助詞を考察していくことにする。

ア) 主観的か/客観的かの区別によって特徴づけるもの (「から」「ので」の分類)

イ) 構文上の機能によって特徴づけるもの (「から」「ので」「～テ形」「ため」「し」の分類)

ウ) 位相 (文体) によって特徴づけるもの (「から」「ので」「～テ形」の分類)

エ) 認知言語学の立場に基づき考察したもの (「から」「ので」「ため」「のに」の分類)
また、前節で触れた「おかげで」「せいで」「ゆえ (に)」に関しては、その後で述べる。尚、下記のような、原因・理由を表さない「から」⁸⁰は、本考察の対象外とする。

(例 3.48) 私も料金を半分払いますから、どこかへ行きませんか。(条件提示)

(例 3.49) オーストラリアから高校の日本語教師のアシスタントの求人が来ていますから、希望者がいましたら、学科の事務室まで申し出てください。(お膳立て)

(例 3.50) 式場での参殿や起立、着席などの指示はすべて式の世話役の典儀がやってくれますから、参列者はそれに従います。(段取り)

⁸⁰ 原因・理由を現さない「から」に関しては、白川 (1995) が詳しい。また、本稿で挙げられている原因・理由を表さない「から」の用例は白川 (1995) からの引用である。

ア) 主観的か／客観的かの区別によって特徴づけるもの（「から」「ので」の分類）

主観的か／客観的かの区別による特徴づける研究は、永野（1952）⁸¹にまでさかのぼることができる。永野は「「から」と「ので」とはどう違うか」において、「から」を主観的、「ので」を客観的とし、それぞれを以下のように特徴づけた。

「から」－主観的（後件に推量・見解・意志・命令・依頼・質問がくる）

「ので」－客観的（事柄の客観的な叙述）

また、永野はそれぞれを記述する際、後件にくる文のタイプを重視し、「ので」に置き換えられない「から」の独特の用法としては、以下のものをあげた⁸²。

（例 3.51）あいつの事だから、少しは持って帰るだろう。（推量・想像・推測）

（例 3.52）黒船之儀は商売のことであるから、年月を経て貿易に来べきである。（見解・意見・主張）

（例 3.53）朋子が可哀相だから慰めて上げよう。（意思・意向・決心）

（例 3.54）配給をやるから取りにこい。（命令・禁止）

（例 3.55）今夜おいしいシチューを作るから牛乳頂戴よ。（依頼・懇願・勧誘）

（例 3.56）しかし増井さんは帰られてもいつもは一人だからそんな必要を感じないでせう？（質問）

永野（1952）は、上記のことから、「から」の文においては、前件と後件が話し手の主観によって原因・理由の関係で結び付けられていると述べている。それゆえ、原因・理由を表わす複文の後件に話し手の主観に基づく推量・見解・意志・命令・依頼・質問の表現がくる場合、「から」が適切であり、「ので」の用法は不可能だとしている。

一方、「ので」の用法の特徴として、後件にくる文はほとんど事柄の客観的叙述であると述べている⁸³。

（例 3.57）山に近いので昼間はひどく暑いが、（自然現象・物理的現象などの記述）

（例 3.58）ドイツの実例ではこの最低水準が炭坑夫に保証されなかったので出炭高が低下した。（社会事象の記述）

（例 3.59）さんざんはしたので、はらがぺこぺこだ。（生理的現象の描写）

⁸¹ この考察は永野（1970）にも掲載されているため、本稿ではそれを参照する。

⁸² 永野（1970）pp. 197-198

⁸³ 永野（1970）pp. 202-204

(例 3.60) あんなに元気だった正広君が、車からおりた途端に急におとなしくなってしまったので、僕はオヤッと思った。(心の動き(感情・感覚を含む)の客観描写)

(例 3.61) 夜が明けたので私は船べりの方に寄って昨日いた家を見ました。(行動の客観描写)

(例 3.62) 快晴に恵まれたので下界をよく見下ろすことが出来た。(事物の様子描写)

「ので」の場合、前件と後件とは原因・結果、理由・帰結の関係にあることが、話し手の主観を超えて存在する場合、その事態における因果関係をありのまま、主観を交えずに描写するとしている。

以上のように、永野説においては、「から」(主観的)及び「ので」(客観的)が主観的か／客観的かの区別によって特徴付けられているが、この解説は次の二つの点で反論されてきた。一つは現象の記述的妥当性に関する文法性判断の問題であり、もう一つは主観性／客観性の概念そのもの及びその区別の困難(岩崎 1995)である。現象の記述的妥当性に関する文法性判断の問題とは「後件に推量・見解・意志・命令・依頼・質問の表現がくるとき、本当に「ので」は不適格になるのか(山田みどり(1986)、趙順文(1988)、花井裕(1990)等)」⁸⁴との指摘である。また、主観性／客観性の概念そのもの及びその区別の困難とは、前件・後件の結びつきが主観的／客観的のどちらであるかの解釈が一筋縄では行かないということである。

イ) 構文上の機能によって特徴づけるもの(「から」「ので」「～テ形」「ため」「し」の分類)

ここまでは、「から」「ので」を対象とした永野説について述べてきたが、以下は、構文上の機能によって特徴づける研究を扱う。このアプローチは、永野の文法性判断を前提にした「から」「ので」の「主観／客観の問題」を解決しようとする⁸⁵研究のみではなく、「述語の連用形(～て形)」、「ため」及び「し」の記述にもみられる。

このアプローチは、南(1974)が提案した従属節の階層構造に基づいている。南(1974)は従属節を「どのような要素を内部に含むことができるか」ということを基準に以下のよ

⁸⁴ 岩崎(1995) p. 508

⁸⁵ 岩崎(1995) p. 510

うに分類した⁸⁶。

図 3-2 : 南 (1974) による日本語の文の内部構造⁸⁷

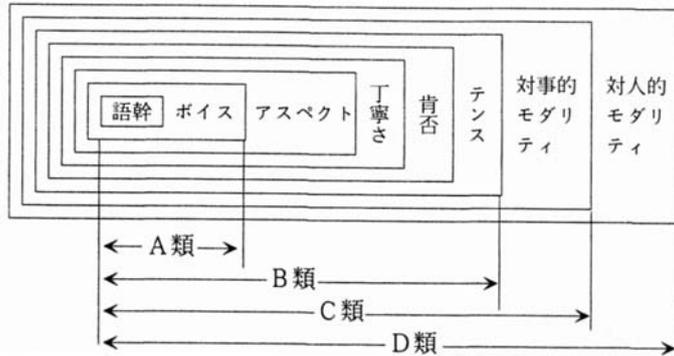


図 3-2 の A 類・B 類・C 類・D 類の内容を改めて示すと、以下のようになる。

- A類従属句 (以下A類) (ナガラ節、ツツ節、テ節₁ (継起)、中止節₁ (継起) など) に含まれる要素：ガ格以外の格成分、ボイス (及びそれに関連する副詞成分)
- B類従属句 (以下B類) (ノニ節、逆接を表すナガラ節、ノデ節、ト節、ナラ節、テ節₂ (並列)、中止節₂ (並列)、テ節₃ (理由)、中止節₃ (理由)、タメ節、タラ節、バ節、テモ節、ナイデ節、ズニ節など) に含まれる要素：A類に含まれる要素、ガ格、アスペクト、否定 (肯否)、丁寧さ、テンス、(及びそれと関連する副詞成分)
- C類従属句 (以下C類) (ガ節、けど節、カラ節、テ節₄ (逆接)、中止形₄ (逆接) シ節など) に含まれる要素：A類、B類に含まれる要素、主題、対事的モダリティ (及びそれと関係する副詞成分)
- D類従属句 (以下D類) (直接引用節) に含まれる要素：A類—C類に含まれる要素；対人的モダリティ、A類—D類に含まれる要素に関連する副詞要素

A 類はテンスを含まないことから、特定の時点で起こった出来事を表せない。つまり、この類は出来事の様子を表す副詞 (様態副詞) に近い性質を持っていると言える。テンスの分化がある B 類は特定の時点で起こった出来事を表せるが、対事的モダリティを含まないから、話し手の判断を表せない。言い換えれば、B 類は客観的な出来事の内容を表す命題の文で用いられる。これに対して、C 類には、主題と命題の内容に対する話し手の認識の仕方を表す対事的モダリティという主観的な要素が含まれるため、B 類より文に近づいて

⁸⁶ 庵功雄 (2001) pp. 198-206

⁸⁷ 同上、p. 204

いる。しかし、話し手の意志や聞き手への働きかけなどを表す対人的モダリティが現れないから、この類も完全な文ではないとされている。最後のD類は独立文に現れる全ての要素を含むが、直接引用として他の文の成分になっている点のみで独立文と異なる。

この枠組みを背景に「原因・理由」を表す接続助詞を解説する研究(南 1974、田窪 1987、岩崎 1995、益岡 1997、長谷川 2001)を、表3-2のようにまとめた。彼らは接続助詞がB類かC類かに属することによって用法の相違が生じることを説明している。

表3-2：従属節の分類によって「原因・理由」を表す接続助詞を特徴づける研究

	B類	C類
南 (1974)	ので、～テ形 ₃ (原因・理由)、 連用形 ₃ (原因・理由)、 のに、ため	から、し
田窪 (1987)	ので、～テ形(理由・時間)、 から(行動・動作の理由)	から(判断の根拠)
岩崎 (1995)	ので「事態の原因・理由」、 から「事態の原因・理由」	から「モダリティの態度の 根拠」
益岡 (1997)	ため「現象レベル」、 ので「現象レベル」、 から「現象レベル」	から「判断のレベル」
長谷川 (2001)	し	し

南 (1974)

南は「ので」、「～テ形₃(原因・理由)」、「連用形₃(原因・理由)」、「のに」、「ため」をB類に、「から」、「し」をC類とした。南の分類で特に興味深いのは、B類及びC類に含まれる要素と、文としての完全さの程度である。たとえば、対事的モダリティを表す「だろう」はC類に属する「から」の前句に現れるが、B類である「ので」「ため」とは共起しない。

(例 3.63) *雨が降るだろうため、傘をもって出かけた。

(例 3.64) *雨が降るだろうので、傘をもって出かけた。

(例 3.65) 雨が降るだろうから、傘をもって出かけた。

また、文としての完全さの程度を、従属節が連体修飾構造に現れうるかどうかで定義している。出来事の様子を表すA類と、特定の時点で起こった出来事を表すB類は連体修飾構造に現れうるのに対し、主題・対事的モダリティを持つC類と、対人的モダリティを持つD類は完全な文に近づいており、それができないこととなっている。たとえば、連体修飾節のなかで「から」が生起しにくい現象などはその例である。

(例 3.66) *電車が遅れたから遅刻した人は花子さんです。

(例 3.67) 電車が遅れたので遅刻した人は花子です。

さらに、南(1974)は上記の枠組みによって複数の従属節間の束縛を説明している。つまり、複数の原因・理由節からなる複文には、C類の従属節(接続助詞)がA類・B類の従属節の前に現れないとのことである。例えば、次の例⁸⁸を見てみよう。

(例 3.68) 北側の教室は寒いから、勉強ができないので、南側の教室で勉強しています。

(例 3.69) 北側の教室は寒いから、勉強ができなくて、南側の教室で勉強しています。

鈴木(1994)が指摘しているように、上記の例文は日本語としておちつきの悪いものである。そこで、南(1974)の原則で行くと、それはC類の「から」がB類の「ので」「～テ形」の中におさめられないからであると言える。

田窪(1987)

田窪(1987)は南(1974)の分類に修正を加え、「から」には行動の理由を表わすもの(B類)と判断の根拠を表わすもの(C類)があると述べた。また、「～テ形」も再分類し、様態(A類)、理由・時間(B類)、並列(C類)の三つに分けた。田窪は「から」の新たな位置づけにより、「ので」との代行制約の説明を試みた。つまり、永野(1952)が「ので」にかえることができないとした後件に推量・見解・意志・命令・依頼・質問の表現がくる「から」の文は、判断の根拠を表わすC類の「から」に相当するものである。以下にB類及びC類の「から」の例を挙げる。

(例 3.70) [彼が行ったから彼女も行った]のでしょう。

この文は行動の理由を表す「から」(B類)の例文である。ここでは、「から」が「でしょ

⁸⁸ 鈴木(1994) p. 201

う」のスコープに入るため、「から」のかかり先が命題レベルであることになる。

(例 3.71) [彼が行ったから]彼女も行ったでしょう。

この例文に現れる「から」は判断の根拠を表す (C 類) ものである。この「から」は「でしょう」のスコープに入らない、つまり「から」のかかり先がモダリティレベルである。

岩崎 (1995)

岩崎 (1995) は原因・理由を表す接続助詞のうち、「から」「ので」に焦点を当て、田窪の定義に沿って、B類の「から」を「事態の原因・理由」、C類の「から」を「モダリティ的態度の根拠」に改名した。また、「から」及び「ので」に関する論述は主に田窪 (1987) の研究に基づいているといえる。

益岡 (1997)

益岡 (1997) は文の概念レベルの観点から、B類の「ので」「ため」「から」を「現象レベル」、C類の「から」を「判断レベル」とした。上記の二つのタイプの例としては次の文を挙げる⁸⁹。

(例 3.72) 時間があまりなかったために結論は出なかった。

(例 3.73) 雪が激しく降ったので、新幹線が遅れた。

(例 3.74) 時間があまりなかったので、次の機会に検討することにした。

(例 3.75) 途中でビーと鳴ったから、公衆電話からじゃないんですか。

(例 3.76) すぐ結論を出さなくてもいいでしょうから、よく考えて見たらいい……。

上記の例文のうち、例 3.72–3.75 の概念レベルは現象レベルであり、例 3.76 の場合、判断レベルとなっている。益岡が指摘しているように、例 3.72–3.73 の「ため」「ので」は事態間の客観的因果関係を表す。また、「ので」には、例 3.74 のように意志的事態を表す主節が表れるが、「ため」の場合、これは不可能である。さらに、例 3.75 のカラ節 (現象レベル) に関しては、従属節が単純事象叙述文となっていると言える。このカラ節は潜在的にも無題表現であることが B 類としての特質である。一方、例 3.76 の場合 (判断レベル)、内部に真偽判断のモダリティ要素である「でしょう(だろう)」という表現が含まれている。また、C 類のもう一つの特質である主題という観点から見ると、上記の従属節は潜在的に

⁸⁹ 益岡 (1997) pp. 122–127

は有題表現である。

長谷川 (2001)

長谷川 (2001) は上記の構文構造から見た接続表現の分類を検討したところ、この分類が不十分であるという結論に至った。一文中に接続表現が二つ以上含まれる複文には、B類及びC類の区別によって説明できないものがあるという指摘である。以下の文はその例文⁹⁰である。

(例 3.77) [しみじみとして優しい田舎のさまざまな音の囲まれているのだから (C類 (南)、判断の根拠 (C類) (田窪))、のんびりできそうなものなのに (B類)]、
かえっていらいらしてくるのだった。

(例 3.78) [また今度売りに来るにちがいないから (C類 (南)、判断の根拠 (田窪)、判断レベル (益岡))、あきらめそうなのに (B類)]、なかなかウンと合わない。

これらの例文は南 (1974) 及びその一部修正案である田窪 (1987)、益岡 (1997) のC類の従属節 (接続助詞) がA類・B類の従属節の前に現れないという原則に反するものである。そこで、長谷川は「事実的表現に接続するカラ」(例 3.77-3.78) と「非事実的表現に接続するカラ」という分類を提案した。「事実的表現」は例 3.77 及び例 3.78 のように、事実・周知の事実・常識・法則などを示す。これに対し、「非事実的表現」とは意志などを表す表現で、…ノデ節がカラ節を含むことはないと思われる⁹¹。つまり、カラ節とノデ・ノニ節が共起する時、カラ節が事実的表現の場合のみノデ・ノニ節の一部になることができる。

また、接続助詞「し」に関しては、例 3.79 のように B 類のノデ節の一部となる構造がみられることから、さらに細かい分類が必要であると指摘した。具体的には、「し」には、他の従属節の一部となる B 類 (例 3.79) と、他の従属節の一部にはならず主節にかかる C 類 (例 3.80) があると提案した。

(例 3.79) [彼は相手の言葉に好意を感じたし、自分をすどく追いつめたその思考の速度に敬意を抱きもしたので]、こんなはぐらし方をするはいかにもやま

⁹⁰ 長谷川 (2001) pp. 25-26

⁹¹ 同上、pp. 27-28

しい気がした。⁹²

(例 3.80) 乳岩には刃物が当てられないし、[創口も開いていないので、塗布剤は効果がない]。⁹³

このように、構文上の機能によって特徴付ける研究では、文の構造が階層的な性格をもつことを手がかりに、接続助詞の特徴を明らかにする試みがなされている。つまり、これらの分類は従属節の内部構造における成分、要素の現れ方に着目したものであり、複文の構造から、接続助詞の意味・用法が解釈されてきた。田窪 (1987)、岩崎 (1995)、益岡 (1997) の3人は南 (1974) が最初に行った従属節分類を修正し、「から」の用法にはC類のみならずB類があることを認めた。「から」に対し、「ので」の位置づけは丁寧形の場合を除いてB類となっている⁹⁴。しかし、長谷川は彼らの「から」の分類が不十分であると指摘し、複数の従属節のかかり受け関係の観点から、この接続助詞の前に現れる「事実的表現」及び「非事実的表現」を分類の基準として提案した。また、「～テ形」(原因・理由)、「連用形」(原因・理由)、「のに」、「ため」に関しては、南の従属節分類に基づき、B類とみなされている。「し」に関しては、長谷川 (2001) が南の分類に修正を加え、C類のものだけではなく、B類のものもあると指摘している。

ウ) 位相 (文体) によって特徴づけるもの (「から」「ので」の分類)

ここまでは、ア) 主観的か/客観的かの区別による「から」と「ので」の解説、イ) 構文の構造における「から」、「ので」、「ため」、「～テ形」、「し」の位置づけについて述べてきた。ここでは、位相 (文体) という観点から先行研究を考察する。

福間 (1993)

まず、福間 (1989) は、日常言語における日本語母語話者の「から」と「ので」を話し言葉と書き言葉という二つの側面から考察し、両方の用法の違いが話しことばと書きことばによる違いであり、さらに同じ話しことばでも、くだけた表現であるか、丁寧な表現であるかによって決定されると主張している。表 3-3 を見てみよう。

⁹² 同上、p. 29

⁹³ 同上、p. 30

⁹⁴ 丁寧形の場合を除くのは、表現・伝達レベルでの「丁寧さ」という観点からカラ節と同様の判断・発言の理由や根拠を表わすノデ節の存在を認めているからである (益岡 1997)。

表 3-3 : 「から」及び「ので」の用法上の違い (福間 1989)

	書きことば	話しことば
ので	<ul style="list-style-type: none"> ● 小説の地の文 ● 報道記事、説明文 ● 手紙文 ● 提示文、注意書き ● 脚本のト書き 	<ul style="list-style-type: none"> ● 目上の人、相手対して特に丁寧なもの言いを要求される場合 ● 公の場でのアナウンス
から	<ul style="list-style-type: none"> ● 小説の会話の部分 ● 脚本の台詞 ● 新聞、雑誌中の人の談話、発言 	<ul style="list-style-type: none"> ● くれた日常会話 ● 子供の会話

表 3-3 から分かるように、「から」は主にくれた日常の会話や子供の会話にみられる。書き言葉で「から」が用いられるのは、台詞や談話などのように、あくまでも人の言った言葉をそのまま文字で表わすような場合である。これに対して、「ので」は一般的に書き言葉に用いられ、話し言葉で用いられるのは、非常にあらたまつた丁寧な言いまわしをする場合や、自分より目上の人に向かって話す場合、若しくは一人が大勢の人に向けて話すスピーチやアナウンスなどでの場合である。

三枝 (2006)

三枝 (2006) は書き言葉および話し言葉における「～テ形」を考察し、話し言葉に特有の用法があると指摘した。これは、繰り返し、言いさし、言いよどみ、倒置として文末 (発話末) に来る「～テ形」のことである。三枝は現代日本語研究会の定義を借用し、「言いさし」と「言いよどみ」について以下⁹⁵のように述べている。まず、「言いさし」とは「相手のさえぎり、あるいは話者の自発的意思によって、発話が完結せず、言いかけて終わった」もののことである。また、「言いよどみ」に関しては、「発話途中で言葉や表現につまんで、発話が完結しなかった場合」のことであると述べている。以下の例文⁹⁶はそれぞれ「倒置」と「言いさし」の例である。

(例 3.81) ミヨちゃん、しあわせねえ。いい時代に生まれてさ。

(例 3.82) A : しげちゃん、あのルポはまだ書いてるのかい？

B : あんまり、気乗りしなくなちやって。

⁹⁵ 三枝 (2006) p. 18

⁹⁶ 同上

三枝が指摘しているように、文末（発話末）における「～テ形」には、「とか言って」、「ちゃって」などの「モーダルな要素を持つ表現が多く、ぼやかしたあいまいな言い方、あるいは、具体的な感情を起因とする結果を表現せず、聞き手に推測させることで、表現効果を高める」⁹⁷ものとして用いられている。

このように、書き言葉における「～テ形」は、文中に表れ、文末に来ることはほとんどないが、話し言葉では文中にも文末にもみられる。

エ) 認知言語学の立場に基づき考察したもの（「から」、「ので」、「ため」、「のに」、「～テ形」の分類）

ここで取り上げる研究（今尾 1991、望月 1991、国広 1992、尾方 1993、仁田 1995、張 1998、田中 2004、家田 2005）は、共通して話し手による事態の認知的な把握という観点から接続助詞「から」、「ので」、「ため」、「のに」、「～テ形」の用法を特徴付けている。

認知言語学の立場に基づいた研究では、従属節あるいは主節のみでなく、従属節と主節の事態間の関係に主眼が置かれている。それは、人間が「理由」の前提として、説明を求めるある出来事を因果関係にある二つの事態として認識しているためである。この二つの事態関係の把握のされ方によって接続助詞のいずれかが選択されることになっている。

今尾（1991）

今尾（1991）は「から」、「ので」、「ため」の選択条件について「発話態度」と「焦点の有無」という観点から論証した。具体的には、接続助詞とその前に来る節（前節関係）及び接続助詞を含む従属節と主節（後続関係）に焦点を当て、それぞれのモダリティ⁹⁸形式とムードとの共起関係を考察した。その結果、「から」及び「ので」は擬似モダリティ形式に接続するが、「ため」にはそれが不可能である。また、真性モダリティ形式は「から」のみの前句に現れる。つまり、「ので」及び「ため」は真性モダリティ形式につくことはできない。今尾は上記の「から」、「ので」、「ため」の特徴を以下の表としてまとめた。

⁹⁷ 同上、p. 25

⁹⁸ 今尾はモダリティに関しては、次のように述べる。「中右（1980：159）は、モダリティを「発話における話者の心的態度を叙述したもの」と定義し、過去、未来、否定の形式を持たないものに限定している。これに対して、仁田（1989：1-2、36）は、中右（1980）のいう狭義のモダリティ形式の他に、形式事態が過去、否定の形式を持つものや、話者以外の心的態度を表すものなどもモダリティ形式に含める。本稿では仁田を従った広義のモダリティ形式を考察の対象とする。なお、仁田（1989：34-35）のいう真性モダリティ形式は狭義のモダリティ形式に、擬似モダリティ形式はそれを除く広義のモダリティ形式に相当する。」（今尾、1991：87）

表 3-4：モダリティ形式との共起関係（今尾、1991：80）

モダリティ形式		から	ので	ため
擬似形式	タイ（要求）	○	○	×
	ソウダ、ヨウダ、ラシイ（推量）	○	○	×
	ソウダ、トイウ（伝聞）	○	○	×
真性形式	ダロウ、デショウ	○	×	×
	マイ	○	×	×

また、「から」「ので」「ため」と後件（主節）との共起関係は表 3-5 に表示できる。

表 3-5：接続助詞の後件（主節）との共起関係

後件（主節）に現れる表現	から	ので	ため
意志	○	○	×
勧誘	○	○	×
命令	○	×	×
依頼	○	○	×

上記の表から分かるように、「から」の後には主観的な意志、勧誘、命令、依頼が現れる。「ので」の場合も、意志、勧誘、依頼が後件に来るが、命令とは共起しない。これに対し、「ため」の場合、主観的な意志、勧誘、命令、依頼は後続しない。また、「から」には、主観的接続機能の他に、客観的な事実を描写する機能もある。今尾が指摘しているように、「特に、前件がデアル体名詞文の場合、「～デアルカラ」には事実の描写がよく後続する。

「から」、「ので」、「ため」と「焦点要素」との共起関係に関しては、今尾が焦点化のテストを行い、その結果を次の表にまとめた。

表 3-6：焦点化のテスト結果（今尾、1991：84）

焦点化のテストフレーム	～から	～ので	～ため
① 強意の副助詞「コソ」の付加	○	×	×
② 強意の終助詞「ヨ」の付加	○	×	○
③ 疑問の終助詞「カ」の付加	○	×	○
④ 疑問分裂文への変形	○	×	○
⑤ 「ダ」による代用省略	○	×	○
⑥ 埋め込み文における主節の省略	○	×	○

表3-6から分かるように、「から」と「ため」を含む要素は焦点になりやすいが、「ので」を含む要素は焦点になりにくい。

今尾は、以上のことから、「から」、「ので」、「ため」の基本意味的機能を以下のようにする。

「カラ」：主観性・客観性の基準から中立的で、焦点要素に後続しやすい接続形式である。

「ノデ」：擬似客観的接続機能を有し、焦点要素に後続しにくい接続形式である。

「タメ」：客観的接続機能を有し、焦点要素に後続しやすい接続形式である。ただし、「タメニ」は専ら焦点要素にのみ接続する。

(今尾、1991 : 86)

このように、今尾は永野説に現れる「主観性・客観性」を対立概念としてではなく、連続する概念とみなし、発話態度と焦点の有無という観点から「から」、「ので」、「ため」を特徴付けている。

望月 (1991)

望月 (1991) は原因・理由⁹⁹の言語標識「ので」「から」と「～テ形 (連用形)」を取り上げ、これらの交替条件について、認知的な観点から述べている。望月は、南 (1974) の「～テ形」の分類が「専ら文法的関係のみを表す」ものであり、「～テ形」の多義に富む用法がどうやって一義的に限定されるのかという観点から不十分であると指摘している。そこで、望月はR. Harnish (1976) の「事象の時間的な生起順序をできるかぎり直接的に反映する形で表示する」という「時間の下位公理 (Submaxim of Time)」を導入し、「～テ形」の因果関係としての解釈について次のように述べている。

…時間の下位公理は、…事象の生起順次が直接的に言語に反映されることを予想するものであって…事象間の因果関係については…上述の公理と先行事象が後続事象の生起の原因になるという我々の対象世界の解釈に関する一般的な傾向によって誘引される…。…つまり、原因・理由の表現においては、時間的な完了・連続が論理的な成立・連続へその様相を変貌させるのである。前件 P と後件 Q の関係についての判断は、人

⁹⁹ 望月は「動作の発生のもとを「原因」、動作を主体的に行う根拠を「理由」と呼ぶ」。(望月、1991 : 256)

間の常識や理解によるといえる。

(望月、1991 : 259)

上記のように、望月は「～テ形」の理由文としての解釈が文脈によって決定されるとしている。望月は、この解釈の手がかりとして、次の構文上の条件を挙げている。

表 3-7 : 「～テ形」に関する因果関係の成立条件

因果関係が成立する	従属節（「～テ形」の前件）の述語が静的なものである場合
因果関係が成立しない	<ul style="list-style-type: none">従属節（前件）と主節（後件）の述語が動的述語で、しかもその動作主体が同一の場合従属節（前件）の述語が完成動詞と達成動詞¹⁰⁰の場合

ここまでは、「～テ形」のいくつかの意味・用法のうち、理由文としての解釈について述べてきたが、以下は「～テ形」と同類の「から」・「ので」との対立に触れる。望月はこの問題を明示・非明示の問題とし、以下の（ア）、（イ）、（ウ）の3つを取り上げた¹⁰¹。

（ア）「から」・「ので」と連用形・「～テ形」は交替可能であるが、「から」・「ので」を明示しない（「～テ形」の使用）。

（例 3.83）クロゼットがたくさんあつて（あるから）、女性向きだ。

（イ）「から」・「ので」を明示せざるをえない（「から」及び「ので」のどちらかの使用）

（例 3.84）{ ? 走つて / 走ったから / 走ったので } 遅刻した。

（例 3.85）頭が { *痛くて / 痛いから }、学校を休もう。

（ウ）「から」・「ので」を明示できない（「～テ形」のみの使用）

（例 3.86）ご旅行中のところをお邪魔して、申し訳ありません。

（例 3.87）アシスタントの鈴木様から、そちらにいらっしゃることを伺いまして、大変に失礼かとも思いましたが、電話をさせていただきました。

例 3.83 の場合、「～テ形」、「から」いずれを用いた場合にも解釈は変わらない。しかし、

¹⁰⁰ 「動詞はアスペクトの観点から、状態動詞・継続動詞・完成動詞・達成動詞に分類できる」。(望月、1991 : 260)

¹⁰¹ 望月 (1991) pp. 261-263

例 3.84 の場合、「～テ形」を用いると「走ったけれど遅刻した」という逆接としての意味合いが強く現れる。そのため、「から」あるいは「ので」の使用によって理由としての解釈に限定される必要がある。また、望月が指摘しているように、例 3.85 の場合、「学校を休もう」という後件の表す意志のムードと「頭が痛い」という前件の無意志性が互いに排斥しあうため、このような制限がない「から」の使用が不可欠である。さらに、例 3.86 及び例 3.87 から分かるように、理由文を表す「～テ形」には、「から」・「ので」に言い換えられないものがある。例 3.86 のような文は、並列的な意味合いが強く、この場合、「から」・「ので」は明示できない。また、例 3.87 のような文にも、「から」及び「ので」を用いると「威圧的な印象を与える恐れがあるため」、「対人関係を円滑に保つ配慮から明示されない」¹⁰²。

国広 (1992)

国広 (1992) はスコープ¹⁰³の観点から分析し、理由の「ので・から」は理由・原因のみではなく、「共に前件・後件の結び付いた全体をスコープとしている」と指摘する。すなわち、「原因・理由」は必ず「結果・帰結」を伴うプロセスとして認識されているため、どちらかを切り離してそれ自体で存立しているものとしては扱いかねるという主張である。

そこで、国広は「から」及び「ので」の機能を次のように記述している¹⁰⁴。「から」は前件と後件が原因と結果あるいは理由と帰結の関係にあることが客観的に認められることを直接的に表現するものである。これに対し、「ので」は前件と後件が原因と結果あるいは理由と帰結の関係にあることが主観的に判定されることを間接的に表現するものである。国広は自分の定義をよりわかりやすくするために、以下の具体例を挙げている。

(例 3.88) 風邪を引きましたので、欠席をさせていただきます。

(例 3.89) 風邪を引きましたから欠席します。

この例は、学生が教師に電話などで欠席の通知をするという場面設定である。国広は「ので」が用いられている例文 (3.88) を「風邪を引いたことが欠席の理由になる、というこ

¹⁰² 同上、p. 263

¹⁰³ スコープ (scope) というのは、文中である語の意味の及ぶ範囲のことである。(国広 1992)

¹⁰⁴ 国広 (1992) p. 31

とを主観的に判断いたしましたので、申し訳ありませんが欠席いたします」¹⁰⁵と解釈する。これに対し、「から」が用いられている例文(3.89)では、「風邪を引けば欠席するということは客観的に当然認められるべきことであるというぶしつけな響きを感じられる」¹⁰⁶と述べている。

尾方(1993)

尾方(1993)は「から」及び「ので」を次のように定義している¹⁰⁷。「から」は前件と後件との間に論理的方向性を示し、その不可逆的、非同時性によって「因」と「果」との間に落差をつけて語るという働きを持つ。この時、「因」と「果」とのいずれか一方が情報としての主眼であり、他方は情報としては従の位置にある。一方、「ので」は、後件の成立に対して前件が依拠場所として併存することを、話し手が判断して示していることを表し、二つの事態を並列的に、ゆるやかな因果関係をもつものとして語る。尾方は「から」及び「ので」の使い分けが論理的に理由・根拠を示したいのか、話者の判断として状況的に理由・根拠を示したいのかという点によると論じている。例えば、次の例文を見てみよう。

(例 3.90) 遅くなるから、帰ります。

(例 3.91) 遅くなるので、帰ります。

これらの二つの表現では、前者(例 3.90)は論理を背後に持って当然の権利として主張しているように聞こえ、後者(例 3.91)は、私の判断では理由になるがという婉曲的な姿勢が感じられると指摘している¹⁰⁸。

仁田(1995)

仁田(1995)は「して」(「～テ形」)及び「ので」の使い分けについて考察し、両方の相違として以下の点を挙げている。

(ア)従属節(前件)、主節(後件)ともに自己制御性の高い事象の場合、「ので」は用いられるが、「して」は用いられない。

(例 3.92) 水着を買ったので、来週海に泳ぎに行く。

¹⁰⁵ 国広(1992) p. 32

¹⁰⁶ 国広(1992) p. 32

¹⁰⁷ 尾方(1993) p. 857

¹⁰⁸ 尾方(1993) p. 859

(例 3.93) *水着を買って、来週海に行く。

(イ) 従属節（前件）の事象が主節（後件）の事象より後に起こる場合、「ので」が用いられるが、「して」は用いられない。

(例 3.94) 明日友人が訪ねてくるので、部屋を掃除した。

(例 3.95) *明日友人が訪ねてきて、部屋を掃除した。

上記のように、「水着を買う」という従属節と「来週海に行く」という主節の結束として、「ので」が用いられた場合、当然、原因・理由として解釈されるが、「～テ形」の場合、このような解釈は不可能である。例 3.94 及び例 3.95 は同上の制限を受ける。また、仁田 (1995) は「～テ形」の特徴としては「判断の根拠」を表わせないことを挙げる。

張 (1998)

張 (1998) は仁田 (1995) の研究を踏まえて、従属節事象が主節事象により起こるケース（以下、従属節事態先行型）を中心に、「～テ形」と「ので」を比較した。具体的には、従属節・主節の主語を基に、I 「異主語型」と、II 「同主語型」の 2 つに分け、視点及び文相当の言語単位¹⁰⁹という概念の観点から考察した。張はその結果を以下の表にまとめた。

表 3-8：従属節事態先行型と「～テ形」・「ので」の使用（張、1998：121）

		～テ形	ので
I 「異主語型」	① 複文における視点矛盾が生じる場合	×	○
	② 複文における視点矛盾が生じない場合	○	○
II 「同主語型」	① 直接型因果関係	○	○
	② 非直接型因果関係	×	○

上記のように、従属節と主節の主語が異なっても、複文における視点矛盾が生じない場合、「～テ形」の使用が可能である。例えば、次の例文を見よう。

(例 3.96) 桃シャツが走りよってきて由梨を {抱きとめたので / *抱きとめて} 由梨は派手にころばなくて済んだ。

¹⁰⁹ これは「複文の従属節は従属節であって、文ではないが、テンスの分化がみられるもの…」である。(張、1998：126-127)

(例 3.97) 猿面の姿がふらりと仕切りの後ろから {現れたので/*現れて}、俺は慌てて電話をきった。

(例 3.98) 波が荒くて、水泳練習は中止になりました。

(例 3.99) 風が強くなって典子は小走りに地下鉄の階段を駆け下りた。いつもならそろそろラッシュアワーだが、今日は日曜日だ。

張が指摘しているように、例 3.96 及び例 3.97 の場合、「主節の主語だけでなく、従属節の主語も人間で、しかも述語動詞が意志動詞であるために、話し手の視点は両方の主語に移入し、従属節と主節とでそれぞれ自身の視点を持つことが求められることになる」。そこで、「ので」節にテンスの分化が見られ、文相当の言語単位であることから、独自の視点が持てる。しかし、テンスの分化が見られない「～テ形」の場合、それが不可能であり、複文全体としては一つの視点しか所有できない。一方、例 3.98 の場合、両節の主語が非情物であるので、そもそも視点が関与することがない。そのため、上述のような視点の問題が起こらない。また、例 3.99 の場合、主節の主語が人間であっても、従属節の主語が非情物であることから、視点が一つである。

さらに、同主語型に関しては、因果関係のタイプによって「～テ形」と「ので」の両方が許容されるか、「ので」のみが用いられるかが左右される。張は直接型因果関係に関しては、以下のように述べている¹¹⁰。

- ① 働きかけとその働きかけを受けたもの（人間の身体を含めて）の変化

(例 3.100) 万年筆が自転車に轢かれて真っ二つに折れてしまった。

- ② 言語或いは行為による刺激とそれを受けた人間のある種の心理的、生理的状態の生起

(例 3.101) 息子を園長に褒められて典子は嬉しかった。

- ③ 指令とその指令を受けた人間の行為

(例 3.102) 典子は彼氏に勧められて中国に留学に行った。

- ④ ある種の心理状態とそれによって引き起こされる行為

¹¹⁰ 張 (1998) p. 129

(例 3.103) 典子はびっくりして二三歩後ずさりした。

これに対して、非直接型因果関係の場合、二つの原因・理由があり、そのうち一つは言葉の表面に現れるが、もう一つは「人間の頭の中の一つの命題であり、結果は人間の意志的な動作行為」¹¹¹となっている。張が指摘しているようにこの二番目の理由が分からないと因果関係が捉えられない。次はその用例¹¹²である。

(例 3.104) その後、選挙がすんで間もなく、又トラックが無尽会社からの借金のため、
抵当に{とられたので/*とられて}、友田さんのところに頼みに行きました、
ところが、(省略)。

張が指摘しているように、トラックがとられたという理由の他に、友田さんに頼めばどうにかなるといふ主人公の考えを明らかにするためには、もともと原因・理由を表す言語標識の使用が不可欠である。

田中 (2004)

田中 (2004) は原因・理由を表す接続助詞のうち、「から」、「ので」、「ため」、「のに」を取り上げている。ここでは、まず、「から」と「ので」に触れる。

田中は、「から」の特徴に関しては、以下のように述べている。

まず、「カラ」…は、本質的には一対一の直接対話を意図した接続形式であり、前件と後件との関係が直列的、かつ唯一的な選択指向がある…。同時に背景としての格助詞「から」がそもそも起点を表すことから、情意の始発としての意味背景を担う…。

(田中、2004 : 284)

上記の「一対一の直接対話を意図した接続形式である」とは、「から」には「どうして」という疑問が背景にあり、それに答える意味的な構造がみられるということである。つまり、次の「から」を含む例文¹¹³を発話AとBに分け、対話構造として表現することが可能である。このことから、田中は「から」は「確認回答を踏まえての理由説明」¹¹⁴であると指摘している。

¹¹¹ 同上

¹¹² 同上

¹¹³ 田中 (2004) p. 285

¹¹⁴ 田中 (2004) p. 328

(例 3.105) 大きな物音がしたから、後ろを振り返った。

A: どうして後ろを振り返ったのか。

B: 後ろを振り返ったのは大きな物音がしたからだ。

また、上記の定義の「唯一的な選択指向」とは、「から」には多くの背景因子を一つに縮め、結果事態を必然的に導き出す性質があるということを述べている。そのため、「から」を用いる場合、従属節に表れる理由・根拠は話し手の判断による理由・根拠であるとの印象を与える。

これに対して、「ので」は次のように特徴付けられる。

…「ので」は不特定多数の聞き手、読み手を想定する意識が高く、一般に事態間の関係に重点を置いた“事由”と意義付ける。(客観的)な認識の背景として「ので」の「の」が名詞化の準体助詞と見なされ、それを承ける「で」が手段や、範囲、並列、中止の意味を表す…。

(同上)

上記の定義から分かるように、田中は「ので」の性質が「の」及び「で」両方に依存するとしている。この主張を要約したものが、以下である。

[X の]で Y¹¹⁵

名詞化の「の」と手段の「で」は前件と後件の因果関係を定め、事態「X」によって事実「Y」が成り立つという形式が「背景・引用的な機能」¹¹⁶を含んでいる。田中はその機能に基づき、「ので」の客観性（自己の判断への無関係）を説明する。

「ため」に関しては、田中がこの接続助詞を「公」と「私」の論理によって特徴付ける。

「カラ」、「ノデ」が個の事象としての原因理由を表すのに対して、「タメニ」はより大きな、また外側から全体的な現象を取り込むところに、独自の表現意図がある…

(同上、p. 395)

また、田中は、「ため」の「公」の視点について、以下のように詳しく述べる。

¹¹⁵ ここで、Xは前件（従属節）で、Yは後件（主節）となっている。

¹¹⁶ 田中（2004）p. 315

「タメニ」のあらゆる事態は確定事実として公的、一般的なものであることからも伝達的、報告的である。事態の推移、経緯を感情を注入することなく、時系列的に淡々と述べており、第三者の視点、観察から、各種アナウンス、ニュースなどの報道記事に表れやすいもの、こうした伝達性によるところが大きい。

(同上、p. 375)

このように、「ため」の大きな特徴としては、話し手が因果関係に成り立つ事態から切り離れた立場をとり、客観的な事態・事実として公共的に伝達することが挙げられる。次の文¹¹⁷はその用例である。

(例 3.106) 横綱貴乃花、靱帯損傷のため、本日より休場。

(例 3.107) 28日から11月1日にも、同区間で集中工事を計画している。渋滞が予想されるため、同公団は長距離の車に中央自動車道の利用を呼びかけている。

これらの例文は、話し手に直接に影響を与えないあるいは関わりのない事態発生の背景の説明となっている。

最後に、田中は、一般的には逆接及び目的を表す接続助詞「のに」に関して、原因・背景を表す用法もあると指摘している。以下はその用例¹¹⁸である。

(例 3.108) 兵は馬がないのに諦めて牛にしようと言った。

田中は、この「のに」の存在に触れるが、用法の詳細に関して述べてはいない。

家田 (2005)

家田は、「のに」の文における話し手の発話意図を考察し、反予想や反期待の他に、確信を持った判断を表す用法もあるとの結論に至った。例えば、家田が指摘しているように次の文¹¹⁹は逆接の関係として解釈されにくいものである。

(例 3.109) ただでさえ忙しいのに、これ以上仕事は増やせない。

(例 3.110) 現在ある売店でさえ必要とはいえないのに、大規模な立体駐車場など必要ない。

¹¹⁷ 田中 (2004) p. 375

¹¹⁸ 同上、p. 588

¹¹⁹ 家田 (2005) p. 38

これらは前節を根拠とし、そのことから後節が成り立つことが当然である。つまり、「Aである、だから B」との意味をなす。家田は、このような文の論理構造を次のように記述している。

…必然的な「ノニ」文においては、p が q の十分条件として機能しているのに加え、r の十分条件としても機能している。

(家田、2005 : 44)

ただし、家田はこの用法の制限として、「前節と後節には同じカテゴリーの要素を含み、その要素が後節よりもレベルの低いものが来なければならない」¹²⁰ことを挙げている。

以上、原因・理由を表す接続助詞の特徴をめぐる代表的な研究について、ア) 主観的か／客観的か、イ) 構文上の機能、ウ) 位相 (文体)、エ) 認知的な把握という4つの観点から述べてきた。そこで、先行研究を踏まえて、接続助詞「から」、「ので」、「ため」、「～テ形」、「し」に関しては、以下のようにまとめる。

「から」

「から」は因果関係を構築する二つの事態を主観的に表す表現であるが、客観的な事実を描写する際にも用いられる。「から」にはB類「原因・理由」とC類「判断の根拠」を表す二つのタイプがあり、B類の「から」は他のB類の従属節に含まれるが、C類ではこれが不可能である。また、モダリティ・ムードという観点から見れば、「から」は制限のもっとも少ない接続助詞であると言える。つまり、「から」は疑似モダリティ形式及び真性モダリティ形式に接続することができるし、意志、勧誘、命令、依頼の表現を主節の述語とする文に用いられる。さらに、「から」には文中だけでなく、文末に現れる用法もある。文末の形式には、「からです」と「ですから」の二つのタイプがある¹²¹。

「ので」

「ので」は客観的な表現として捉えることが多いが、特定の条件が満たされた場合、主観的とされてきた言い方にも現れる。また、疑似モダリティ形式に接続することができるが、真性モダリティ形式に付くことはできない。ムードに関しては、主節 (後件) に命令

¹²⁰ 家田 (2005) p. 44

¹²¹ 許 (2002 : 72)

が来る場合、使用不可能となるが、意志・勧誘・依頼の表現と共起できる。さらに、「ので」は、書き言葉においてよく用いられる表現ではあるが、丁寧な表現が必要とされる場面においては話し言葉にも現れる。

「ため」

「ため」は「から」のように文中形式「ため」と文末形式「ためです」を有する。しかし、「ため」は、「から」及び「ので」と違って、モダリティ及びムードとの共起が不可能であり、「判断の根拠」を表せない。この制限のため、客観的なことを表すことが多く、書き言葉によく使用されている。話し言葉においては、客観的な事態・事実として公共的な伝達を必要とする場合に用いられる。これは、「ため」が「ので」と異なって焦点要素に後続しやすいからである。

「～テ形」

「～テ形」は、多義的な用法を持つ接続助詞であるため、複文に現れる2つの事態が確実に因果関係を持つと判断できる場合に用いられる。つまり、因果関係以外の解釈がされやすい場合、「～テ形」ではなく「から」及び「ので」の使用が適切とされている。「～テ形」の文法的な制約としては、従属節の述語が静的なものであること、従属節と主節の述語が同一の動作主体とする動的述語になりえないこと、完成動詞及び達成動詞¹²²に後続できないことが取り上げられる。つまり、従属節と主節の事象が自己制御性の高いものである場合、「～テ形」が使えないと言える。また、従属節及び主節の主語が異なり、そのうち一つ以上が非情物である場合は、「～テ形」が用いられるが、両方の主語がともに人物であることによって視点に矛盾が起こりやすい場合は、使用できない¹²³。さらに、「～テ形」がかかると範囲が狭く、「判断の根拠」を表わすことが不可能である。位相の観点から見れば、この接続助詞は書き言葉にも話し言葉にも表れる。ただし、話し言葉においては文中にも文末にも現れるのに対し、書き言葉の場合は、台詞・談話を除き、文末に現れる用法はない。

「し」

原因・理由を表す接続助詞「し」は「ので」や「から」よりもゆるやかな因果関係を表

¹²² 「動詞はアスペクトの観点から、状態動詞・継続動詞・完成動詞・達成動詞に分類できる」。(望月、1991: 260)

¹²³ 張 (1998: 127)

し、他にも理由があるという暗示を与える。また、モダリティ及びムードとの共起が可能である。

「のに」

「のに」は多くの場合、逆接を表す接続助詞として用いられているが、原因・背景を表す用法もある。ただし、「のに」が原因・理由を表すものとして解釈されるためには、前節と後節が同じカテゴリーの要素を含み、その要素が後節よりもレベルの低いものである条件が必須とされている。

「おかげで・せいで」

上述のように、「おかげで」は好ましい結果がもたされた原因となる事柄あるいは人物に対する感謝の気持ちを表す表現である。そのため、授受表現「くれる／くださる」を含んだ複合述語に後続することが多い。また、すでに述べたように、皮肉として「せいで」の意味合いで用いることが可能である。文中にも文末にも現れる。

一方、「せいで」は好ましくない結果をもたらす場合の理由を示す。「～のは、～せいだ」という従属節と主節が倒置した形で原因を追求することが多い¹²⁴。

「ゆえに」

既述のように、「ゆえに」は書き言葉に現れる表現であり、話し言葉に用いると古い言い方の感じを与える。接続助詞として用いる場合、普通体の節を受けて、「それが原因・理由となった」という意味を表す¹²⁵。また、「ため」に置き換えても違和感を覚えない。

3.2.5. 「から」を含む原因・理由の表現

ここまでは、原因・理由を表す格助詞、複合格助詞、接続助詞について述べてきたが、本節では、「から」を含む原因・理由の表現について考察する。「から」を含む原因・理由の表現としては「からこそ」、「からといって」、「からには」、「のだから」、「ものだから」が挙げられる。以下に、それぞれの特徴について述べる。

「からこそ」

「からこそ」は理由を表す「から」に強調を表すとりたて助詞「こそ」が付いた表現で

¹²⁴ 庭三郎（未公刊）『現代日本語文法概説』（第1部 単文（1）基本述語型 14. 形式名詞）<http://www.geocities.jp/niwasaburoo/index.html> 2007年5月30日現在

¹²⁵ グループ・ジャマシイ編（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』

ある。「PからこそQ」という構文は、「ほかのものでなく、これが」という特に強い気持ちのある「こそ」を用いて、Qの理由としてPを唯一のものとして取り上げ強調しているものである。グループ・ジャマシイ（1998）が指摘しているように、この表現は「のだ」との共起が多い。次の例 3. 111¹²⁶をみてみよう。

（例 3. 111）責任者が謝罪したからこそ事態は丸く収まったのだ。

聞き手は、事態が解決した理由は「責任者が謝罪した」ことにほかならないという話し手が主張している印象を受ける。このように、「からこそ」には話し手の主張というニュアンスが含まれているため、因果関係を客観的に示す場合などには用いられない（グループ・ジャマシイ 1998）。

「からといって」

「PからといってQ」は「Pが正しいということから直ちにQが正しいという結論を出すことはできない」¹²⁷というニュアンスを持つ構文である。そのため、Qの述語部分には否定的表現が来るのが普通である。話し言葉においては「からって」の形を取る。以下の文はその用例である。

（例 3. 112）おいしいからといって、冷たいものを食べ過ぎてはいけません¹²⁸。

（例 3. 113）金持ちだからって何でも自由にできるというわけではない¹²⁹。

例 3. 112－3. 113 から分かるように、話し手が「PからといってQ」を用いることによって「P→Q」という考え方を批判している。

「からには」

「PからにはQ」は「Pが事実であることを認め、その場合に必要なこととしてQを提示するという意味」¹³⁰である。そのため、主文（Qの述語部分）には義務、意志、推量、確信などの主観性の強い断定表現が現れる（田中、2003：219）。また、「PからにはQ」構文のP

¹²⁶ 白川監修『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』p. 416

¹²⁷ 同上、p. 416

¹²⁸ 庭三郎（未公刊）『現代日本語文法概説』（第3部 複文 50. 理由）

<http://www.geocities.jp/niwasaburoo/index.html> 2007年5月30日現在

¹²⁹ グループ・ジャマシイ編著者（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版

¹³⁰ 白川監修『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』p. 416

は意思的な動作¹³¹で、疑問詞が含まれない¹³²という特質を持つ。以下にその例¹³³を挙げる。

(例 3. 114) 教師であるからには黙って見ているわけにはいかない。

(例 3. 115) 約束したからには、最後まで責任をもってやってほしい。

(例 3. 116) 引き受けたからには、責任をもつべきです。

(例 3. 117) 日本に来たからには、日本の法律に従わざるを得ない。

(例 3. 118) 日本へ行くからには、是非とも学位をとって帰りたい。

さらに、田中（2003：219）が指摘しているように、「からには」には「仮にも」という副詞との共起がしばしばみられる。次の文はその用例である。

(例 3. 119) かりにも一国を代表する首相であるからには、下手な外交は許されないはずだ。

「のだから」

「のだから」は助動詞「のだ」（3. 2. 7 節に詳述）に接続助詞「から」を付加したものであるため、接続の仕方は「のだ」と変わらない¹³⁴。しかし、意味・用法の観点から見ると、「のだから」は「のだ」とも「から」とも異なり、独自の性質を持っている表現であると言える。「PのだからQ」はPを事実として認め、その当然の結果としてQを提示されるということを述べる構文である。野田（1995：224）が指摘しているように、「のだから」の前件の事態Pは聞き手が知っていることに限られており、後件Qの文末は単なる事実の述べたてでは不自然であり、意志、命令、推量、依頼など話し手の判断を含む表現に限られるという制限がある（例 3. 120）。尚、仁田（2003：205）では、「断定形で終わる文でも、話し手の判断を表す文であれば」、「のだから」の使用が自然であるとされている（例 3. 121）。

(例 3. 120) あんなに雨が降ったんだから、{テニスコートは使えないだろう/*休みました}。

(例 3. 121) あそこまでがんばったんだから、あいつも立派だ。

¹³¹ 庭三郎（未公刊）『現代日本語文法概説』（第3部 複文 50. 理由）

<http://www.geocities.jp/niwasaburoo/index.html> 2007年5月30日現在

¹³² 白川監修『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』p. 417

¹³³ 田中（2003）p. 219

¹³⁴ 野田（1995）pp. 221-223

また、野田（1995：224）及び仁田（2003：206）は「のだから」は上述のように、聞き手が前件の事態を知っている場合にのみ用いられ、後件に話し手の一定の評価判断を表す表現が含まれることから、聞き手を非難するニュアンスを帯びることも多いと指摘している。これは聞き手が前件の事態を既に知っているはずであるにもかかわらず後件の判断に至るほど十分には認識していないという印象が強く、話し手が聞き手の認識不足を非難していると解釈されやすいためである。

さらに、副詞成分との共起に焦点を当てると、「よほど」、「ここまで」、「なまじ」、「せっかく」、「なにぶん」、「どうせ」、「やっぱり」、「むろん」、「なんととっても」は「のだから」構文に現れやすいとみなされている¹³⁵。

「ものだから」

「PものだからQ」構文は話し手にとって意外なものであったり、驚きの対象であったりしたPがきっかけでQが起こったことを表すものである。接続の点では「もの」と、副詞成分との共起の点では「のだから」と共通している¹³⁶。尚、「ものだから」の後件には「～のだらう」、「～のかもしれない」、「～のに違いない」が用いにくく¹³⁷、意志表現及び命令表現がつけられない¹³⁸。以下にその例を挙げる。

（例 3.122）責任者が謝罪しなかったものだから住民側は激怒した。

（例 3.123）冷たいものを飲みすぎた {？ものだから／から} お腹が痛くなった {のだらう／のかもしれない／のにちがいない}

「ものだから」は話し言葉においてよく用いられており、くだけた言い方では「もんだから」という形をとる。

このように、「からこそ」「からといって」「からには」「のだから」「ものだから」という表現はそれぞれ独自の意味・用法を持っているが、話し手の主体的な態度を表出する「から」を含むという点で共通していると言える。

¹³⁵ 田中（2004）pp. 311－312

¹³⁶ 同上、pp. 311－312

¹³⁷ 白川監修『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』p. 418

¹³⁸ グループ・ジャマシイ編著者（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版

3.2.6. 原因・理由を表す接続詞「だから・それで・そのために・そこで・ゆえに・それゆえに・なぜなら・なぜかというのと・というのは・だって」

ここまでは、原因・理由を表す表現のうち、格助詞「で・から・に」(3.2.2 節)、複合格助詞「につき・とあって・のせいで・のおかげで・のために・ゆえに・によって」(3.2.3 節) 接続助詞「から・ので・ため・～テ形・し・のに・のおかげで・せいで・ゆえに・からこそ・からといって・からには・のだから」(3.2.4 節及び3.2.5 節) について述べてきた。本節では、原因・理由・帰結を表す接続詞「だから・それで・そのために・そこで・ゆえに・それゆえに」及び理由述べの機能を果たす「なぜなら・なぜかというのと・というのは・だって」について考察していく。

「だから」

原因・理由を表す接続詞のうち、「だから」(丁寧形「ですから」)はもっとも頻繁に考察されてきた。谷崎(1994)及び塩澤(1997)が指摘しているように、従来、統語論や意味論の観点から書き言葉(文章語¹³⁹)における意味・機能を記述する傾向が見られたが、近年、対話場面に着目し、「発話行為、会話の含意、相互作用的功能といったものも考慮に入れて文脈の中で」¹⁴⁰「だから」を取り扱う向きがある。

まず、書き言葉における「だから」に関しては、南(1974)、市川(1978)、田窪(1987)、森田(1987)、ひげ(1987)、塩澤(1997)、岡部(1998)などにおいて言及されている。南(1974)は3.2.4 節で紹介した「従属節の階層構造」において「だから」をC類と位置づけた。田窪(1987)は、既述のように、南(1974)の文の階層構造上の分類に修正を加え、C類の「だから」が「判断の根拠」という意味機能を果たすと指摘した。

¹³⁹ 塩澤(1997:24)

¹⁴⁰ 谷崎(1994:80)は発話行為に関しては、「Austinのいうところの発話内行為(illocutionary act)のことで、何かを発話しながら、同時に何かを遂行する行為を指すが、必ずしも明示的遂行動詞が用いられる場合だけではない」と述べている。また、会話の含意に関しては、次の指摘をしている。「Griceの協調の原則(co-operative principle)に一見違反しているような場合でも、深いレベルで守られていると解釈できるとき、会話の含意(conversational implicature)が伝えられている。例えば、「今晚パーティーに行ける？」という問いに対して「明日試験があるの」という答えは一見無関係のことを言っているようであり、協調の原則の一つである関連性の原則に違反しているように見える。しかし、文字どおりの意味のほかに言外の意味、すなわち今晚勉強しなければならないからパーティーに行けないという意味が引き出される」。さらに、相互作用的功能に関しては、「Sacks, Schegloff & Jefferson(1974)が提唱する話者交替システム(turn-taking system)においてturnを保持したり譲渡したりする機能」という意味でこの用語を用いている。

一方、市川（1978）は連続する二文の接続関係に焦点を当て、接続詞を中心とした先行文と後続文の意味の違いを基に接続語句を類別した。具体的には、以下の8類を立て、これらを「論理的結合関係」、「多角的連続関係」、「拡充的合成関係」の三つのグループとして分類整理した¹⁴¹。

- 論理的結合関係：①順接型（順当・結果・きっかけ）、②逆接型
- 多角的連続関係：③添加型、④対比型、⑤転換型
- 拡充的合成関係：⑥同列型、⑦補足型、⑧連鎖型

上記の8種のうち、「だから」は「前文の内容を条件とするその帰結を後文に述べる」①順接型（順当）に属している。

また、森田（1987）は「だから」を『Aです。だからBです』において、Bという事実の生ずる理由や原因をAで示すという発想で用いられる接続詞としている。さらに、ひげ（1987）は「だから」には『私の理論』という意味合いが強いという特徴を取り上げる。つまり、「Aです。だからBです」という「だから」による事柄Aと事柄Bの結び付きには話し手の主観がうかがわれるのである。

塩澤（1997）では「だから」を「前の事柄の当然の結果として後の事柄が起こるとい話し手の判断を示す」接続詞としている。この表現の特徴としては使用範囲が広く、「従って」、「そこで」、「それで」の代わりに用いられることが取り上げられている。

岡部（1998）は田窪（1987）の「判断の根拠」を表す接続詞としての「だから」の解釈を認めた上で、「だから」に後続する文（後件）には事実的命題も非事実的命題も現れると指摘した。上記の事実的命題とは「文脈から、その命題が事実であることがすでに話者に確認されているということがわかるような命題」¹⁴²のことである。岡部は事実的命題及び非事実的命題の例として以下の文を挙げる¹⁴³。

（例 3. 124）（なぜ、チャガタイ家はオルガナ追放を歓迎したのだろうか？）チャガタイ家はモンケに深い恨みをもっている。だから、アルグのオルガナ追放を歓迎したのだ。

（例 3. 125）（チャガタイ家はオルガナ追放を歓迎したのだろうか？）チャガタイ家はモ

¹⁴¹ 市川（1978）

¹⁴² 岡部（1998）p. 62

¹⁴³ 同上

ンケに深い恨みをもっている。だから、アルグのオルガナ追放を歓迎したのだ。

岡部が指摘しているように、例 3.124 の場合、話し手が「オルガナ追放を歓迎した」ことを事実として捉えていることから、「だから」に後続する文の命題は事実的命題となっている。これに対し、例 3.125 は、「オルガナ追放を歓迎した」ということ自体が「考慮の対象となっているような場合であり、後件に導かれる命題はその事実性についての判断が保留されている非事実的命題である」¹⁴⁴。

一方、話し言葉における「だから」の用法は「前の事柄の当然の結果として後の事柄が起こるといふ話し手の判断を示す」という順当な因果関係の記述に限らないという指摘もなされている。Maynard (1989) は、「談話において関連性のある説明が始まることを合図する」¹⁴⁵という「だから」の用法を区別し、従来の「だから」の捉え方に新しい観点をもたらした。

また、蓮沼 (1991) は、談話における「だから」を考察し、「だから」を中心とした先行文と後続文の発言者を基準に、「独話型」及び「対話型」という二つのタイプがあると指摘した。「独話型」の「だから」とは、一人の話し手によって展開される独話におけるものである。蓮沼 (1991) は「独話型」の「だから」の用法としては、「原因と結果」(例 3.126)、「根拠と判断」(例 3.127)、「発話の理由と発話行為」(例 3.128) の 3 つを挙げ、これらを接続助詞「から」に置き換えることが可能であると述べている¹⁴⁶。

(例 3.126) 彼はまだ寝ている。だから部屋のカーテンはしまったままである。

(例 3.127) 部屋のカーテンがしまったままである。だから、彼はまだ寝ているのだろう。

(例 3.128) 遅刻しますよ。だから早く起きなさい。

これに対し、「対話型」の「だから」とは話し手の交代を伴う対話において相手の発言を受けて用いられるものである (例 3.129¹⁴⁷)。

(例 3.129) A: 陽子さんは 3 歳からヴァイオリンを習っているそうですよ。

¹⁴⁴ 同上

¹⁴⁵ Maynard (1989)

¹⁴⁶ 蓮沼 (1991) pp. 137-138

¹⁴⁷ 白川監修『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』p. 464

B: なるほど。だから音感がいいのか。

つまり、「だから」の直前に話し手が交替し、この接続詞を中心とした先行文と後続文が異なる話者によって発言される。ここで、重要なのは、上述の先行文が必ずしも書き言葉のように一つの文として表現されず、話者Aと話者Bの複数のやり取り全体を含む場合もあるということである。

蓮沼は、「対話型」には、I「独話型に還元可能な用法」とII「独話型に還元不可能な用法」があると指摘し、それぞれをさらに細かく分類した。まず、I「独話型に還元可能な用法」は、<結論導出型>(例3.130)と<結論正当化型>(例3.131)の2種に分けられる¹⁴⁸。

(例3.130) 霞(喪服を着ると)「どんな女でもよく見えるって、よく男のいいいますね」
伊織「だから、いい女はもっとよく見える」

(例3.131) 一郎「私には勿体ないような人だけど」
昌平「当たり前だよ。だから、兄ちゃんが、こちら誘ったって聞いたとき、
とうとう結婚したくなかったかって、応援する気になったんだ」

例3.130から分かるように、<結論導出型>は「だから」を用いる話者(話し手¹⁴⁹)が相手(聞き手)の発言から結論を引き出すものである。具体的には、上記の霞の発話「喪服を着るとどんな女でもきれいに見える」が「だから、いい女はもっとよく見える」という伊織の結論の根拠となっている。また、例3.131の場合、昌平にとって既知の事実(この場合、自分の行動の意図)が一郎の「私には勿体ないような人だけど」という発言からもたらされた情報の裏打ちによって正当化されている。

一方、II「独話型に還元不可能な用法」は談話のみにみられる用法であり、a)<聞き手の発話意図の明確化を求めるタイプ>と、b)<聞き手に正しい理解を求めるタイプ>という2種に類別されている。次の文はそれぞれの用例である¹⁵⁰。

(例3.132) 由子「私には、よく分かったのよ、桐子が秋山さんを好きだって気持ち
……」

¹⁴⁸ 蓮沼(1991) p. 140

¹⁴⁹ 蓮沼(1991: 139)は「「だから」の部分の話者を話し手、その相手となる話者を「聞き手」と呼ぶ」ことにした。

¹⁵⁰ 蓮沼(1991) pp. 143, 148

桐子「だから、どうだって言うの？」

(例 3. 133) 桃子「一緒に行ってほしいところがあるの」

良介「一緒に」

桃子「うん」

良介「どこや？」

桃子「行ってくれる？」

良介「だから、どこやって言うてるやないか？」

例 3. 132 から分かるように、a) の用法は、相手の発話の真意が不明瞭である場合、「だから」を用いることによって理解に問題が生じたという状況を相手に知らせた上でその発話についてさらに説明を求めるものである。また、b) の用法 (例 3. 133) は、相手が発話意図や発言内容を全く理解できなかつたり誤って解釈したり、あるいは話者の意見が対立した状況において、「だから」の使用によって自分の発話意図や発言内容について相手に正確な理解・認識を迫るものである。蓮沼が指摘しているように、II の b) の場合、「だから」の後続文には、相手に対する反論や弁解・言い訳、あるいは事情の説明や補足が現れる。

岡本・多門 (1998) は従来の研究で談話における「だから」の用法がカバーしきれていないことから、新しい分類を提案し、「だから」を以下の 10 タイプに類別した。

(例 3. 134) 太郎は風邪をひいた。だから学校を休んだんだ {よ/ね} (「結論の正当化」)

(例 3. 135) L: 山田さんは気が利くね。

S: だから会社でも人気があるよ。(「結果の記述」)

(例 3. 136) 部屋の明かりが消えている。だから花子はいないと思うよ。(「結論の推測」)

(例 3. 137) L: この辞書おかしいよ。

S: だから出版社に言ってやれば。(「行動指示/宣言」)

(例 3. 138) L: どうして遅刻したんだ。

S: だから電車が遅れたんです。(「理由の説明」)

(例 3. 139) (S がサークルの説明をするのに対して) L: どんなやつ集まりなんや、それは。

S: だから一、あんたとあんたとことよう似たもんやて、よう似たもん。レジャー系。(「説明の補足」)

(例 3. 140) L: 今日どうする？

S: だから 買い物に行くんじゃないの? (「知識共有の説明」)

(例 3.141) L: (晩御飯のおかず) 今夜何?

S: 今夜、だからね。(ヒラメのパッケージを示す) (「現場知識の確認」)

(例 3.142) L: 疲れました。

S: だから 休んでくださいって言ってるんです。(「発話行為の明示」)

(例 3.143) 例: S: それに、わたし、ちょっと 12 月ーがいろいろね、あるんですよ。

L: あ、そうですか。

S: だから、あの、ほら、子供の方のまあ、ね、事も、ちょっと、こ、ちょっとしなくちゃいけない事があって。(「説明継続の合図 (フィラー)」)

岡本・多門 (1998) は上記のタイプが因果関係を表しているかどうかによって大きく 2 つに統合し、Schiffrin (1987) の因果関係の 3 つのレベルを基に、以下のように再分類した。

表 3-9: 「だから」の談話での用法 (岡本・多門 1998 を基に)

因果関係を表す「だから」			因果関係を表さない「だから」
事実レベル <ul style="list-style-type: none"> 結論の正当化 結果の記述 	知識レベル <ul style="list-style-type: none"> 結論の推測 	発話行為レベル <ul style="list-style-type: none"> 行動指示/宣言 理由の説明 説明の補足 知識共有の説明 現場知識の確認 発話行為の明示 	<ul style="list-style-type: none"> 説明継続の合図 (フィラー)

「それで」

接続詞「それで」(省略した形「で」)の用法をめぐる研究は「だから」ほど多く見られないが、同じ傾向を示すと言える。まず、書き言葉における「それで」の規定に関しては、南 (1974)、市川 (1978)、田窪 (1987)、森田 (1987)、ひけ (1987)、塩澤 (1997)、岡部 (1998) などが述べている。南 (1974) は既述の「従属節の階層構造」において「それで」を B 類とし、田窪 (1987) は「それで」に関して、従属節 (前件) と主節 (後件) を「原因 (行動の理由) と結果」の関係で結びつけていると指摘した。そのことから市川 (1978)

の分類において「それで」は「だから」と同じく「前文の内容を条件とするその帰結を後文に述べる」①順接型（順当）に属している。また、森田（1987）は「前の文の内容を認めて、その内容をあとに述べるべき事柄の原因であると認めるとき用いる接続詞」としている。ひげ（1987）は「それで」を「『対象の論理』（話し手を離れて存在する理論）に従って客観的に関係づけるはたらき」をもつ接続詞として解説している。さらに、塩澤（1997）では「それで」が「前の事柄が理由で、こうなってしまった」という事態を客観的に述べる」ともとされている。「それで」の定義を振り返って見ると、これらは「客観的な記述」という点で共通している。そこで、岡部（1998）は「それで」の本質を別の観点から記述した。上述のように、岡部（1998）は田窪（1987）の研究を踏まえて、「だから」に後続する文（後件）には事実的命題も非事実的命題も現れるのに対し、「それで」の場合、非事実的命題が現れないと指摘している。以下は「それで」の用例である。

（例 3.144）昨日は体調が悪かった。それでアルバイトにいけなかった。

（例 3.145）体調が悪いんです。{だから/*それで} 早退させてください。

一方、談話における「それで」は、「結論の正当化」及び「結果の記述」として「だから」を代行することができる（岡本・多門、1998：52）。また、「結論の推測」、「行動指示／宣言」、「説明継続の合図」の場合にも、一部適切であるとされている。岡本・多門は、「それで」の具体的な例及び制約を挙げてはいないが、「それで」に後続する文には非事実的命題及び命令・依頼・意志が現れない¹⁵¹ということがその制約に相当すると思われる。さらに、「それで」には、「理由の説明」、「説明の補足」、「知識共の確認」、「現場知識の確認」という用法はない。

「そのために」

「そのために」は「ために」に起因していることから、「ため」と同じような性質を持つと言える。まず、ムードとの共起が不可能であることから、「そのために」に後続する文には事実を表す表現のみが現れる。つまり、「そのために」を用いることによって先行文と後続文が客観的な因果関係を示すことができる。また、この接続詞は多くの場合、書き言葉で用いられている。話し言葉における使用は、客観的な事態・事実として公共的な伝達を

¹⁵¹ 岡部（1998：53）、白川監修『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』p. 463

必要とする状況のみに限ると言える。

(例 3. 146) 記者：どんな 2 年間で歩んできましたか。

松田：1 年目はチームがバラバラでした。私も選手の個性をつかむことが
できず、彼らに見合った采配（さいはい）ができませんでした。昨
年の都市対抗県大会で水沢駒形野球俱に敗れた後、選手たちから「野
球環境が悪い」などという声が聞こえ、チームの雰囲気も悪化しま
した。そのため 1 カ月間、全体練習をやめて仕事に専念させました
¹⁵²。

尚、「そのために」には「そのため」という省略した形がある。

「そこで」

「そこで」は、「前の事柄を受けて場面を設定し、それに対する意思的行動（例 3. 147¹⁵³）
か自然ななりゆき（3. 148¹⁵⁴）を述べる」接続詞である（塩澤、1997：29－30）。

(例 3. 147) 電話ではゆっくり話せなかった。そこで、電子メールを書いた。

(例 3. 148) 電話のベルが鳴った。そこで、受話器を取った。

『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』に掲載されているように、「それで」
及び「そのために」と同じく、「そこで」に後続する文には、判断や命令・依頼・意志など
の表現は現れない。

「ゆえに・それゆえに」

「ゆえに」は論理的な説明に用いられる接続詞である。「ゆえに」を先行する文は理由を
表し、後続する文は帰結として話し手の判断を述べる働きを持つ。

(例 3. 149) 角Aは直角、角Bは 30 度である。ゆえに、角Cは 60 度である。

¹⁵² 「インタビュー：第 78 回都市対抗野球 フェズント 岩手監督・松田修一さん／岩手」
<http://headlines.yahoo.co.jp/h1?a=20070617-00000120-mailo-103> 2007 年 6 月 17 日
現在

¹⁵³ 白川監修『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』p. 464

¹⁵⁴ 塩澤（1997）p. 30

例 3.149¹⁵⁵から分かるように、「ゆえに」は硬い表現であり、「数学の証明問題などの限られた場合」¹⁵⁶に用いられる。

一方、「それゆえに」は「ゆえに」と異なって、先行文の理由と後続文の帰結という 2 つの事態の因果関係を事実として述べる場合に使われる。

(例 3.150) 正夫は孤児だった。それゆえに、彼は子供のときから数々の苦労を味わわねばならなかった¹⁵⁷。

「なぜなら・なぜかという」と

「なぜなら」及び「なぜかという」とは理由述べの接続詞であり、これらの主な特徴としては、後続文に理由を述べることが挙げられる。そのことから、「なぜなら」と「なぜかという」が用いられる文の文末に「からだ」及び「のだ」の使用が必須とされている。

これらの接続助詞を用いた理由述べには、先行文と後続文が話し手自身によって述べられているタイプ (例 3.151) と、先行文が相手による原因・理由に関する問い、後続文にその答えというタイプ (例 3.152) がある。

(例 3.151) 私は車を持っているが通勤には使わない。なぜなら／なぜかというと、会社の近くに適当な駐車場がないからだ¹⁵⁸。

(例 3.152) A: 車を持っているのに、どうして通勤に使わないんですか。

B: なぜなら／なぜかというと、会社の近くに適当な駐車場がないんです。

また、両方とも、書き言葉にも話し言葉意にも用いられるが、「なぜなら」の方が多少硬い表現である。

「というのは」

「というのは」は上述の「なぜなら」及び「なぜかという」と同様に理由述べを表す接続詞である。ただし、使用範囲がより広く、厳密な理由のみではなく、もう少し緩やかに先行文の背景になる状況を述べる場合 (例 3.153) にも用いられる。

¹⁵⁵ 白川監修『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』p. 465

¹⁵⁶ 同上

¹⁵⁷ 同上

¹⁵⁸ 白川監修『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』p. 467

(例 3.153) 今夜うちに夕食を食べに来ませんか。というのは、親戚からカニをたくさん送ってきたんです¹⁵⁹。

「というのは」の場合も、後続文の文末に「から」及び「のだ」の使用が適切とされている。

「だって」

接続詞「だって」も理由述べの一つであり、先行文の結論に対して後続文において理由を提示するために用いられる。『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』に掲載されているように、会話のみにみられるくだけた表現である。

(例 3.154) A: あれ、珍しくネクタイしてる。どうして?

B: だって、今日は大事な会議があるからね。

しかし、山本 (2003 : 187) が指摘しているように、「だって」には「相手の発言に対して「反対」の気持ちを表す」という用法もある。例えば、次の文は、その用例である。

(例 3.155) 母: お魚も食べなさい。

子: だって、骨があるんだもん。

(例 3.156) マリ: 山田さんは病気だそうだよ。(I heard that Mr. Yamada is sick.)

子: だって、今朝ジョギングしているところを見かけたよ。(DATTE [*But*] I saw him jogging this morning)¹⁶⁰

以上、原因・理由を表す接続詞について述べてきた。「だから」、「それで」、「そのために」のように、因果関係を順当に表すものもあるし、「なぜなら」、「というのは」「だって」のように、後続する文において理由を述べるものもある。それぞれに、独自の使用範囲があるが、相互の関係においては「重複したり、ある部分では包摂関係を保ちながら、あるいはある特定の接続詞と対立関係を取りながら文脈中に機能している」¹⁶¹。

3.2.7. 原因・理由を表す名詞「原因」、「理由」、形式名詞「わけ」、終助詞「もの」

¹⁵⁹ 白川監修『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』p. 468

¹⁶⁰ 原本 (山本、2003 : 194) においては英語文になっているが、本稿では日本語に訳して両方を挙げる。

¹⁶¹ 塩澤 (1997) p. 46

ここまでは、原因・理由を表す格助詞、複合格助詞、接続助詞及び接続詞について述べてきたが、本節では、名詞の「原因」、「理由」、そして形式名詞の「わけ」、終助詞の「もの」という表現に触れる。ここで言う「原因」・「理由」は3.1節「因果関係の構成と原因・理由の説明」に取り上げられた原因・理由とは一致していないとっておく。

「原因」・「理由」

下記の例文¹⁶²からわかるように、「原因」及び「理由」は自立語として主語・目的語などに用いられる。

(例 3. 157) すべての出来事には原因がある。

(例 3. 158) 原因をよく調べて報告せよ。

(例 3. 159) 理由があれば欠席してもよい。

(例 3. 160) 欠席の理由を説明せよ。

また、「で」を加えることによって「原因で」、「理由で」という理由を表す副詞句として使用することもある。

(例 3. 161) 大臣は、風邪をひいたという理由で欠席した。

(例 3. 162) 数学が悪かったという原因で落第してしまった。

奥津 (1986 : 103) が指摘しているように、上記の用法は「理由の内容を表す文は、それだけでは格助詞をとることはできない」ことから派生している。

「わけ」

「わけ」には「理由」という意味の名詞「わけ」、副詞句「わけで」及び形式名詞¹⁶³の「わけだ」がある。以下の文は、それぞれの用例である。

(例 3. 163) ぼくにはさっぱりわけがわからない。

(例 3. 164) 家が破産したというわけで破談になった。

(例 3. 165) きのう朝 8 時に起きてから全然寝ていない。40 時間近く起きているわけだ。

¹⁶² 奥津 (1986) p. 103

¹⁶³ 仁田 (2003 : 208) では「わけだ」は名詞の「わけ」に「だ」が接続して助動詞化したものとしてされているが、本稿では『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(p. 413) を参照にし、「わけだ」を形式名詞と呼ぶ。

例 3. 163 の「わけ」は「理由」という意味で用いられており、名詞の「理由」と置き換えてもおかしくはない。例 3. 164 の場合、「家が破産した」ことが「破談」の原因となり、そのニュアンスは副詞句「わけで」の「Yというわけで、X」構文によって提示されている。上記の構文は「Xの事態が生じることの原因・事情を説明する」¹⁶⁴ものとしてよく用いられている。例 3. 163-3. 164 の「わけ」は原因・理由の意味合いで用いられているのに対し、例 3. 165 の「わけだ」は先行文脈からの論理的必然性のある結果・帰結を示している。そのため、仁田（2003：208）が指摘しているように、名詞の「わけ」は「理由」に置き換えられるが、「わけだ」はそれは不可能である。

「もの」

理由を表す終助詞「もの」（「もん」）は形式名詞「もの」に由来し、その「動かしがたいもの¹⁶⁵」というニュアンスが残っているが、接続及び用法という点では全く異なる。まず、接続に関しては、終助詞であるため、述語の普通体及び丁寧体の両方に後続することが可能である（例 3. 166-3. 167¹⁶⁶）。普通体の名詞述語の場合、「だ」を介して付加される（例 3. 168¹⁶⁷）。仁田（2003：270）が指摘しているように、「認識のモダリティの形式にも接続することはあるが、「だろう」には付加できない」（例 3. 169¹⁶⁸）。また、意思文「しよう」や命令文「しろ」のような表現類型の後には現れないが、意志のニュアンスを持つ動詞の非過去形「する」には後続することがある（例 3. 170-3. 172¹⁶⁹）。

（例 3. 166）絶対いや。早起きしたくないもの。

（例 3. 167）朝食はご飯がいいです。日本人ですもん。

（例 3. 168）これは誰にもあげないよ。僕の宝物だもん。

（例 3. 169）だって、もう会えない {かもしれない/*だろう} もん。

（例 3. 170）*そろそろ帰ろうもん。

（例 3. 171）*ちよっここっちへ来いもん。

（例 3. 172）ぼく、もう、帰るもん。

¹⁶⁴ 小池清治・小林賢次・細川英雄・山口佳也（2002）『日本語表現・文型事典』p. 214

¹⁶⁵ 仁田（2003）p. 271

¹⁶⁶ 例 3. 155 は仁田（2003：225）、例 3. 156 は仁田（2003：270）による。

¹⁶⁷ 白川監修『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』p. 419

¹⁶⁸ 仁田（2003）p. 270

¹⁶⁹ 同上、p. 271

次に、用法に着目すると、終助詞「もの」は「聞き手が事情が分からないと考えている内容について、話し手が個人的に理由だと考えていることを示す」¹⁷⁰表現であると言える（例 3.173）。また、仁田（2003：271）が指摘しているように、現在の状況の背景説明として用いられることが多いので、助動詞「のだ」及び理由を導く接続詞「だって」との併用も多い。

（例 3.173） A 「どうしてそのおもちゃがほしいの？」

B 「だって、みんな持ってるんだもん」。

既述のように、終助詞「もの」には、「動かしがたいもの」という意味合いが含まれているため、この表現を用いると、「理由の正当性をゆずろうとしないという、独りよがりな幼い言い方になる」¹⁷¹。

この用法の制限としては、話し手以外の人の行為に対する説明に用いにくいことが挙げられる（例 3.174）。

（例 3.174） A 「佐藤はどうして怒っているの？」

B 「？だって、君が変なことを言うんだもん」。

尚、終助詞「もの」には、聞き手に対する反抗を表す用法（例 3.175¹⁷²）もあるが、原因・理由を表さないため、本稿では対象外とする。

（例 3.175） A 「大学生になったら、お年玉は要らないよね？」

B 「要るもん！」。

3.2.8. 原因・理由を表す助動詞「のだ」

原因・理由を表すもう一つの表現としては「(P.¹⁷³) Qのだ。」構文の助動詞「のだ」が挙げられる。「のだ」に関する考察は多数の研究（三上 1953、林大 1964、Alfonso 1966、田中 1980、寺村 1984、益岡 1991、野田 1997、仁田 2003 など）にみられるが、本稿では野田（1997）及び仁田（2003）を中心に、「のだ」の特徴について述べて行く。

¹⁷⁰ 同上、p. 271

¹⁷¹ 同上、p. 271

¹⁷² 同上、p. 272

¹⁷³ このPは先行文として表現されることもあれば、後述の例 3.171 のように、言語的に表現されないこともあるため、括弧に入れて表示する。

野田（1997）が指摘しているように、「のだ」は「スコープ」の「のだ」（例 3.176¹⁷⁴）と「ムード」の「のだ」（例 3.177-3.180¹⁷⁵）に分けられ、後者はさらに「関係づけ」・「非関係づけ」・「対事的」・「対人的」という4種類に十字分類できる。つまり、関係づけの対事的「のだ」（例 3.177）、関係づけの対人的「のだ」（例 3.178）、非関係づけの対事的「のだ」（例 3.179）、非関係づけの対人的「のだ」（例 3.180）の4つの分類である。そのうち、原因・理由を表す表現としては関係づけの対事的「のだ」と関係づけの対人的「のだ」が挙げられる。

（例 3.176）「あたし、悲しいから泣いたんじゃないのよ」

「……」

「嬉しくて泣いたのよ」

（例 3.177）山田さんが来ないなあ。きっと用事があるんだ。

（例 3.178）僕、明日は来ないよ。用事があるんだ。

（例 3.179）そうか、このスイッチを押すんだ。

（例 3.180）このスイッチを押すんだ！

関係づけの対事的「のだ」は「話し手が状況や先行文脈Pを自分にとって意味のある形、わかりやすい形Qとして把握したことを示すものである」¹⁷⁶。野田（1997：84）はPとQの関係が多様であることから明確な分類が難しいと断っておいた上で、1) QがPの事情と考えられる場合と2) QがPの意味と考えられる場合の2つに大まかに分けている。一方、関係づけの対人的「のだ」は「聞き手は認識していないが、話し手は認識している既定の事態Qを、状況や先行文脈Pの事情や意味として、それを聞き手に認識させようという話し手の心的態度を表す」¹⁷⁷のものである。関係づけの対人的「のだ」にも、1) Pの事情としてQを提示するものと、2) Pの意味としてQを提示するものがある。『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』においては上記の1)が先行する文の理由、2)が話し手の解釈とされ、1)の理由を表す用法は「からだ」と置き換えられる（例 3.181）が、2)の解釈を表す用法の場合、それは不可能（例 3.182）であるとしている。以下の文はそれぞれの用例である。

¹⁷⁴ 野田（1997）p. 32

¹⁷⁵ 同上、p. 72

¹⁷⁶ 同上、p. 84

¹⁷⁷ 同上、p. 94

(例 3. 181) 昨日は学校を休みました。頭が痛かった {ん/から} です。

(例 3. 182) (デパートで泣いている子供を見て) きっと迷子になった {ん/*から} だ。

両形式の使い分けに関しては、因果関係を明確に示す場合、「からだ」の方がふさわしいが、文脈によって「からだ」を用いて自分の行為を正当化することが望ましくない場合、「のだ」の方が適切であるとみなされる (仁田、2003 : 205)。

「の (だ)」の接続に焦点を当てると、動詞・イ形容詞にはそのまま、名詞・ナ形容詞には「なのだ」の形で後続する。仁田 (2003 : 197) が指摘しているように、「のだ」は丁寧体には基本的に接続しないが、話し言葉では、まれに「ますんです¹⁷⁸」という形もみられる。また、関係づけの対人的「のだ」には「の」及び「んだ」という形もあるが、関係づけの対事的「のだ」にはそれがない。従属節に現れる「のであって」、「のであり」という形は、「ムード」の「のだ」ではなく、スコープの「のだ」のテ形・連用形である。仁田 (2003 : 207) では「「のだ」をそのままテ形にした「ので」という形」もあるが、その形は「原因・理由を表す接続助詞として用いられるのが普通であり、「のだ」とは異なる機能をもつ」と指摘している。さらに、他のモダリティ表現との併用に注目すると、「の (だ)」は、「だろう」を除き、ほとんどのモダリティ表現に後続すると言える。尚、話し手が発話時の意志を述べるような場合には、「の (だ)」は用いられない (野田、1995 : 222)。

これまでは、独話文における「のだ」について述べてきたが、ここは質問文及び応答文における「のだ」に触れる。野田 (1997 : 129) が指摘しているように、「なぜ」、「どうして」を用いた疑問語質問文¹⁷⁹では「のだ」との共起が多くみられる¹⁸⁰。その「のだ」は基本的にスコープのものであるが、あわせてムードの「のだ」の機能も担っている。例えば、例 3. 183¹⁸¹の場合、「聞き手が日焼けしている」という状況Pの原因である事態を尋ねており、「のだ」は関係づけの機能を担っていると言える。

(例 3. 183) 「どうしてそんなに日焼けしているの？」

このように、Pの状況を知りたがっている聞き手に対して、Pの事情Qを答える時には、関係

¹⁷⁸ 野田 (1997 : 28)、仁田 (2003 : 197)

¹⁷⁹ 野田 (1997 : 129) の用語を引用する。

¹⁸⁰ インタビューなどの場合、「のだ」が使用されていない「どうして/なぜ～ですか」の形もある。

¹⁸¹ 同上、p. 129

づけの「のだ」などを用いた文が自然である（例 3.184¹⁸²）。

（例 3.184）「じゃどうして返事しなかったの？」

「今日はあまり返事したくなかったんだ」

以上、日本語における原因・理由を表す主な言語形式について述べてきた。これらの表現のうち、原因・理由を先に述べ、続いて結果を述べるという語順をとるものとしては、格助詞「で」「から」「に」、複合格助詞「につき」「とあって」「のせいで・のおかげで」「のために」「ゆえに」「によって」、接続助詞「から」「ので」「ため」「のに」「し」「おかげで・せいで」「ゆえに」、述語の連用形「～テ形」、接続詞「だから」「それで」「そのために」「そこで」「ゆえに・それゆえに」、名詞「原因」「理由」、形式名詞「わけ」、「から」を含む原因・理由の表現「からこそ」「からには」「のだから」「ものだから」が挙げられる。残りの接続詞「なぜなら・なぜか」というと「というのは」「だって」、終助詞「もの」、助動詞「のだ」及び文末に現れる「から」の場合、結果を先に述べ、続いて原因・理由を述べるという因果関係の転倒した語順がみられる。また、上述のように、これらの言語形式を用いて原因・理由を述べる際、原因・理由及び結果を一つの文（単文あるいは複文）として表現されることもあれば、原因・理由と結果をそれぞれ独自の文として表現されることもある。その際、原因・理由を表す表現の使用は一つとは限らないが、2 つ以上用いられる場合、その重なりには制限がある。特に、前述（3.2.4 節）したように、複文の場合、最初に現れる表現と後続が可能な表現の組み合わせはそれぞれの表現のかかる範囲による。例えば、例 3.187－3.188 のように、接続助詞「から」「ので」は「～テ形」の後で用いられるのに対し、「～テ形」のかかる範囲が狭く「から」「ので」に後続すると落ち着きが悪い。

（例 3.185）雨が降って涼しくなった {ので／から}、二人で散歩に出た。

（例 3.186）*雨が降った {ので／から}、涼しくなって二人で散歩に出た。

3.3. ロシア語における言語形式

3.2 節においては日本語における原因・理由を表す主な表現について述べてきたが、本節はロシア語における表示方法を 3.31 節「ロシア語における原因・理由を表す言語形式の概要」、3.3.2 節「無接続詞複文による原因・理由の表示」の順で考察していく。

¹⁸² 同上、p. 139

3.3.1. ロシア語における原因・理由を表す言語形式の概要

ロシア語の場合も日本語と同じく、因果関係を表わす複文においては、一方の節が原因・理由を表わし、他方の節が結果を表わす。主節と従属節を結ぶ接続詞によって(1)「原因・理由」または(2)「結果」が強調される。原因・理由を表す接続詞¹⁸³には(1a)主節と従属節との間に論理的な根拠を表すものと、(1b)原因・理由のみを提起するものがある。単文の場合は、前置詞を用いることによって原因・理由が強調される。これらの表現を、Крючков С.Е., Максимов Л.Ю. (1977)、Шведова Н.Ю. (1980)、Метс Н.А (1985)、Всеволодова М.В., Яценко Т.А. (1988)、小野 (1988)、Формановская Н.И. (1989)、城田 俊 (1993) Хаясида Р., Уэхара Д. (1996)、『ロシア語類義語新解釈辞典』(1999)、Кузнецов С.А. (2000)、Хааг Э.О. (2001)などを参照にして、品詞別にまとめると表3-10のようになる。

表3-10：原因・理由を表わす表現

前置詞	接続詞	
	(1a) 主節と従属節との間に論理的な根拠を表すもの	(1b) 原因・理由のみを提起するもの
ブラガダリャー Б л а г о д а р я	パタムーシトー П о т о м у ч т о	アッタヴォーシトー О т т о г о ч т о
ヴヴィデュー В в и д у	イーボ И б о	ブラガダリャー Б л а г о д а р я タムーシトー Т о м у ч т о
イズ И з	タークカーク Т а к к а к	フスレヅステヴィエ В с л е д с т в и е タヴォーシトー Т о г о ч т о
イツザ И з - з а	パスコーリク П о с к о л ь к у	フレズリタチエ В р е з у л ь т а т е タヴォーシトー Т о г о ч т о
ス С		フシールタヴォーシトー В с и л у т о г о ч т о
オトゥ О т		フスヴァジースチエム В с в я з и с т е м チトー Ч т о
ザー З а		ヴヴィデュータヴォーシトー В в и д у т о г о ч т о
パ П о		イツザタヴォーシトー И з - з а т о г о ч т о

¹⁸³ 日本語においては文頭に現れるものを接続詞、文中に現れるものを接続助詞として使い分けてきたが、ロシア語においては両方とも с о ю з とされ、その訳語として接続詞という用語が使われている。

バ П о п р и ч и н е		
フ В с л е д с т в и е		
フ В р е з у л ь т а т е		
フ В с и л у		

以下、これらの表現に関して「前置詞」、「主節と従属節との間に論理的な根拠を示す接続詞」、「原因・理由のみを提起する接続詞」の順で述べる。

前置詞

原因・理由を表す前置詞に関しては小野（1988：132－133）の分類を援用し、必要な部分を追加した上で、原因・理由の種類、結果という二項目についてまとめたものが表 3－11 である。

表 3－11：原因・理由を表す前置詞

前置詞	原因・理由の種類	結果
ブラガダリヤ Б л а г о д а р я	指示なし	話者にとって好ましい事態
イツザ И з - з а	外的、客観的な原因・理由 (まれに内的)	話者にとって好ましくない 事態(意志に係わりのない状 態、資質、行為)
По	内的な原因・理由(主語自身 (人)の状態、資質)	1) 話者にとって好ましくない 事態(意志に係わりの ない状態、資質、行為) 2) 意志的な行為
Из И з	内的な原因・理由(主語自身 (人)の状態、資質)	意志的な行為
От О т	外的な原因・理由(外傷、自 然現象) 内的な原因・理由(感情、身 体的状態)	人間の意志に関わりのない、 人や事物の状態の変化・行為
С С	内的な原因・理由(主語自身 の突然の激しい感情、主語自 身の状態)	人間の意志に関わりのない、 人や事物の状態の変化・行為
За З а	指示なし	拒否、事物の不足、不適切な 代用

По причине	指示なし	指示なし
Вследствие	外的及び内的、客観的な原因・理由	時系列的な順序を追う結果
В результате	外的及び内的な原因・理由 (過程、行動)	時系列的、原因・理由の直後に起こる結果
В силу	外的及び内的、客観的、持続的な原因・理由	必然的な事態
Ввиду	外的及び内的な根拠、動機	意志的な行為

表3-11のように、原因・理由を表わす前置詞には「благодаря」、「из-за」、「по」、「из」、「от」、「с」、「за」、「по причине」、「вследствие」、「в результате」、「в силу」、「ввиду」がある。「благодаря」は話者にとって好ましい事態を引き起こす原因・理由を述べる際に用いられており、目的のはっきりした行為にかかわる原因・理由を述べる際に相応しいとみなされる。「из-за」及び「с」は話者にとって予想外の好ましくない事態を引き起こした原因・理由を示すという点で共通しているが、その原因・理由が外的であるのか（「из-за」）あるいは内的であるのか（「с」）という点で異なると言える。内的な原因・理由（主語自身（人）の状態、資質）を表わす「по」は、1) 話者にとって好ましくない事態、もしくは2) 意志的な行為という2種類の結果を導く。「из」は「по」のように意志的な行為を引き起こす内的な原因・理由を表わす。「от」の場合、原因・理由は外的なものにも内的なものにもなり得るが、非意志的な事態（自然現象・身体的状態）に限られる。また、その結果は不随意的、自然発生的な反応（人や事物の状態の変化・行為）となる。「за」の使用は現代のロシア語においては殆どの場合公文書中の僅かな慣用的な表現に限られるが、拒否した際の理由、不足や不適切な代用が理由として述べられる際にも用いられることがある。「вследствие」及び「в результате」は両方とも時系列的な因果関係を表しているが、「в результате」の場合、結果が原因・理由の直後に起こるというニュアンスが含まれる。また、「вследствие」の場合、原因・理由と結果の間の結び付きは客観的な現実として述べられる。「в силу」は必然的な事態を引き起こしてから継続的に保持される外的・内的な原因・理由を表わす。「ввиду」の場合、原因・理由は外的及び内的な根拠あるいは動機で、結果は意志的な行為である。「по причине」は普遍的な表現で、多くのコンテキストにおいて上述の様々な表

現の代わりにに用いられる。以下にそれぞれの用例を挙げる。

- (例 3. 187) Ему удалось поступить в институт благодаря занятиям с
彼は できた 入学 大学へ おかげで 勉強 と
репетиторами.
家庭教師。
- (例 3. 188) Из-за него у меня вышли большие неприятности.
сеиで 彼の 私は あった 非常に 不愉快な目に。
- (例 3. 189) Со сна я не расслышал, что передавали по радио.
寝ぼけてぼんやりして て 私は 聞き取れなかった ことが 言っている
ラジオで。
- (例 3. 190) Он не был в классе по болезни.
彼は 登校しなかった で 病気。
- (例 3. 191) Он дрожит от холода.
彼は 震えている で 寒さ。
- (例 3. 192) За неимением времени я не мог прочесть.
ので なかった 時間が 私は 読み切れなかった。
- (例 3. 193) Вследствие ограниченности времени мы не будем останавливаться на
подробностях.
ので 限られている 時間が 私たちは 触れません 詳細には。
- (例 3. 194) В результате наводнения разрушено много зданий, смыты посеvy.
で 洪水 破壊され 多くの 建物、洗い流された 播かれた作物の種も。
- (例 3. 195) В силу ряда причин строительство ГЭС не было завершено в срок.
で 一連の 原因 建設は 水力発電所の 完成しなかった 期限までに。
- (例 3. 196) Завод был закрыт ввиду его нерентабельности.
工場は 閉鎖された ために 採算がとれない。
- (例 3. 197) Обнищание значительной части населения произошло по причине
貧困化は 大部分の 人口の 起こった ことによって
начала экономических преобразований.
始まった 経済的な 改革が。

このように、原因・理由を表す前置詞は多様ではあるが、これらを共通点でまとめると表3-12のようになる。

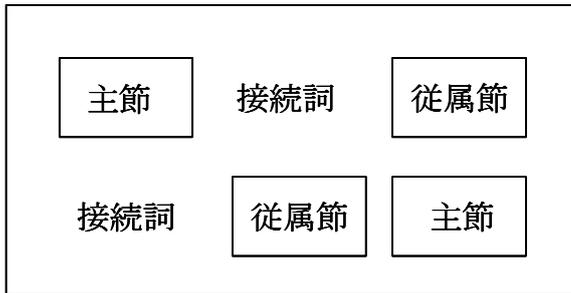
表3-12：原因・理由を表わす前置詞とその共通点

カテゴリー	解釈	前置詞
主語自身（人）と原因・理由の係わり	原因・理由は主語自身（人）の状態・資質に起因している	「 ^ス с」、 ^パ 「по」、 ^{イズ} 「из」
因果関係と意志生	「理由—行動」、話者が原因・理由を特定の行為を実行させる動因として描写する	^{イズ} 「из」、 ^{ヴヴィデウ} 「ввиду」、 ^{ザー} 「за」、 ^{ブラガダリヤー} 「благодаря」
	「原因—結果」、話者が因果関係を意志にかかわりのないものとして客観的に描く	^{フスレツステヴィエ} 「вследствие」、 ^フ 「в ^{レズリタチエ} результате」、 ^{イツザ} 「из-за」、 ^ス 「с」
結果の評価	原因・理由は好ましい事態を引き起こす	^{ブラガダリヤー} 「благодаря」
	原因・理由は好ましくない事態を引き起こす	^{イツザ} 「из-за」、 ^ス 「с」
因果関係の結びつき	「原因・理由」と「結果」が直接的に結びついている	^パ 「по」、 ^{イズ} 「из」、 ^{オトゥ} 「от」、 ^ス 「с」、 ^{ヴヴィデウ} 「ввиду」
	「原因・理由」と「結果」が間接的に結びついている	^{イツザ} 「из-за」、 ^{フスレツステヴィエ} 「вследствие」
因果関係と時系列	原因・理由と結果の間に時系列的な関係がある	^{フレズリタチエ} 「врезультате」、 ^{フシール} 「всилу」、 ^ス 「с」

接続詞

原因・理由を表わす接続詞（^{サユーズ}союз）は複文において用いられる。これらの接続詞の複文における位置及び主節・従属節との関係を図式で表すと図3-3のようになる。

図3-3：「原因・理由」を表わす接続詞と複文の構造



この図から分かるように、主節及び従属節は前件にも後件にも現れるが、接続詞はいつも従属節の前にくる。以下、このようなロシア語の複文構造における特徴を考慮に入れ、原因・理由を表わす接続詞について述べる。上述のように、原因・理由を表わす接続詞には

(1a) 主節と従属節間の意味的關係として原因・理由以外に判断根拠を表すものと、(1b) 原因・理由のみを提起するものがある。表 3-10 のように、原因・理由を表わす接続助詞

(1a) には「^{パ タ ム ー シ ト ー}потому что」、^{イ ー ボ}「ибо」、^{タ ー ク カ ー ク}「так как」、^{パ ス コ ー リ ク}「поскольку」がある。「^{パ タ ム ー シ ト ー}Потому что」は最も一般的に使われるものであり、^{イ ー ボ}「Ибо」は文語的な表現とされている。文構造上は(図 3-3) 両方とも主節(前件)、従属節(後件)の順で接続する。「^{タ ー ク カ ー ク}Так как」及び「^{パ ス コ ー リ ク}поскольку」も従属節の前に置かれるが、文中における従属節の位置が自由であることから、文頭にも文中にも現れることとなる。また、すでに見たように意味的にこれらの接続詞は1)「原因・理由」、2) 判断の根拠という2つの用法がある。直接「原因・理由」を表わす場合、主節で述べられた事実に関して従属節でその「原因・理由」を述べる。その際、話者の判断は従属節のみに現れる。判断根拠を表わす場合、主節では話者の判断が述べられ、その判断の根拠となる事実を従属節で示す。以下に従属節をかつこに入れ、「^{パ タ ム ー シ ト ー}потому что」、「^{イ ー ボ}ибо」、「^{タ ー ク カ ー ク}так как」、「^{パ ス コ ー リ ク}поскольку」の用例を挙げる。

(例 3. 198) Людмила Борисовна устраивает семинар один раз в неделю

リュドミーラ ボリーソヴナは 行う ゼミを 1回 一週間に

по пятницам, потому что [в другие дни она занята].

金曜日に、ので [他の 曜日は 彼女は 忙しいです]。

(例 3. 199) В этих отсталых странах прибыль очень высока, ибо

おいては これらの 立遅れた 諸国に 利益が 通常 高い、けだし

[капиталов мало, цена земли сравнительно невелика,

[資力が 少なく、値段が 土地の 比較的 に 低く、
 заработная плата низка, сырые материалы дешевы].
 労賃が 低く、原料が 安い (からである)]。

(例 3. 200) Я не могу посещать спецкурс по лексикологии, так как
 私は 履修できない 特殊講義が 語彙論の、なぜなら
 [увлекаюсь синтаксисом].
 [夢中になっている (からである) 構文論に]。

(例 3. 201) Поскольку [мое время истекает], я заканчиваю свое выступление.
なので [私の 持ち時間が 切れそう]、私は 終わる 私の 発表を

論理的な根拠を表さない接続詞 (1b) のうち、^{ア ッ タ ヴ ォ ー シ ト ー} от того что、^{ブ ラ ガ ダ リ ャ ー} благодаря
^{タ ム ー シ ト ー} тому что、^{フ ス レ ツ ス テ ヴ ィ エ} вследствие того что、^{タ ヴ ォ ー シ ト ー} в результате
^{タ ヴ ォ ー シ ト ー} того что、^{フ シ ー ル} в силу того что、^{ウ ヴ ィ デ ユ ー} ввиду того что、^{イ ッ ザ} из-за
^{タ ヴ ォ ー シ ト ー} того чтоは前置詞に起因しているため、意味・用法に関しては表 3-11 及び表 3-
 12 を参照されたい。尚、^{フ ス ヴ ャ ジ ー ス チ ェ ー ム} в связи с тем чтоは本来の意味で主節に現れる
 結果が従属節で述べられている事柄に強く依存していることを表現する。文構造上は、上
 記の接続詞は文頭にも文中にも現れ、その接続詞に導かれる従属節が表 3-3 のように主節
 の前にも後ろにもくる。意味的な観点からそれぞれの用法には違いがみられるが、話者の
 意志に関わりのない事情、あるいは関わりがあっても強調されないという点で共通する。
 以下に原因・理由を表わす従属節を括弧に表示し、それぞれの表現の用例を挙げる。

(例 3. 202) Оттого что [здесь нет деревьев], улица кажется шире и светлее.
ので [ここには ない 木々が]、通りは ようにみえる より広く そ
 して より明るい。

(例 3. 203) Пилот избежал аварии, благодаря тому что [мотор работал
 操縦士は 免れた 事故を、おかげで [エンジンが 動いていた
 безотказно].
 故障なく]。

(例 3. 204) Завершение работ откладывается, вследствие того что
 完了は 作業の 延期されている、ので
 [оборудование еще не доставлено].

[機械が まだ 届いていない]。

(例 3. 205) В результате того что [между различными институтами

что [間で さまざまな 研究所の

происходит обмен научной информацией],

行われている 交換が 学術上の 情報の],

сокращаются затраты на экспериментальные исследования.

減る 費用が にかかる 実験 調査。

(例 3. 206) Ответ задерживается в силу того, что [не хватает сотрудников].

返事は 遅れている ため [足りない 職員が]。

(例 3. 207) Ввиду того что [мне по семейным обстоятельствам необходимо

что [私は により 家庭の 事情 しなければならない

выехать домой в январе], прошу разрешить мне сдать экзамены

帰省 一月に]、поэтому お願いする 許可を 私に 受ける 試験を

досрочно.

期間前に。

(例 3. 208) Он плохо выглядел, из-за того что [уставал и мало спал

彼は 悪い 顔色が、поэтому [疲れていてそしてあまり寝ていなかった

た

в последние дни].

最近]。

3.3.2. 無接続詞複文による原因・理由の表示

これまでは原因・理由を表わす言語形式について考察してきたが、ロシア語では、無接続詞複文の使用により、原因・理由及び結果を特定の表現形式を使用せずに述べることも可能である。

ロシア語における無接続詞複文とは、文と文が接続詞ではなく、語順の相互関係、動詞のアスペクト(完了体・不完了体)と法(declension)、語彙的要素、イントネーションという文法化された手段¹⁸⁴により複文として結合されたものである。無接続詞複文の特徴としては、1) 統語形式(syntactic form)と語彙的意味構造(lexico-semantic structure)

¹⁸⁴ Ширяев (1986) p. 36

の緊密な相互作用、2) 潜在的意味に関して読み手・聞き手の理解に依存するという点が挙げられる。

原因・理由を表わす無接続詞複文は話し言葉においてよく用いられており、書き言葉において現れるのは、台詞や談話などのように、あくまでも人の言ったことばをそのまま文字で表わすような場合である¹⁸⁵。学術論文や公文書などでは、2つの事態間の因果関係を明確に表現しなければならないことから、通常、接続詞を使用するが、まれに、無接続詞複文が現れることもある。無接続詞複文の節は潜在的な意味関係の他に、話し言葉ではイントネーション及び語順、書き言葉ではコロンによって結合される。

Ширяев (1986 : 184) では因果関係を 1) 客観的な事実の現象・出来事のもの、2) 人間の行為・状態を解釈するものと、大きく2つに分け、原因・理由を表わす無接続詞複文には特に後者がみられるとしている。このような人間の行為・状態を解釈する原因・理由を表わす無接続詞複文をさらに分類すると、表3-13のようになる。

表3-13：人間の行為・状態を解釈する原因・理由の無接続詞複文の分類

番号	複文の意味的モデル	原因・理由のタイプ
1.	目的のはっきりした機能的、物理的な作用	この作用を可能、必要、不可欠とした外的事情
2.	不随意的な動作（多くの場合）	この動作の内的な原因・理由
3.	知的行為	この行為の内的及び外的な原因・理由
4.	儀礼的行為（感謝、挨拶など）	この行為を引き起こした原因・理由
5.	身体的な状態	この状態の内的及び外的な原因・理由
6.	精神的な状態	この状態の内的及び外的な原因・理由
7.	知的状態	この状態の内的及び外的な原因・理由
8.	人間の性質・個性	これらをもたらした内的・外的な要因
9.	人間の所在地	この所在地の内的・外的な原因・理由

以下にそれぞれの用例を挙げるが、本稿の目的にそってこれらの範囲を話し言葉に留める。尚、「/」は節、「//」は文の完了を示す。

(例 3. 209) А : А что это так сильно холодит?

¹⁸⁵ 同上、pp. 183-184

何で こんなに 強く 冷やしているの？

В : Это он по-моему вчера поставил на много / лед он делал //

これは 彼が たぶん 昨日 設定した「強」に/氷 彼が 作っていた//

(例 3. 210) Купи мне эту книгу / нужно мне для работы //

買ってね 私に この 本 / 必要なの 私に ために 仕事の //

(例 3. 211) Я ему все выскажу / давно пора//

私は 彼に 全てを 吐露するよ / ずっと前から こうするべきだった
のだ //

(例 3. 212) Я всех благодарю / без вас бы я ничего не сделал конечно //

私は 皆さんに 感謝する / 皆さんなしで 私は なにも できなかった
た もちろん//

(例 3. 213) Я страшно устал / до трех работал //

私は ものすごく 疲れた / までに 3時 働いた //

(例 3. 214) Он так заразительно смеялся / это заяц у него вдруг запищал //

彼は とても うれしそうに 笑っていた / それは ウサギちゃんが
突然 びいびい始めた//

(例 3. 215) Я забыл / давно это было //

私は 忘れた / 大分前のことだ //

(例 3. 216) Он очень целеустремленно работает / приучил себя к режиму //

彼は とても 明確な目的を持って 働いている / 律した 自分を 日課
を守るように //

(例 3. 217) Он дома наверно сегодня // никуда вроде не собирался

彼は 家にいる たぶん 今日 / どこへも らしい 行くつもりはな
かった //

上記のように、無接続詞複文は 93 ページに示した 2) のタイプ「人の行為あるいは状態にかかわる」原因・理由を述べる際に用いられるが、客観的な事実の出来事に人間が直接参加する場合に限って、1) のタイプ「客観的な事実の現象・出来事の間」の因果関係の描写の際にも用いられる。

(例 3. 218) На минском шоссе нас стали обгонять автобусы / школьников

ミンスク大通りでは 私たちを 追い越し始めた バス / 生徒たちを
везли в пионерский лагерь //

運送していた ピオネールのキャンプへ //

(例 3. 219) Окна везде уже были темны / все уже спят //

窓は どこもすでに 暗かった / 皆はすでに 寝ている //

このように、ロシア語では人間にある程度関連のある原因・理由を述べる際、無接続詞複文を用いることが可能である。尚、会話においては原因・理由を表わす無接続詞複文の変形として 2 つの節の間に聞き手の原因・理由に関する質問が挿入されるものがある (例 3. 220)。

(例 3. 220) А : Купи мне эту книгу (この本を買ってね。)

В : Зачем? (なぜ?)

А : Нужно мне для работы (仕事のために必要なの。)

以上、ロシア語における原因・理由の述べ方について考察してきた。原因・理由を表わす前置詞及び接続詞と無接続詞複文の相違をまとめると、前置詞及び接続詞は節と節のあらゆる意味的な関係を明示的に表明したり区別するのに対し、無接続詞複文の場合、その意味関係は読み手、聞き手の前後関係の理解に負っている¹⁸⁶。そのため、節と節との意味的關係が不明瞭であるほど無接続詞複文の使用は落ち着きが悪くなる¹⁸⁷。例えば、下記の例 3. 221 の場合、常識的には因果関係としての解釈がいかにも不可能であるにもかかわらず、原因・理由を表わす接続詞を用いると、原因・理由をあらゆる複文として解釈される。無接続詞複文 (例 3. 222) の場合、それは不可能である。

(例 3. 221) Я не пошел гулять, потому что рыба в реке вильнула хвостом.

(私は散歩へ行かなかった。なぜなら、川の魚が尾を振ったからである。)

(例 3. 222) Я не пошел гулять / рыба в реке вильнула хвостом //

(私は散歩へ行かなかった / 川の魚が尾を振った //)

¹⁸⁶ Ширяев (1986) p. 56

¹⁸⁷ 同上、p. 42

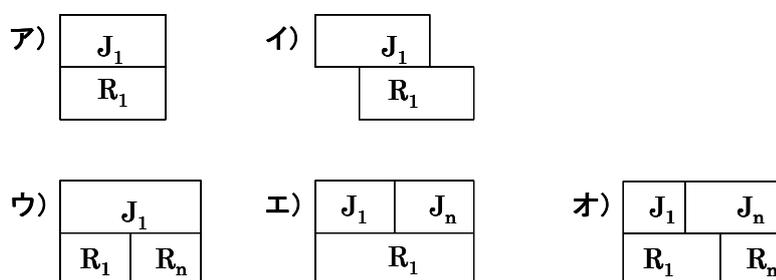
3.4. 日本語とロシア語の類義表現

ここまでは日本語及びロシア語それぞれにおける原因・理由の述べ方について考察してきたが、本節では両言語を比較しながら、類義表現について述べる。

3.4.1. 両言語の比較対照の枠組み

島岡（1986：68）が指摘しているように、2つの言語を比較する際、通常、音声面、文法面、意味面、語用面から分析を行う。本稿では、音声特徴を分析対象外とし、日本語とロシア語における原因・理由の言語的な表示方法を文法、意味、語用の観点から分析する。文法面の比較対照は語順を中心としたものである¹⁸⁸。意味面の比較は言語的意味を分析対象とし、語用面の比較は社会文化的意味を分析対象とする¹⁸⁹。言語的意味はさらに構造的意味と語彙的意味の2つに分けられる。構造的意味とは意味が構造に左右されるということである。語彙的意味には「語彙選択、語彙範疇、語義」¹⁹⁰が含まれる。語彙が意味する範囲に関しては、次のような領域差が起こり得る（図3-4の参照）。

図3-4：類義表現の領域差（島岡（1986）、張（2007）を参照に）



ア) の場合、「1対1」のケースであり、両言語における言語形式の意味・機能が全く同様である。イ) も「1対1」のケースではあるが、両形式の意味・機能は部分的に重複する範疇を示す。ウ) は「1対多」のケースであり、ある意味・機能を担う言語形式は目標言語に1つのみ、母語に複数あることを表示する。エ) は「多対1」で、ある意味・機能を担う言語形式は目標言語に複数、母語に1つのみあるというケースである。オ) の場合、両言語ともある意味・機能を担う形式が複数存在し、これらの意味範疇は部分的に重複する「多対多」のケースである。

¹⁸⁸ 島岡（1986）p. 69

¹⁸⁹ 同上、p. 71

¹⁹⁰ 同上、p. 71

3.4.2. 言語形式の比較対照

文法面の観点から見ると、原因・理由を表わす言語形式は、日本語では後置詞、ロシア語では前置詞という点で異なる。また、複文に焦点を当てると、日本語では前件は従属節、後件は主節であり、2つの節は従属節末に来る接続助詞によって接続されている。これに対し、ロシア語では従属節と主節の位置は自由ではあるが、原因・理由を表わす接続詞は原則として従属節の前に現れる。また、ロシア語の特徴としては原因・理由を表わす無接続詞複文も取り上げられる。

意味及び語用の観点から比較すると、原因・理由を表わす言語形式は日本語にもロシア語にも多数あり、それぞれが表わす意味・用法は重複することもあるれば、一部ずれることもある。両言語の類義表現を表3-14にまとめる。

表3-14：原因・理由を表わす類義表現

日本語の言語形式	ロシア語の言語形式
につき	ブラガダリャー フスレヅステヴィエ благодаря, вследствие па 、по
とあって	ブラガダリャー フスレヅステヴィエ благодаря, вследствие па 、по
のせいで	イツザ イツザ タヴォーシトー パ из-за, из-за того что, по с 、с
のおかげで	ブラガダリャー ブラガダリャー благодаря, благодаря там - シトー тому что
ゆえに	ヴヴィデウー ヴヴィデウー タヴォーシトー ввиду, ввиду того что、 フスヴァジー ステーム チトー イツザ в связи с тем что、из-за イツザ タヴォーシトー アッタヴォー 、из-за того что、оттого シトー パ там - シトー что、потому что、
によって	ブラガダリャー там - シトー благодаря тому что、 フスレヅステヴィエ вследствие、 フスレヅステヴィエ タヴォーシトー フ вследствие того что、в результате、в результате того что、в

	シール フ シール タヴォー シトー СИЛУ、В СИЛУ ТОГО ЧТО
から	ヴヴィデウー イーボ イズ オトゥ ВВИДУ、ИБО、ИЗ、ОТ、 アッタヴォー シトー パ ОТТОГО ЧТО、ПО、 パスコーリク バタムーシトー ПОСКОЛЬКУ、ПОТОМУ ЧТО、 スターク カーク С、ТАК КАК
からこそ	イッザ ИЗ-ЗА
からには	パスコーリク ПОСКОЛЬКУ
のだから	パスコーリク ПОСКОЛЬКУ
ものだから	イッザ ス ИЗ-ЗА、С
ので	ヴヴィデウー ヴヴィデウー タヴォー シトー ВВИДУ、ВВИДУ ТОГО ЧТО、 フレズリタチエ タヴォー シトー В РЕЗУЛЬТАТЕ ТОГО ЧТО、 フスヴァジー ス チェーム チトー フ В СВЯЗИ С ТЕМ ЧТО、В シール フスレツステヴィエ СИЛУ、В СЛЕДСТВИЕ、 フスレツステヴィエ タヴォー シトー В СЛЕДСТВИЕ ТОГО ЧТО、 ザー イッザ イッザ タヴォー シトー ЗА、ИЗ-ЗА、ИЗ-ЗА ТОГО ЧТО オトゥ パ ス ターク カーク 、ОТ、ПО、С、ТАК КАК
ため	ブラガダリヤー タムー シトー БЛАГОДАРЯ ТОМУ ЧТО、 ヴヴィデウー ヴヴィデウー タヴォー シトー ВВИДУ、ВВИДУ ТОГО ЧТО、 フスヴァジー ス チェーム チトー イッザ В СВЯЗИ С ТЕМ ЧТО、ИЗ-ЗА イッザ タヴォー シトー パ パ 、ИЗ-ЗА ТОГО ЧТО、ПО、ПО ブリチーニエ ПРИЧИНЕ
だから	ターク カーク ТАК КАК
そのために	イッザ ИЗ-ЗА
なぜなら	イーボ バタムーシトー ターク カーク ИБО、ПОТОМУ ЧТО、ТАК КАК
なぜかという	イーボ バタムーシトー ターク カーク ИБО、ПОТОМУ ЧТО、ТАК КАК
というのは	バタムーシトー ПОТОМУ ЧТО
だって	ターク カーク ТАК КАК
理由	フスレツステヴィエ パブリチーニエ В СЛЕДСТВИЕ、ПО ПРИЧИНЕ
原因	フスレツステヴィエ パブリチーニエ В СЛЕДСТВИЕ、ПО ПРИЧИНЕ

わけ	ザー З а
もの	ターク　カーク Т а К　К а К
のだ	イズ　バ　タ　ム　ー　シト　ー И З、 П О Т О М У　Ч Т О
述語の連用形（～テ形）	ザー　イ　ッ　ザ　タ　ヴ　ォ　ー　シト　ー　ス З а、 И З-З а　Т О Г О　Ч Т О、 С

表3-14に記載されていない表現のうち、「それで」、「そこで」、「それゆえに」にはロシア語の結果を表す表現が相当する。「のに」及び「からとっては」は殆どの場合、逆接表現に類似している。「し」は繰り返しの表現「И」に相当する。

こうして、日本語とロシア語には原因・理由を表わす類義表現が多数ではあるが、文法、意味、語用の観点から、完全には対応関係にあるわけではない。そこで、ロシア語を母語とする日本語学習者はが原因・理由を述べる際、コンテキストに応じて適切な表現を用いるのか、それとも表現の選択には偏りがあるのか、発話の構成には母語の影響が見られるのかということを調べるために、以下の調査を行った。

第4章 原因・理由の説明に関する中間言語研究

第3章では、3.1節「因果関係の構成と原因・理由の説明」、3.2節「日本語における言語形式」、3.3節「ロシア語における原因・理由を表す表現」、3.4節「両言語の対比」について述べてきた。第4章では、ロシア語を母語とする日本語学習者の口頭データを基に、原因・理由の説明に関する中間言語を考察する。構成としては、4.1節「パイロット・スタディ」、4.2節「仮説」、4.3節「本調査」の順で述べていく。

4.1. パイロット・スタディ

4.1.1. 目的

本稿の目的は、ロシア語を母語とする日本語話者が原因・理由を述べる際、どんな表現を用いるか、発話をどのように構成していくかということを明らかにすることであった。

本節では、その目的を達成するのに必要な仮説を構築するために行ったパイロット・スタディについて説明する。パイロット・スタディでは、ロシア語を母語とする日本語話者の自然発生的な発話にみられる原因・理由に関する説明について考察する。つまり、この調査の目的は個別の事例を中心に原因・理由を表す言語表現の使用及びその際の発話の構成を検討することであり、結果を一般化することを目指してはいない。

4.1.2. インフォーマントのプロフィール

パイロット・スタディにあたって、当時、日本で留学していたロシア語を母語とする上級レベルの日本語学習者（4名）の協力を得た。ロシア語を母語とするインフォーマントのプロフィールは、データ収集の順にBさん、Cさん、Dさん、Eさんと表記し、「ロシア国内での日本語学習歴」、「来日時期」、「調査実施時の滞日期間」という項目について、表4-1にまとめた。

表4-1：インフォーマントの情報

	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん
性別	女性	女性	女性	女性
ロシア国内での日本語学習歴	ロシア国内 6年間（主専攻）	ロシア国内 5年間（副専攻）	ロシア国内 5年間（主専攻）	ロシア国内 5年間（副専攻）
来日時期と滞日期間	2002年10月 3年	2002年10月 3年	2000年4月 5年	2001年10月（滞在期間1年間）、 2005年4月 1年間+8ヶ月間

インフォーマントのロシアにおける出身大学は、BさんとDさんがサンクトペテルブルグ市のS大学で、CさんとEさんがウラル地方のU大学である。調査実施時点で4名とも大阪外国語大に留学しており、Bさん～Dさんは大学院生、Eさんは研究生として在学していた。日本での滞在に関しては、Dさんが最も長く、その次はBさん、CさんそしてEさんの順になる。4名とも来日直後の6ヵ月間、同大学の日本語日本文化教育センターの研究留学生プログラムで日本語を学び終了した。

留学生インフォーマントの日本語のレベルに関しては、4人とも日本の大学院への入学試験に合格し、授業において日本語で発表したり、日本語での専門書を読んだりできることから、4技能の総合力は上級レベル以上であると言える。

また、インタビュアーとしては、関西出身の20年代の女性で、調査時に、大学院生として大阪外国語大学で研究していた日本語母語話者（以下Aさん）に協力してもらった。

4.1.3. 調査方法と実施手順

データ収集方法としては、テーマをアカデミック・ジャパニーズに絞り日本語母語話者のインタビュアーによる「半構造化インタビュー」という形での録音を行った。インタビューの内容は研究対象をアカデミック・ジャパニーズに絞るため、留学生インフォーマントの研究について設定した。以下に、4.1.3.1節「データとしての自然発話とインタビューで取り扱ったテーマ」、4.1.3.2節「本調査の資料収集方法」の順で、パイロット・スタディの調査方法及び実施手順について述べていく。

4.1.3.1. データとしての自然発話とインタビューで取り扱ったテーマ

Ellis and Barkhuizen (2005) が指摘しているように、言語データには、自然発生のももの (naturally-occurring samples)、臨床的に誘導されたもの (clinically elicited samples) と実験的に誘導されたもの (experimentally-elicited samples) がある¹⁹¹。自然発生 of データとは、現実の状況において、あるコミュニケーション上の目標を満たすために産出されたサンプル（友達への手紙、食事中的話しなど）である。臨床的に誘導されたデータと実験的に誘導されたデータに関しては、前者は被験者にいかなるデータをも産出してもらうのに対し、後者は特定の言語項目を産出してもらうという区別 (Corder 1976) である。上記の言語データの種類のうち、自然発生の発話は最も理想的とされている¹⁹²。

¹⁹¹ 第2章の2.1節「学習者の中間言語研究」に詳述する。

¹⁹² Ellis and Barkhuizen (2005) p. 24

インタビューで取り扱うテーマをアカデミック・ジャパニーズの範囲で取り上げた。アカデミック・ジャパニーズという用語は森（2005：117）が指摘しているように、本来「研究のための日本語」「学術的日本語」という意味で用いられてきたが、2002年の日本留学試験が導入されて以降「日本の大学での勉強に対応できる日本語力」として捉えるようになった。山辺・谷・中村（2005）が指摘しているようにこのような解釈は「講義を聴く技術、口頭発表・討論の技術、速読力、論理的な文章を書く力」などの日本語運用力のみ焦点を当てているが、アカデミック・ジャパニーズという概念には社会性（自己の相対化、他者との意見調整や関係構築などの能力）と知的探求力（多様な分野から自らテーマを設定し自主的に学んで行くこと、批判的思考や調査研究方法などの獲得）という要素も含まれている。本稿では、山辺・谷・中村（2005）立場からアカデミック・ジャパニーズを捉えることにする。

4.1.3.2. 資料収集方法

この調査で「半構造化インタビュー」を用いた理由は、この方法は比較的自由度が広く設定されていることから自然な会話が発生しやすいこと、しかもインタビューにアウトラインを設定することによってデータがより比較しやすくなることである。

インタビューのアウトラインとしては、発表の背景、発表の主旨、発表後の議論、今回の発表の問題点などの話題を設定した。調査実施の前に、インタビュアーに表4-2に記載されているガイドラインを渡し、打ち合わせを行った。

表4-2：インタビューのガイドライン

インタビューのアウトライン	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発表の背景に関する質問 <ul style="list-style-type: none"> ● インフォーマントがいつ、どのテーマで発表したのか ● どうしてそのテーマを選んだのか 2. 発表の主旨（発表内容に関する質問） <ul style="list-style-type: none"> ● 原因・理由の説明を促すような質問（60%） ● それ以外の質問（40%） 3. 発表後の議論 <ul style="list-style-type: none"> ● 反論があったのか ● どんな指摘があったのか 4. 今回の発表の問題点
注意備考	<ul style="list-style-type: none"> ● 本研究の目的をインフォーマントに詳しく知らせないこと ● 誤用があっても訂正しないこと ● インフォーマントが言うことに強い興味と共感を示すこと ● できるだけアカデミック・ジャパニーズという範囲で話題を保つこと

調査実施期間は2005年11月下旬～12月中旬で、収集場所は大学校内である。MDレコーダーによる録音の際は、インタビュアーとインタビューを二人だけにして、上記の内容について話し合ってもらった。

4.1.4. 分析方法

「半構造化インタビュー」によって収集されたデータを文字化し、原因・理由を表す言語形式の出現回数を割り出した。また、産出された形式を表現の形式的な分類（4.1.4.3節）を基に、規範と中間言語的なものにコード化しインフォーマント別に集計した。さらに、文の構造という観点から、節の数、言語形式の文中の位置を確認し、その特徴を取り出して検討した。

以下に、収集された会話の詳細、文字化の基準を挙げ、表現の形式的な分類及び表現の文中の位置という観点からの分類を記述する。

4.1.4.1. データ資料

パイロット・スタディで収集されたデータの詳細をまとめると、表4-3のようになる。

表4-3：インフォーマントの情報及び談話の詳細

	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん
調査日時	2005. 11. 29	2005. 12. 06	2005. 12. 13	2005. 12. 20
収録時間	27分24秒	35分49秒	20分22秒	18分47秒
主な話題	自己紹介→研究テーマの選択きっかけ→ロシア正教→日本の正教→ニコライ師→発表の内容→発表の評価→発表後の質問→女学校→正教に関する興味増加の原因	研究テーマ及びデータ収集方法の説明→方法論の有無→先行研究の問題点→研究テーマの選択きっかけ→資料の選択について→既に分かったこと→発表の評価→発表後の質問→指導教官の探し方→経済にしたきっかけ→資料の探し方→研究分野の状況	自己紹介→発表のテーマ→研究テーマ及び研究範囲の選択きっかけ→同じテーマを研究している人の発表での出席→発表後の質問→反論の有無→Dさんによるステレオタイプの捕らえ方→発表を聞いた人の意見→論文の進み方→資料の選択きっかけ→シベリア鉄道の建設と日本との関係	発表の内容→地域の定義→地域を発表内容とした原因→研究テーマの選択きっかけ→発表の評価→発表後の質問→今後の研究→ロシアでの卒業論→ロシアでの修士課程→修士論文→アジア全体への日露関係の影響→いい日ロ関係のシナリオ→今後の課題

データの総収録時間は102分22秒となっている。会話の展開はほとんどインフォーマントがインタビュアー（以下Aさん）の質問に答える形である。表4-3から分かるように、主な話題は、研究テーマの選択のきっかけ、発表の評価、発表後の質問となっている。

4.1.4.2. 口頭データ資料の文字化の方法

本研究では、MDレコーダーで収録された資料を文字化した。文字交換にあたって、ザトラウスキー（1993）及び宇佐美（2007）を参照にし、表4-4に記載されている記号を用いた。日本語の表記習慣に従って「漢字仮名まじり」で表記したが、産出された音声は日本語で表記が不可能な場合、ローマ字も用いた。また、ロシア語でなされた発話はキリル文字で表記した。

表4-4：文字化における記号

記号	解釈
//	//の後の発話が次の番号の発話と同時に発せられ、2つの発話が重複していることを示す。
=	この記号で示される2つの発話が続けて発せられたことを示す。
(0.5)	()の中の数字は2分の1秒の単位で沈黙の長さを示す。
—	「—」の前の音節が長く延ばされて発音されていることを示す。延長している長さに応じて「—」の数を多くする。
。	文が終了することを示す。
、	① 短い沈黙を示す。 ② 日本語表記の慣例の通りに読点をつける。
[]	① 文脈的情報の追加 ② 日本語発音と異なった場合、表現しなかった語句を示す（例：おっとこのひと—[男の人]）。
{ }	{ }の中に、笑いながら発話されたものを{笑いながら}、笑いを{笑い}のように記す。
~~~~~	笑いながらの発話であることを示す。
#	聞き取り不可能であった部分につける。#マークの数を推測される拍数に応じてつける。
XXX、 YYY、 ZZZ	トランスクリプトの公開にあたって、固有名詞などのインフォーマント及び他者のプライバシーの保護のために表記できない単語を示すためにXXXを用いる。ただし、1つの発話において公開不可能な単語が2つ以上現れる場合、XXX・YYY・ZZZという記号によって区別をつける。

尚、文の決定に際しては、宇佐美（2007）を参照にし、イントネーションを基準にした。つまり、例 4.1-4.2 のように、先行部が構造的には既に独立した文になっているが、話者のイントネーションから完全な文とみなされない場合、先行部・後続部をまとめて1つの文と考えた。

（例 4.1）あー（3）難しいですから {笑い} からです。

（「半構造化インタビュー」、インフォーマント 2k2）

（例 4.2）あー、もしー（1）うーんー（1）えーあの人はー（1）え運転、するつもり（0.5）  
つもりです、え、彼はーうーんー（1）えービールがー、うーんー、だめです。

（「ストーリー構成法」、インフォーマント 2k4）

#### 4.1.4.3. 表現の形式的な分類

木山（2003）を参照に、「から」「ので」「のだ」の使用を、「規範」と「中間言語的な特徴」という二つのタイプに大きく分類し、さらに各タイプを先行語によって類別した。各標識が何を示しているのかを表 4-5 の後に説明しておく。尚、規範的な形式には「型」をつけ、中間言語的な形式には「型」をつけないことにした。

表 4-5：形式的分類

		動詞・イ形容詞等が先行語	名詞・ナ形容詞等が先行語
規範	から	「から型」	「だから型」
	ので	「ので型」	「なので型」
	のだ	「のだ型」	「なのだ型」
中間言語的な特徴	から	「だ+から」 「～ます+から」	「だ-から」
	ので	「な+ので」	「な-ので」
	のだ	「な+のだ」 「～V ます+のだ」 「～I-Adj です+のだ」 「～V ました+のだ」 「～I-Adj でした+のだ」	「な-のだ」 「～N です+のだ」 「～Na-Adj です+のだ」 「～N でした+のだ」 「～Na-Adj でした+のだ」

まず、「から」の分類方法から見ていく。庵（2001：215）が指摘しているように、「から」は辞書形・述語形につき、動詞とイ形容詞の間には形式に違いがないが、ナ形容詞と名詞

の場合、「から」は「だから」という形になる。この「から」の規範形式を以下「から型」と「だから型」の2つに分類する。ロシア語を母語とする日本語学習者が実際に産出する規範形式とずれる形式を以下「中間言語的な特徴」と呼び、例 4.3–4.4 のように動詞・イ形容詞と「から」の間に「だ」を入れる現象を「だ+から」と示す。例 4.5–4.6 のように、名詞・ナ形容詞に後接する「から」の前に「だ」が抜けている現象を「だ-から」と表示する。また、田中（2004：286）が指摘しているように、文末の「から」には「ですから」と「からです」という2つのタイプが用いられ、「ですから」の場合、普通体と丁寧体への接続が可能であるのに対し、「からです」の前には普通体しか用いられない。この「からです」の前に現れる丁寧体という中間言語的な形式（例 4.7）を「～ます+から」とする。

(例 4.3) 退職するだから

(例 4.4) 寒いだから

(例 4.5) 元気 から

(例 4.6) ロシア人 から

(例 4.7) 行きます からです

「ので」に関しては、庵（2001：215）に記載されているとおり、この接続助詞が名詞修飾形につく。本稿では、動詞・イ形容詞につく「ので」の規範形式を「ので型」とし、名詞・ナ形容詞と「ので」の間に「な」がついている規範形式を「なので型」と呼ぶことにする。中間言語的な形式においては動詞・イ形容詞の後「な」要素を添加したもの（例 4.8–4.9）を「な+ので」と表示する。一方、名詞・ナ形容詞に後接する「ので」の前に「な」を入れない中間言語的な形式（例 4.10–4.11）を「な-ので」とする。

(例 4.8) 海外へ行くなので

(例 4.9) 冷たいなので

(例 4.10) にぎやか ので

(例 4.11) 日本人 ので

「のだ」に関しては、野田（1997：27）が規範形式とする動詞・イ形容詞にそのまま後接する「のだ」を以下「のだ型」とし、名詞・ナ形容詞に「なのだ」の形で後続する「のだ」を「なのだ型」と呼ぶことにする。この形式と異なる「な」要素を添加したもの（例 4.12–4.13）及び「必須要素の欠如」（例 4.14–4.15）をそれぞれ「な+のだ」と「な-のだ」

と表示する。また、野田（1997：28）が形式的な誤用とされる丁寧体（「です」「ます」と「んです」の組合せ（例 4.16-4.17）を、「～V ます+のだ」、「～V ました+のだ」、「～I-Adj でした+のだ」、「～I-Adj です+のだ」、「～N です+のだ」、「～N でした+のだ」、「～Na-Adj です+のだ」、「～Na-Adj でした+のだ」と呼ぶことにする。

（例 4.12）あーはっきり言えるなんですけどー

（例 4.13）でかいなんだけど

（例 4.14）研究生なんだけど

（例 4.15）静かなんだけど

（例 4.16）影響与えましたんですね。

（例 4.17）日本の首都でしたんですね。

上記のように、規範形式には先行語が動詞・イ形容詞の場合を「から型」、「ので型」、「のだ型」とし、先行語が名詞・ナ形容詞等の場合を「だから型」、「なので型」、「なのだ型」とした。先行語の形式は基本形（述語形？）、タ形、否定形（非過去・過去）であるにも関わらず、「から型」、「だから型」、「ので型」、「なので型」、「のだ型」、「なのだ型」というラベルを用いた。中間言語的な形式に関しては、ないはずの要素の添加をそれぞれ「だ+から」、「～ます+から」、「な+ので」、「な+のだ」、「～V ます+のだ」、「～V ました+のだ」、「～I-Adj でした+のだ」、「～I-Adj です+のだ」、「～N です+のだ」、「～N でした+のだ」、「～Na-Adj です+のだ」、「～Na-Adj でした+のだ」とし、必須要素の欠如をそれぞれ「だ-から」、「な-ので」、「な-のだ」とした。

#### 4.1.4.4. 表現の文中位置という観点からの分類

木山（2003）の文構造と位置の分類を借用し、水谷（1992）、尾方（1993）、野田（1997）、庵（2001）、木山（2003）、田中（2004）を参照に「だから」、「から」、「ので」、「のだ」の文構造的な特徴を表 4-6¹⁹³にまとめた。この表から分かるように、「だから」は、単文及び複文において、基本的には、文頭で用いられているが、木山（2003）が指摘しているように、話し言葉において、文中でも使用される。「から」に関しては、文頭にcoming用法はないが、単文に文末、複文に文中・文末に現れるのは普通であると言える。「ので」は、基本的には接続助詞として捉えているが、水谷（1992）が指摘しているように文末にも現れる。

¹⁹³ 表 4-6 は次のページに提示されている。

「のだ」に関しては、野田（1997）に記載されているように、「のだ」が文末及び節末の形式であり、単文・複文の文頭及び単文の文中に現れない。

表 4-6：言語形式の文中位置

		「だから」	「から」	「ので」	「のだ」
単文	文頭	だから、窓を閉めた。 木山（2003：77）	✕ ¹⁹⁴	✕	✕ 野田（1997：9）
	文中	窓を、だから、閉めた。 木山（2003：77）	✕ ¹⁹⁵	✕ 田中（2004：288） 尾方（1993：845） 庵（2001：215）	✕ 野田（1997：9）
	文末	✕ 木山（2003：77）	寒いから。 木山（2003：77）	ちよつと失礼します。客が待っていますので。 水谷（1992：61）	そこで、私にちよつと考えがあるの。 野田（1997：9）
複文	文頭	だから、暖房を付けて、窓を閉めた。 木山（2003：77）	✕ 木山（2003：77）	✕	✕ 野田（1997：9）
	文中	暖房を付けて、だから、窓を閉めた。 木山（2003：77）	寒いから、窓を閉めた。 木山（2003：77）	雨が降っている ので、部屋で本を読んでいる。 田中（2004：290）	雨が降っている ので、雪が降っている のではない。 野田（1997：147）
	文末	✕ 木山（2003：77）	雨も降って、寒いから。 木山（2003：77）		児童画コンクールの審査会があるからでてこいというのである。 野田（1997：97）

¹⁹⁴ 「✕」という記号はその言語形式がこの文中位置に現れないことを示す。

¹⁹⁵ 木山（2003：77）は「寒いからです。」のような「から」を単文の文中におけるものとして位置づけているが、本稿ではこのような「から」を文末におけるものとする。

#### 4.1.5. 調査結果

ここまでは4.1.1節「目的」、4.1.2節「インフォーマントのプロフィール」、4.1.3節「調査方法と実施手順」、4.1.4「分析方法及び分析単位」について述べてきたが、本節では、パイロット・スタディの調査結果を4.1.5.1節「言語形式の産出頻度」、4.1.5.2節「中間言語的な形式」、4.1.5.3節「言語形式の非用」、4.1.5.4節「言語形式の文中位置と節の構成にみられる特徴」の順で考察していく。

##### 4.1.5.1. 言語形式の出現回数

パイロット・スタディの資料において出現した表現をインフォーマントごとにまとめると、表4-7のようになる。

表4-7：パイロット・スタディで産出された言語形式

言語形式	産出数				
	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	全体
「のだ」	31	51	10	14	106
「だから」	7	23	21	37	88
「ので」	7	21	27	0	55
「から」	0	11	2	34	47
「わけ」	0	1	2	0	3
「ため」	0	2	0	0	2
「ということで」	0	1	1	0	2
「それで」	0	0	2	0	2
「せいで」	0	0	1	0	1

表4-7から分かるように、留学生インフォーマントの発話に「のだ」、「だから」、「ので」、「から」、「わけ」、「ため」、「ということで」、「それで」、「せいで」という9種の原因・理由を表す表現が見られた。これらの原因・理由を表す言語形式のうち多く使用されたのは、「のだ」(106箇所)、「だから」(88箇所)、「ので」(55箇所)、「から」(47箇所)である。「わけ」、「ため」、「ということで」、「せいで」、「それで」の産出数は非常に少なかったため、分析の対象外とし、産出数の多い4種を中心に考察する。

上記の言語形式の産出頻度をインフォーマント別に見ると、「から」の過半数（72%）が日本での滞在が最も短いEさんの発話に現れていることが分かる。またEさんの発話には、「ので」の産出は全くみられない。「から」及び「ので」に対し、「だから」及び「のだ」は全員の発話にみられる。

#### 4.1.5.2. 中間言語的な形式

留学生インフォーマントの発話に出現した「だから」、「から」、「ので」、「のだ」を見ると、これらの表現には「規範形式」だけではなく、「中間言語的な形式」も含まれている。それぞれの表現の「規範形式」と「中間言語形式」をインフォーマントごとにまとめると、表4-8のようになる。

表4-8：接続形式別産出（全員）

言語形式			産出数			
			Bさん	Cさん	Dさん	Eさん
だから			7	23	21	37
から	規範形式	「から型」	0	7	2	20
		「だから型」	0	2	0	14
	中間言語的な形式	「だ+から」	0	2	0	0
		「だ-から」	0	0	0	0
ので	規範形式	「ので型」	5	3	23	0
		「なので型」	2	8	4	0
	中間言語的な形式	「な+ので」	0	10	0	0
		「な-ので」	0	0	0	0
のだ	規範形式	「のだ型」	20	48	3	9
		「なのだ型」	0	3	2	5
	中間言語的な形式	「な+のだ」	0	0	5	0
		「な-のだ」	0	0	0	0
		「～Vました+のだ」	2	0	0	0
		「～I-Adjでした+のだ」	0	0	0	0
		「～Nでした+のだ」	9	0	0	0
		「～Na-Adjでした+のだ」	0	0	0	0

表 4-8 の「中間言語形式」を種類別に見ると、「だ+から」(2回)、「な+ので」(10回)、「な+のだ」(5回)、「～V ました+のだ」(2回)、「～N でした+のだ」(9回) が用いられていることが分かる。次に、「規範形式」と「中間言語的な形式」をインフォーマント別に比較する。C さんは「から」の場合、「規範形式」の「から型」7回に対し、中間言語的な形式「だ+から」(例 4.18) を 2回使用し、「ので」の場合、中間言語形式「な+ので」(例 4.19) が 10回であるに対し、「規範形式」の「ので型」を 3回しか産出してない。

(例 4.18) 137C: そうですね。だから、あいう研究方法やっぱり私の研究には、うーん、なんか不適當と言えども、私あいう研究方法を使うことができないです。

138A: あー

139C: 使ったことがないです// (1.5) から。

(例 4.19) 119C: だから、ん、イメージの一定義はいろいろ存在するが

120A: うーん

121C: するですので、自分の、私の研究には一番適当なフ//フフ

122A: {笑い}

123C: 定義も探さないといけない//ですので

また、D さんの発話には「のだ」の「規範形式」が 3回出現したのに対し、動詞・イ形容詞と「のだ」の間に「な」が添加されている「な+のだ」の形式(例 4.20) が 5回見られた。

(例 4.20) 191D: なんか (1) k、ある行動はあったかなかったが

192A: うん

193D: あー、まーある程度

194A: うーん

195D: (1) あーはつきり言えるなんですけどー

B さんは「のだ」(31回) を用いた際に、「規範形式」の「のだ型」を 20回使用したのに対し、「～V ました+のだ」(2回) と「～N でした+のだ」(9回) という丁寧体と「のだ」の組み合わせからなる中間言語的な形式(例 4.21) を産出した。

(例 4. 21) 217B : あっとはー、この、日本にはー、四つの、えー、正教宣教団附属女子学校でしたんですね。

218A : あー

219B : そしてこのー女子学校のこ、の歴史をそれぞれ、まー、いろいろー、あー、述べました。あとは、今私まー非常に (1) うーん (1) なんか、関心を、持つのはー (1.5) えー、キリスト教のミッション・スクールは//日本の女子きいくと教育とー

220A : はい

221B : 日本のー、なんか、日本じよせーい//ー史においては非常にー、なんか、大きなー

222A : はい

223B : 影響与えましたんですね。

上記のように、中間言語的な形式には「から」、「ので」、「のだ」の前にはないはずの要素を付加したもののみが見られた。

#### 4. 1. 5. 3. 言語形式の非用

今回の調査では、留学生インフォーマントが特定の言語形式を使わずに原因・理由を述べていたケースも見られた。具体的には、B さんがインタビューの最初に研究テーマの選択きっかけというインタビューアの質問に対して言語形式を用いずに以下のように答えている。

(例 4. 22) 019A : どうしてそのテーマにされたんですか。

020B : あーーー、まー、このテーマ、日本におけるロシア正教会の歴史というテーマをやっているのは、もう八年間ぐらいですね。

021A : あー

022B : そう、なんか向こうの大学

023A : はい

024B : XXX 大学に入学してから//ずっとこのテーマをやっています。

上記の留学生インフォーマントの答えをロシア語に訳すと、原因・理由が述べられていることが分かるが、日本語母語話者の観点からは、B さんの日本語の発話が 019A の質問に対

する答えとなっていないようである。つまり、024Bの文末に「やっているからです」を用いない限り、Bさんの発話に原因・理由が述べられているものとして認識されないことである。そのため、日本人であるインタビュアーが後続の発話028Aにおいて改めてその研究テーマの選択理由について尋ねている（例4.23）。

（例4.23）028A：はー。最初は どうしてそのテーマにされたんですか。

029B：それはすごく難しい//質問ですねー。

030A：{笑い}

031B：もう、学校の時にもなんかロシア正教、そしてロシア正教の歴史に非常に興味を持って

032A：は//ーい

033B：なんか学校の時にも高等学校の時にも//なんかいろいろなことを

034A：はい

035B：調べていましたけ//ど

036A：はー//ー

037B：そう、XXX大学の東洋学部に入学してから

038A：はい

039B：まー、またこの分野を深く調べましょう。// {笑い} 思っていました。

3.3.2 節に述べたように、ロシア語では、無接続詞複文の使用により、原因・理由及び結果の表現を使用せずに述べることも可能であり、Bさんは例4.22の発話においてその母語の特徴を日本語に転移させているのではないかと推測できる。今回の場合、母語干渉はBさんにとって社会的に不利な結果をもたらしてはいないが、円滑的なコミュニケーションという観点からは妨げとなると言える。特定のマーカールを用いないで原因・理由を述べようとするケースはBさんのインタビューの最初のみ現れ、その後のインタビューではずっと原因・理由を表す言語形式を使用していることが分かる。つまり、このインフォーマントはインタビュー中に自己モニターすることによるためか、目標言語に近い発話を産出するように自己調整していっていると推測できる。

#### 4.1.5.4. 言語形式の文中の位置と節の構成にみられる特徴

次に、留学生インフォーマントの発話を文の構造という観点から分析したところ、表 4-9 の結果が得られた。

表 4-9：言語形式の文中の位置（全員）

		「だから」	「から」	「ので」	「のだ」
単文	文頭	21	✕ ¹⁹⁶	✕	✕
	文中	12	✕	✕	✕
	文末	✕	16	9	33
複文	文頭	32	✕	✕	✕
	文中	24	25	36	14
	文末	✕	6	8	55

表 4-9 から分かるように、インフォーマントの発話には「だから」が文頭及び文中、「から」、「ので」、「のだ」が文中及び文末に出現した。具体的には、単文において、文頭の「だから」(21 個)、文中の「だから」(12 個)、文末の「から」(16 個)、文末の「ので」(9 個)、文末の「のだ」(33 個)が見られた。複文においては、文頭の「だから」(32 個)、文中の「だから」(24 個)、文中の「から」(25 個)、文中の「ので」(36 個)、文中の「のだ」(14 個)、文末の「から」(6 個)、文末の「ので」(8 個)、文末の「のだ」(55 個)が産出された。複文における「から」、「ので」に再び焦点を当てると、文末より文中に現れるケースが多いことが分かる。

次に、複文の構造という観点から見ると、今回の調査では、2 つ以上の節によって原因・理由を表現するケースが見られた。インフォーマントが、幾つかの原因・理由を述べる際、因果関係を表す形式の使用も複数にわたっていることが見られた。例えば、例 4.24 から分かるように、D さんは複節の文によって原因・理由を説明し、各節末に「ので」を用いている。また、E さんは、例 4.25 において、文頭、文中、文末に「だから」を使用している。例 4.26 の C さんは文頭に現れた「だから」の他に、各節末に「ので」を用いている。

(例 4.24) 302A：あー何年分ぐらい、読むんですか。

303D：(3.5) 明治の前半やりたかった、た^{のでー}、あー (4) なんかやってみ

¹⁹⁶ 「✕」という記号はその言語形式がこの文中位置に現れないことを示す。

てすごーくたくさんの量がありますので

304A : うーん

305D : それで、日本とロシアの関係の中の一つに

306A : う//ん

307D : 集中することにしました。

308A : うーん

(例 4. 25) 109A : インドも入れるん？

110E : mーまーそれはーあのーま、アジアの一部だか//ら

111A : あ、アジアの一部

112E : アジア太平洋、だから太平洋ーに出る国とアジアに入ってる国とか。

だからアジアと言うのもちょっと微妙で

(例 4. 26) 117C : で、あー、イメージということ何かというと決まった方法論とかはないです。

118A : あー

119C : だから、ん、イメージの一定義はいろいろ存在するが

120A : うーん

121C : するですので、自分の、私の研究には一番適当なフ//フフ

122A : {笑い}

123C : 定義も探さないといけない//ですので

124A : あー

更に、原因・理由を述べるインフォーマント C、D、E の発話にインタビュアーの相槌が入り込んでいた時に、因果関係を表す言語形式が連続的に出現していることが確認できた。インフォーマントは、因果関係の存在を強調するために、インタビュアーの相槌の後で「だから」を用いている。以下にその例を挙げる。

(例 4. 27) 577A : あー、じゃ今はどうやって資料とか探していらっしゃるんですか。

578C : うーん (1. 5) 資料というのはー教科書ですね。

579A : あ、教科//書

580C : なんか、ぶん、うん、教科書、ほとんど教科書ですので//だから探

すのはあまり

581A : あ

582C : 問題がないです//、けどー文献と、してー (1.5) うーん (1) まー

583A : あー

584C : いろんな記事は出てる $\square$ ですけど、それはもうなんとなく調べてきましたですけど。

#### 4.1.5.5. まとめ

パイロット・スタディの結果をまとめると、何らかの言語形式によって原因・理由を述べている事例同様、わずかではあるが、因果関係を表す言語形式が使用されるべき個所に現れない事例も確認できたと言える。これは、ロシア語において因果関係を担う二つの事象について述べる際、言語形式を用いずに表現できるという特徴が反映されていると推測できる。この原因・理由を表わす言語形式のない発話は、円滑的なコミュニケーションという観点からは妨げとなる場合(例 4.22-4.23)もあることが指摘できる。また、非用の事例は4名のうち1名のインタビューの最初のみに出現したことから、上級レベルでは母語干渉の程度は低いのではないだろうか。

言語形式に関しては、出現回数の最も多かったものから順に「のだ」、「だから」、「ので」、「から」の使用がみられた。ここで興味深いのは、「から」の過半数(72%)が日本での滞在が最も短いEさんの発話に現れることである。今回の調査ではインフォーマント全員がコンテキストによって単文あるいは複文で原因・理由を説明しているが、その際に用いられている表現には偏りがあると言える。単文の場合、文頭の「だから」が多数を占めており、文末に現れる表現では「のだ」が好まれる傾向があることが分かった。複文においても、文末の「のだ」は多数ではあるが、全体としては、文中に現れる表現の使用が最も多く観察できた。複雑な発話においては、複数の言語形式が用いられる場合もあり、そのうち、その言語形式のすぐ後に入り込んだインタビューアの相槌を受けて「だから」によって因果関係の存在を連続的に強調するケースもあった。

また、今回の調査では、インフォーマントが上級レベルの日本語学習者であるにも関わらず、形態的な誤用を起こしていたという現象も見られた。同じ中間言語形式の産出が2回以上見られたことから、学習者が上級レベルに至っても、内容の伝達に集中した場合、

不適切な形態素を加える、あるいは必須となっている形態素を落とす可能性があると言える。

以上、パイロット・スタディの結果について考察してきた。パイロット・スタディで用いられたデータは限られたデータではあるが、これまで対象とされてこなかったロシア語母語話者の原因・理由を表わす表現の使用を伴ういくつかの中間言語的な特徴を明らかにすることができたと思われる。そこで、その結果を基に学習者の中間言語に関して仮説を立て、ロシアの大学という目標言語のインプットが限られた環境において日本語を身につけようとする学習者にこれらの特徴が見られるかを調べるために、ロシアにおいて本調査を行った。尚、仮説及び本調査の詳細はそれぞれ4.2節と4.3節に詳述する。

#### 4.2. 仮説

本研究においては、先行研究及びパイロット・スタディを基に、次の仮説を立てた。

ロシアでの教室環境において日本語を学ぶ学習者が原因・理由を述べる発話には以下の特徴が見られる。

- ① 原因・理由を表す言語形式の産出には、習得段階に応じて、まず「から」の過剰使用がみられ、続いて「だから」及び「ので」、そして「のだ」が開始されることが予想される。
- ② 産出には中間言語的な形式が多くみられる。
- ③ 因果関係を表す言語形式を使わずに表現する傾向がある。

仮説①の条項に関しては、栃木（1995）、新村（1996）、木山（2003）、清水（2003）、近藤（2004）において「から」の使用が他の表現の使用を上回ると指摘されている。また、本研究のパイロット・スタディにおいて「から」の過半数（72%）が日本での滞在が最も短いインフォーマントの発話に現れたことから、より低いレベルの学習者に「から」の過剰使用が見られると予想される。また、木山（2003）では多様な母語を持つ学習者の場合、「から」の後で「だから」が習得される傾向が観察されており、ロシア語を母語とする学習者にも同じような順序が見られると予測できる。さらに、栃木（1995）、新村（1996）、近藤（2004）において日本語学習者における「ので」「のだ」の使用が少ないという指摘から、これらの表現の使用開始は習得段階が進んでから見られるようになると思われる。

②の条項に関しては、上級レベルの日本語学習者の発話にも形態的な誤用が見られることから、まだ目標言語に近いレベルに至っていない学習者の場合には、このような中間言語的な形式¹⁹⁷が高い頻度で起こると推測される。

③の条項に関しては、パイロット・スタディの結果では、上級学習者は自己モニター能力によるためか、原因・理由を表わす表現の非用はわずかであった。しかし、日本語の習得段階が進んでいない学習者の場合、伝達内容に意識を集中させると、言語知識にアクセスする際の处理的な手続きが遅くなり、母語の影響をより強く受けるのではないかと推測できる。

この仮説を検証するために、本調査ではロシアのS大学で日本語を主専攻としている日本語学習者を対象に以下の調査を行った。

### 4.3. 本調査

本調査では、異なる習得段階における日本語学習者の実際の発話を分析し、4.2節で取り上げた仮説を支持する証拠があるのかどうかを探る。本調査に関しては、4.3.1節「S大学における日本語教育」、4.3.2節「インフォーマントのプロフィール」、4.3.3節「調査方法と手順」、4.3.4節「データ資料及び分析方法」の順で論じていく。

#### 4.3.1. S大学における日本語教育

仮説の検証には、ロシアのS大学で日本語を専攻とする日本語学習者の口頭データを用いることから、ここではこの教育機関における日本語教育について述べておく。

この大学における日本語教育は(A)東洋学部日本文学科・極東諸国歴史学科、(B)特別東洋学部という2つの部門で行われているが、本調査の対象となる前者のみについて論じる。東洋学部日本文学科・極東諸国歴史学科には2つの専攻があり、1年おきに文学科と極東諸国歴史学科(日本史)の学生を受け入れる制度が設けられているが、両方とも日本語を主専攻としている。ロシアにおける高等教育改革に伴い1995年から学士課程(バカラブリアート)4年、修士課程(マギストラトゥーラ)2年の6年制となっている。授業タイプには、a)基本講義(日本学入門、日本地理、日本史、日本文学史、日本の民族学など)、b)基本ゼミナール(日本語演習)、c)専攻講義(日本語の形態的構造、日本仏教史、日本に

---

¹⁹⁷ 「中間言語的な形式」に関しては、4.1.4.3節に詳述しているが、簡単にまとめると、先行語との接続という観点から名詞・ナ形容詞に後接する「から」の前に「だ」が付けられているものなどを指す。

おける言語の現状など)、d) 専攻ゼミナール (日本の言語学のテキスト読解演習、科学のテキストの読解演習など) がある。基本ゼミナールの日本語演習は各学年に実施されており、日本語教育の中心となる授業科目である。以下に、日本語教育関連の必須科目を示す。

表 5-1 : S 大学日本語科における日本語教育プログラム (2006-2007 年度、第 2 学期)

学年	授業科目名	時間数/週
2 年	日本の新聞雑誌の読解演習 (各グループの担当教員が異なる)	4 時間
	日本語の会話 (母語話者 (1 名) と非母語話者 (1 名) の担当教員の交代によるリレー授業)	4 時間
	日本語の文法	2 時間
	日本史のテキストの読解演習	2 時間
3 年	日本の新聞雑誌の読解演習	4 時間
	日本語の会話 (日本語を母語とする担当教員により)	4 時間
	露日通訳翻訳演習	2 時間
	日本の文芸テキストの読解演習	2 時間
4 年	日本の新聞雑誌の読解演習	4 時間
	日本語の会話 (日本語を母語とする担当教員により)	4 時間
	日本史のテキストの読解演習	2 時間
	日本の文芸テキストの読解演習 (各グループの担当教員が異なる)	4 時間

表 5-1 から分かるように、S 大学日本語科においては、古典教育に力を入れてきたが、最近では実用日本語も重視している。日本語教師は、調査時点で現地人教師 (7 名) 及び日本人教師 (2 名) であり、日本語コースでは、ロシア語を媒介語とした授業が過半数を占めているが、日本語母語話者によるインプットもある。教材としては、a) 日本で作られた教科書『みんなの日本語 I・II』、『日本語中級 J301-基礎から中級へ』、『日本語中級 J501-中級から上級へ』、『新聞で学ぶ日本語』など、b) ロシアで出版されたもの『中級における和露・露和通訳』、c) 生教材 (新聞・小説など) を用いている。また、『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』及び『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』を参考にして、文法を教える教員もいる。全体的にいえば、担当教員は授業に扱う教材を自由に決められる状況に置かれている。さらに、学内には AV 教室が設置されており、

学生が『ヤンさんと日本の人々』、『楽しく聞こう』、『毎日の聞き取り』などの視聴覚教材を手軽に使用できるようになっている。留学プログラムとしては新潟大学人文学部との交流があり、日本への留学が可能となっている。到達目標としては、日本語能力試験1級合格が設定されている。

原因・理由を表わす表現では、「おかげで」「から」「ことから」「し」「せいで」「それで」「だから」「ため」「ですから」「で」「どうして」「なぜ」「なぜなら」「なんで」「によって」「のだ」「ので」「もの」に関して、1年目に導入される。原因・理由としての「～テ形」及び「原因」「理由」「結果」「に起因する」「に由来する」「ゆえに」「わけ」などはその後であるが、具体的な導入時期は担当教員の裁量にゆだねられる。

#### 4.3.2. インフォーマントのプロフィール

本調査では、ロシア語を母語とする日本語学習者にインフォーマントとしての協力を得た。以下に、インフォーマントのプロフィールを挙げていく。

本調査に当たって、S大学の東洋学部長、日本語講座主任教授、担当教員の協力を得て、日本文学科・極東諸国歴史学科の2年生から4年生（46名）にインフォーマントになってもらった。本調査では、2年生は15名全員、3年生は16名中14名、4年生は20名中17名が参加した。1年生に関しては、彼らのほとんどが日本語を学習しはじめたばかりの状態にあり、口頭でのやり取りに対応できるまでにはまだ至っていないと判断されたため、調査対象外とした。

調査対象者のプロフィールに関しては、表5-2¹⁹⁸にまとめた。表5-2のように、2年生及び4年生の専攻は極東諸国歴史学（日本史）であり、3年生は日本文学を中心に勉強している。インフォーマントの多数は大学に入学してから日本語を勉強し始めたが、小学校及び中学校で勉強していた学生もいる。日本語学習動機としては、多くの場合、日本、日本語、日本文化、日本史、日本文学への興味を取り上げている。インフォーマントのほとんどは日本へ行ったことがないが、旅行・交流で2週間前後の短期滞在（2年生3名、3年生1名、4年生2名）及び留学などで約1年長期滞在（4年生3名）を経験した者もいる。2回留学を経験した者1名いた。

---

¹⁹⁸ 表5-2は次のページに提示されている。

表 5-2 : S 大学日本語学習者のプロフィール

		2 年生 (2005 年入学)	3 年生 (2004 年入学)	4 年生 (2003 年入学)
人数	グループ G	5 名	8 名	10 名
	グループ K	10 名	6 名	7 名
専攻		極東諸国歴史学科 (日本史)	日本文学科	極東諸国歴史学科 (日本史)
日本語学習歴		大学入学前に 少し勉強した-1 名 大学入学後 -14 名	中学校で 勉強し始めた-1 名 2002 年から-1 名 大学入学後-12 名	小学校及び中学校で 勉強し始めた-4 名 2002 年から-2 名 大学入学後-11 名
大学で日本語を勉強 し始めた動機		<u>以下の分野への興味</u> 日本語 -7 名 日本 -3 名 日本文化 -2 名 日本史・文化-1 名 日本語・文化-1 名 日本文学 -1 名	<u>以下の分野への興味</u> 日本文化 -3 名 日本語・文化-2 名 日本語 -2 名 アニメ -2 名 文学・映画 -1 名 文学・文化 -1 名 日本 -1 名 <u>日本・文化 -1 名</u> 分からない-1 名	<u>以下の分野への興味</u> 学校での科目-3 名 日本 -3 名 日本語 -3 名 日本史・文化-2 名 文化 -1 名 日本の文学 -1 名 日本史 -1 名 <u>お父さんの夢-1 名</u> 家族での伝統-1 名 分からない-1 名
来日経験		有り-3 名 無し-12 名	有り-1 名 無し-13 名	有り-5 名 無し-12 名

#### 4.3.3. 調査方法と手順

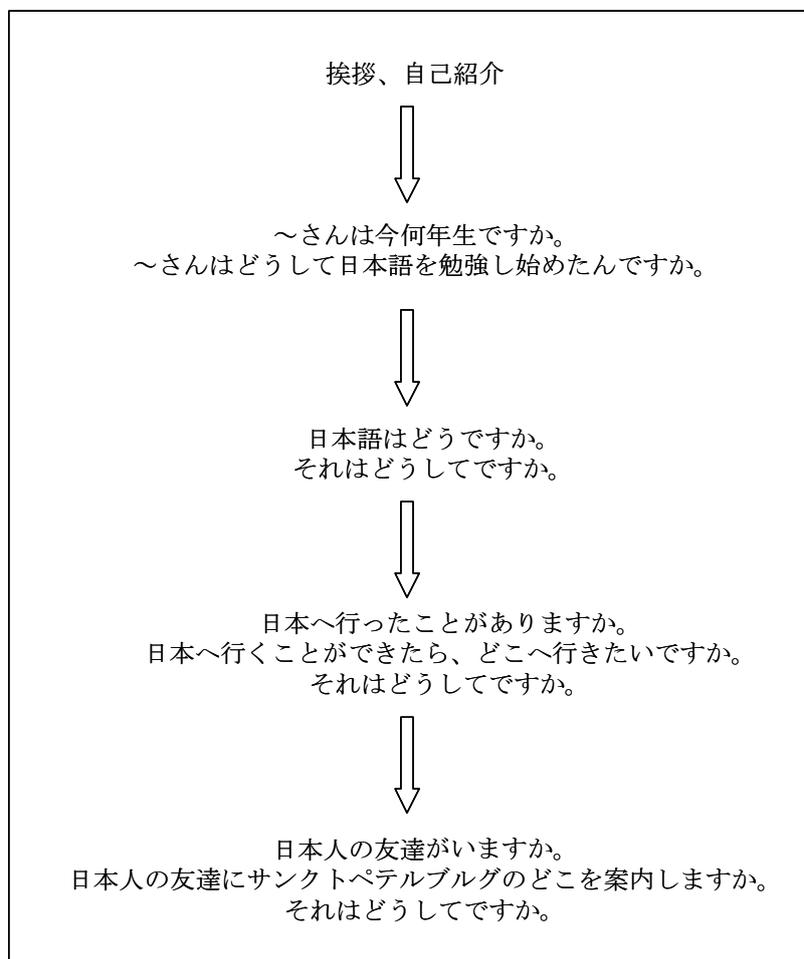
本調査では、調査対象となった日本語学習者のレベル（初級から上級（下））を考慮に入れ、「半構造化インタビュー」、「ストーリー構成法」、「フォローアップタスク」という 3 つのデータ収集方法を用いた。上記の方法によりデータのトライアングレーションが可能となり、本調査の目的を達成する土台が築かれると言える。

##### 4.3.3.1. 半構造化インタビュー

本調査においては、より自然な言語データを収集する方法として「半構造化インタビュー」を用いた。以下のアウトライン（図 5-1）を基に、内容をインフォーマントのレベルに合わせて、インタビューを行った。会話の展開はインフォーマントがインタビュアー（著

者) の質問に答える形に設定した。

図 5-1：半構造化インタビューのアウトライン



こうして「半構造化インタビュー」を用いることにより、学習者は実際のコミュニケーションにおける伝達内容に意識を集中させる状況に置かれており、そのための彼らの実際の運用の際に用いる言語知識¹⁹⁹が観察されやすくなっていると言える。また、「半構造化インタビュー」のアウトラインから分かるように、学習者の発話中に原因・理由を表わす表現を誘出させるために、インタビュアー（著者）の「どうして」を用いた疑問語質問文の使用が義務付けられている。尚、「半構造化インタビュー」の実施に関しては、4.3.3.4 節「実施手順」で後述する。

¹⁹⁹ 第 2 章で述べた手続き知識に相当する。

#### 4.3.3.2. ストーリー構成法

上記の「半構造化インタビュー」の内容は学習者にとって身近な話題に限定されているが、「ストーリー構成法」の場合、アカデミック・ジャパニーズの枠内で原因・理由の説明を必要とするいくつかの異なる場面を設定した。絵に関しては、『日本語の教え方スーパーキット 2』の絵カードから調査対象の項目を引き出すためにもっとも妥当なものと考えられる5枚を選択した。絵の詳細は次のとおりである。

1. 風邪で学校での授業を休んだ女性の絵カード
2. 赤ちゃんを起さないように静かに歩いている男性の絵カード
3. これからの運転を理由とし、ビールを断る男性の絵カード
4. 少年とテレビの間の距離を気にする女性の絵カード
5. 大雪で不通になった電車と駅のホームでいらしている乗客の絵カード

絵カード1及び絵カード2の場合、「から」の使用が期待されるが、発話の構成によって「だから」、「それで」、「ので」、「のだ」の使用も可能である。絵カード3及び絵カード4では、二人の人物の人間関係の把握のされ方によって「から」「ので」のいずれかが選択されることになっている。絵カード5の場合、事柄の客観的叙述が要求されていることから、「ので」の使用が相応しい。

尚、絵カードは本稿末に資料としても添えている。

#### 4.3.3.3. フォローアップタスク(日本語の因果関係を表す表現の記述)

原因・理由を表す表現の使用状況を明らかにするもう一つの方法としては、インフォーマントの調査対象項目に関する宣言的知識を測定するフォローアップタスクを用いた。具体的には、「因果関係を表す表現について述べなさい」と指示し、回答形式を自由型とした。その際、学習者にとって説明しやすい言語で書いてもらった。

#### 4.3.3.4. 実施手順

調査は、2007年2月にS大学校内において実施した。この時期にした理由は、1) 後期授業が始まったばかりで母語の影響が見られやすいこと、2) 授業における区切りが夏休み(学年間)ほど長くなく、運用能力の喪失のプロセスが進んでいないことである。この調査を、同大学日本語講座主任教授及び担当教員の協力を得て、授業の一環として行った。手順としては、授業開始時に担当教員に紹介してもらった上で、口頭面接及び5枚の絵の記述について大まかに説明した。インフォーマントに調査対象となっている言語項目を知

めた。その後、学習者一人ずつ教室に入ってもらって、対面式での「半構造化インタビュー」及び「ストーリー構成法」というタスクの MD レコーダーでの録音を行った。「半構造化インタビュー」に関しては、4.3.3.1 節で言及した内容に沿って実施するように心掛けていたが、談話の展開に応じて話題の順番及び内容を変更することもあった。インタビューの後で、用意された絵カードを 4.3.3.2 節で取り上げられた順で一枚ずつインフォーマントに見せ、「この絵について話してください」と指示し、その発話を録音した。その際、絵カードを見たとたんに語り始めた学生もいれば、しばらく考えてから絵について述べた学生もいた。いずれにせよ、絵カードは発話中にインフォーマントの前に提示された状態にあった。録音が終わった後、フォローアップタスクとして原因・理由を表す表現について書いてもらった。

#### 4.3.4. データ資料及び分析方法

以上は、4.3.1 節「S 大学における日本語教育」、4.3.2 節「インフォーマントのプロファイル」、4.3.3 節「調査方法と手順」について述べてきた。ここでは、データ資料及び分析方法に触れておく。

##### 4.3.4.1. データ資料

本調査では、口頭データ及び書面にしたデータを収集した。口頭データとしては、「半構造化インタビュー」による会話と絵カードについての物語を録音したものである。各インフォーマントあたりの収録時間を表 5-4 で示す。

表 5-4：各インフォーマントあたりの収録時間

2 年生				3 年生				4 年生							
グループ G		グループ K		グループ K		グループ G		グループ K		グループ G					
2g1	14:43	2k1	8:33	3k1	10:03	3g1	8:36	4k1	6:12	4g1	4:27				
2g2	8:59	2k2	7:25	3k2	5:28	3g2	8:30	4k2	6:19	4g2	6:42				
2g3	9:42	2k3	11:09	3k3	8:06	3g3	10:01	4k3	7:17	4g3	7:26				
2g4	8:59	2k4	10:26	3k4	6:22	3g4	9:04	4k4	5:32	4g4	8:26				
2g5	10:04	2k5	9:21	3k5	6:59	3g5	9:33	4k5	6:42	4g5	5:59				
		2k6	7:48			3k6	5:45			3g6	14:10	4k6	5:21	4g6	6:13
		2k7	9:23							3g7	7:44	4k7	5:35	4g7	5:53
		2k8	6:59							3g8	8:23			4g8	11:43
		2k9	5:42											4g9	10:41
		2k10	5:22											4g10	5:08

表5-4の見方に関しては、各学年を便宜上所属クラスによりグループGとグループKに分け、左の列にインフォーマント番号を挙げ、右の列にその発話収録時間を示す。尚、文字化された口頭データは本稿末に資料として添える。文字化の基準に関しては、4.1.4.2節で既述している。

「半構造化インタビュー」による会話に関しては、多くの場合、図5-1のアウトラインに沿って談話が展開されているが、多少の変異もみられる。主な話題は日本語を勉強し始めたきっかけ、日本語の難しさ、来日経験、日本で訪問したい場所、日本人の友達の有無、サンクトペテルブルグの案内となっている。

ストーリー構成法のタスクにおいては全てのインフォーマントがほとんどの絵カードについて何らかの発話を行っているが、できなかったケースもある。発話できなかったインフォーマント3k1、3k3、3k5はその理由として不安及び語彙不足を挙げた。また、インフォーマント2k10の場合、録音中、問題が発生したため、絵カード3-5に関する発話のデータが失われている。

最後に、フォローアップタスクによるデータに関しては、インフォーマントの回答が多様であり、表現のみが取り上げられているもの、表現とその例文が取り上げられているもの、表現とその例文にロシア語での解説が加わっているものの3つのタイプがみられる。

#### 4.3.4.2. 分析方法

仮説の①-③の条項それぞれを検証するために、今回の調査で得られたデータを次の手順で分析する。まず、仮説①に関しては、「から」の過剰使用が見られるのかを検証するために、文字化された口頭データから原因・理由を表す言語形式の使用数及び使用人数を割り出す。また、「から」「だから」「ので」「のだ」などの言語形式の使用開始を測るために、それぞれのインフォーマント別に原因・理由を表す言語形式を抜き出し、その合計使用数及び異なり語数を集計する。各言語形式の使用者率と産出率を学年で比較し、その結果の一部となった論拠（学年が上がると、「から」の使用が徐々に少なくなる）をノンパラメトリック法であるマン・ホイットニイ検定²⁰⁰ (Mann-Whitney検定)により統計的に検証する。続いて、インフォーマント別の合計使用数と異なり語数（種類数）を図にまとめ、学年別に比較する。さらに、文の構造という観点から、単文及び複文の数を計算し、それぞれ原

²⁰⁰ マン・ホイットニイ検定 (Mann-Whitney 検定) を使用した理由は、このデータが正規分布していないためである。

因・理由の各言語形式を抽出し、産出回数を割り出した上で、学年間で比較する。各言語形式の文中における位置を確認し、文頭、文中、文末における出現頻度を集計する。また、単文、複文それぞれにおける出現頻度を割り出した上で、学年間で比較する。また、学習者の中間言語に焦点を当て、意味・用法の観点から分析する。続いて、フォローアップタスクによるデータを分析し、インフォーマントが原因・理由を表す言語形式として捉えている表現を学年別に集計する。このように集計された表現は学習者が有している言語知識であるため、これらを宣言的知識として認定し、それに対し、「半構造化インタビュー」及び「ストーリー構成法」の結果を手続き的知識の一部として扱い、比較する。仮説②に関しては、原因・理由を表す言語形式の産出に中間言語的な形式が高い頻度で現れるのかを考察するために、口頭データで産出された形式を、先行語との接続という観点から「規範形式」、「中間言語的な形式」にコード化しインフォーマント別に集計する。最後に、仮説③に関しては、特定の言語形式を使わずに原因・理由を述べる母語の影響がどの程度見られるのかを考察するために、非用事例を学年及びタスク別にまとめ、それぞれの回避率を比較する。

## 第5章 結果と考察

本章では、5.1 節「仮説①の検証」、5.2 節「仮説②の検証」、5.3 節「仮説③の検証」を目的に結果として得られたロシア語を母語とする学習者の中間言語に関して詳述する。その上で、5.4 節「結果考察」において分析結果に対する考察を行う。本章の最後に、本調査の結果と考察を踏まえた上で、5.5 節「日本語教育への提言」、5.6 節「今後の課題」について述べる。

### 5.1. 仮説①の検証

#### 5.1.1. 原因・理由を表す表現の合計使用数

今回の調査では、インフォーマントの発話に「から」、「し」、「せいで」、「それで」、「だから」、「ですから」、「～テ形」、「で」、「なぜなら」、「なんで」、「のだ」、「ので」、「もので」、「理由」という原因・理由を表す表現の 13 種が見られた。

表 5-1：原因・理由を表す言語形式の出現回数

	から	し	せいで	それで	だから	ですから	～テ形	で	なぜなら	のだ	ので	もの	理由
使用数	203	6	4	20	9	40	31	7	2	14	28	1	2
人数	43	2	3	6	7	19	15	6	2	8	8	1	2

表 5-1 から分かるように、これらの表現のうち多く使用されたのは、「から」(203 箇所)、「ですから」(40 箇所)、「～テ形」(31 箇所)、「ので」(28 箇所)、「それで」(20 箇所)である。使用者数の多い順に見ると、「から」(43 名)、「ですから」(19 名)、「～テ形」(15 名)、「のだ」(8 名)、「ので」(8 名)、「だから」(7 名)、「それで」(6 名)、「で」(6 名)、「せいで」(3 名)、「し」(2 名)、「なぜなら」(2 名)、「理由」(2 名)、「なんで」(1 名)、「もの」(1 名)となる。原因・理由を表す表現の使用数及び使用者数のいずれからみても、接続助詞「から」は最大数を占め、接続詞「ですから」は第 2 位を取る。

尚、これらの表現のうち、「から」「し」「せいで」「それで」「だから」「ですから」「で」「なぜなら」「のだ」「ので」「もの」は、S 大学日本語科の 1 年目に導入されることになっ

ている。原因・理由としての「～テ形」及び「理由」に関しては、その後ではあるが、調査実施時点においては既に導入されている。

### 5.1.2. 学年別結果

表 5-1 では表現の使用数及び使用者数を全体として見たが、ここでは、各インフォーマントにおける原因・理由を表す表現の使用状況を学年別（表 5-2、表 5-3、表 5-4）に整理し、例文もまじえて考察していく。各表の表記に関しては、における数字は特定のインフォーマントが特定の表現を産出した回数を示す。網掛けは、縦のものが各インフォーマントにおける合計使用数及び異なり語数を、横のものがその学年における各表現の合計使用回数及び使用者数を示す。

表 5-2：2年生の発話における言語形式の出現回数

被験者番号	原因・理由を表す表現												合計使用数	異なり語数	
	から	し	せいで	それで	だから	ですから	～テ形	で	なぜなら	のだ	ので	もの			理由
2g1	6			1			4			1				12	4
2g2	5					1								6	2
2g3	2			1										3	2
2g4	1													1	1
2g5	9						1							10	2
2k1	10													10	1
2k2	6													6	1
2k3	3													3	1
2k4	4					1				2				7	3
2k5	5							1						6	2
2k6	6													6	1
2k7	4					1								5	1
2k8	6													6	1
2k9	8					1								9	2
2k10						1								1	1
合計	使用回数	75			2		5	5	1		3				
	人数	14名			2名		5名	2名	1名		2名				

表 5-2 から分かるように、2年生が用いている表現は「から」、「それで」、「ですから」、「～テ形」、「で」、「のだ」に限られており、そのうち「から」（例 5.1-5.3）は圧倒的に多数

(75回、14名)を占めている。

(例 5.1) 21A : どうして 都へ行きたいんですか。

22C : (1) うーんー、関西べーん、が大好きですから。

(インフォーマント 2g5、「半構造化インタビュー」)

(例 5.2) あー、この、人はー、えー、車を (1) えーmー (4) えーうん、てん、し

します (1) 運転します (1) えーからー、ビールを、えー (1) えーんー飲  
み、えー飲みたいくないです。

(インフォーマント 2k4、絵 3 について)

(例 5.3) (1.5) うーんー (4) あき (1) ですから 笑い 電車が行きません。

(インフォーマント 2k9、絵 5 について)

2年生の各インフォーマント別の産出頻度に焦点を当てると、合計使用数には12回から1回まで幅が見られる。使用した表現の種類数(以下は異なり語数)は1種から4種までの狭い範囲にとどまっており、2種以上を用いた2年生は2名で、残りの過半数は1種のみを使用している。

一方、3年生の発話における原因・理由を表す言語形式を集計すると表5-3のようになり、表5-1で取り上げられた表現の13種のうち10種が使用されていることが分かる。表5-3からわかるように、3年生の発話には「から」、「せいで」、「だから」、「ですから」、「～テ形」、「で」、「なぜなら」、「のだ」、「ので」、「理由」が現れる。この表現を使用回数から見ると、「から」が最も多く(61回)、その次に「～テ形」(11回)(例5.4)、「ですから」(10回)、(例5.5)「ので」(6回)(例5.6)は比較的高い数を示している。

(例 5.4) あー、えー、しかし (0.5) あー、えー、外へ、外へ行ったとたん、あー (1.5)

あー (1) あー (3) なく、あー (3.5) 泣く (5.5) 泣き、あー、泣き出すでし  
ょうと思つて、えー、ちょっと、あーm (1.5) もじもじしています。

(インフォーマント 3g2、絵 2 について)

(例 5.5) あー (1) この絵で、 です。あー、ですから、あー (2.5) あー、hm、新幹

線、えー、が (0.5) えー (1) あー (2) あー走らない。

(インフォーマント 3k4、絵 5 について)

(例 5.6) あー、電車が大雪で不通になったので、あー、あ、ちょっと、あー、時間に、  
おくれます[遅れます]。

(インフォーマント 2k2、絵 5 について)

表 5-3 : 3 年生の発話における言語形式の出現回数

被験者番号	原因・理由を表す表現													合計使用数	異なり語数
	から	し	せいで	それで	だから	ですから	くテ形	で	なぜなら	のだ	ので	もの	理由		
3g1	10						3							13	2
3g2	1		1				2	5	1	1				11	6
3g3	7													7	1
3g4	6				1	1								8	3
3g5	4				2									6	2
3g6	2					3	1	2			1		1	10	6
3g7	3					1								4	2
3g8	10													10	1
3k1	4					1								5	2
3k2	3						2	1			5			11	4
3k3	1													1	1
3k4	2					2								4	2
3k5	2				2									4	2
3k6	6													6	1
合計	使用回数	61		1		5	10	11	3	1	1	6		1	
	人数	14名		1名		3名	6名	4名	2名	1名	1名	2名		1名	

使用者数に焦点を当てると、2 年生の結果と同じく「から」(14 名) 及び「ですから」(6 名) が第 1 位と第 2 位を占めていることが分かる。

次に、3 年生のデータ (表 5-3) をインフォーマント別に分析すると、合計使用数及び異なり語数 (表現の種類) の範囲が 2 年生のデータに比べ、より広がったことが分かる。各インフォーマントの合計使用数は、1 名 (1 種、1 回) を除き、13 回から 4 回までの範囲内である。そして、異なり語数は 6 種から 1 種までの幅を示すが、2 年生の結果と比べると、1 種のみを用いる学習者の数が 4 名まで減り、2 種以上を使用している人数が増えることが分かる。

さらに、4 年生の発話に見られた原因・理由を表す言語形式を表 5-4 でまとめた。

表 5-4 : 4 年生の発話における言語形式の出現回数

被験者番号	原因・理由を表す表現													合計使用数	異なり語数	
	から	し	せいで	それで	だから	ですから	～テ形	で	なぜなら	のだ	ので	もの	理由			
4g1	4		2				2							8	3	
4g2	9									1		1		11	3	
4g3	2			3	1		2		1		3			12	6	
4g4	3		1			1	1							6	4	
4g5	7										1			8	2	
4g6	1	3					2	1		2	6			15	6	
4g7	7					4	2	1						14	4	
4g8					1	9								10	2	
4g9	4			8	1									13	3	
4g10						1		1			10		1	13	4	
4k1	9			2										11	2	
4k2	4					2								6	2	
4k3	1					6	1				1			9	4	
4k4	3					1	2			1				7	4	
4k5	5	3				1	1							10	4	
4k6	6				1					1				8	3	
4k7	2			5			2			5	1			15	5	
合計	使用回数	67	6	3	18	4	25	15	3	1	10	22	1	1		
	人数	15名	2名	2名	4名	4名	8名	9名	3名	1名	5名	6名	1名	1名		

4年生の場合、13種の表現が見られ、頻度の多いものに「から」(66回)(例5.7)、「ですから」(25回)(例5.7)、「ので」(22回)(例5.8)、「それで」(18回)(例5.8)、「～テ形」(15回)(例5.9)の5種が挙げられる。しかし、使用者の人数から順位をつけると「から」(15名)、「～テ形」(9名)、「ですから」(8名)、「ので」(6名)、「のだ」(5名)(例5.10)となり、「～テ形」と「のだ」が頻度のわりに使用者数が多いと言える。そのことから、4年生の場合、「～テ形」と「のだ」の習得が進んでいると推測できる。尚、比較的使用数が多い「それで」(18回)は4名のみの発話に現れた。

(例5.7) 21A : どうして東 ですか。

22C : あー (1) たぶん東 はー (1.5) 大きい、大きい都市ですからー (0.5)

あの一、いろいろなことがある (1) ととてもにぎやかな都市です。

23A : うーんー

24C : ですから、東 へ行きたい。

(インフォーマント 4g7、「半構造化インタビュー」)

(例 5.8) 42C : うーんー、博物館とか美術館に行ったことが、ある (1) のにー、あー、若い人だった {笑い} だから (0.5) あまり美術館が好きでは、ありません。そしてー (1) うーんー (1) いろいろな友達が、あるのでー (1) あー、kh-m (1.5) 私の友達は普通 (1.5) うーんー (2) 話すことが、大好き (0.5)

43A : うーん//ー

44C : です。それで、私たちはたくさん (0.5) うちで話します。

(インフォーマント 4g3、「半構造化インタビュー」)

(例 5.9) うーん、彼女はーあー病気にー、あーー (0.5) なってー、あーがっこうーをー休みましたー。

(インフォーマント 4k3、絵 1 について)

(例 5.10) 15A : どうして難しいと思っていらっしゃるんですか。

16C : あー、あのーんーにはほーんー (0.5) ごーのー、漢字はとっても難しいです。朝から、晩まで勉強しなければならないんです。あと、発音 (0.5) とー文法も、難しいです。

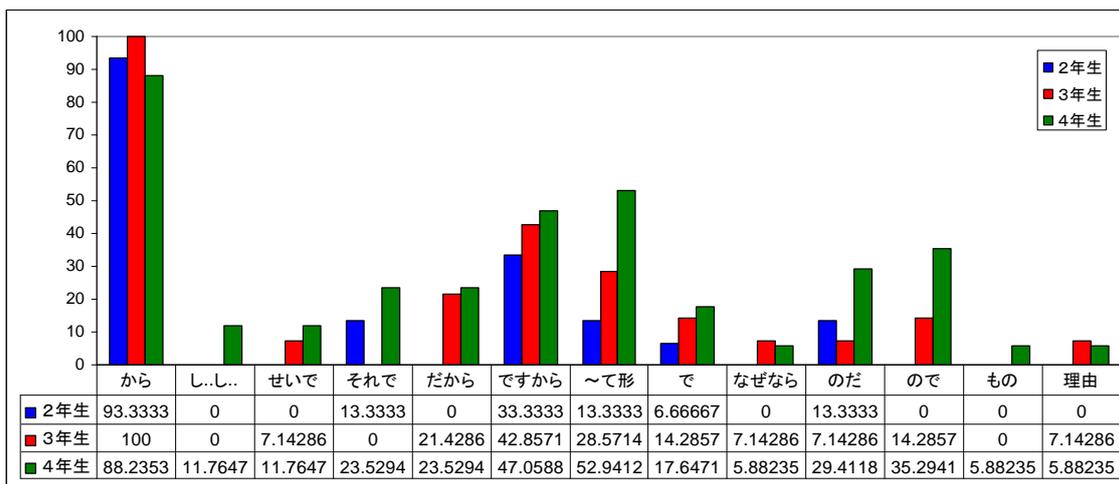
(インフォーマント 4k7、「半構造化インタビュー」)

これまでみてきた表 5-2 から 5-4 までのデータを使用者数と産出頻度の観点から学年別にまとめると、図 5-1 及び図 5-2 のようになる。まず、図 5-1 で使用者数の割合を学年別に示す。この図の X は原因・理由を表す言語形式を、Y はこれらの使用者率を示すものである。学年は 2 年生を ■、3 年生を赤、4 年生を ■ で識別する。X の下の数字は、この図のデータテーブルである。この図をみると、各学年とも「から」の使用者が最も多いことが分かる。また、「から」、「なぜなら」、「のだ」、「理由」を除き、インフォーマントの学年が上がるに連れて、使用者数が増える傾向がみられる。「なぜなら」と「理由」の使用者数は 3 年生の方が 4 年生の使用者数を上回るが、その差異は大変小さく、既に導入されているのに 2 年生の発話に使用が見られなかったものが、3 年生以上で使用されるようになるという点で共通している。「のだ」の場合、使用者は 3 年生よりも 2 年生の方が

多いのだが、4年生になると、その値が急激に増え、2年生の使用者数の2分の1の値を示している。「から」の場合は、3年生は100%、すなわち全員が使用しており、2年生は93.3%、そして4年生は88.2%である。

図5-1：言語形式の使用者率

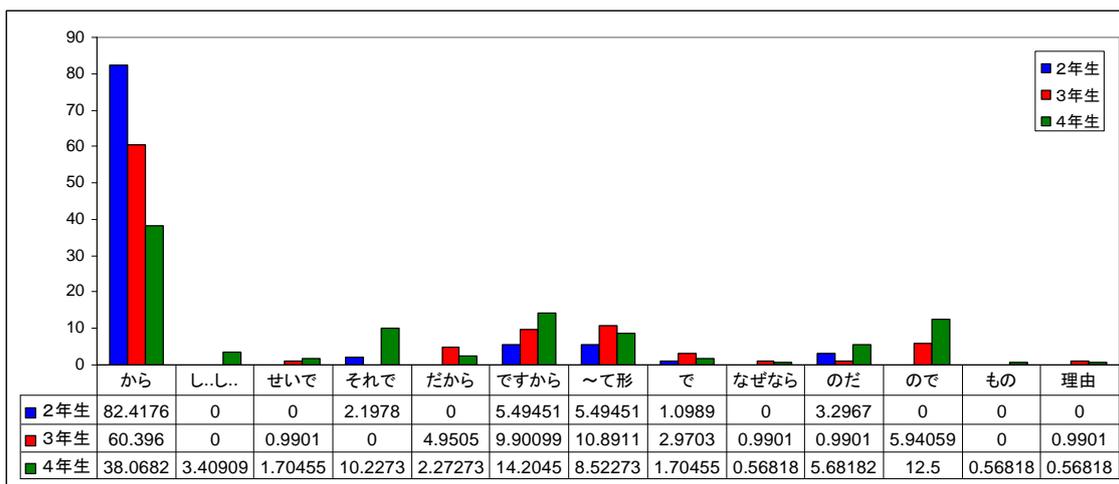
単位%



次に、図5-2で言語形式の使用率を学年別に示した。図5-2のXは言語形式、Yはその表現の使用率である。学年の識別で用いた色は図5-1と同じである。

図5-2：言語形式産出率

単位%



「から」の産出率に着目してみると、各学年とも他の表現と比べ、非常に高い値を取っていることが分かるが、学年が上がるに連れ、その使用は徐々に少ない値を示しているように見える。学年間の違いをノンパラメトリック法であるマン・ホイットニイ検定

(Mann-Whitney 検定) により統計的に検証すると、表 5-5 の結果が得られた。

表 5-5：マン・ホイットニイ検定の結果

	Ua	Z	P(1)	P(2)	Level of Significance	Lower limit	Upper limit
4 年生と 2 年生	217.5	-3.38	0.0004	0.0007	.05	75	180
4 年生と 3 年生	170.5	-2.02	0.0217	0.0434	.05	69	169
2 年生と 3 年生	74	1.33	0.0918	0.1835	.05	59	151

この表を見ると、2 年生と 3 年生の間には、有意な差があるとはいえないが、4 年生の場合、2 年生と 3 年生のそれぞれの間に有意な差が確認された。つまり、4 年生は 2 年生及び 3 年生と比べ、「から」をより少なく使用し、他の表現を積極的に使用しようとしているということが示された。

次に、これまでみてきた表 5-2 から 5-4 までを基に、各インフォーマント別の合計使用数と異なり語数（種類数）を図 5-3 にまとめ、学年別に比較する。

図 5-3：学年別における原因・理由を表す表現の産出頻度（使用数と種類）

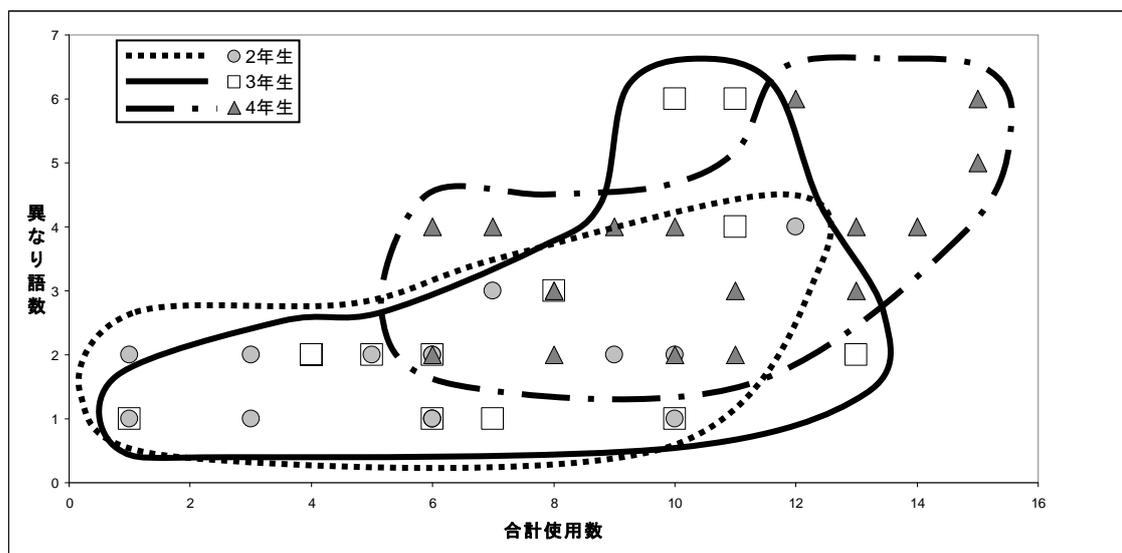


図 5-3 の X は合計使用数（延べ語数 token）で、Y は異なり語数（種類 type）となっている。円形は 2 年生の各インフォーマントを、四角形は 3 年生の各インフォーマントを、三角形は 4 年生の各インフォーマントを示すが、点の位置が他のインフォーマントと重なる場合は、同学年に関しては印が同様であるため、図中に現れるのは一つの印のみとなる尚、点線の領域、太線の領域、そして一点鎖線の領域は、それぞれ各学年の範囲を示す。

図5-3から分かるように、全体としては学習期間が長くなると、学習者が用いる原因・理由を表す表現はより多様なものとなり、その使用数も増加していく。しかし、極端な例もあったことから、同じ指導を受けても学習到達度は同様であるとは言いがたい。表現の種数（異なり語数）の観点から、2年生はほぼ同じレベルではあるが、3年生の場合、到達度に激しい差が見られ、次の段階に早く進む学習者もいれば、前の段階に滞している者もいると言える。4年生になると、その学年の領域がよりスムーズに見えるが、やはりこの段階にも個人差が見られる。

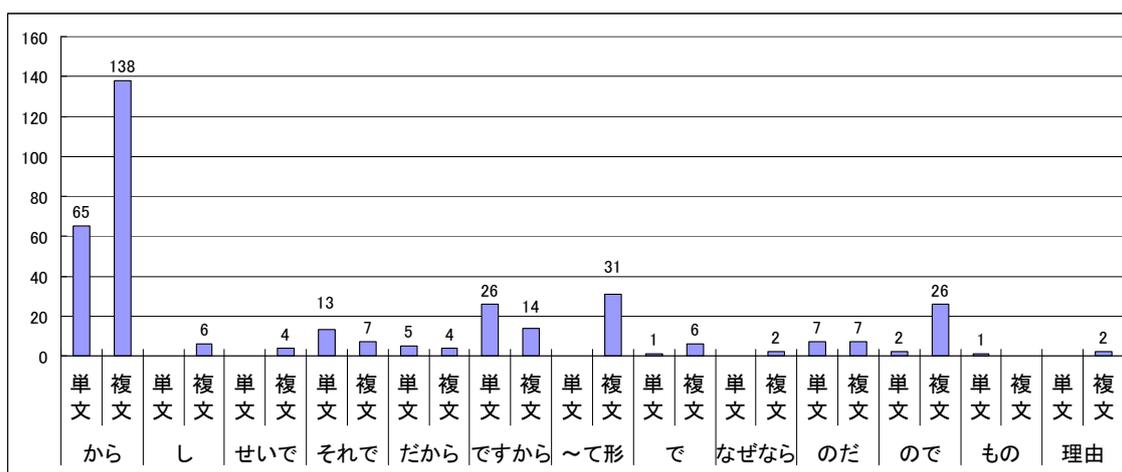
### 5.1.3. 言語形式の文中位置と節の構成

ここまでは、「から」をはじめ、原因・理由を表わす言語形式の使用数及び使用者数を中心に述べてきたが、この節では、各言語形式の文中における位置、産出された文のタイプ（単文・複文）に焦点を当て、発話レベルで考察する。

今回の調査では、原因・理由を表す言語形式が出現した文が367文見られ、その内、単文が120文、複文が247文あり、これらを言語形式別にまとめると、図5-4のようになる。図のXには単文、複文、それぞれに出現した各言語形式を、Yにはそれぞれの産出頻度を実数で示す。

図5-4：原因・理由を表す言語形式と文のタイプ

単位は使用の実数



既述（5.1.1 節）の通り、「から」は最も多く用いられており、複文における使用数（138回）が単文における使用数（65回）を上回る。その他の接続助詞を見ると、「ので」を除き、これらの表現が複文に現れたことが分かる。「～て形」は話し言葉の場合、単文の文末にも現れるが、この用法は出現しなかった。「ので」はほとんどの場合、複文に出現したが、

単文に現れたものもあった。また、助動詞「のだ」の場合、単文も複文も同様な結果が得られた。さらに、接続詞が用いられた場合、単文も複文も産出されたが、単文の方が複文より多かった。そこで、接続詞が出現した単文に焦点を当てると、ほとんどの場合、以下の2つのパターンが観察される。

- ① インフォーマントが、まず原因・理由を前文に述べ、続いて自分の感想などを付け加えずに結果を簡単に述べる（20回）（例 5.11）。
- ② インフォーマントがインタビュアーの質問に応じて原因・理由を述べた後、その結果をインタビュアーの質問の内容の繰り返しという形で述べる（15回）（例 5.12）。

（例 5.11）（4）あー（2）じょこー（1.5）はーあーね、な、病気です。（2）学校をやす、あーですからー、あ、学校をー（1.5）や、あー（3）休みます。

（インフォーマント 2k10、絵 1 について）

（例 5.12）19A： どうして東 へ行きたいんですか。

20C： うーん {笑い} あー、まず、東 はー、あー、うーん、あー日本の、あー（2）あー首都、あー、で、す首都です。あー、そしてー、あー（2）東 、あーについて、あーいろいろ、うーん（1.5）あー調べて、あー、え聞いて、あー（1）うーん、読みました。あー、ですから、あー（2.5）あー私が（2）受けた（1）あー、印象、では、あー私のイメージに、あー強い影響を与えました。

21A： う//ーん

22C： あーですから、あー東 へ行きたいです。

（インフォーマント 3g6、「半構造化インタビュー」）

次に、接続詞が出現した複文をみると、ほとんどの場合、単文と同じパターンが存在していると言えるが、その際、話者の感想を表わす「～と思う」などが用いられているという点で異なっていることが分かる。つまり、学習者が原因・理由を先に述べ、続いて前文の内容を条件とするその帰結を後文に述べる際、後文が単文あるいは複文になるかのはモダリティの使用に左右されると言える。

（例 5.13）この人々はー（1）でんしゃー（2）電車を（1）待っていまーす（0.5）がー

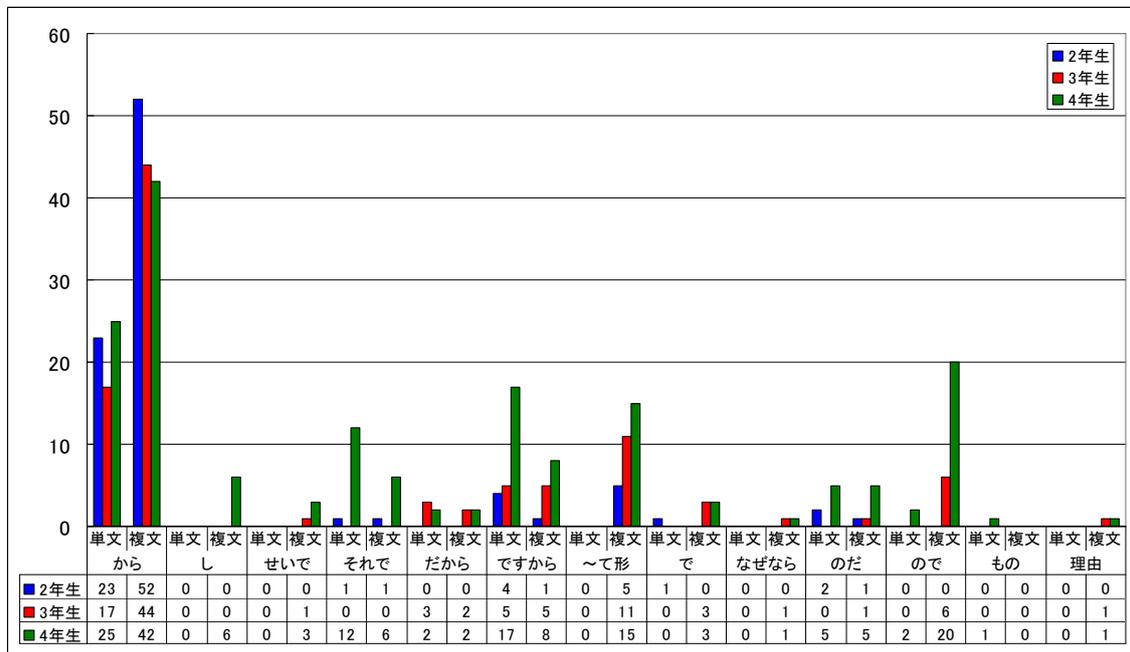
(1) うーんー (0.5) 雪がーありまーす (1) あーですからー {笑い} (3)  
 長くー (1) 待っている (0.5) と思います {笑い}。

(インフォーマント 4g8、絵 5 について)

図 5-4 では各言語形式の使用数を単文及び複文別に見たが、次の図 5-5 ではこれらの使用数を各学年別に示す。学年の識別で用いた色は図 5-1、図 5-2 と同じく、2 年生を ■、3 年生を ■、4 年生を ■ で分けた。X の下の数字は、この図のデータテーブルである。

図 5-5：原因・理由を表す言語形式と文のタイプ

単位は実数



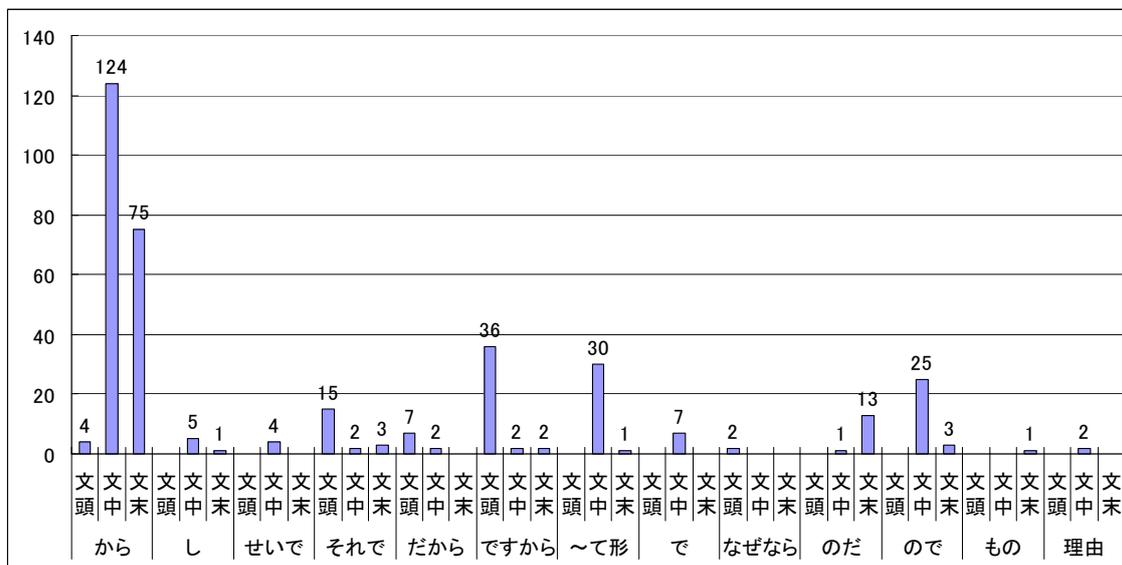
学年別にみてもほとんどの場合、図 5-4 と同様な傾向が見られたが、2 年生の「それで」「で」「のだ」、4 年生の「だから」「もの」に関しては、これと異なる結果が示された。

ただし、これらの表現の使用数はわずかであるため、図 5-4 の結果になんら影響のある数字ではないと考えられる。

ここまでは、原因・理由を表す言語形式の産出を単文及び複文におけるものに分け、比較してきたが、ここでは用法の習得段階を見るために、文中の位置を分析する。文中における原因・理由を表す言語形式の位置を図 5-6 で示す。図の X は各表現の位置を文頭・文中・文末に分けたもの、Y はその産出頻度の実数である。

図 5-6 : 原因・理由を表す言語形式と文中の位置

単位は実数



この図からわかるように、「から」は文中に最も多く見られ (124 回)、文末にも多数見られた。これは、学習者が「から」が文中における接続助詞としての用法だけではなく、原因・理由に関する質問文に対する応答文の文末表現としても習得しているということを示していると考えられる。また、少数ではあるが、文頭に不適切に用いられたケース (例 5.14) もあった。尚、「ので」の産出には文末に出現したものがわずかであったため、この用法は全体としてまだ習得されていないと推測できる。

(例 5.14) 25A : どうして北海道へ行きたいんですか。

26C : うーんー、からー、うーんー、 気はー、うーんーーロシアーーようにです {笑い}。

(インフォーマント 4g9、「半構造化インタビュー」)

さらに、一般的には、文頭に用いられる接続詞「だから」、「ですから」、「それで」は文中あるいは文末にも出現した。これらの例としては次の発話が挙げられる。例 5.15 の場合、インフォーマント 4g9 は接続助詞あるいはフィラーの代わりに接続詞「だから」及び「それで」を不適切に用いた。例 5.16 は「それで」が文末に出現したものである。

(例 5.15) (4) 多い人々はー (0.5) うーんー、れんしゃ[列車?]の駅で (1) うーんー、あーれんしゃ[列車]うーん (1) を、待ってます (0.5) がー (0.5) うーんー (3.5) うーんーー (5) が、うーんー (1.5) うーんーー、たく

さんー (1.5) 雪がある **それで**、うーんー (1) oi えー、たくさん雪がある **だから**、oi **それで** (1) あーー、oi それから {笑い} あー列車、あーー来てはー、いけない、とーーー聞きます {笑い}。

(インフォーマント 4g9、絵 5 について)

(例 5.16) 29A : その他に、理由が、ありますか。

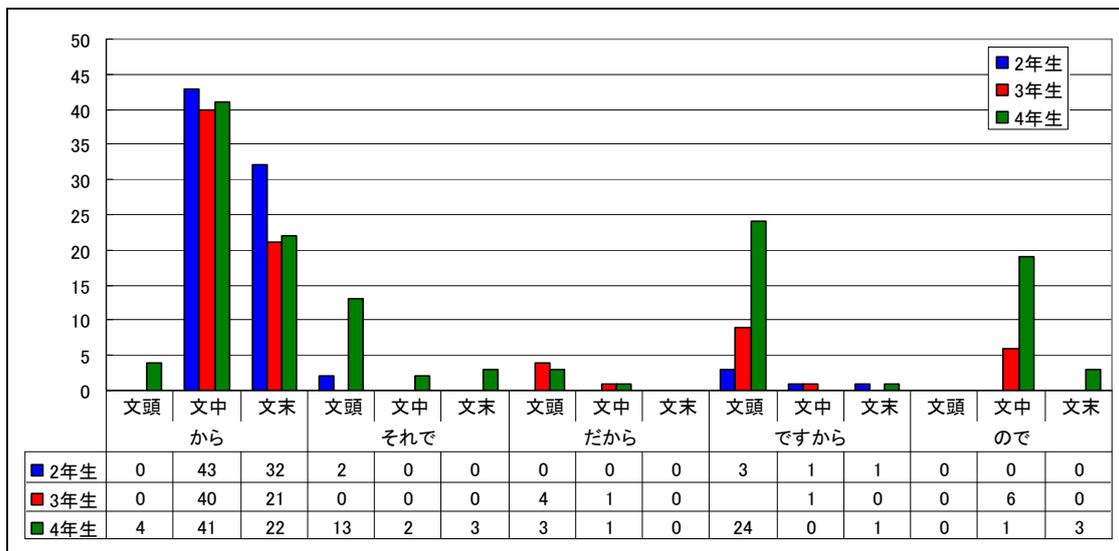
30C : (中略) えー、かつおー[一雄] (1) おーの[大野]のー、うーん (4) デモほんこうー (0.5) 読みたい、え、とても読みたい、ですがー、この本はー、うーんー (1.5) 日本で、んー、だいたい、買うことができます (0.5) **それで**

(インフォーマント 4g9、「半構造化インタビュー」)

次の図 5-7 は上述の興味深い結果を示した「から」、「それで」、「だから」、「ですから」、「ので」に関して、さらに詳しく見ていくために各学年別に分析した。学年の識別で用いた色はここまでと同様に、2年生を、3年生を赤、4年生を色で分けた。X の下の数字は、この図のデータテーブルである。

図 5-7 : 原因・理由を表す言語形式と文中の位置

単位は実数



この図から分かるように、文中及び文末における「から」は各学年に見られることから、両方の用法は早い段階に定着すると推測できる。「ので」に関しては、文中のものが3年生と4年生、そして文末のものが4年生の発話に出現した。文中のものに関しては、4年生

が3年生の3以上の値を示した。このことから、「ので」は「から」と同じ時期に導入されているにも関わらず習得が比較的遅い段階に始まると言える。文末の「ので」は、日本語母語話者によるインプットがなされている可能性がある4年生の学習者からしか見られなかった。教室内での指導の場合のみでは、文末の「ので」の習得は促されないことを示していると推測できる。「それで」は、2年生では文頭のみ、4年生では少数ではあるが、文中及び文末にも出現した。「だから」は3年生及び4年生の発話のみに見られ、その位置は文頭及び文中に限る。「ですから」に関しては、文頭におけるものは各学年に出現したが、文中は2年生及び3年生、文末は2年生及び4年生の発話に1回ずつ見られたに留まる。このように、接続詞には文頭におけるものが優先されるが、文中及び文末に現れるケースもある。ただし、文頭に見られるものの内、母語干渉により不適切に用いられたものと疑われるケースに関しては、5.1.4節に後述する。

#### 5.1.4. 意味・用法から見た学習者の中間言語

ここまでは、インフォーマントの原因・理由を表す言語形式の使用数及び使用者数、産出された各言語形式の文中における位置と節の構成について述べてきたが、ここでは意味・用法の観点から学習者の中間言語に焦点を当て、タスク別に考察していく。

##### 5.1.4.1. 「半構造化インタビュー」

「半構造化インタビュー」に出現した表現を学年別にまとめると、表5-6のようになる。

表5-6: 「半構造化インタビュー」に出現した言語形式

	から	し	それで	だから	ですから	くテ形	のだ	ので	もの	理由
2年生	27	—	—	—	3	—	2	—	—	—
3年生	31	—	—	4	9	5	—	—	—	1
4年生	35	1	9	1	10	3	5	10	1	1

表5-6のように、「半構造化インタビュー」には、各学年において「から」が最も多く用いられたが、他の表現もみられた。以下に、代表的な用例を提示しながらこれらの表現が産出されたコンテキストについて学年別に考察していく。

4.3.3.1節に述べたように、インタビュアー（著者）は学習者の発話中に原因・理由を表わす表現を誘出させるために疑問語「どうして」を使用した。2年生は、この疑問語を

用いた質問文に対応する応答文において原因・理由を表わす言語形式を産出する場合、主に「から」(27回)を用い、少数ではあるが「のだ」(2回)の使用も見られた。以下に、「から」と「のだ」の用例を挙げる。

(例 5.17) 21A : どうして 都へ行きたいんですか。

22C : (1) うーんー、関西べーん、が大好きですから。

(インフォーマント 2g5、「半構造化インタビュー」)

(例 5.18) 07A : どうして日本語を勉強し始めたんですか。

08C : あーm(1)学校でーちょっと日本語を、勉強しましたー(1)えー(2.5)か

らー、えー日本語を(0.5)勉強し始めました。

(インフォーマント 2k1、「半構造化インタビュー」)

(例 5.19) 27A : どうして北海道へ行きたいんですか。

28C : あー、北海道の自然はーあえーきれい(0.5)きれいなんです。

(インフォーマント 2k4、「半構造化インタビュー」)

3.2.4 節に述べたように、「から」には「どうして」という疑問が背景にあり、それに答える意味的な構造がみられることから、例 5.17 のようなコンテキストの場合には「から」を自然に用いているといえることができる。また、田中(2005:329)では複文の後件が情報の場合、「から」の使用が適切としていることから、後件にインタビューの質問の内容の繰り返しを用いている例 5.18 においても「から」を適切に用いていると判断できる。例 5.19 の「のだ」に関しては、質問文とその応答文の結び付きが弱く、これらの因果関係を明確に示すには「から」が相応しい(仁田、2003:204)。

2 年生は「半構造化インタビュー」において原因・理由を表わす言語形式を用いた際、ほとんどの場合、コンテキストに応じて適切に言語形式を選択していたが、学習者の中間言語とされる事例もあった。以下に、その用例を挙げる。

(例 5.20) 11A : どうして難しいと思っていますか。

12C : うーんー、かーんじ[漢字]はー難しーい、そしてー、あー(1)ぶん

うー、が難しーい(1)ですから(1)日本語はー(0.5)難しいで//す。

(インフォーマント 2k9、「半構造化インタビュー」)

(例 5.21) 11A : どうして日本語を勉強し始めたんですか。

12C : あー、私の意見では (0.5) あー日本語は (1)、あー (1) とても (0.5) あー、面白い (1) です。えとー (0.5) あー (1) 難しいです。あー、で  
すから、あー私は今 (0.5) あー、日本語を (0.5) あー、勉強しています。

(インフォーマント 2g2、「半構造化インタビュー」)

例 5.20-5.21 は、「ですから」の不適切な使用を示すとは言えないが、これらの発話そのものはインフォーマントの習得段階に応じた中間言語の事例であると指摘できる。インフォーマント 2k9 は、「日本語の漢字と文法が難しいからです」あるいは「漢字と文法が難しいから、日本語が難しいと思っています」のように答えれば、より目標言語に近い発話できたものを、いくつかの単文を用いて因果関係について述べている。また、インフォーマント 2g2 の場合、「日本語が難しいが、とても面白いから、日本語を勉強しています」の文の構成がより分かりやすいと思われるが、このインフォーマントもいくつかの単文により原因・理由とその帰結を述べている。この2名とも、文法的により難しい発話をしようとしなかったのは、リアルタイムでのやりとりにおいて伝達内容に意識を集中していたためであるのではないかと推測できる。

次に3年生のデータを分析すると、多くの場合、2年生と同様に、疑問語「どうして」を用いた質問文に対応する応答文において「から」(29回)が用いられていることが分かる²⁰¹。その際、「から」は、例 5.22 のように単文の文末表現として出現したことがあれば、複文の文中に現れる接続助詞(例 5.23)として現れることもある。

(例 5.22) 15A : (前略) どうして 都へ行きたいんですか。

16C : あー 都には、あー、古い文化の建物が、たくさん、ある、そう、あー、ですから {笑い}

(インフォーマント 3k2、「半構造化インタビュー」)

(例 5.23) 09A : なるほど、どうして日本語を勉強し始めたんですか。

10C : あーm 日本の、文化、あー、が大好き、あーですから、勉強、あー日

²⁰¹ 特定の言語形式を使わずに原因・理由を述べる事例も多いが、原因・理由を表わす言語形式の非用に関しては、5.4節に後述する。

本語を勉強 (0.5) あーすることを、あーはじめました。

(インフォーマント 3k6、「半構造化インタビュー」)

また、わずかではあるが、話し手自身による理由述べの「から」も観察された。インフォーマントは、例 5.24 の場合、先行文においてインタビュアーの質問文に対する応答文を述べ、その後続文において先行文の結論に対する理由を提示している。また、例 5.25 の場合、後続文において先行文の背景になる状況を述べている。

(例 5.24) 31A : もし、日本人の友達がいたら、その友達に、サンクトペテルブルクのどこを案内しますか。

32C : (4.5) 興味あるならー (1) あー、博物館でしょう。そしてー (1.5) うーんー、そしてー、んー、いろいろな (1) クラブとかー (4) あーサンクトペテルブルクはー (0.5) あー (1) 全部 (0.5) あー、いい、と思います。み、mー、見るーところーがー多いから

(インフォーマント 3g8、「半構造化インタビュー」)

(例 5.25) 29A : あ、そうですか。その友達はサンクトペテルブルクに来たことがあります//すか。

30C : はい、来たことがあります。あのー、二年前 (1) えー (1) 彼はイギリスで (1) あのー、留学、して、いた (1) から、あのーロシアにも、あー (1) 行きました。(1) えー、ピテル (1) モスクワに？ピテル、ピテルに行きました。ピテルに友達に (1) なりました。

(インフォーマント 3g1、「半構造化インタビュー」)

また、2年生の発話には見られなかったが、3年生では「どうして」を用いる質問文に対する応答文において複数の原因・理由を挙げる場面が観察された。その際、原因・理由を表わす表現を複数用いる事例もあれば、特定の言語形式を使わずに複数の原因・理由を述べた後、「ですから」を用いた後続文にはその帰結を言う事例もある。原因・理由を表す言語形式の非用に関しては、5.3 節に後述するが、ここでは、二重理由表現の使用について述べる。3.2 節に記述したように、二重理由表現の場合、その重なりに制限があり、特に、複文の場合、最初に現れる表現と後続が可能な表現の組み合わせはそれぞれの表現のかかる範囲によると言える。しかし、ここで見られた二重表現の場合、制限のない同一表現(「か

ら」「～テ形」)の使用であったため、不適切な使用はなかったと言える。ただし、例 5.26-5.27 のような同一発話における「から」の多用は表現の _____ さという印象をあたえかねないと指摘できる。

(例 5.26) 09A : うーん、分かりました。どうして、日本語を勉強し始めましたか。

10C : あー (3.5) あー (2) うーん学校で、あー、私はいろいろのあー日本の、あー、本、あー、日本の、日本語の本、あー (1.5) えー読めました^{から}、そして、あー、日本の、あー、映画を、あー (1) あー、大好き、だ^{から}、うーん (1) あー (3.5) えー、非常に、うーん、うーん、(2.5) ドール (1.5) あー、ドールという映画 (1) えー、^{ですか}^ら、あー日本語を、あー、勉強 (2) あー (2.5) 始めました。

(インフォーマント 3k1、「半構造化インタビュー」)

(例 5.27) 07A : あ、そうですか。どうして、日本語を勉強し始めましたか。

08C : あー (1) khm (1) 二十 (1) 二十一年 (0.5) 前 (0.5) 私はカムチャツカに生まれた^{から}、あの一、私の両親がたくさん時間を日本、に、す、日本で、え過ごした^{から}、私も、日本に好きになりました。

(インフォーマント 3g1、「半構造化インタビュー」)

ここまでは、「から」の例を中心に述べてきたが、次に「だから」の不適切な使用の事例を挙げる。

(例 5.28) 11A : どうして日本語を勉強し始めましたか。

12C : (1.5) うーん、^{だから} (1.5) あーm、日本の、文化と (1) あー (0.5) 文化が、あー大好きです。あーm (1) 子供の時から、あー日本語 (1) と (0.5) 日本の、うーん、文化 (1) を (1) あー、勉強ー (2.5) したいと (0.5) 思います。

(インフォーマント 3g5、「半構造化インタビュー」)

岡本・多門 (1998) が指摘しているように、「だから」には「理由の説明」という用法はあるが、例 5.28 の「だから」は学習者がロシア語において最も一般的に使われる接続詞「П о т о м у ч т о」の類義表現を誤って用いたものであると思われる。「だから」と

「^パト^ムー^シト^ー」は文頭に現れる接続詞であるという点で共通しているが、「だから」に後続する文は「結果・帰結」であり、「^パト^ムー^シト^ー」に後続するする文は「原因・理由」であるという相違点がある。この学習者は文頭に現れるという共通点に基づいて「^パト^ムー^シト^ー」の意味で「だから」を用いたと考えられる。

4年生の原因・理由を表わす表現の使用はより多様ではあるが、彼らの場合にも、2年生及び3年生の発話に見られたパターンが観察された。そのうち、疑問語「どうして」を用いた質問文に対応する応答文における「から」は25回、「のだ」は5回、複数の原因・理由に後続する接続詞「ですから」は5回出現した。また、ロシア語からの転移と思われる「だから」の不適切な使用も1回見られた。さらに、複数の原因・理由を述べる際、同一表現を用いる事例もあれば、異なる言語形式を用いる事例もあることが観察された。

2年生と3年生に見られなかった「ので」の使用は、4年生では10回出現した。既に述べたように、疑問語「どうして」を用いた質問文に対する応答文における「から」「のだ」は自然な用法ではあるが、年差、上下関係を考慮した場合、「ので」の使用の方がより適切であると判断されることがある(例5.29)。ただし、今回の調査においてインフォーマントの発話に見られた「ので」はこうした配慮から意図的に選択されたという明確な証拠はないが、語彙選択の幅が広がっているという点で4年生は習得が進んでいると考えられるのではなかろうか。

(例5.29) 17A: うーんー、なるほど。漢字は、どうして難しいんですか。

18C: どうして{笑い} えー、ヨーロッパのー、字とー、とても違います(0.5)

ので (1.5) うーんが、うーん、漢字を書くことがとても好き(0.5)  
大好きです。

(インフォーマント4g5、「半構造化インタビュー」)

また、4年生のデータには、「それで」(9回)も出現したが、そのうち、不適切に用いられた事例も見られた。以下に、その用例を挙げる。

(例5.30) 21A: 縄ですか。どうして 縄へ行きたいんでしょうか。＝

22C: ＝ 縄の文化はと(0.5) ってーもー(1.5) 面白い、だと思ひます。

あーふつ[普通]、 縄は 球でした。あのー別の(0.5) こくでした。

それで (0.5) うーんー、 縄語(1) の発音は、とってもきれーいで

す。

23A : うーん//ー

24C : それでー、 縄へ行ったら、 縄弁を (0.5) 勉強したいんです。

(インフォーマント 4k7、「半構造化インタビュー」)

例 5.30 では、発話 22C の場合、「あーふつ[普通]、 縄は 球でした。あのー別の (0.5) こくでした」と「うーんー、 縄語 (1) の発音は、とってもきれーいです」という文は因果関係としての解釈が不可能であるため、前文の内容を条件とするその帰結を後文に述べる「それで」の使用は不適切であると考えられる。

このように、「半構造化インタビュー」における原因・理由を表わす表現を学年別に見ると、理由を尋ねる質問文に対する応答文としての「から」が最も習得が進んでいるが、「から」を産出した学習者でも特定の言語形式を用いずに原因・理由を述べている²⁰²場合もあることから、この用法もまだ完全に定着はしていないと考えられる。「から」よりかかる範囲が狭い「のだ」に関しては、2年生の発話においても観察されたが、その産出数がわずかで、不適切な使用もあったことから、習得しにくい表現であると言える。また、「から」とほぼ同じ時期に導入されている「ので」は、「半構造化インタビュー」の場合、4年生の発話のみに出現したことから、この表現の習得も遅い段階に始まると思われる。接続詞に関しては、「ですから」が既に2年生の発話に現れ、その用法も間違いではないが、その使用個所は他により適切な表現の選択が考えられるため、学習者の中間言語を反映していると言える。「だから」は3年生及び4年生の発話に少数現れたが、その産出には母語干渉による不適切な使用も観察された。「それで」の産出は4年生の発話のみにみられたが、ほとんどの場合、意味的には適切に用いられているが、不適切な使用も見られた。よって、「半構造化インタビュー」の結果から、接続詞の3種類のうち、「ですから」の習得が早い段階に始まり、最も進んでいると推測できる。

#### 5.1.4.2. 「ストーリー構成法」

ここまでは「半構造化インタビュー」の結果を中心に考察してきたが、次に「ストーリー構成法」の結果について述べる。

「ストーリー構成法」の各タスクに出現した表現を学年別にまとめると、表5-7のよう

²⁰² 原因・理由を表わす言語形式の非用に関しては、5.3節に後述する。

になる。

表 5-7: 「ストーリー構成法」に出現した言語形式

		から	し	せいで	それで	だから	ですから	くテ形	で	のだ	ので	
絵カード	1.	2年生	13	—	—	1	—	1	—	—	—	—
		3年生	7	—	—	—	—	—	3	1	1	1
		4年生	5	1	1	1	—	5	5	—	3	3
	2.	2年生	6	—	—	—	—	2	1	—	—	—
		3年生	4	—	—	—	1	—	2	—	—	1
		4年生	6	—	—	4	1	2	4	—	—	1
	3.	2年生	9	—	—	—	—	—	1	—	—	—
		3年生	7	—	—	—	—	—	—	—	—	1
		4年生	10	—	—	1	—	3	1	—	—	2
	4.	2年生	4	—	—	1	—	—	2	—	—	—
		3年生	4	—	—	—	—	—	—	—	—	2
		4年生	3	—	—	1	1	1	2	—	1	3
	5.	2年生	16	—	—	—	—	—	1	1	1	—
		3年生	8	—	1	—	—	1	1	2	—	1
		4年生	8	4	2	2	1	4	—	3	1	3

表 5-7 のように、「ストーリー構成法」には、各タスクにおいて「から」が最も多く用いられたが、インフォーマントの発話を見ると、多くの場合、その選択が適切であることが分かる。以下に、代表的な用例を提示しながら「ストーリー構成法」の結果をタスク別に考察して行く。

#### 絵カード 1

4.3.3.2 節に述べたように、絵カード 1 の場合、風邪で学校の授業を休んだ女子が描かれており、このコンテキストでは「から」の使用が期待されている。2 年生は、ほとんどの場合、「から」を用いていたが、その用法は多様であった。以下に、その用例を挙げる。

(例 5.31) (3) あーmー (1) この絵にー (0.5) あー、女のこども (1) あー (1) です。(1.5) あー、こどもはー (1.5) あー (1) 病気です (0.5) から (1) あー (2) 勉強しません。

(インフォーマント 2k7、絵 1 について)

(例 5.32) (前略) えーとー (1) 先生はちょっと厳しいと思って、でもー、えーm (0.5) うーんー、彼女が学校へ、えー行ったら (1) えーm (1) うーん、彼女の休み方、えー、を、説明ーできると思います。以上です。

どんな説明できますでしょうか。

彼女の、休み方、どうして彼女がーその授業を、えーmー、mー (1) 休んだことを、説明できる。

例えば、彼女はどのようにして授業を休みましたか。

彼女が病気に、えー、病気に (0.5) なって **から**、授業をー、うーんー、休まなければなりませんでした。

(インフォーマント 2g1、絵 1 について)

(例 5.33) (前略) うーんー、女の方はこれから学校へ行きますか。

あー (5) おん、女の方はー (1) 学校 (4) うーんー、行きません。んーが、学校へーき、来ません。

どうしてですか。

えーー (1) 病気です、 **から**。

(インフォーマント 2k4、絵 1 について)

(例 5.34) えー (2) えーこのー (0.5) えー絵にーえーは (0.5) えー (0.5) えー女の、あー子 (0.5) あー彼女はー (1) えー病気と思います。えー (1) あー (1) ええーえ (2) えー を (0.5) えー飲む **から** ですー。(後略)

(インフォーマント 2k2、絵 1 について)

例 5.31 のような回答に関しては、学習者が「女の子が病気である」と「学校を休む」という因果関係を持つ二つの事態を接続助詞「から」によって結び付き、複文として表現している。そのうち、「から」の用法を誤って、「因」と「果」の結び付きを継起の「から」で表わしたケース (例 5.32) もある。また、例 5.33 のように、絵カード 1 に描かれている事象を個別的に説明するに留まる学習者もいる。彼らの場合、疑問語「どうして」を用いた質問を受けてはじめて「から」を用いて「原因・理由」を説明した。さらに、1 名のみではあるが、後続文において「から」を用いて先行文の背景になる状況を述べているケース (例 5.34) もあった。

3年生の半分以上も、2年生と同様に、接続助詞「から」を用いて絵カード1について述べている。また、2年生には見られなかったが、「ので」によって前件と後件の因果関係を示すケース（例 5.35）もあった。「～テ形」の使用に関しては、かかる範囲が狭いため、適切な使用と並んで不適切な使用（例 5.36）も見られた。

（例 5.35）うーん、今^く時^じです。あー、今学校で、あ、勉強、が、始まります。あー、でも、私は、熱ある^{ので}、あー（2）ベッドで、n、寝ています。

（インフォーマント 3k2、絵 1 について）

（例 5.36）あー（2）男の、子が（2）ベッドに（2）あー（4）眠^{って}（1）いて（1）風邪を（1.5）ひいたと思います。（後略）

（インフォーマント 3g1、絵 1 について）

表 5-7 から分かるように、4年生が用いた表現は多様であり、「から」と並んで「ですから」、「～テ形」、「のだ」、「ので」がよく出現した。「から」に関しては、複文で接続助詞として用いられたものもあれば、文末表現として出現したものもある。後者では、話し手自身による理由述べの「から」も観察された。「ですから」に関しては、不適切に用いられているとは言えないが、学習者の中間言語という印象を与えるケース（例 5.37）もあった。

「～テ形」はほとんどの場合、適切に用いられたが、前件と後件の関係が不明確で、前件に述べられている事柄が後件の事柄を引き起こしたと捉えにくいケース（例 5.38）も見られた。「のだ」及び「ので」は3年生の発話にも観察されたが、4年生になると、これらの産出数が増えてくる。学習者は両方とも適切に用いているが、「ので」の用法が「から」の用法と重なっている際、これらの言語形式を 意的に使っていると推測できる。

（例 5.37）（2）{笑い}（3.5）あー（0.5）これは女の子？ {笑い} あーmー（2）うーんー（2）病気なあり（1）病気なあります、あー、病気があります。^{ですから}ー（1.5）学校へ（2.5）うーんーいけ、行けませんでした。^{ですから}ー、うーんー（3.5）うーんー（4）うーんーうん（1）んー^{ですから}ー、うん（2）もしかしたらー（0.5）え、先生はー、他の、うーんー（0.5）学生（0.5）に（1）うーんー（0.5）「どこの（0.5）女のこー、あー（1）ですか」とー（0.5）あー（1）聞きます。

（インフォーマント 4g8、絵 1 について）

(例 5.38) (前略) Khm (1) 熱が出^てー、彼女は (1.5) うーんー (0.5) あー (0.5) その日にー、彼女は (0.5) うーんー大学?、学校にー (0.5) 行かなければなりません、でした。(1) しかしー、えーんー (1.5) 熱 (0.5) 熱、^のでー (0.5) 熱 (0.5) 熱が出た、出た^{から} (1.5) kh-m (0.5) 行くことができません。(2.5) うーんー (1) それはとても (1.5) 悪い (1) うーんー、残念、ですけどー (1) 彼女はたぶんー、あー先生 (1) うーんー (1) とかー、同じクラスの人々に電話、をしたいと思います。

(インフォーマント 4g3、絵 1 について)

## 絵カード 2

次に、絵カード 2 に焦点を当てる。この絵カードは、赤ちゃんを起きないように静かに歩いている男性が描かれているが、学年を問わず「から」をよく用いていることが分かる。

「から」が出現したコンテキストに関しては、ほとんどの場合、「子供が寝ている」と「男の人が静かに部屋を出る」という因果関係を持つ二つの事象を接続助詞「から」によって結び付け、複文を用いて表現している (例 5.39)。疑問語「どうして」を用いた質問文に対応する応答文における「から」の産出は少なく、2年生の発話のみに留まる (例 5.40)。また、わずかではあるが、「判断の根拠」を表わす「から」も観察された (例 5.41)。こうした「から」の使用に関しては、コンテキストに応じて選択されていると考えられる。

(例 5.39) あー (1) この絵についてー (0.5) 赤ちゃんとー (1) うん、父がーありま、がいます。(1) うん、赤ちゃんはー (0.5) 寝て (0.5) いる、^{から}ー (0.5) 父はー、あー (1) お父さんはー (1) うーんー (1) 部屋、から (2) できます[出ています]。

(インフォーマント 4g5、絵 2 について)

(例 5.40) (前略) お父さんは、どういうふうに歩いていますか。

(3) お父さんはー (1.5) とってもー (4) うーん、静かに、歩いています。それはどうしてですか。

うーんー (2) こどーも (1.5) あー、子供はー (2) あー (6) 起きない方がいいです

うーんー

から。

(インフォーマント 2g5、絵 2 について)

(例 5.41) あー (4) 私の (2) 友達 (3) あー (0.5) 私の友達、あー、が、用事、あー、私の、あー、赤ちゃんが、いる、あー友達が、用事があった^{ので}、だんなさんと一緒に赤ちゃん、あー (2) あー、を、n 残りました。あー、でも、そのだんなさんは、おかちゃん[赤ちゃん] (1)、んー (2) の世話が、あまり、あー、できません、あー、^{から}、なきそう、に、思っています {笑い}。

(インフォーマント 3k2、絵 2 について)

2 年生では絵「から」の他に、「ですから」(2 回) 及び「～テ形」(1 回) を用いていた。以下に、それぞれの不適切な使用に関しては、代表的な用例を提示しながら述べる。

(例 5.42) えー (1.5) 女の、子は、えーoi 男うーんーえーこ、子供はー、えー (1) うーんー寝ています。えー (2) あー (1) おっ、うーんー (1) あー男の人はー、えー静かに、えー (1) えー (0.5) kk、子供、えー、子供にーえー (0.5) 行きます。えー (3) あー (1) あー、男のー人はー (1) えー (3.5) あー (5.5) あー (0.5) あーこどーも、をー (0.5) えー起きる、えー (0.5) おき (3) あー (1) お k、起きらなーい、えーおきらない、えー (1.5) を、ほしいです、えー (2) えーmー^{ですから}、えー (2) うーんー (4) 子供がベッド、にー、えーねーています[寝ています]。(後略)

(インフォーマント 2k4、絵 2 について)

「ですから」の不適切な使用に関しては、例 5.42 から分かるように、インフォーマントが「男の人が静かに歩いている」という事柄の理由として「子供を起したがっていない」ことを述べ、続いて接続詞「ですから」を用いている。しかし、この文は、接続詞「ですから」が「前文の内容を条件とするその帰結を後文に述べる」①順接型(順当)に属していることから、落ち着きが悪い。そのため、このコンテキストでは、「ですから」より行動の根拠を示す文末の「から」が適切であると思われる。

また、次の例は「～テ形」の不適切な使用の事例である。

(例 5.43) (前略) えーと、男の子、が、えー、今 (0.5) えー (1) 寝てい^て (1) うーん (1.5) 部屋に入った男の子、部屋に入った男の人はー (1) えーm (0.5) うーん (1) 他の部屋、へー (1) うん (1.5) 他の部屋へ行くつもりで (1) うーん (1) 静かに、行くつもりです。(後略)

(インフォーマント 2g1、絵 2 について)

例 5.43 の場合、異主体が共に人間で、述語動詞が意志動詞であるため、事象の独立性が高くなり、「原因・理由」としては解釈されがたいと言える。一方、「から」あるいは「ので」を用いると、「男の子が寝ている」と「男の人が他の部屋へ静かに行く」事象は因果関係を持つ事象として解釈される。

3 年生では、「から」の他に「だから」、「～テ形」、「ので」の使用が見られた。「だから」(例 5.44) に関しては、その使用が不適切であるとは言えないが、発話の構成からは、学習者の中間言語の事例であると考えられる。

(例 5.44) (前略) {笑} 父さんは上手ではない {笑い} ^{だから} (1) あ、赤ちゃんは、mー、よく (2) あー泣いて (1) いた^{から}、あー (1) 父さんは、あー (3) とても心配 (2.5) した。(後略)

(インフォーマント 3k5、絵 2 について)

インフォーマントが文頭に「だから」を言い出して、その後に文中に「から」を用いた。そこで、「だから」を接続詞として捉え、「お父さんは上手ではない」ことを前件とし、「赤ちゃんはよく泣いている」ことを後件とした場合、接続助詞の「から」の使用は不適切であると考えられる。また、接続助詞「から」の使用を適切と捉える場合、「だから」の使用が不適切であると考えられる。また、「～テ形」及び「ので」に関しては、その産出数が少なく、中間言語と疑われる事例は観察されなかった。

4 年生も絵カード 2 について述べる際、特に「から」を多く用いたが、それ以外の表現も出現した。そのうち、2 年生及び 3 年生の発話に現れなかったものとしては、接続詞「それで」が挙げられる。また、4 年生の発話にも不適切に用いられた「～テ形」が観察された。下記の例 5.45 はその事例である。

(例 5.45) (前略) (3) あー、たぶーん、この人はー、あーmーーどーを開けてー (1.5) うるさくな^{って}ー (0.5) 赤ちゃんが、うーん (2.5) おき、あー (1) 起き

ると (0.5) このー (0.5) 赤ちゃんが一泣くと思います。(後略)

(インフォーマント 4k5、絵 2 について)

### 絵カード 3

次の絵カード 3 の場合、4.3.3.2 節に述べたように、二人の人物の人間関係の把握のされ方によって「から」「ので」のいずれかが選択されることになっているが、多くの学習者が「から」を選択した。学年別に見ると、ほとんどの 2 年生は、接続助詞「から」によりこれからの運転を理由とし、その帰結としてビールを断る行為を挙げている。その際、彼らは 2 つの事象の因果関係について 3 人称の視点から語っている (例 5.46) ため、「から」「ので」のいずれも適切であると思われる。

(例 5.46) あー (1.5) こちらはー (0.5) 友達です。あー (1) ひとりービールを飲んで  
います。しかしー、あー、このひとーは (1) あーmー (1.5) 自動車がー  
いますからー (0.5) ビールを飲んでいません。

(インフォーマント 2k9、絵 3 について)

また、「から」が出現したコンテキストには、原因・理由を求める質問文に対応する応答文 (1 回)、判断の根拠 (1 回) というものもあった。「から」の他には、「～テ形」の産出も観察されたが、その使用が不適切であった (例 5.47)。それは、「～テ形」の場合、かかる範囲が狭く、判断の根拠が表わせないことになっているためである。

(例 5.47) (前略) えー、このえ、え m、m、えー、これはたぶん二人の友達で (1) えー  
m、ひとつの友達からお をいつも、えー飲んでいて (0.5) えーkhm (0.5)  
うーん (1) 他の友達にお を飲みましょう (1) いかがですか (1) とー、え  
ー (1) と言っています。しかし、他の人は、えーお が によくないと思  
思^{って} (1) えーお を飲んではい、あーお はいけないと思います。(後略)

(インフォーマント 2g1、絵 3 について)

3 年生も、ほとんどの場合、3 人称の視点から前件に「これからの運転という理由」を、後件に「ビールを断る帰結」を述べ、前件と後件を接続助詞「から」により結び付いている。また、わずかではあるが、「判断の根拠」を表わす「から」も出現した。「から」の他に「ので」の使用も見られ、その際、学習者が 1 人称の立場から婉曲的な表現によりビー

ルが飲めない理由を説明している (例 5.48)。不適切な使用に関しては、インフォーマントが「原因・理由」の意味合いで「継続」を表わす「～てから」を用いたケース (例 5.49) もあった。

(例 5.48) うーん (2) 友達と、あー、一緒に、あー、レストラン、あー、へ、食べに行きました。あー (3.5) あー、レストランで、あー (2.5) バルベキュー、を、あー、食べました。あー、友達は、うーん、(2) あー (0.5) ビール、を、あ、飲みましょう、と、あー言いましたが、私は、あー、運転している^{ので}、あー、ビールは飲めません。

(インフォーマント 3k2、絵 3 について)

(例 5.49) あー、この人は、うーん (1) あー (1.5) あー車、えー (2) で (1) あー、のっ、あー、乗って (2) あー (1.5) 乗っ^{てから}、あー、ビール、えー {笑い} ビールは (2) あービールを、あー (3.5) 飲まない。

(インフォーマント 3k4、絵 3 について)

4年生に関しては、2年生及び3年生と同様に、接続助詞「から」を用いて、男の人がビールを断る理由を述べている。また、「男の人がビールを飲まない」という行為について述べた後で、その理由を挙げるケースもあった。「から」の不適切な使用に関しては、「原因・理由」を表わす「から」の代わりに「継続」を表す「～てから」も出現した。「から」の他には「～テ形」も「ので」も出現したが、2年生及び3年生に見られなかった表現としては、接続詞「それで」及び「ですから」が挙げられる。「ですから」の使用に関しては、不適切に用いられたケースも観察された (例 5.50)。

(例 5.50) (12) うんー、男の人はー、あーm (1) びー[ビール]をー (0.5) あーmー、飲みません、^{ですから}ー、あーm (2) あーー (2) господи、машину водить (3) う、運転 (0.5) をーします {笑い}。

(インフォーマント 4k3、絵 3 について)

このインフォーマントは、144 ページに述べたように、「だから」をロシア語において最も一般的に使われる接続詞「^{パ タ ム ー シ ト ー}п о т о м у ч т о」に対応する類義表現と誤って用いたと思われる。しかし、後続文には理由が述べられているため、前文の内容を条件とするその帰

結を表わす「だから」の使用は不適切である。

#### 絵カード4

絵カード4はテレビの近くに座っている少年にテレビから離れるように注意している女性を描いている。しかし、多くのインフォーマントは、例5.51のように、絵カード4に描かれている事象を個別的に説明するに留まる。

(例 5.51) (22.5) あ、子供はとっても (1.5) 短く (0.5) テレビを見ています。母は (0.5) 遠くー見る方がいい (1) と言った (1.5) と思います。

(インフォーマント 4k7、絵4について)

また、そのようなインフォーマントに対し、インタビュアー（著者）が学習者の発話中に原因・理由を表わす表現を誘出させるために疑問語「どうして」を用いたが、この質問文に対する応答文にも「原因・理由」を表わす表現はほとんど使用されなかった。全体的に、出現した原因・理由を表わす言語形式はわずかではあるが、学年別に見ると、2年生が「から」「それで」「～て形」を、3年生が「から」「ので」を、4年生が「それで」「ですから」「～テ形」「のだ」「ので」を用いたことが分かる。接続助詞「から」あるいは「ので」を使用した学習者は、前件に少年がテレビの近くに座っていることを理由とし、後件にその帰結として母親が注意することを述べた（例 5.52-5.53）。接続助詞「ですから」及び「それで」の場合にも、先行文に「原因・理由」、後続文にその帰結を適切に用いていた。「～テ形」「のだ」に関しても、学習者の中間言語と解釈されやすい発話は観察されなかった。

(例 5.52) (10) うんふ (5) 母は (1) あの一 (2) 彼女の息子が (1) あ一、テレビ (2) を近く (1.5) に (1.5) 見ますから (1) っています[ っています]。(後略)

(インフォーマント 3g1、絵4について)

(例 5.53) (15.5) khmkhmー (2.5) あー男の子はー、あー (2.5) テレビに (1) をー (2) ち、ちかにテレビをー、あーm (0.5) 見ているのでー、あー母はー、うーんーし (2.5) しかりていまーす[ っています]。(後略)

(インフォーマント 4k3、絵4について)

## 絵カード5

絵カード5は大雪で不通になった電車と駅のホームでいらいらしている乗客を描いているものであり、様々な原因・理由を表わす表現が出現したが、そのうち、「から」の使用が多数を示す。2年生の場合、疑問語「どうして」を用いた質問文に対する応答文における文末の「から」が多かったが、「判断の根拠」及び接続助詞の「から」も出現した。接続助詞「から」に関しては、このコンテキストでは事柄の客観的叙述が要求されていることから、「ので」の使用も可能であり、日本語母語話者であってもどちらかを使用するのかという判断に揺れが生じるが、学習者の多くは「から」を選択する傾向にある(例5.54)。また、2年生は「から」の他に、「～テ形」「で」「のだ」も1回ずつ用いた。

(例5.54) (2) うーん、このーえー[絵]では (1) 人々、えお (1) 人々が多い (0.5) います。(3) 雪が降っています。(2) 例えばー (1.5) 彼らはー (1) うーん (2) うーん、うちへ行きたいです。(2) うーん (2) その時、うーん、電車が (1) うーん (0.5) えっ、雪をーえー (2) 雪をー降るから (2) うーん (1) 電車が (1) うーん (1.5) 行けないで (1) 行けない (0.5) です。(2) (インフォーマント2k3、絵5について)

3年生も絵カード5について述べる際、原因・理由を表わす表現のうち、「から」を多く用いた。「から」が使用されたコンテキストとしては、まず「原因・理由」を求める質問文に対する応答文、後続文における「理由述べ」が挙げられる。また、絵カード5に描かれた事象のうち、ホームにいる乗客への駅員のアナウンスに焦点を当て、「から」によりそのアナウンスのきっかけとなった事象について述べるケースもある(例5.55)。

(例5.55) あはーkhm (2.5) あーm (1.5) так (0.5) あーm (1) あーしんかんせーん あーはーあーm (1.5) うん、так так так (1) 新幹線はーあー遅くあー (1) なります、あーから (0.5) あーm (1.5) khー、так あーm (1) 遅くなります、あーから、うーん (1) так うーん khkh (4) 絵のあーm (2) 員は (3) Марина остановите на минутку あーじゃ、あー駅のあーm (1) あー員は、あーm (1) あーこのことについてーあーm (1) あー (0.5) 待っているあー人、あーに、あーm (2) 話しています。

(インフォーマント3g3、絵5について)

さらに、上述のように、事柄の客観的叙述の場合、「から」「ので」のいずれも適切ではあるが、3年生にもこのようなコンテキストにおいて「から」を用いたインフォーマントがいた(例5.56)。「から」の他には、「せいで」「ですから」「～テ形」「で」の使用も見られた。

(例5.56) (4) うん(10.5) 駅にー(1) 人が(0.5) 大勢です。皆(1) がー(3) 車(1.5) を(0.5) 待って(1) いてー(1) あー(1.5) とても(0.5) 寒いです。あのー(3.5) ゆきー[雪]、が(0.5) たくさん(0.5) 降って、いた^か_らー(2.5) あのー(1) khm、はたらかー(1.5) 働きません[動きません]。以上です。

(インフォーマント3g1、絵5について)

4年生に関しては、表現が2年生及び3年生より多様である。4年生の発話にも「から」が多く観察されたが、この表現が出現したコンテキストから、ほとんどの場合、適切に用いられていると考えられる。「から」の使用事例としては次の例5.57が挙げられる。

(例5.57) (4) この写真でロシア(1.5) と思います。あのー、雪がたくさん降りました^か_らー、電車はー(1.5) あのー(1) 来ません。

(インフォーマント4k1、絵5について)

この場合も、「から」「ので」のいずれの選択も考えられるが、こうしたコンテキストでは「から」「ので」ではなく「で」を産出したインフォーマントもいた。また、インフォーマントが絵カード5に描かれている事象について述べる際、いくつかの原因・理由を上げ、接続助詞「し」を用いたケースもある(例5.58)。

(例5.58) aha、これはー、えーロシアの普通のげしき[景色]です。(1) あ(2) たくさん、お、大勢の人たちがー(0.5) 車(1.5) 車と思います、車を(3) 待っています。(1) そして、寒い^か_らー、あのー(0.5) 寒い^し_ー(1) 寒い^し_ー、あーmー、雨がー(0.5) 降る^し_ー(0.5) 人たちがー、あーmーう、車に、んー乗りたーい、と思います。(後略)

(インフォーマント4k5、絵5について)

さらに、大雪が不都合な結果をもたらしたということに主眼を置き、「せいで」を使用した

インフォーマントも観察された。接続詞「それで」、「だから」、「ですから」に関しては、ロシア語からの転移はみられなかった。インフォーマントは、ほとんどの場合、これらの表現を適切に用いたと言えるが、「それで」と「だから」を に使い分ける事例もあった(例 5.59)。

(例 5.59) (4) 多い人々はー (0.5) うーんー、れんしゃ[列車?]の駅で (1) うーんーあーれんしゃ[列車]うーん (1) を、待ってます。(0.5) がー (0.5) うーんー (3.5) うーんー (5) が、うーんー (1.5) うーんー、たくさんー (1.5) 雪があるそれで、うーんー (1) oi えー、たくさん雪があるだから、oi それで (1) あー、oi それから {笑い} あー列車、あー来てはー、いけない、とー聞きます {笑い}。

(インフォーマント 4g9、絵 5 について)

こうして、「ストーリー構成法」の各タスクにおける原因・理由を表わす表現を学年別に見ると、「半構造化インタビュー」と同様に、「から」の習得が最も進んでいると言える。用法に関しては、「半構造化インタビュー」によく用いられた原因・理由を尋ねる質問文に対する応答文の「から」の他に、後続文の理由述べにおける「から」、前件と後件との間に「因」と「果」の関係を示す接続助詞「から」も各学年に見られ、この表現の習得が早い段階に始まると指摘できる。また、絵カード 5 のように事柄の客観的叙述が要求される場合にも、接続助詞「から」の使用が観察されたことから、この表現の過剰使用も疑われる。

「から」とほぼ同じ時期に導入されている「ので」に関しては、「半構造化インタビュー」の結果と違って、3 年生の発話にも出現したが、その産出数が 1 回に留まることから、この表現の習得が遅い段階に始まると考えられる。また、「のだ」も産出数がわずかで、不適切な使用もあったため、習得しにくい表現であると指摘できる。接続詞に関しては、「ですから」は「反構造化インタビュー」の結果と同じく、各学年に見られ、その習得が早い段階に始まると言えるが、不適切な使用もあったことから、この表現の本質に関するより具体的な指導が必要であろうと思われる。「だから」は「半構造化インタビュー」のみではなく、「ストーリー構成法」のタスクの場合にも 3 年生及び 4 年生の発話に現れ、その産出数が少なかった。「それで」は 2 年生の発話にも出現したが、3 年生の発話に見られなかったことから、「それで」より「ですから」の習得が進んでいると考えられる。「～テ形」に関

しては、「半構造化インタビュー」の結果に対し、2年生の発話にも出現したが、その使用が不適切であったため、習得しにくい表現であると思われる。

#### 5.1.5. 宣言的知識と手続き的知識

ここまでは、インフォーマントの発話に見られた原因・理由を表す表現について述べてきたが、ここでは、フォローアップタスクの結果を紹介し、学習者の原因・理由を表す表現に関する知識（宣言的知識）がどの程度あるかを考察する。そして、その宣言的知識を、これまで見てきた「半構造化インタビュー」と「ストーリー構成法」の結果に反映された学習者の手続き的知識と比較する。

4.3.3.3 節で既述したように、インフォーマントが原因・理由を表す表現としてどの言語知識を有しているのかを測るために自己申告というフォローアップタスクを実施した。具体的には、インフォーマントに因果関係を表す表現について述べてもらった。インフォーマントの回答は多様であり、表現のみが取り上げられているもの、表現とその例文が取り上げられているもの、表現とその例文にロシア語での解説が加わっているものの3つのタイプがみられた。以下に、それぞれの例を挙げる。

(例 5.60) 3-я форма глагола +から、3-я форма глагола +ために、だから、のに  
(インフォーマント 2k4、「フォローアップタスク」)

(例 5.61) 「で」(例：子供は風邪で学校を休んだ。)、 「から」(例：サンルーマからしわが現れる。彼から試験を受けることができなかった。)、 「に」(例：暑さに気を失う人が多くなった。)、 「によって」(例：自身によって/で沢山の建物が壊  
[壊]した。)、 「のせいで」、 「ため (に)」、 「理由で」  
(インフォーマント 3k6、「フォローアップタスク」)

(例 5.62) 「から」 присоединяется к глаголу в форме настоящего или прошедшего времени; глагол может стоять как в нейтрально-письм., так и в вежливом стилях.

授業が終わったから家に帰ります。

Так как закончились занятия, я возвращаюсь домой.

勉強しているから、 びに行くことができません。

Так как я занимаюсь, не могу пойти гулять.

(インフォーマント 4g6、「フォローアップタスク」)

こうして、このタスクは自由記述式で、回答が多様ではあるが、挙げられた表現を学年別に整理すると、表 5-8 のようになる。この表の表記に関しては、における数字は各表現が挙げられた回数を学年別に示す。網掛けは、各表現の合計数を示す。

表 5-8：インフォーマントの原因・理由を表す表現に関する宣言的知識 単位は人数

番号	表現	2年生(15名)	3年生(14名)	4年生(17名)	合計(46名)
1	おかげで		3	1	4
2	から	13	14	16	43
3	結果	3	1		4
4	原因	2	2		4
5	こと			1	1
6	ことから	1			1
7	し			4	4
8	せいで		10	3	13
9	それで	1		6	7
10	だから	2	3	7	12
11	ため	4	7	1	12
12	ですから	2	4	7	13
13	～て形		3	2	5
14	で	1	9	3	13
15	どうして	2		1	3
16	なぜ	1		1	2
17	なぜなら		1		1
18	なんで	1			1
19	に		3	1	4
20	に起因する			1	1
21	に由来する			1	1
22	によって		2	1	3
23	のだ	3	2	3	8
24	ので	9	8	16	33
25	のに	4	1	1	6
26	もの		1	1	2
27	理由	2	7	7	16
28	ゆえに		3	2	5
29	わけ		1	1	2
30	をきっかけに			1	1
31	を契機に			1	1

表 5-8 から分かるように、インフォーマントの回答から「宣言的知識」として 31 種の表現が抽出された。学年別にみると、2 年生は 16 種、3 年生は 20 種、4 年生は 26 種の表現を挙げている。そのうち、「から」、「だから」、「ため」、「ですから」、「で」、「のだ」、「ので」、「のに」、「理由」は全ての学年で挙げられている。2 年生が挙げている表現を見ると、「から」が 86.6% (13 名)、続いて「ので」が 60% (9 名) で、高い割合を示す。その他の表現は 26.6% (4 名) 以下に留まる。ただし、既に導入されている「～て形」を原因・理由

を表す表現として挙げた2年生は一人もいなかった。次に、3年生のフォローアップタスクの結果を見る。彼らは「から」(100%)、「ので」(57.2%)の他に、「せいで」(71.4%)、「で」(64.3%)、「ため」(50%)、「理由」(50%)をよく挙げていることが分かる。残りの14種の使用者率は低く、それぞれ28.6%以下である。4年生の場合も、前の学年と同じく、「から」(94.1%)及び「ので」(94.1%)が非常に高い割合を示している。その他に、「だから」(41.2%)、「ですから」(41.2%)、「理由」(41.2%)、「それで」(35.3%)も多く挙げられているが、残りの20種はわりに低い値を示す。特に「おかげで」、「こと」、「ため」、「どうして」、「なぜ」、「に」、「に起因する」、「に由来する」、「によって」、「のに」、「もの」、「わけ」、「をきっかけに」、「を契機に」はそれぞれ1名の回答にしか現れていない。

次に、上記の結果(表5-8)と「半構造化インタビュー」及び「ストーリー構成法」の結果(表5-2から5-4まで)を比較し、表5-9にまとめる。フォローアップタスクで挙げられている表現は学習者自身が説明可能な言語知識であるため、宣言的知識と認定することができる。また、「半構造化インタビュー」及び「ストーリー構成法」の際に産出された表現は実際にインフォーマントが運用した表現であるため、インフォーマントの手続き的知識の一部であると考えられる。尚、表の表記に関しては、網掛けは、各表現の合計数を示す。

表5-9：原因・理由を表す表現と宣言的・手続き的知識の使用者数

表現	宣言的知識 (フォローアップタスク結果)				手続き的知識 (「半構造化インタビュー」及び 「ストーリー構成法」の結果)			
	2年生	3年生	4年生	合計	2年生	3年生	4年生	合計
おかげで		3	1	4				
から	13	14	16	43	14	14	15	43
結果	3	1		4				
原因	2	2		4				
こと			1	1				
ことから	1			1				
し			4	4			2	2
せいで		10	3	13		1	2	3
それで	1		6	7	2		4	6
だから	2	3	7	12		3	4	7
ため	4	7	1	12				
ですから	2	4	7	13	5	6	8	19
～て形		3	2	5	2	4	9	15
で	1	9	3	13	1	2	3	6
どうして	2		1	3				
なぜ	1		1	2				
なぜなら		1		1		1	1	2
なんで	1			1				

に		3	1	4				
に起因する			1	1				
に由来する			1	1				
によって		2	1	3				
のだ	3	2	3	8	2	1	5	8
ので	9	8	16	33		2	6	8
のに	4	1	1	6				
もの		1	1	2			1	1
理由	2	7	7	16		1	1	2
ゆえに		3	2	5				
わけ		1	1	2				
をきっかけに			1	1				
を契機に			1	1				

表 5-9 から分かるように、「宣言的知識」として 31 種の表現が抽出されたが、これらの表現のうち、「手続き的知識」として「半構造化インタビュー」及び「ストーリー構成法」に出現したのは 13 種のみである。

次に、表 5-9 を基に、インフォーマントの発話とフォローアップタスクの両方に現れた表現を図 5-10 にまとめ、宣言的知識と手続き的知識を比較する。尚、図 5-8 の標識に関しては、各言語形式を「宣言的知識（色）」、「手続き的知識（色）」という二つに分けて表す。また、図の X は原因・理由を表す表現、Y はインフォーマントの人数を示す。

図 5-8 : 宣言的知識と手続き的知識

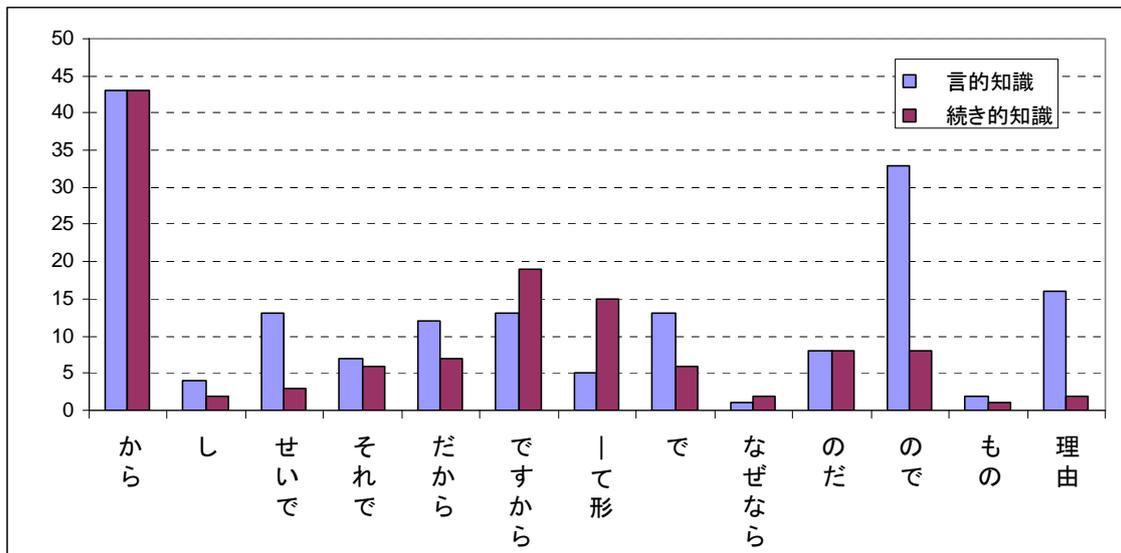


図 5-8 のように、原因・理由を表す表現に関する宣言的知識の指数は、「から」、「ですから」、「～て形」、「なぜなら」を除き、手続き的知識の指数を上回っている。「から」に関しては、口頭タスク（「半構造化インタビュー」及び「ストーリー構成法」）で「から」を用

いているインフォーマントの人数と、フォローアップタスクで「から」を挙げているインフォーマントの人数が等しい。接続詞「ですから」及び「だから」の場合、フォローアップ・インタビューに「だから」を挙げ、「半構造化インタビュー」及び「ストーリー構成法」の際に「ですから」を使用しているインフォーマントもいる。また、「～テ形」に原因・理由を表す用法があるのを意識してはいないが、自然な発話において産出している学習者もいる。

原因・理由を表す表現のうち、接続助詞「から」が最も多く使用されており、宣言的知識としても手続き的知識としても最大数を占めている。「から」に関する言語知識は運用能力に繋がり、他の表現と比べて習得段階が最も進んでいると考えられる。一方、宣言的知識の第2位は「ので」であったにもかかわらず、実際に運用できているのは学習者の25%しかにすぎない。これは、「ので」がまだ定着していないことを示していると考えられる。

## 5.2. 仮説②の検証

ここまでは、仮説①を検証するために、インフォーマントの原因・理由を表す言語形式に関する知識とその表現の産出頻度及びその産出を伴う中間言語を中心に述べてきたが、ここでは仮説②を検証するために、その表現の中間言語形式に焦点を当て、形式的に不適切な使用について論じる。

今回の調査では、インフォーマントの46名中11名の発話に「から」「ので」「のだ」に関してのみ、先行語との不適切な接続という中間言語的な言語形式²⁰³が見られたが、これらの産出数は低い。これらの表現の中間言語形式には、1)「から」の前に「だ」が抜けている「だ-から」、2)丁寧体に接続する「～ます+からです」、3)動詞・イ形容詞と「から」の間に「だ」を入れる「だ+から」、4)名詞・ナ形容詞に後接する「のだ」の前に「な」が抜けている「な-のだ」、5)名詞・ナ形容詞に後接する「ので」の前に「な」を入れない「な-ので」の5種類が産出された。これらの中間言語的な形式を、種類、使用回数、使用者についてまとめると、表5-10のようになる。表に関しては、インフォーマント別に「から」「ので」「のだ」の規範形式及び中間言語的な形式の産出数を表わし、各中間言語的な形式の合計使用数及び使用者数を網掛けで表わす。

---

²⁰³ 「中間言語的な形式」に関しては、4.1.4.3節に詳述した。

表 5-10 : 中間言語的な言語形式の種類と使用数

言語形式			産出数												使用数	使用者数
			インフォーマント別										合計			
			2k1	2k2	2k4	2k5	2k6	3g4	4g2	4g3	4g7	4k4	4k6			
から	規範	から型	5	5	3	4	2	1	6	1	4	1	2	×	×	
		だから型	1		1		1	3	2	1	2		3	×	×	
	中間言語的な形式	だ+から						1	1		1			3	3	
		だ-から	1	1		1	3	1				2		9	6	
		～ます+から です	3										1	4	2	
ので	規範	ので型								2				×	×	
		なので型												×	×	
	中間言語的な形式	な+ので												×	×	
		な-ので								1				1	1	
のだ	規範	のだ型							1			1		×	×	
		なのだ型										1		×	×	
	中間言語的な形式	な+のだ												×	×	
		な-のだ			2									2	1	
		～Vました+のだ												×	×	
		～I-Adjでした+のだ												×	×	
		～Nでした+のだ												×	×	
		～Na-Adjでした+のだ												×	×	

下図の通り、5 種の間接言語形式が確認されたのだが、そのうち、使用数及び使用者数のいずれからみても、1)「だ-から」(例 5.63-5.64) は多数を占めている。以下に、それぞれの代表的な用例を提示しながら述べる。

まず、「だ-から」(9 回) は 6 名の発話にみられる (例 5.63-5.64)。

(例 5.63) どうしてですか。

(1) うーん (0.5) あー (1) ゆ、あー、雪が、あー、さ、あー、沢山から  
です。

(3g4、絵 5 について)

(例 5.64) 17A : どうして東 なんですか。

18C : {笑い} うーんー (2) いちばーんー、えー日本のいちばーん大きな町  
からです {笑い}。

(2k1、「半構造化インタビュー」)

この中間言語的な形式を用いた学習者の多くは2年生(4名)ではあるが、3年生(1名)及び4年生(1名)もこの中間言語形式を産出した。2年生の場合、インフォーマント2k1が規範形式を1回と中間言語的な形式を1回、2k2及び2k5がそれぞれ中間言語的な形式のみを1回、2k6が規範形式を1回と中間言語的な形式を3回産出した。3年生(3g4)は、名詞及びナ形容詞を後続する「から」を用いた発話の中で規範形式が3回、中間言語的な形式が1回出現した。4年生(4k4)に関しては、2回とも中間言語的な形式「だ-から」が用いられている。

「から」のもう一つの中間言語的な言語形式として、文末の「～ます+からです」というユニット(4回、2名)が見られた。以下にそれぞれの例を挙げる。

(例 5.65) [絵について]

あーmー (3.5) 男のこー[子]は話しています。あー (3) あmーー (2) Dさんー、はー (0.5) ビールを (1) 飲んでいます。あー (1.5) あー、Dさんの友達はビールを (1) あー、飲みませーんー。あー (3) あー (3.5) じどうーしゃー[自動車]で、行きますからです。

(2k1、絵3について)

(例 5.66) [インタビューから]

27A : うーんー、なるほど。じゃー、もしかしたら日本人の友達が、いまー、いるんでしょうか。

28C : はい、います。でもー、えーとー、Eメールを使つt、使え、使えますけどー、あーよくてがみー、の交換しません。時間がありませんから  
です。

(4k6、「半構造化インタビュー」)

この中間言語形式は2年生(2k1、3回)及び4年生(4k6、1回)の発話に出現した。インフォーマント2k1は、文末の「から」が動詞を後続する場合、中間言語形式を3回用いた

のに対し、規範形式を1回しか用いていない。4年生であるインフォーマント4k6は、動詞に付く文末の「からです」の場合は、中間言語形式を、名詞及びナ形容詞を後続する「からです」の場合は、規範形式を産出した。

動詞・イ形容詞と「から」の間に「だ」を付加した中間言語的な形式「だ+から」は3年生(1名)及び4年生(2名)の発話に1回ずつ見られた。3年生(3g4)は、動詞(イ形容詞)を後続する「から」を1回のみ産出しており、その際、例5.67のように、「だ+から」のすぐ後に規範形式の「から型」に言い直している。4年生の場合、言い直しはしないが、規範形式とされる「から型」は4g2が6回、4g7が4回用いている。

(例5.67) どうしてですか。

あー、で、あー(0.5) あーみじk、あー、短い(1.5) うーん(0.5) 短いに、あー座っ、座っている、だから、ですっ//、からです。

(3g4、絵4について)

「な-のだ」(2回)に関しては、インフォーマント2k4が「のだ」の使用を試みた際、2回ともナ形容詞及び名詞の後でこの中間言語的な形式を用いている(例5.68-5.69)。

(例5.68) 27A: どうして北海道へ行きたいんですか。

28C: あー、北海道の自然はーあえーきれい(0.5) きれいです。

(2k4、「半構造化インタビュー」)

(例5.69) 35A: それはどうしてですか。

36C: えー (2) えー (1) この(0.5) あーそのと、とこ、あーところー、はー、えーとても、えー(0.5) きれいです、えーm(1) 有名のです。

(2k4、「半構造化インタビュー」)

「な-ので」(1回)は、例5.70のように、4g3の発話に出現した。このインフォーマントの場合、これ以外に名詞あるいはナ形容詞を後続する「ので」は産出していない。

(例5.70) (前略) (1) かしー、えーんー(1.5) 熱(0.5) 熱、のでー(0.5) 熱(0.5)

熱が出た、出たから(1.5) khーm(0.5) 行くことができません。

(4g3、絵1について)

上記の中間言語形式が各表現の合計使用数において占める割合を次の表 5-11 で示す。表の表記に関しては、学年別の各言語形式の割合を□で、各中間言語的な形式の合計使用数及び使用者数の割合を網掛けで表わす。

表 5-11：全体数における中間言語的な形式 単位は%、(実数)

	中間言語的な形式				
	だ-から	～ます+からです	だ+から	な-のだ	な-ので
2 年生	2.95% (6)	1.48% (3)	—	14.3% (2)	—
3 年生	0.49% (1)	—	0.49% (1)	—	—
4 年生	0.98% (2)	0.49% (1)	0.98% (2)	—	3.6% (1)
合計使用数	4.43% (9)	1.97% (4)	1.48% (3)	14.3% (2)	3.6% (1)
使用者数	13.9% (6)	4.65% (2)	6.97% (3)	12.5% (1)	12.5% (1)

学年別に見ると、「だ-から」及び「～ます+からです」の場合、2 年生が 4 年生より多く、「だ+から」の場合、3 年生が 4 年生より少なく用いていることが分かる。「のだ」の中間言語的な形式「な-のだ」は 2 年生の発話のみに見られ、3 年生及び 4 年生の場合、規範形式が出現した。中間言語的な形式「な-ので」(3.6%) は 4 年生の発話のみに現れたが、「ので」はそもそも 3 年生 (6 回 21.4%) 及び 4 年生 (22 回、78.6%) のみによって産出され、4 年生の産出頻度が 3 年生の 3.5 にも及ぶ。

各表現の合計使用数における割合を見ると、中間言語的な形式の 5 種のうち、「な-のだ」(14.3%) が最も多く、続いて「から」の中間言語的な形式の 3 種(「だ-から」、「～ます+からです」、「だ+から」) が 7.88% (4.43%+1.97%+1.48%)、「な-ので」が 3.6%の割合を示す。全体としては、これらの中間言語的な形式の産出頻度は相当低い結果となった。また、使用者数の占める割合も少なく、14%を超えていない。つまり、今回の被調査者においては、「から/ので/のだ」については規範的な言語形式が 8 割以上を占めていて、習得が進んでいることがわかる。

### 5.3. 仮説③の検証

これまでは、仮説①及び仮説②を検証するために、原因・理由を表す言語形式の使用について多様な観点から述べてきたが、ここでは、原因・理由を表す言語形式の非用について考察しながら、仮説③の検証を行う。

今回の調査では、学習者が因果関係を表す言語形式を使わずに、原因・理由の説明を試

みる場面が頻繁に見られた（167回、39名）。言語形式が非用された文には、「原因・理由」→「結果」という順番で2つの単文によって因果関係を述べているもの（例5.71）もあれば、原因・理由を求める質問に応じて産出されたもの（例5.72）もある。

（例5.71） えー（2） えー（0.5） え、え、でんしゃー[電車]はー、えー（1） あっ、雪が、えー（1） えーゆきー（0.5） はー、えー（1） えー（2） たく（1） えー雪は、降っています。えー、えー電車は（1） えー（0.5） んー電車はー、駅にー（0.5） えー（0.5） きて、えーき、きき、来ません。

（インフォーマント2k4、絵5について）

（例5.72） どうして彼女は学校へ行かないんですか。

（3） うーんー、彼女は病気です。

（インフォーマント2g3、絵1について）

まず、例5.71に関しては、「雪が降っている」と「電車が来ない」事態を描写しているにすぎず、2つの事態間に因果関係は認められない。3.3.2節に述べたように、ロシア語においては因果関係を持つ事態について述べる際、原因・理由を表わす特定の言語形式を用いずに表現できるという特徴があり、インフォーマントは日本語の発話においてもこの母語の特徴を転移させているのではないかと推測できる。また、例5.72は疑問語「どうして」を用いた質問文に対応した「原因・理由」を表わす応答文であるが、ここにも母語であるロシア語が影響していると考えられる。

次の例は日本語からロシア語へのコードスイッチが起こっているものではあるが、上述の2つの例の要因を表わす文として興味深い。

（例5.73） 23A： どうして友達の家を案内したんですか。

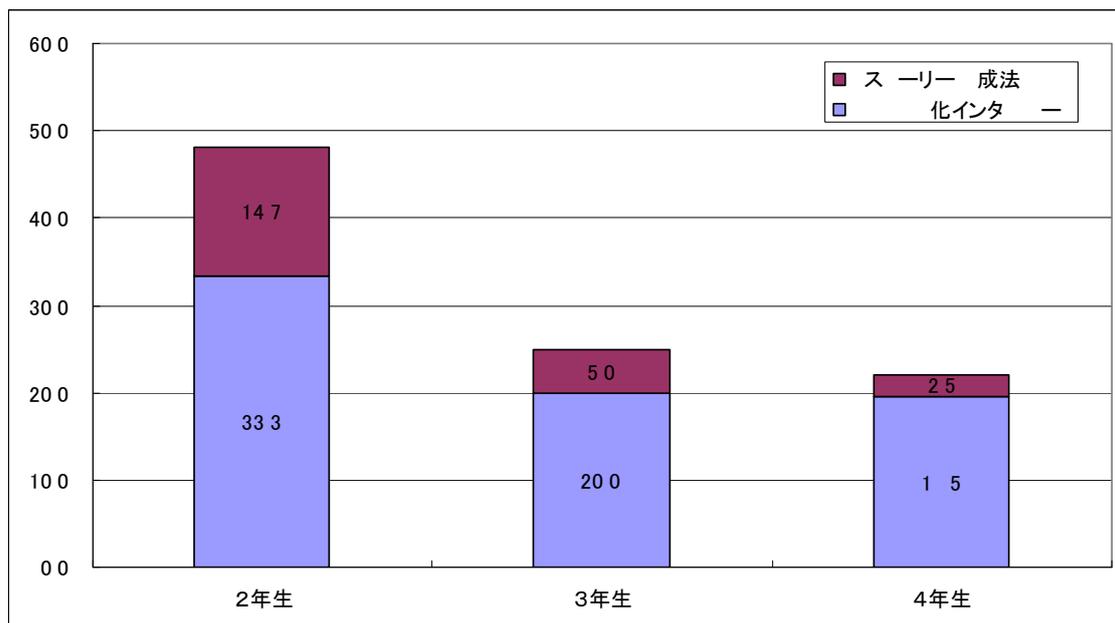
24C：（2） あーん、（8） так договорились [こういうふうに約束した] {笑い}

（インフォーマント3k3、「半構造化インタビュー」）

言語形式が非用された文を学年及びタスク別にまとめると図5-9のようになる。この図のXは学年を、Yは言語形式の非用率（パーセンテージ）を示す。タスクは「ストーリー構成法」を色、「半構造化インタビュー」を色で分ける。

図 5-9 : 言語形式の非用率

単位%



学年別に見ると、原因・理由を表す発話の全体における非用率は、2年生が48%、3年生が25%、4年生が22%である。タスク別に見ると、各学年において言語形式の非用率は「ストーリー構成法」より「半構造化インタビュー」の方が大幅に高くなっている。「半構造化インタビュー」の場合、非用は各学年とも、例5.74のように、原因・理由を要求する質問に応じて言語形式を使用せずに答えるケースのみに留まる。

(例 5.74) 07A : どうして、日本語を勉強し始めたんですか。

08C : あー (1) うーんー、私にー日本はー (1) えー (0.5) 私は (1.5) 日本うんー (1) あーは好きです。(1.5) うーんー (1) 日本語はー、えーとても面白い (1.5) ええー (1) とても面白いです。

(インフォーマント 2k4、「半構造化インタビュー」)

「ストーリー構成法」に関しては、2年生及び3年生の場合、「原因・理由」→「結果」という順番で特別な言語形式なしで2つの単文によって示すもの(記述の例5.71参照)も、質問によって誘出されているもの(既述の例5.72参照)も出現している。4年生になると、例5.75を除き、ほとんどの場合、質問文に対する応答文の中で非用が起こっている。

(例 5.75) ちょっと考えてください。

あっ、はい (5) あっ、いいえ、たぶん (0.5) あの、この女の子はー病気に

なりました。あのー (0.5) えー、ベッドのそばに が (0.5) あります。

(インフォーマント 4k1、絵 1 について)

その理由としては、質問に対する答えの場合、リアルタイムでのやりとりが求められるため、言語知識にアクセスする際の処理的な手続きにさく時間が十分に与えられず、母語干渉がより起こりやすいのではないかと考えられる。

#### 5.4. 結果考察

本調査の目的は、ロシアでの教室環境において日本語を学ぶ学習者が原因・理由を述べる際に、①まず「から」の過剰使用がみられ、続いて「だから」及び「ので」、そして「のだ」が開始される、②中間言語的な形式が多くみられる、③因果関係を表す言語形式を使わずに表現する傾向があるという 3 つの仮説を検証することにあつた。本節では、この 3 つに関して、ここまでの分析結果に対する考察を行う。

まず、仮説①については、より低いレベルの学習者に「から」の過剰使用が見られ、続いて「だから」及び「ので」が開始されると言う部分が証明されたが、「のだ」が最も遅いという仮説の一部は証明されなかった。「から」に関する言語知識はある程度運用能力に繋がり、他の表現と比べて習得段階が最も進んでいることが観察できた。「から」の用法に関しては、前件と後件との因果関係を示す接続助詞「から」、原因・理由を尋ねる質問文に対する応答文の文末に現れる「から」、後続文の理由述べにおける文末の「から」が各学年とも見られ、この表現の習得が早い段階に始まることが確認できた。ただ、その使用箇所にはほかにより適切な表現の選択が考えられる場合もあることから、初期では「から」を過剰使用していると判断できる。しかし、学年が上がると、言語形式の使用に幅が見られ、「から」に依存することが少なくなっていくという傾向もみられる。「だから」に関しては、確かに 2 年生の発話には出現しなかったが、その丁寧形である「ですから」はより早い段階に観察された。また、フォローアップ・インタビューに「だから」を挙げ、「半構造化インタビュー」及び「ストーリー構成法」に「ですから」を使用しているインフォーマントもいることから、口頭発話における接続詞「だから」の不使用は「先生と学生」という上下関係への配慮によるとも考えられる。「ので」は「から」とほぼ同じ時期に導入されているが、運用場面が少ないことから、習得が比較的遅い段階に始まると考えられる。観察された「ので」は、ほとんどの場合、接続助詞として文中に現れるタイプのものであり、文末の「ので」は、日本語母語話者との接触が頻繁なインフォーマントからしかみられな

かったことから、教室内での指導の場合のみでは、その習得が促されないと推測できる。さらに、「ので」の用法が「から」の用法と重なっている際、これらの言語形式を 意的に選択していると考えられる。一方、「のだ」は、わずかではあったが、2年生の発話において観察されたため、その習得が早い段階に始まると言える。しかし、その産出数はわずかで、2つの事態の結び付きが弱い場合には不適切な使用もあったことから、習得しにくい表現であることも推測できる。

次に、仮説②については、先行語との不適切な接続という中間言語的な言語形式が「から」、「ので」、「のだ」のみに見られ、その産出合計数における割合は相当低く、仮説と異なる結果が出た。そのことから、原因・理由を表わす表現は形態的な面からは習得が進んでいると言える。

続いて、仮説③については、ロシア語においては因果関係を担う二つの事態について述べる際、言語形式を用いずに表現できるという特徴が、日本語の発話にも、学習期間に係わらず、影響を与えるとされる。特に、「半構造化インタビュー」の場合、多くの学習者は原因・理由に関する質問を受け、特別なマーカー無しで「原因・理由」節のみを産出している傾向がみられる。その際、リアルタイムでのやりとりにより完全に母語のパターンになってしまうケースもあれば、「半構造化インタビュー」全体ではなく、特定のコンテキストのみが非用の引き金となっているケースもある。「ストーリー構成法」に見られたケースに関しては、「理由」→「原因」という順番で特別な言語形式なしで2つの単文によって示すものが出現したが、これらの発話は無接続詞複文としてロシア語に訳されることから、「ストーリー構成法」における原因・理由を表す表現の非用も母語転移によって発生したものであると言える。この特別なマーカーのない発話はコンテキストにより原因・理由としての解釈が可能ではあるが、円滑的なコミュニケーションという観点からは妨げとなる場合もあると言える。

今回の調査では、仮説①-③で取り上げられた「から」、「だから」、「ので」、「のだ」の他に、「ですから」、「それで」、「～テ形」、「し」、「せいで」、「で」、「なぜなら」、「もの」、「理由」の使用も観察された。これらの表現に関しては、以下のことが言える。まず、接続詞に関しては、文頭における用法が優先されるが、文中及び文末に現れるものもあることから、その用法も習得しつつある段階にあると思われる。インフォーマントの発話に見られた接続詞のうち、「ですから」の習得が早い段階に始まり、習得段階が「だから」と「それで」より進んでいることがわかる。また、3種とも不適切な使用も観察されたことから、

この表現の意味・用法に関するより具体的な指導が必要であると指摘できる。続いて、「～テ形」に関しては各学年とも産出されており、学年が上がるに連れ産出数も使用者数も増加する傾向にあるが、この表現はかかる範囲が狭く、不適切な使用も多いことから、習得しにくい表現であると言える。また、「し」、「せいで」、「で」、「なぜなら」、「もの」、「理由」の場合、原因・理由を表す表現として意識されていても、多くの学習者の場合、まだ運用能力に繋がっていない習得段階にあると言える。尚、全体としては学習期間が長くなると、学習者が用いる原因・理由を表す表現はより多様なものとなり、その使用数も増加していく。

#### 5.5. 日本語教育への提言

今回の調査ではロシア語を母語とする日本語話者が原因・理由を述べる際、どんな表現を用いるかに焦点を当てて、様々な観点から結果を考察したが、以上の問題を考慮に入れながら今後の効果的な教授のために次のように提言したい。

(ア) 先行研究では「から」の過剰使用についての指摘がなされ、それを問題視する論考が目立つが、今回の調査結果からは、学習期間が長くなると、学習者が用いる原因・理由を表す表現はより多様なものとなり、「から」の使用は減少していく傾向にあると主張できる。「から」以外の原因・理由を表わす表現の指導も行われている場合、学習者の中間言語を反映している「から」の過剰使用がいつまでも残ってしまう恐れはないと指摘したい。

(イ) 今回の調査では「だから」がロシア語において最も一般的に使われる接続詞「П О Т О М У Ч Т О」に対応する類義表現と誤って用いられたケースが見られた。このような母語干渉による「だから」(「ですから」)の不適切な使用を ぐためには、これらのロシア語における類義表現をおさえた上で、「前の事柄の当然の結果として後の事柄が起こる」という話し手の判断を示す」接続詞であるという本質に気づかせることが重要であると考えられる。

(ウ) 調査結果から、母語転移が原因とみなされる言語形式の非用を ぐためには、言語形式そのものだけでなく、会話レベルでの発話の構成における特徴も積極的に取り入れることが望ましいと考える。特に、日本語では原因・理由を述べる際、内容的には原因・理由を表しても特別なマーカーがなければ、コミュニケーションが阻害される場合があるというフィードバックを学習者に対して行う必要があると主張したい。

## 5.6. 今後の課題

本研究では、限られたデータではあるが、原因・理由を述べる言語行為を中間言語体系の観点から考察し、これまで対象とされてこなかったロシア語母語話者による発話の構築を伴ういくつかの特徴を明らかにすることができた。そのうち、原因・理由を述べる際、因果関係を表す言語形式を使わずに表現できるという母語の特徴を日本語に転移させていることが解明されたが、今回の結果が一つの教育機関での調査に留まることから、さらに研究を進め、原因・理由を表わす表現の運用を効果的に行うために教室内指導法を改めるような研究も行っていく必要があると考える。

## 第6章 終章

本章では、ここまでの考察をもとに、本研究でこれまで対象とされてこなかったロシア語母語話者における因果関係の表現の習得に関して明らかにされた点をまとめ、本稿の結論を記述する。本章の最後に、本研究の限界及び本研究の意義についても述べておく。

### 6.1. 結論

本稿では、学習者の因果関係を表す表現能力に関する文献研究、日本語及びロシア語における原因・理由を表わす表現の対照研究をもとに、学習者が生み出す中間言語体系の観点から、ロシア語を母語とする日本語学習者における因果関係の表現の習得について考察してきた。本研究を通じて以下の結論に至った。

1. ロシア語を母語とする日本語学習者の原因・理由に関する発話における中間言語について、最初の段階では「から」の過剰使用が目立つが、学習期間が長くなると、学習者が用いる原因・理由を表す表現はより多様なものとなり、その使用数も増加していくと共に「から」の使用が減少していくことが分かった。これらの表現の習得状況を見ると、ロシアの大学で日本語を身につけようとする学習者の場合、全体としては、先行語との不適切な接続という中間言語的な言語形式がわずかであったことから、形態的な面からは習得が進んではいるが、意味・用法の面からは言語形式によって大きい差が見られると言える。表現別に焦点を当てると、接続助詞「から」は他の表現と比べて習得段階が最も進んではおり、接続詞「ですから」も比較的進んだ習得段階にあると言える。「から」とほぼ同じ時期に導入される「ので」は原因・理由を表わす表現として多くの学習者に意識されてはいるが、運用場面が少ないことから、まだ定着していないと考えられる。「～テ形」及び「のだ」は、習得が早い段階に始まるが、不適切な使用が少なくないことから、習得しにくい表現でもあると判断される。また、「し」、「せいで」、「で」、「なぜなら」、「もの」、「理由」の場合、原因・理由を表す表現として意識されていても、多くの学習者の場合、まだ運用能力に繋がっていないと指摘できる。尚、接続詞「だから」に関しては、実際の使用が少ないが、フォローアップ・インタビューの結果から「だから」の不使用は「先生と学生」という上下関係への配慮によるとも考えられるため、「だから」の習得が「ですから」より遅れているとする判断を避ける。そこで、本研究で得られた結果を先行研究の結果と比較したところ、学習者の中間言語には、母語を問わ

ず、同じパターンが見られることが確認された。栃木（1995）、新村（1996）、木山（2003）、清水（2003）、近藤（2004）は異なる研究方法を用いているが、日本語学習者の発話に「から」の過剰使用がみられることを示す点で本研究と共通していることが分かる。本研究では、先行研究の成果を超えて、学習期間が長くなると、学習者が用いる原因・理由を表す表現はより多様なものとなり、「から」の使用は減少していくため、「から」の過剰使用がいつまでも残ってしまう恐れはないという結果も得られた。また、栃木（1995）では「ので」「し」、近藤（2004）では「ので」「～テ形」について、日本語学習者の発話の場合、その使用が日本人に比べて特に少ないという指摘がなされているが、本研究におけるロシア語を母語とする日本語学習者も同じ傾向にあると考えられる。さらに、横村（1988）は日本語学習者の中間言語の1つとしては、「から」の代わりに不適切に用いられている「～テ形」を挙げている。本研究の場合にも、「判断の根拠」を表わす「から」を求めるコンテキストにおいて「～テ形」の不適切な使用が多く観察された。「だから」に関しては、新村（1996）、木山（2003）、清水（2003）では、その過剰使用が取り上げられているが、本調査では「だから」より「ですから」の方が多く用いられている傾向にあった。しかし、「ですから」は「だから」の丁寧形であることから、本研究と先行研究の結果には根本的な相違がないと思われる。こうして、先行研究及び本研究の結果を踏まえると、因果関係を表す表現の習得を伴う中間言語の形成には普遍的な要素が見られると指摘できる。

2. ロシアの大学という目標言語のインプットが限られた環境において日本語を身につけようとする学習者にとって習得が困難な原因・理由を表わす表現としては、「ので」、「のだ」「～テ形」が考えられる。接続助詞として文中に現れる「ので」は「から」とほぼ同じ時期に導入されることになっているが、その運用能力が発達するまでには時間がかかる。さらに、文末の「ので」は、本研究の結果から、日本語母語話者との接触が限られている教室内での指導のみでは、習得が十分促されないと考えられる。「のだ」に関しては、習得が早い段階に始まると言えるが、その産出数はわずかで、2つの事態の結び付きが弱い場合には不適切な使用もあったことから、習得しにくい表現であると指摘したい。また、「～テ形」に関しては、学習者が原因・理由を表す用法があるのを意識してはおらず、この表現を意的に用いているのでは

ないかと疑われる。「～テ形」の使用は各学年とも観察されており、学年が上がるに連れ産出数も使用者数も増加する傾向にあるが、「～テ形」のかかる範囲が狭いため、習得しにくい表現であると考えられる。

3. 学習者の母語が、原因・理由に関する発話の構成や、表現の選択に与える影響に関しては、母語干渉は目標言語のインプットが限られた環境において日本語を学ぶ学習者には特に観察されやすい。学習期間が長くなっても、ロシア語から日本語への転移は言語知識にアクセスする際の処理的な手続きにさく時間が十分に与えられないリアルタイムでの対話では生じると指摘できる。本研究の結果から、母語干渉としては、1) 学習者が因果関係を持つ事態について述べる際、原因・理由を表わす特定の言語形式を用いずに表現できるというロシア語の特徴を日本語にも転移させていること、2) 「だから」の使用において、文頭に現れるという共通点に基づいて「П О Т О М У Ч Т О」の意味で不適切に用いたことが挙げられる。いずれも、因果関係の表現の習得を阻害していると考えられる。

以上、本研究では、ロシア語を母語とする日本語学習者を対象にし、因果関係を表す表現の習得状況を分析した結果、母語を問わず普遍的に見られる「目標言語規則の過剰一般化」及び母語の特徴を転移させている「母語干渉」の両方とも、因果関係の表現の習得を伴う学習者の中間言語の形成に大いに関わるという結論に至った。

## 6.2. 本研究の限界

本研究では、ロシア語母語話者における因果関係の表現の習得状況を見るためには、質的及び量的な研究を結合したデザインを設定し、「半構造化インタビュー」、「ストーリー構成法」、「フォローアップタスク」という3つのデータ収集方法を用いたことによって広さ、深さ、一性を高めるトライアングレーションができたと考えるが、教室で日本語を身につけようとする学習者の話し言葉に焦点を絞ったため、今回得られた結果の一般化には限界があると断っておきたい。また、学習者の中間言語を多面的にとらえようと相互交流論 (interactionist) の観点から本研究を行ったが、因果関係を表す表現の習得に関する知見を得るためには単一の視点のみでなく複数の視点さらにはトライアングレーションの手法を用いるなどデータの信頼性を高めるような工夫をする必要があるであろう。

以上、本研究はこのような制限はあるが、ロシア語母語話者における因果関係の習得に

ついて

### 6.3. 本研究の意義

本研究の意義は、我々の日常生活においてよく起こる原因・理由を述べる言語行為を中間言語体系の観点から考察し、これまで対象とされてこなかったロシア語母語話者の原因・理由を表わす表現の習得に伴ういくつかの特徴を明らかにすることができたことである。「から」の過剰使用の問題は習得が進むと共に解消されていくという点、またその一方で、学習期間が長くなっても依然として解消されないロシア語から日本語への転移の問題が存在するという点は、従来から行われてきた母語と目標言語との類似点及び相違点を探る対照研究や、学習者の誤用のみに焦点を当てた誤用分析だけでは解明されてこなかった。しかし、本研究では、目標言語の知識がゼロの状態から目標言語に近いレベルに移行していく学習者の中間言語体系に目を向けた中間言語研究を行ったことによって明らかにできたのである。こうして、学習者の習得過程のある一時点で生じる問題点に留まらず、習得段階に応じて変化する連続体としての中間言語を探るという本研究のあり方は今後の日本語習得研究のあり方に対しても新たな可能性を示しているのではないかと主張できる。

以上

礎研究

## 参考文献

(和文)

- 相原林 (1987)「接続語句と文章の展開」『日本語学』6-9 明治書院、37-45
- 木 (1999)「所 「文と文を繋ぐ接続詞」の構文章論的扱いについて」『玉大学要教育学部(人文・社会科学Ⅱ)』第48巻1号、25-33
- 家田章子(2005)「共起表現から見る「ノニ」文の用法」『日本語教育』125、38-46
- 庵功雄(2001)『新しい日本語学入門 言葉のしくみを考える』スリーエーネットワーク
- 池上 希子・太田 明子・岡部真理子・小川 子・野俊之・金城尚美・佐々木香代子・難波 治・丸山敬介(1998)『日本語教育重要用語1000』バベル・プレス
- 石黒 (1998)「理由の予測—予測の読みの一側面—」『日本語教育』96、49-60
- 市川 (1978)『国語教育のための文章論概説』教育出版
- 一ノ瀬正樹(2002)『原因と結果の迷』 書房
- (2006)『原因と理由の迷 —「なぜならば」の哲学』 書房
- 今尾ゆき子(1991)「カラ、ノデ、タメ—その選択要因をめぐって—」『日本語学』10-12 明治書院、78-89
- 岩崎 (1995)「ノデとカラー原因・理由を表わす接続助詞—」 島達夫・仁田義雄編 『日本語類義表現の文法(下)—複文・連文編—』 くろしお出版、506-513
- 宇佐美まゆみ(2007)「改訂版:基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)」『多文化共生社会における異文化コミュニケーション教育のための基礎的教育』
- ウヴェ・フリック著 小田博志他訳(2002)『質的研究入門—<人間の科学>のための方法論』 秋社
- 馬瀬良雄・岡野ひさの・伊藤 子(1989)「外国人の言語行動に対する日本人の意識」『日本語教育』67、25-47
- 遠藤織枝(1978)「作文における誤用例—モスクワ大学生の場合」『日本語教育』34、35-46
- 大喜多喜夫(2000)『英語教員のための応用言語学—ことばはどのように学習されるか—』 和
- 大関 美・谷内美智子・森 絵・遠山 佳・佐々木 則(2003)「第二言語習得とは何か? —白井 講演録解説—」『第二言語習得・教育の研究最前線 言語文化と日本語教育』

- 2003年11月増刊特集号』17-28
- 尾方理恵（1993）「「から」と「ので」の使い分け」、松村明先生喜 記念会編『国語研究』  
明治書院、844-861
- 岡部寛（1998）「ダカラとソレデの違いについて」『現代日本語研究』第5号 大阪大学日  
本語学講座（現代日本語学）、53-64
- 岡本真一郎・多門 容（1998）「談話におけるダカラの諸用法」『日本語教育』98号、49 -  
60
- 奥津敬一郎・沼田 子・ 本 （1986）『いわゆる日本語助詞の研究』にほんごの 人社  
小野理恵（1988）『実践ロシア語教程（和文露訳）—Практический курс русского языка』  
大阪外国語大学
- 木山三佳（2003）「「から」「だから」の習得—教室習得学習者の事例研究—」『お の水女  
子大学人文科学 要』第56巻、75-90
- 極興一（1986）「接続助詞「から」と「ので」の史的考察—小学校国語教科書を対象とし  
て—」『国語と国文学』 和 十一年 月号 東 大学国語国文学会、55-67
- 許夏 （2002）「文末の「カラ」と「カラダ」の意味用法—「ノダ」の用法との比較を通し  
て—」『言語文化論集』第23巻2号、67-79
- 国広哲 （1992）「「のだ」から「のに」・「ので」へ—「の」の共通性—」カッケンブッシ  
ュ寛子／ 尾崎明人／ 島央／藤原 / 山洋介編『日本語研究と日本語教育』名  
古屋大学出版会、17-34
- 久保 るみ（1994）「原因を表す表現—単文から複文への考察—」『日本語・日本文化研究』  
第5号 大阪外国語大学日本語講座、57-68
- グループ・ジャマシイ編著者（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出  
版
- 小池生夫（編集主幹）（2003）『応用言語学事典』研究者  
———（編集主幹）（2006）『第二言語習得の現在：これからの外国語教育への視点』大  
修館書店
- 小池清治・小林賢次・細川英雄・山口佳也（2002）『日本語表現・文型事典』朝 書店
- 駒田 （1991）「のだ表現の指導」 田 夫先生還 記念論集編集 員会『日本語教育  
論集—日本語教育の現場から—』222-233
- 小山 （1998）「文法性判断は何を見ているか」『 大学留学生センター 要』第9号

大学留学生センター、39-50

近藤邦子 (2004) 「香港大学における日本語学習者によるストーリーテリングの接続表現の問題」『早稲田大学日本語教育研究』早稲田大学大学院日本語教育研究科 第5号、77-92

佐久間まゆみ (1987) 「段落の接続と接続語句」『日本語学』6-9 明治書院、46-55

井喜久子 (1990) 「ストーリー説明における発話能力の評価」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』5号、175-199

追田久美子 (2002) 『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク

ザトラウスキー・ポリリー (1993) 『日本語の談話の構造分析-勧誘のストラテジーの考察-』くろしお出版

塩澤 (1997) 「順接型接続詞の意味と用法」『文 言語研究 言語』筑波大学 文芸・言語学係 31、23-55

哲人・内 理・沢清美 (2002) 『外国語教育リサーチとテストの基礎概念』関西大学出版部

島岡 (1986) 「外国語教育のための対照研究」『応用言語学講座 2 外国語と日本語』明治書院、60-75

清水 子 (2003) 「国際学生の口頭表現能力の調査-中間報告-」『Polyglossia』Vol. 7 立命館アジア太平洋大学、115-120

下川 (1993) 『現代日本語構文法-大久保文法の継承と発展-』三省

白井 (2003) 「第二言語習得とは何か？」『第二言語習得・教育の研究最前線 言語文化と日本語教育 2003年11月増刊特集号』2-16

白川博之 (1990) 「「から」で言いさす文」『広島大学教育学部 要』第2部 第39号、249-255

—— (1995) 「理由を表わさない「カラ」」仁田義雄編『複文の研究(上)』くろしお出版、189-219

白川博之監修 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田 著 (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

城田 俊 (1993) 『現代ロシア語文法』東洋書店

新村知子 (1996) 「独話における接続詞・接続助詞表現の特徴-日本人大学生と外国人留学生の比較において-」『金沢学院大学文学部 要』、Vol. 1、56-63

- 鈴木 (1994)『教師用日本語教育ハンドブック③ 文法 I - 助詞の諸問題 1』 国際交流  
基金 日本語国際センター
- スマルヤディ アンドリ (1992)「「から」と「ので」の用法」『日本語・日本文化研修プロ  
グラム研修レポート集』広島大学留学生センター、43-48
- セリガー・ハーバート・W/ショハミー・イラーナー著 土屋 久他訳 (2001)『Second  
Language Research Methods 外国語教育リサーチマニュアル』大修館書店
- Sereda, M. (2005)「ロシア語母語話者における「から」と「ので」の習得について—「か  
ら」と「ので」の使い分けの誤用を中心に—」大阪外国語大学大学院修士論文
- 高 順一他編著 (1998)『人間科学研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版
- 田窪行則 (1987)「頭語構造と文脈情報」『日本語学』6-5 明治書院  
(1987)「「接続」研究の現在と問題点」『日本語学』6-9 明治書院、4-11
- 田中望 (1980)「日常言語における“説明”について」『日本語と日本語教育』8 応義  
大学国際センター
- 田中寛 (2003)「結果誘導節における発話意図」『語学教育研究論』20号 大東文化大学  
語学教育研究所、205-221
- (2004)『日本語複文表現の研究—接続と叙述の構造—』白 社
- ダニエル・ヴァンダーヴェーケン著、久保進訳注 (1995)『発話行為理論の原理』松 社  
——著、西山文夫ほか訳 (1997)『意味と発話行為』
- 谷崎和代 (1994)「談話標識についての一考察—「だから」を中心に—」『大阪大学言語文  
化学』Vol. 3、79-93
- 玉川大学応用言語学研究会 訳 (1988)『中間言語入門—誤答分析を超えて Error Analysis  
and Interlanguage』三修社
- 趙順文 (1988)「『から』と『ので』—永野説を解釈する—」『日本語学』7-7 明治書院、
- 張 声 (1998)「原因・理由を表す「して」の使用実態について—「ので」との比較を通し  
て—」『日本語教育』96号、121-131
- 田 子 (2005)「理由と原因と発話行為の正当化の微妙な関係：学習者に理解しやすい記  
述の試み」『一 大学留学生センター 要』8、3-15
- 寺村 夫 (1982)『日本語教育指導参考書 —日本語の文法 (下)』国立国語研究所  
—— (1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版  
——研究負担者 (1990)『外国人学習者の日本語誤用例集』特別推 研究「日本語の普遍

- 性と個別性に関する理論的及び実証的研究」分担研究「外国人学習者の日本語誤用例の収集、整理及び分析」資料
- 徳田裕美子（1995）「接続助詞及び接続詞の誤用について」『日本語の研究と教育 窪田富男教授退官記念論文集』専門教育出版、409 - 422
- 栃木由香（1990）「日本語学習者のストーリーリングに関する分析：話の展開と接続形式を中心に」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』5号、159-174
- （1995）「日本語中級学習者の話しことばのテキストの型—接続表現の使用を中心に」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』10号、79-93
- 富田 行（1993）『これだけは知っておきたい日本語教育のための文法の基礎知識とその教え方』 人社
- 中川裕志（1995）「複文の意味論—因果関係を表す接続助詞を手掛かりに—」『月刊言語』24-11 大修館書店、46-53
- （1997）「複文における因果性と視点」田窪行則編『視点と言語行動』くろしお出版所収、77-117
- 永田良太（2000）「接続助詞カラの用法間の関係について—発話解釈の観点から」『日本語教育』107、36-44
- 長友和 （1993）「日本語の中間言語研究—概観」『日本語教育』81号、31-41
- 永野賢（1952）「「から」と「ので」とはどう違うか」『国語と国文学』29-5
- （1970）『伝達論にもとづく日本語文法の研究』 式会社東 出版
- （1988）「再説「から」と「ので」とはどう違うか—趙順文氏への反批判をふまえて—」『日本語学』7-12 明治書院
- 中右 実編 神尾 雄・高見 一著（2001）『日英語比較選書 談話と情報構造』研究社
- 中村 明（1982）「日本語教育における“言語行動”の広がり」『日本語教育』49、35-48
- 西 俊 （1999）「学習者は助詞の使用に際してどのように判断しているか—「は」と「が」の使い分けを通して—」『平成11年度日本語教育学会秋 大会予稿集』社団法人日本語教育学会 式会社創 社、211-216
- 仁科明（1998）「「ので」の諸相—性格把握の前提として—」『東 大学国語研究室 創立百周年記念 国語研究論集』 古書院、1001-1021
- 仁田義雄（1987）「条件づけとその周辺」『日本語学』6-9 明治書院、13-27
- （1995）「シテ形接続をめぐって」仁田義雄編『複文の研究（上）』くろしお出版、

87-126

川 (1990)「発表と談論ーライデン大学における上級レベルのための会話ー」『日本語教育』71、96-108

日本語記述文法研究会 代表 仁田義雄(2003)『現代日本語文法4 第8部 モダリティ』くろしお出版

日本語教材リスト編集 員会編 (2005)『日本語教材リスト Guide to Japanese Language teaching materials 35 2005-2006』 式会社 人社

. . . . . ネウストプニー (1981)「外国人場面の研究と日本語教育」『日本語教育』45、30-40

. . . . . ネウストプニー (1981)「外国人場面の分析と日本語教育」『日本語教育』45、105-106

. . . . . ネウストプニー (1982)「日本語教育と二重文化教育」『日本語教育』49、13-24

. . . . . ネウストプニー (1989)「日本人のコミュニケーション行動と日本語教育」『日本語教育』67、11-24

野田 美 (1995)「「のだから」の特異性」仁田義雄編『複文の研究 (上)』くろしお出版、221-245

———— (1997)『「の (だ)」の機能 日本語研究 書 』 くろしお出版

野村俊明 (1981)「接続詞の獲得にみる因果的思考の発達」『東 大学教育学部 要』第21巻、173-181

野元 雄 (1982)「日本語教育と言語行動」『日本語教育』49、25-34

内 (2000)『ディスコースー談話の織りなす世界』くろしお出版

蓮沼 子 (1991)「対話における「だから」の機能」『 路 協大学外国語学部 要』第4号、137-153

長谷川守 (2001)「複文構造から見た接続表現の分類について」『文教大学文学部 要』Vol.15、No.2、18-39

花井裕 (1990)「「ので」の情報領域ー「から」との対話性と比較してー」『阪大日本語研究』2 大阪大学、57-81

花田 子 (1997)「学習者の「は」と「が」の使い分けの意識ーキーワードによる分析ー」『 大学留学生センター 要』第 号 大学留学生センター、65-84

馬場俊臣 (2006)「日本語教育における接続詞指導・習得に関する研究文献とその概要」『

- 国語研究』11号、1-23
- (2007)「現代日本語接続詞研究文献一覧(上)」『国語研究』12号、1-24
- 濱田美和(2000)「原因・理由を表す接続表現—中上級日本語学習者の誤用例分析を通して—」『IDUN』14号大阪外国語大学、203-222
- 早川 広(1987)「言語習得における「接続」の問題」『日本語学』6-9 明治書院、104-112
- 早川知(2004)「因果関係のための語彙—文法的資—日本語と英語の科学教科書における因果関係記述の比較—」『東北大学大学院 国際文化研究科創立10周年記念論文集』東北大学大学院国際文化研究科、1-20
- 林大(1964)「ダとナノダ」森岡 にはか(編)『講座現代語6 口語文法の問題点』明治書院、
- ハリデイ、M. A. K.・ハサン、ルカイヤ著、安藤 雄・多田保行・永田 男・中川 高口 訳(1997)『テキストはどのように構成されるか—言語の結束性—』ひつじ書房
- ひけひろし(1987)「「それで」「だから」「したがって」」『教育国語』88 むぎ書房、46-59
- 上(1987)「普遍文法と第二言語習得」『大阪明 女子短期大学 要』Vol. 2、1-15
- 野伴子(1995)「「から」と文の階層性—非演述型の場合—」『日本語の研究と教育 窪田富男教授退官記念論文集』専門教育出版、27-42
- 深山 子(1983)「「言語習得研究の方法」についての考察」『STUDIUM』12 大阪外国語大学大学院研究室、1-17
- 福間 子(1989)「〈から〉と〈ので〉の使い分けの実態」『日本語教育論文集』第三号 福岡YWCA、25-43
- G. N. プロトニコヴァ・林田理恵(1994)『上級ロシア語教程—語順・モダリティー・文の意味上の主体—』大阪外国語大学
- 北 子(1980)「中級読解教材における接続詞の問題」『講座日本語教育』第16分 早稲田大学語学教育研究所、20-36
- ポターポヴァ N. F. 著 石山正三訳(1958)『ロシヤ語初級コース』第 巻 白水社
- 恵子(2005)「日本語条件表現が表す発話意図—教室指導における場面提示を目指して」『平成17年度日本語教育学会秋 大会予稿集』社団法人日本語教育学会 式会社キンコー、229-234

- 野成一・田修・山内博之・藤 理子・原 佳子・伊藤とく美・池 美代子・中島和子 (2001) 『ACTFL-OPI 入門ー日本語学習者の「話す力」を客観的に測る』アルク
- 真 子 (2001) 「デビッド・ニューナン『言語学習の研究方法』『EX ORIENTE』 Vol.5 大阪外国語大学言語社会学会、255-270
- 真 子・小山洋子・飯島 治・藤田香織 (2004) 「ドイツの大学における日本語学習者ー大学での調査より」『EX ORIENTE』 Vol.10 大阪外国語大学言語社会学会、289-312
- 益岡 志・田窪行則共著 (1989) 『基礎日本語文法』くろしお出版
- 益岡 志 (1991) 『モダリティの文法』くろしお出版
- (1997) 『新日本語文法選書 複文』くろしお出版
- 松木正恵 (2006) 「複合辞研究史 「後置詞」というとらえ方」『学術研究ー国語・国文学編ー』第54号 早稲田大学教育学部、15-26
- 松林城 (1995) 「第二言語習得における言語知識と宣言的知識」『 良工業高等専門学校研究 要』31、105-112
- 松丸真大 (2003) 「原因・理由を表わす接続助詞の切换え」『大阪社会言語学研究ノート』第5号、97-113
- 三枝令子 (1993) 「語形から機能を知るーので、のに、だけで、だけに、の分析を通してー」『言語文化』Vol.30 ー 大学語学研究室、35-51
- (2006) 「話し言葉における「テ形」」『ー 大学留学生センター 要』9、15-26
- 三上章 (1953) 『現代語法序説』 書院 ( 刊 くろしお出版 (1972))
- (1959) 『続・現代語法序説』 書院 ( 刊 くろしお出版 (1972))
- (1970) 『文法小論集』くろしお出版
- 水谷信子 (1992) 『日本語教育の内容と方法ー構文の日英比較を中心に』アルク日本語教師養成講座 選書; 4
- 水野 晴 (2000) 『中間言語分析ー英語 詞習得の 』開 者
- 南不二男 (1974) 『現代日本語の構造』大修館書店
- (1993) 『現代日本語文法の 』大修館書店
- 崎 (2005) 「日本語教科書の会話ディスコースと明示的(explicit)、暗示的(implicit)な調整行動: 教科書談話から学べること・学べないこと」『早稲田大学日本語教育研究』7号、1-25
- 宗田安 (1993) 「図で示す格関係と意味ー因果関係を表す『で』、『に』、『から』の場合ー」

- 『視聴覚教材と言語教育』4、5号合併号 大阪外国語大学 AV 技法研究会、59-68
- 村田年 (2000) 「多変量分析による文章の所属ジャンルの判別—論理展開を支える接続語句・助詞相当句を指標として—」『統計数理』第48巻 第2号 統計数理研究所、311-326
- 望月通子 (1990) 「条件付けをめぐる—「理由」の「シテ」と「カラ」—」『大阪大学日本学報』9号、33-49
- (1991) 「原因・理由の表現形式「ので」・「から」と述語の連用形・テ形」 田夫先生還 記念論集編集 員会『日本語教育論集—日本語教育の現場から—』、256-265
- 森朋子 (2005) 「大学教育におけるアカデミック・ジャパニーズ」を考える」『東 家政学院大学 要』第45号、117-122
- 森田良行 (1987) 「文の接続と接続語」『日本語学』6-9 明治書院、28-36
- (1989) 『基礎日本語辞典』角川書店
- (1990) 『日本語学と日本語教育』 人社
- (1995) 『日本語の視点—言葉を創る日本人の発想—』創 社、268-286
- (2002) 『日本語文法の発想』ひつじ書房
- 森山 新 (2003) 「多義語としての格助詞デの習得過程：認知言語学的観点から」『2004年日本語教育国際研究大会予稿集 発表』1、日本語教育学会他、77-82
- 山田みどり (1984) 「「ので」と「から」の問題点」『研究資料日本文法 』明治書院
- 山辺真理子・谷 子・中村律子 (2005) 「アカデミック・ジャパニーズ再考の試み—多文化プロジェクトワークでの学びから—」『日本語教育』126、104-113
- 山本多恵子 (2003) 「日本語接続詞「だから」と「だって」の関連性理論による分析」『国際基督教大学学報 I-A 教育研究』45、187-198
- 除村 太郎 (1974) 『露文解釈から和文解釈へ』(改訂版) 研究者印 式会社
- 横林宙世・下村 子著 (1991) 『外国人のための日本語—例文・問題シリーズ —接続の表現』荒 出版
- 横林宙世 (1988) 「中級学生の作文に表れた接続表現について」『Sophia International review』Vol. 10、70-74
- (1994) 「上級作文に使用される接続表現」『Sophia International review』Vol. 16、103-108
- レスリー・M. ビービ著 島岡 監修 城 、佐久間 之訳 (1998) 『第二言語習得の研

究—5つの視点から』大修館書店

ワインバーグ、ジュリアス著 寺中平治訳 (1990) 「因果性」『西洋思想大辞典』1 巻  
式会社平 社、155-163

渡部学 (1990) 「2 文の因果関係と接続」『大阪大学日本学報』9 号、51 - 67

JACET SLA 研究会編著 (2005) 『文献からみる第二言語習得研究』開 者

(インターネットサイト URL)

国際交流基金の公式サイト (2007 年 11 月 8 日現在)

[http://www.jpf.go.jp/j/japan_j/oversea/kunibetsu/2005/russia.html](http://www.jpf.go.jp/j/japan_j/oversea/kunibetsu/2005/russia.html)

『第二言語習得用語』(2007 年 5 月 8 日現在)

<http://www.geocities.jp/itomohitos/jentrance>

独立行政法人日本学生支援機構の公式サイト (2007 年 11 月 8 日現在)

[http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/data06.html](http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/data06.html)

庭三郎 (未公刊) 『現代日本語文法概説』(2007 年 5 月 30 日現在)

<http://www.geocities.jp/niwasaburoo/index.html>

フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』(2007 年 9 月 22 日現在)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AD%A6%E7%BF%92%E6%9B%B2%E7%B7%9A>

(英文)

Alfonso, Anthony. (1966). *Japanese Language Patterns, Vol. 1*. Sophia University.

Anderson, J. R. (1983). *The Architecture of Cognition*. Harvard University Press.

Austin, John L. (1962). *How to Do Things with Words*. Oxford: Oxford University Press.

Barthel, Alex. (1996). Do you speak academically? Paper presented at the Australian Association for Research in Education conference Educational research building new partnerships, 25th -29th November 1996.

Barthel, Alex. (2001). Academically Speaking: New Identities or Old Realities? Changing Identities. Language and academic skills conference, 29th-30th November 2001.

Basturkmen, Helen. (1998). Aspects of Impoverished Discourse in Academic Speaking: Implications for Pedagogy from a Mini-Corpus. *Asian Journal of English Language*

- teaching*, Vol. 8, pp. 81-91.
- Brown H. Douglas. (2000). *Principles of Language Learning and Teaching, Fourth Edition*. Addison Wesley Longman, Inc.
- Burt, M. and Kiparsky, C. (1972). *The Gooficon: A Repair Manual for English*. Rowley, MA: Newbury House.
- Comrie, Bernard. (1984). Russian. In *Interrogativity: a colloquium on the grammar, typology, and pragmatics of questions in seven diverse languages*, edited by W. S. Chisholm, L. T. Milic and J. A. Greppin. Amsterdam: John Benjamins, pp. 7-46.
- Corder, S. Pit. (1967). The significance of learner s errors. *International Review of Applied Linguistics* 5: pp. 161-170.
- Corder, S. Pit. (1971). Idiosyncratic dialects and error analysis. *International Review of Applied Linguistics* 9: pp. 147-159.
- Corder, S. Pit. (1976). "The study of interlanguage" in Proceedings of the Fourth International Conference of Applied Linguistics. Munich, Hochschulverlag.
- Doughty, Catherine J. and Long, Michael H. (2003). *The Handbook of Second Language Acquisition*. Blackwell Publishing.
- Grice, H. Paul. (1975). Logic and Conversation. In Peter Cole and Jerry Morgan (eds), *Syntax and Semantics, vol. 3: Speech Acts*, New York: Academic Press, pp. 41-58.
- Gumperz, J. J. (1982). *Discourse strategies*. Cambridge, U.K. : Cambridge University Press.
- Gumperz, J. J. (ed.). (1982). *Language and social identity*. Cambridge, U.K. : Cambridge University Press.
- Harnish, R. (1976). *Logical form and implicature*. Bever et al. (eds.)
- Hinds, John. (1984) Japanese. In *Interrogativity: a colloquium on the grammar, typology, and pragmatics of questions in seven diverse languages*, edited by W. S. Chisholm, L. T. Milic and J. A. Greppin. Amsterdam: John Benjamins, pp. 145-188.
- Holger, Diessel. (2004). *The acquisition of complex sentences*. Cambridge, U.K. : Cambridge University Press.
- Ellis, Rod. (1997). *SLA Research and Language Teaching*. Oxford, UK: Oxford University Press.

- Ellis, Rod. (2003a). *Task-Based Language Learning and Teaching*. Oxford, UK: Oxford University Press.
- Ellis, R. and Barkhuizen, G. (2005). *Analysing Learner Language*. Oxford, UK: Oxford University Press.
- Grenoble, Lenore A. (1998). *Deixis and information packaging in Russian discourse*.
- Hans P. Guth, A Short New Rhetoric (Belmont, California, 1964).
- Kaplan, R. B. (1966). Cultural thought patterns in inter-cultural education. *Language Learning* 16, pp. 1-20.
- Kirkpatrick, Andy. (1991). Information sequencing in Mandarin in letters of request. *Anthropological Linguistics* 33 (2), pp. 1-20.
- Kirkpatrick, Andy. (1993). Information sequencing in modern Chinese in a genre of extended spoken discourse. *Text* 13 (3), pp. 422-452.
- Kirkpatrick, Andy and Zhichang, Xu. (2002). Chinese pragmatic norms and “China English” . *World Englishes*, Vol. 21, 2, pp. 269-279.
- Krashen, Stephen. (1981). *Second Language Acquisition and Second Language Learning*. Oxford, UK: Pergamon Press.
- Lado, Robert. (1957). *Linguistics Across Cultures*. Ann Arbor: University of Michigan Press.
- Larsen-Freeman, Diane and Long, Michael H. (1991). *An Introduction to Second Language Acquisition Research*. New York: Longman.
- Lennon, Paul. (1991). Error: Some problems of definition, identification, and distinction. *Applied Linguistics* 12: pp. 180-196.
- Maynard, Senko K. (1989). Functions of the Discourse Marker *Dakara* in Japanese Conversation, *Text*, 9, 4, pp. 389-414.
- Nemser, W. (1971). Approximative systems of foreign language learners. *International Review of Applied Linguistics* 9: pp. 115-123.
- Nunan, D. (1992). *Research Methods in Language Learning*. Cup.
- Sacks, H., Schegloff, E. and Jefferson, G. (1974). A Simplest Systematics for the Organization of Turn-taking in Conversation. *Language*, 50 (4): pp. 696-735.
- Schiffrin, Deborah. (1987). Discourse markers (Studies in interactional

- sociolinguistics 5) Cambridge University Press.
- Searle, J. R. (1979) *Expression and meaning: studies in the theory of speech acts*.  
New York: Cambridge University Press.
- Selinker, Larry. (1972). Interlanguage. *International Review of Applied Linguistics*  
10: pp. 201-231.
- Stapleton, Paul. (2002). Critical thinking in Japanese L2 writing: rethinking tired  
constructs. *ELT Journal* Volume 56/3, Oxford University Press, pp. 250-257.
- Stubbs, M. (1983). *Discourse analysis: the sociolinguistic analysis of natural  
language*. Basil Blackwell, Oxford.
- Takahashi, K., Maruyama, T., Uchimoto, K., Isahara, H. Identification of  
“Sentences” in Spontaneous Japanese Detection and Modification of Clause  
Boundaries-. *Communications Research Laboratory, The National Institute for  
Japanese Language, ATR Spoken Language Translation Research Laboratories*.
- Takahashi, Sadao. (1984). A study of Sentential Connectives: *And, Or, But, So*- English  
& Japanese Contrasted, Part 1. *The Ronso Bulletin of the Faculty of Letters  
Tamagawa University*, 25, pp. 349-406.
- Weinreich, Uriel. (1953). *Languages in Contact: Findings and Problems*. New York:  
Publication Number 1 of the Linguistic Circle of New York.

(露文)

- Большой толковый словарь русского языка / Гл. ред. С.А. Кузнецов, - СПб.:  
"Норинт", 2000 (クズネツォーヴ S. A. 編 (2000) 『ロシア語詳解大辞典』サンクト・ペ  
テルブルク、ノリント出版)
- Бондарко А.В. и др. Теория функциональной грамматики: Темпоральность.  
Модальность. Изд-во Наука, Л., 1990 (ボンダルコ A. V. (1990) 『機能文法理論—テ  
ンポラリティ。モダリティ』レニングラード、ナウカ出版)
- Бондарко А.В. и др. Теория функциональной грамматики: Субъектность.  
Объектность. Коммуникативная перспектива высказывания. Определенность/  
неопределенность. Спб.: «Наука», 1992 (ボンダルコ A. V. (1992) 「コミュニケー  
ションから見た発話」『機能文法理論—主観性。客観性。コミュニケーションから見た発

- 話。一定性・不定性』サンクトペテルブルグ、ナウカ出版) pp. 189–231
- Бондарко А.В. и др. Теория функциональной грамматики: Локативность. Бытийность. Посессивность. Обусловленность. Спб.: «Наука», 1996 (ボンダルコ A. V. (1996) 『機能文法理論—所格。実在性。所有格。条件性』レニングラード、ナウカ出版)
- Всеволодова М.В., Яценко Т.А. Причинно - следственные отношения в современном русском языке. – М.: Рус.яз., 1988. – 207с. (セヴォロドヴァ М. V.、ヤシェンコ Т. А. (1988) 『現代ロシア語における因果関係について』モスクワ)
- Головнин И.В. Грамматика современного японского языка М.: Изд-во Московского Университета, 1986 (ゴロヴニン I. V. (1986) 『現代日本語の文法』モスクワ大学出版)
- Грамматика современного русского литературного языка, – изд - во «Наука», М, 1970 ((1970) 『現代ロシア語の文法』モスクワ、ナウカ出版)
- Йокояма О.Б. Когнитивная модель дискурса и русский порядок слов. М.: Языки славянской культуры, 2005 (ヨコヤマ O. B. (2005) 『ディスコースの認知的モデルとロシア語における語順』モスクワ)
- Крючков С.Е. и Максимов Л.Ю. Современный русский язык. Синтаксис сложного предложения. Учебное пособие для студентов пед. ин-тов по специальности № 2101 «Русс. яз. и литература». Изд. 2-е, перераб. М., «Просвещение», 1977. – 191 с. (クリュチコフ S. E.、マクシモフ L. U. (1977) 『現代ロシア語—複文の構文』モスクワ)
- Лаврентьев Б.П. Практическая грамматика японского языка М.: »Живой язык», 2001 (ラヴレンティエフ B. P. (2001) 『日本語応用文法』モスクワ、現代語出版)
- Метс Н.А. Практическая грамматика русского языка для зарубежных преподавателей - русистов,- М., 1985 (メツ N. A. (1985) 「非母語話者ロシア語教員のためのロシア語実践文法」モスクワ)
- Новый объяснительный словарь синонимов русского языка. Первый выпуск. 2-е изд., испр. / Под общим рук. акад. Ю.Д. Апресяна. – М.: Школа «Языки русской культуры», 1999. – 552 с. (Апрешьян U. D. 編 (1999) 『ロシア語類義語新解釈辞典』モスクワ)
- Новый объяснительный словарь синонимов русского языка. Третий выпуск. / Под

- общим рук. акад. Ю.Д. Апресяна. – М.: Языки русской культуры, 2003. – 624 с.  
(Апресян Ю.Д. 編 (2003) 『ロシア語類義語新解釈辞典』モスクワ)
- Нечаева Л.Т. Учебник японского языка для продолжающих. Часть I – ., 1994 (ネ  
チャエヴァ L. T. (1994) 『日本語—中級 I』モスクワ)
- Пазухин Р.В. Целенаправленность высказывания. // Проблемы языкознания  
(сборник в честь академика И.И. Мещанинова) // Изд-во ЛГУ, 1961 (パズヒン  
. (1961) 「発話の意図性」『言語学の課題』レニングラード大学出版)
- Пулькина И.М. Краткая грамматика русского языка для лиц говорящих на  
японском языке, –М: Прогресс, 1968 (い・エム・プリキナ (1968) 「初歩ロシア語文  
法」プログレス出版社・モスクワ)
- Русская грамматика. Под ред. Н.Ю. Шведовой.- М.: Изд-во «Наука», 1980 (シヴェー  
ドヴァ N. U. 編 (1980) 『ロシア語の文法』モスクワ、ナウカ出版)
- Учебник японского языка. Под ред. А.А. Пашковского. М., 1970 (パシコヴスキー  
A. A. 編 (1970) 『日本語』モスクワ)
- Учебник японского языка (для начинающих). М.: »Высшая школа», 1971 (ゴロヴ  
ニン I. V. 編 (1971) 『日本語—初級学習者向き—』モスクワ、ヴィスシャヤ・シコラ出  
版)
- Учебник японского языка (для продолжающих). Часть I М.: »Высшая школа»,  
1973 (ゴロヴニン I. V. 編(1973) 『日本語—中級 I』モスクワ、ヴィスシャヤ・シコラ出  
版)
- Формановская Н.И. Сложное предложение в современном русском языке. Теория и  
упражнения (включенное обучение). – М.: Русский язык, 1989. – 192 с. (フォルマ  
ノヴскаヤ N. I. (1989) 『現代ロシア語における複文—理論と練習』モスクワ)
- Хааг Э.О. К типологии выражения причинно-следственных отношений в  
современном русском языке. // Теоретические проблемы функциональной  
грамматики: материалы Всероссийской научной конференции  
( Санкт-Петербург, 26-28 сентября 2001 г.) / Отв. ред. А.В. Бондарко. -Спб.:  
«Наука», 2001 (ハーグ A. O. (2001) 「現代ロシア語における因果関係を表す表現の類型  
について」『機能文法の理論課題—全ロシア学術大会 (サンクトペテルブルグ、2001 年 9  
月 26 日—28 日) の資料』サンクトペテルブルグ、ナウカ出版) pp. 129–133

- Хааг Э.О. Функциональная типология и средства выражения причинно-следственных отношений в современном русском языке. Тарту, 2004, 165 с. At <http://dspace.utlib.ee/dspace/bitstream/10062/906/5/Haag.pdf> (ハーク A. O. (2004) 「機能類型と現代ロシア語における因果関係を表す表現」タルツ大学大学院博士論文)
- Хаясида Р., Уэхара Д. Учебное пособие по практическому курсу русского языка: грамматика, перевод, — Осакийский государственный университет иностранных языков, 1996 (林田理恵・上原順一 (1996) 「ロシア語中級教程—文法・作文」大阪外国語大学)
- Ширяев Е.Н. Бессоюзное сложное предложение в современном русском языке. М.: «Наука», 1986. — 220 с. (シリヤエフ Е. N. (1986) 『現代ロシア語における無接続詞複文』モスクワ)
- Японский язык для всех. Пособие по изучению разговорного языка. Во «наука» Новосибирск, 1993 ((1993) 『みんなの日本語—日本語会話の学習参考書—』ノヴォシビルスク、ヴォ・ナウカ出版)

## 用例出典一覧

コストヴァ・エリザベス著 高瀬素子訳 (2006) 『ヒストリアン I』 日本放送出版協会  
田中よね・野子・重川明美・御子神子・古世子・沢田子・新子 (1998)  
『みんなの日本語初級Ⅱ 本』 スリーエーネットワーク

(インターネットサイト URL)

「インタビュー：第 78 回都市対抗野球 フェズント 岩手監督・松田修一さん／岩手」  
(2007 年 6 月 17 日現在)

<http://headlines.yahoo.co.jp/h1?a=20070617-00000120-mailo-103>

期末試験・補講に関すること、湘南工科大学[在学生専用ページ] (2007 年 6 月 2 日現在)

<http://www.shonan-it.ac.jp/students/kyoumu/000271.html>

「太陽に向かって」ドラマの第 8 話「通い合う心」の解説 (2007 年 6 月 2 日現在)

<http://www.tv-hokkaido.co.jp/movie/taiyou.html>

『リアル中国 行』 (2007 年 5 月 16 日現在)

<http://fushigi.accnet.co.jp/rss/01/id145082.asp>

## 謝辞

本論文の執筆に当たって、多くの方々に大変お世話になりました。この場をお借りして、心より感謝を申し上げます。

まず、主指導教官である真子先生には6年前の研究生としての受け入れの時から、様々な面において常に心暖まるご支援を頂きました。長期にわたり貴重なご指導をくださったことに記して心より感謝申し上げる次第です。また、林田理恵先生、鈴木先生、井佐代先生、川智也先生、田英二先生にはたくさんのご教示とお力添えを頂いたことに深くお礼申し上げます。

また、原稿に目を通して筆者の日本語のチェックをしてくださった井さんに感謝の意を述べさせていただきます。尚、言うまでもなく現存する誤りなどの責任は全て筆者に帰せられるものです。

上記の方々のほかに、プライバシーの保護のために一人ひとりのお名前は挙げられませんが、調査のために協力してくださったS大学の東洋学部長、日本語講座主任教授、担当教員、インフォーマントの方々、パイロット・スタディの段階で「半構造化インタビュー」を実施してくださったインタビュアーのご協力及びご理解なくしては、とてもこうした研究を実現することはできませんでした。改めて心より感謝の意を尽くします。

そして日本における留学期間中に、研究以外の面で支えてくださった方々にも感謝申し上げます。

最後に、この道を歩むのを応援してくれた母、父、母とき父、私の心の支えとなってくれている夫に深く感謝します。

## 巻末資料

### 資料 1. パイロット・スタディの発話の文字化資料

#### 資料 1.1 インフォーマント B の発話

001A : はじめまして。A です。

002B : あ、はじめまして。B と申します。

003A : あー

004B : B・XXX フールネームで

005A : あー

006B : 宜しくお願いします {笑い} ちかく (1.5) ですね {笑い} 宜しくお願いします。

007A : あの、この間 YYY の ZZZ 発表され//たって

008B : はいはい、先週の 曜日に

009A : 先週の// 曜日に

010B : ZZZ 発表

011A : あー、テーマは何ですか。

012B : テーマは、いまやっていることはなんかテーマの名前は日本におけるロシア正教会  
史の知られざる 1 ページ

013A : あー//ー

014B : 正教女学校と女性信徒達

015A : あーー

016B : そして時代的に十 世 の後半から二十世 の初頭までに限定されています。

017A : あそうなんですか。

018B : はい。

019A : どうしてそのテーマにされたんですか。

020B : あーーー、まー、このテーマ、日本におけるロシア正教会の歴史というテーマを  
やっているのは、もう八年間ぐらいですね。

021A : あー

022B : そう、なんか向こうの大学

023A : はい

024B : XXX 大学に入学してから//ずっとこのテーマをやっています。

025A : はい

026A : あそうなんですか。

027B : そう。うん、//うん。

028A : はー。最初は どうしてそのテーマにされたんですか。

029B : それはすごく難しい//質問ですねー。

030A : 笑い

031B : もう、学校の時にもなんかロシア正教、そしてロシア正教の歴史に非常に興味を持って

032A : は//ーい

033B : なんか学校の時にも高等学校の時にも//なんかいろいろなことを

034A : はい

035B : 調べていましたけ//ど

036A : はー//ー

037B : そう、XXX 大学の東洋学部に入學してから

038A : はい

039B : まー、またこの分野を 深く調べましょう。// {笑い} 思っていました。

040A : あそうなんですか。あー

041B : 聞いたことがありますか。このロシア、日本におけるロシア正教。

042A : 少しだけ//聞いたことがあるんですけど

043B : うんー

044A : あまり詳しくは知らないんで//すが

045B : あー

046A : どんな感じなんですか。どんなふうにして=

047B : =え、ロシア正教、ということはどういうことはわかりますか。

048A : ロシア正教ですか。ロシア正教 (1) はーあまり詳しくわからなくて

049B : あー

050A : キリスト教の一つだということ//などは

051B : あー

052 : (3)

054A : {笑い}

055B : 笑い そうなんか、もしかしてロシア正教ではなくて

056A : はい

057B : ギリシア正教とか、東方正教という言葉、を

058A : あ、聞//いたことがありますか

059B : うん、知ってるかもしれないんですね。それは、なんか同じことですね。

060A : はーい

061B : 正教、なんか (2) まー (0.5) 私も正直に詳しく//ないけど

062A : {笑い} 理論のことは

063B : そう理論的なものは、あまり、そうですね

064A : あ//ー

065B : なんか、調べたことはないけどー、なんか元々は//ー

066A : はい

067B : キリスト教でしたが

068A : はい

069B : 四世 にー (1) なんか、ローマ 国は

070A : はい

071B : 東ロマ 国とー、あー、西ロマ 国に

072A : はい

073B : 分裂されて

074A : はい

075B : そして、あ、東ローマ 国の国教になったのはこの正教//というキリスト教の

076A : はーい

077B : うん教派

078A : はい

079B : うん、でしたんですね。そしてー、西ローマ 国の国教んーーーになったのはこの  
ローマカトリック

080A : はい、はーー

081B : あーmー、そしてー、 世 に

082A : うーん

083B : あー、このー正教はロシアにも伝えられて

084A : はー//い

085B : このロシエ、あ、その後はロシア 国の国教になりました。

086A : はい

087B : そして、日本の正教はー、あー、1870 年代にニコライ、えー師 (1) んーーーとい  
う (1.5) なんか正教の宣教師

088A : はい

089B : によりこのロシア正教からー、もたらされたんですね。

090A : あー、そう//ですか。

091B : そしてー (1) 1970 (1) 年には、この (0.5) あー、日本、あ、正教会は、このロシ  
アからー (0.5) 自治独立権利を与えられて

092A : は//ー

093B : えー、この全世界の、えー、正教教会の

094A : は//い

095B : 中の一つの教会になりま//した。

096A : あ、一つの教会に//なったんですね。

097B : そうそうそう。今独立ですね。今ロシアにあまり関係ないですね。

098A : あ、//そうですね。

099B : 今、日本正教会、日本独立正教会です。

100A : あ、日本//独立正教会というんですか。

101B : そうですね。

102B : うん//ー

103A : あー、いつ独立したんですか。

104B : 1970 年

105A : あ、70 年に独立//した

106B : そうそうそう独立しました。

107A : あー、すごいですね。

108B : うん、そう、そしてこの (1) あー、正、日本なんか日本におけるロシア正教会は  
すごく日露関係、の歴史の中で大きな役割を果たしたんですね。

109A : あー//ー

110B : だから、まー、一応、うん、これをやっています。

111A : あー//ー

- 112B：特に、このニコライー師、とい//うー (1) なんか本当の名前は
- 113A：はい
- 114B：ニコライ・ディミトロヴィチ・カサトキン
- 115A：はい
- 116B：でしたが、まー、すごく有名ですね。日本でも、もしかして
- 117A：はい
- 118B：してるかもしれない、ニコライ ですね。
- 119A：はい、東 にあ//る
- 120B：東 の//ニコライ ですね。
- 121A：ニコライ ですね。
- 122B：そうですね。
- 123A：はい。
- 124B：彼の名前を
- 125A：あー、そう、ニコライさんは、どうして日本にやってくることになったんですか。
- 126B：あ、自分で選びました。彼はスモレンスクという町で生まれて、まースモレンスク  
ではないけど、スモレンスクの近くにある村で生まれてー
- 127A：はー//い
- 128B：スモレンスク神学学校卒業してサンクトペテルブルグ神学大学に入学して、そして  
ー (1.5) まー (1) あそこでこの日本を選んで日本に来ました。この (0.5) ちよ  
うど 1860 年代でしたんですね。
- 129A：はい
- 130B：そして、1855 年には、うん、日露和親条約
- 131A：はい
- 132B：が 結されたん (1) んーですね。そしてー (1) このー条約の結果として
- 133A：はい
- 134B：あーロシアのー、えー、ロシア人、そしてロシアのふねーにーとっては、いくつか  
の日本の港が、公開されました。
- 135A：あ、はい
- 136B：そしてこの港の一つは 館でした。そして 館にはー、この、あー、初めの、あー  
ロシア、日本におけるロシア (0.5) 領事館が設置されました。

- 137A : あー
- 138B : そう、そしてニコライ師も、この 館、最初に 館に到着しました。
- 139A : あ、そのやってきたロシア、日本、あ、 館のロシア大使の方のためにー
- 140B : はい、最初はそうでしたんですね。あ、この時代はー、えー、せんはっぴゃくー、  
まー (2) ななじ う年までに
- 141A : はい
- 142B : えー、このキリスト教の布教が禁止されていました日本では。
- 143A : はーい
- 144B : だから、そう、んー、日本人 (1) の間に、あ、キリスト教を、んー、広げるこ  
とは禁止されたんですね。
- 145A : はい
- 146B : 彼もこの時に日本に来てー (0.5) まー、日本語、日本史、日本の文学いろんなこ  
とを勉強 (1) してー (0.5) うーん
- 147A : あー
- 148B : すごく (1) うん、なんか (0.5) なんとという
- 149A : {笑い}
- 150B : 日本 (0.5) 日本学者
- 151A : あ、日本学者//になったんですか。
- 152B : になったんですね。そうそうそう
- 153A : あ//ー
- 154B : に、んー、といってもいいと思います//ね。
- 155A : あそうなんですか。
- 156B : はい
- 157A : あー、あ、じゃ、どうしてニコライさんはニコライさんって//ニコライ師は
- 158B : はい、はい
- 159A : えと 館にきたのに、ニコライ は東 にたっているんですか。
- 160B : あ、えー (1) えー、うん、最初は、あ、 館、に、なんか小さい教会を、うん、  
たて、建ててー、なんか小さいなんという集団を作って、そしてー (2) え、宣教  
団はロシア正教宣教団は設置されたのはー、1870 年ですね。そしてこのー、えー、  
年にロシアに帰国して

161A : あ

162B : なんかいろいろな (0.5) まー、書類とか、まー、許可をもらって

163A : はい

164B : そういうことで 館// {笑い}

165A : {笑い}

166B : そう、えー、なんか、また、んー日本に来て、 館からー東 に引越ししました。

167A : は//ー

168B : そう、東 はこのー、時に、 でし、 、 ですね。もう東 になっちゃった？

169A : //ですか。

167B : ですねー。

168A : はー//い

169B : そして、まー、日本の首都でしたんですね。

170A : は//ーい

171B : だからあそこでの、うーんー

172A : あー//ー

173B : このニコライ が、あー、建設されたのは、もう、けっこう遅いですね。

174A : あ、そうです//か。

175B : せんー、はっぴやく、き うじ う年代ごろですね。けっこう時間//がかかったん

176A : あ、そうですね。

177B : ですね。そう、ロシア、んー、なんか日本におけるロシア正教会は、まー、いろいろもんだーいーがあったんですね。

178A : はい

179B : 特にー、お金の問題

180A : あー

181B : うん、ですね。だから、うーん

182A : 誰も支援してくれなかったん//ということですか。

183B : あー、え、誰もではないけどー

184A : はい

185B : 日本人の信者はーそんなにお金がー、mー、もったことはない//ですね。

- 186A : あー
- 187B : そして、支援というのは、khm、ロシアの政 からもらったけどー、足りなかったん  
ですね。
- 188A : あー
- 189B : うんー、けっこう難しかった。でも、今までー、そ、存在してるのはすごくー (0.5)  
なんか珍しいことですね。
- 190A : あ、珍しいです//か。
- 191B : 珍しいですね。例えば、中国とかー、韓国にも、このー (1) あー、ロシアー正教、  
宣教団があったけどー (1.5) 今、独立したのはー、日本、正教会だけです。
- 192A : あ、そう//なんですか。
- 193B : うーんー、そうですね。
- 194A : あ、どうして日本だけ残ったと思われるんですか。
- 195B : それは、非常に面白いー
- 196A : {笑い}
- 197B : うーん、ことですねー。このお金の問題もあったしー、そしてー、ロシアからー、  
あまりー誰も来なかったんですね。(1) khm (1) あまり、んーーというなんか (2)  
しょくみん、しょくにん、しょくいんですね。
- 198A : はーい
- 199B : だから、必ず (1.5) khmー (1) んーなんかニコライ師の、一番大きな、予定//  
は
- 200A : はい
- 201B : 予定だったのは (0.5) 日本人からー、この職員を育てるということでしたんですね。
- 202A : あー//ー
- 203B : そして、いまのー、ん、ん、日本正教会のー職員は、全員は、日本人ですねー。
- 204A : あー、そうな//んですか。
- 205B : うんーー、そう
- 206A : あ、Bさんの、発表はどの、どういうことをやられたんですか。そのなか//から
- 207B : あ、そう、発表はー、えー、ちょっと違うーテーマに関していますねー。このー、  
ん、んー正教女学校とー
- 208A : は//い

- 209B : 女性信徒たち、んー (2) のことを
- 210A : はー//い
- 211B : うーん、今研究していますので (0.5) そう、初めにー、なんか (1.5) まー、この  
ーテーマの理由、このテーマの選択の理由
- 212A : はー//い
- 213B : んーづけとか、この (1) んー (1) どの程度、このテーマが今まで研究、されてい  
るー (0.5) うーん、のかー (1) うーん、そしてー (1.5) えー、論文にどんなー、  
えー、資料を
- 214A : はい
- 215B : 扱うー (1) ことー、またー (1) まー、何が、何を焦点 (1) んー (1) する (0.5)  
まーことについてー
- 216A : はい
- 217B : うーん、なんかいろいろ話してたんですね。あつとはー、この、日本にはー、四つ  
の、えー、正教宣教団附属女子学校でしたんですね。
- 218A : あー
- 219B : そしてこのー女子学校のこ、の歴史をそれぞれ、まー、いろいろー、あー、述べま  
した。あとは、今私まー非常に (1) うーん (1) なんか、関心を、持つのはー (1.5)  
えー、キリスト教のミッション・スクールは//日本の女子きいくと教育とー
- 220A : はい
- 221B : 日本のー、なんか、日本じよせーい//ー史においては非常にー、なんか、大きなー
- 222A : はい
- 223B : 影響与えましたんですね。
- 224A : あ、そうですか。
- 225B : うん、//うん
- 226A : どういう影響？
- 227B : なんか、それはまだ調//べているだけ
- 228A : {笑い} そうですか。＝
- 229A : ＝そうそうそう。今のところはねー、まー、そんなに詳しいけど、この (1.5) え  
ー、なんか明治時代が始まった に
- 230A : はい

231B : えー、女子学校というーことはあまりなかったんですね。

232A : あ//ー

233B : そしてー (1.5) まーいくつかがあったけどー非常に (0.5) んーなんか、月謝が高くてー

234A : はーい

235B : そう、そして、貴族の女性、だけが、入学することができました。

236A : あー

237B : うーんー、そして (1.5) この開国が起こった時に、アメリカ、特にアメリカですね。アメリカとヨーロッパからー、あのー、宣教師、んー、が、んー、たくさん来ました。

238A : あ//ー

239B : そしてこの宣教師はー、女性の自覚を高めるために

240A : はー//い

241B : この女性ミッション・スクールをー、まー、設置しました、ですね。

242A : うんー

243B : そしてー (1.5) なんか、このーミッション・スクールの特徴は (1.5) あー、女子は、なんか、いろいろなー、知識を受けられる (1) ことだけではなくて//ー

244A : は//ーい

245B : このじょせーいー、には、この知識を受けるー (2) んー、権利がある

246A : はい

247B : なんかものをみとめれたりみと// {笑い}

248A : {笑い}

249B : れる はい、そうですね。まー、ちょっと難//しいですね。そして、つまり、うん、

250A : {笑い}

251B : このじょせーいーには、男性の平等、んー、と (1.5) なんか権利あり、(1.5) と (0.5) 認められるんですね。

252A : あ、そう並みに作られたんですか。//

253B : そうですね。そうそうそう。

254A : あー//ー

255B : そういう意図でしたんですね。でもー、この、あー、ロシア正教会の場合は//ー

257A : はい

258B : そういう意図はぜんぜんなかったんですね。

259A : あ、はい

260B : なんか、あまりそういう大きな計画がなかった。そして、この、おん、なんか、全体にこの日本の女性の自覚を高める、ため (1) ではなくて— (1.5) あ— (3) なんか (1.5) ニコライ (0.5) あ— (0.5) 師は、この教会のために 人 (1) え— 職員

261A : は//い

262B : を育てるためにこの女子学校を創立しました。

263A : あ—//—

264B : 例えば、なんかロシアの教会はすごく、え—ん—、なんという、 で

265A : はい

266B : 有名ですね。そして—、せい、多くの場合にはこの— (0.5) あ—、 (1) を なんか育てたのは

267A : はい

268B : この、え—、女子学校

269A : はい

270B : この宣教、え—、正教宣教団附属女子学校の、え—ま—、卒業生でしたんですね。

271A : あ、そう//なんですか。

272B : そうですね。そして、もう一つの—、意図は— (0.5) ま— (1) え—、正教の日本人の信者と— 達などは (0.5) ま—、そんなに、ま—、お金がなかったんですね。

273A : はい

274B : そして—、彼らの—、 などの— (1) などがこの自由に、なんか、無料に、え—、 教育を、うか、受けられるために—

275A : は—//い

276B : この女学校が—、あ— (1.5) 創設されました。

277A : あ—

278B : あとは、もう一つの、え—、なんか、理由だったのは (2) この日本人の のために—

279A : はい

280B : 良い妻を育てることでしたんで//すね。

281A : あー//ー

282B : そう、なんか非常になんという、ローカルー

283A : {笑い}

284B : にーですなー。

285A : そうですね。

286B : そうそう、だから、ぜんぜん、うん

287A : ちょっとレベル//が違うだよ

288B : そうキリスト、ほかのキリスト教のミッション・スクール女子ミッション・スクールと、あー (0.5) 正教宣教団付属の、女子学校の、意図はぜんぜん違いますね。

289A : あー//ー

290B : そして、教育の内容も、うん、だいぶ

291A : あー

292B : 異な//ってる

293A : ちがう

294B : そうそうそう

295A : あ、その

296B : うん

297A : の勉強以外にはどんなことを勉強していた//んですか。

298B : まー、もちろんいろいろなことしま、うん、なんか勉強しましたんですね。例えばー、これミッション、まー、女子ミッション・スクールだったので、まずー、学校用神学、を、んー、教えたんですね。

299A : はい

300B : そして、ほかの、まー、女子学校と並んで (1.5) んーと同じように、まー普通の科目も、うん、教えられたんですね。例えば、えー、日本史、世界史、(1.5) えーと、物理学、化学、まー、漢文、まー

301A : あー

302B : そう、などーが、教えられたんですね。そして外国語としてロシア語ー、うん

303A : あ、//ロシア語

304B : 教えた。そうです。

305A : あー、はい。

306B : {笑い}

307A : 発表はどうでしたか。うまくいきましたか。

308B : あーんー、発表はー、まー、大 夫でしたけどー、// 笑い

309A : 笑い

310B : まだまだ、そう、微妙なところが多いので、特に、この、あ、ほかのキリスト教の  
ミッション・スクールの歴史とかー

311A : はーい

312B : そしてこのことはすごくなんか文献が、まー、多すぎて、まだまだ全部、まー、見  
たことはないの、なんかけっこう質問が多かったし

313A : はい

314B : 全部質問、うん、答えたことはできなかった。

315A : あー//ー

316B : でも、まー、大 夫だと思います。

317A : {笑い}

318B : これから一生 命に 張るので

319A : あー、質問とか、どんな質問が出ましたか。

320B : うんー、質問ですね。(1) あ、ちょっといま覚えてどんな質問ですねー。

321A : {笑い}

322B : あーんー (5) どんな質問 (1) まー、けっこう、このー、例えばー、あー、信者  
のー、総務？

323A : はい

324B : に関する質問多かったんですね。この、えー、日本におけるロシア正教の日本人の  
信者の総務 (1) 正直にー、この質問にも、うん、答える (1) こ、ちょっと {笑い}

325A : 難しい

326B : 難しかったですね。まー、でも、うん、まだまだ時間があるかなー、まー、// {笑  
い} 調べてみます。

327A : 笑い えー

328B : 笑い そう、うん、まー、時間がないけどー

329A : 笑い  
330B : うん、まー、一ヶ月ちょっとですね。  
331A : はい、そうですね。で、まだ一ヶ月あるんですね。//あー  
332B : まー {笑い}  
333A : {笑い}  
334B : なんか何時で//すか。  
335A : {笑い}  
336B : {笑い} はい、どうぞ、どうぞ、もし、質問があれば  
337A : 質問あるんですけど  
338 : (1)  
339B : ニコライ に行ったことがありますか。  
340A : はい、一度だけあるんですけど  
341B : あ、そうです//か。  
342A : はーい  
343B : あー、すごい  
344A : あー、あ、そう、女学校  
345B : はい  
346A : のー、こと、でどうということ、がわかるんですか。 笑い 具体的には。  
347B : なんか、私が一  
348A : 知らざる 1 ページですね。  
349B : そうですね。誰も研究したことはないというー//ことですね。  
350A : あ、女学校のこと//ですね。  
351B : そう、女学校、うん、そー (2) 今はー (0.5) まー、日本もだいたい からこのテー  
マはー (2)、んー、なんか、研究者の (0.5) 思念、に入って//るけど  
352A : あ、はい  
353B : えー、ロシアの場合は、まー、そんなにー (1)、あー、研究されてなかったけどー  
354A : はい  
355B : 最近は一、あの一、正教に関する (1.5) なんか一般的な興味がすごく  
356A : あー  
357B : うーん

358A : どうして正教に関する興味が高まっているのでしょうか。

359B : えー、ロシアの場合は？ (1) あー、私自身が思ってるのは、この、ソ連じだー  
いですね、あまり正教は、まー禁止された、わけではないけど

360A : はい

361B : あんまり誰も、まー、信じてなかったんですね。

362A : はい

363B : そして、この、えー、教会と正教のことは、うん、全然人気な話題//ではなかった

364A : {笑い}

365B : ので、誰もこの、うん、えー、んー、テーマ、なんかこのテーマを、まー、やった  
ことない

366A : あ//ー

367B : ですね。そして、しかし、資料とかー (1) ほかの (1) まー資料が多いですね。そ  
して、あー、特に新しい資料ですね。そして、だからー、すごくなんか今流行って  
いますね。

368A : あー

369B : でも、まー、むこ、まー、特に極東におけるこのロシア正教の歴史ですね。うーん、  
中国とか、韓国とか、まー、日本ですね。

370A : はー

371B : うーん、本当にこの国際関係において、非常に大きな役割を果たしていたので

372A : あ、そう//なんですか。

373B : そうそう学者、研究者の (0.5) 関心を引いています。

374A : あ、中国や韓国や日本の研究者の関心ということですかね。

375B : そうですね。うーん、特に、そう歴史家ですね。ち うごくー、おい、なんか中  
国の歴史とか中国のことをやっている人、ロシア人

376A : はー//い

377B : の研究者、ですね。そして、うん、日本人の場合も一緒ですね。

378A : あー//ー

379B : 日本、あ、日本

380A : 日本

381B : 日本のれ、なに、んー、日本、学者の場合にも一緒です。{笑い}

382A : {笑い} 一緒//です

383B : そう。そして、今 (1) この、一番 (2) なんか最初 (1) このー、日本におけるロシア正教の歴史の、最初時代はー、もう、まー、研究されています。

384A : あ、たくさん研究

385B : そうですね。十分に研究されていると思います。しかし、なんか一般的にですねー。  
(1) この、研究者は特にニコライ師のー人物、彼の活動、んー、になんか集中して

386A : はい

387B : まー (1) 彼が指導 (0.5) していた、この日本におけるロシア、え、正教会の歩みをなん//か

389A : はい

390B : まー、まとめていますね。

391A : はー//い

392B : 研究者達は。しかし、もっとせまーい、えー、なんか問題はまだまだ研究されていない。

393A : あー//ー

394B : そう、例えばー、各教会の (1.5) えーん、なんか歴史

395A : 歴//史

396B : 各教会の集団 (2) でちょっと宗教集団

397A : 宗教集団

398B : 宗教、え、集団の歴史とか

399A : はい

400B : そして、あーmー、このせん、えー (0.5) 宣教団の (1) 活動

401A : はい

402B : えー、例えば、うーん (2) 定期刊行誌の、あー、出版活動

403A : はー

404B : まーなど (0.5) の問題がまだまだ研究されてない。

405A : あー//ー

406B : その、まだ研究されていない問題のひとつは女子学校、のことですね。

## 資料 1.2 インフォーマント C の発話

001A : 論文のこと

002C : あ

003A : お聞きしようと思います

004A : あ、はい//そして

005A : なんか、発表された//ん

006C : うん、えー、論文のテーマは、mー、日本の歴史教科書におけるロシアのイメージ

007A : あ//ー

008C : です。で、日本の教科書は2つの種類があるんですね。

009A : あ、はい。

010C : えー、まー、どうか良く、//してる[知ってる]と思うんですけど 笑い

011A : いや一個しかたぶん知らないです。自分の使ったのしか

012C : うん、世界史と日本史。

013A : あ、はい。

014C : だから、世界史はやっぱり国際関係を

015A : うん

016C : 説明しようとしてる教科書ですけど

017A : はい

018C : ロシアについての mー、まー、じ じ つ[叙述]とかは多く出てくるです//ね。

019A : はいはい＝

020C : ＝で、あー、日本史の教科書だったら

021A : はい

022C : 日本の歴史をはいけん[背景]にして

023A : うん

024C : ロシアの歴史の指摘も出てくる//と思うんですけど、例えば日ロ関係の中には

025A : あ、はい

026C : とかあるんじゃないですか。

027A : はい。

028C : それと、日露 とか、

029A : はい

030C : 日露の条約いろいろ//も出てくるんですけど  
031A : うん  
032C : で、ロシアの、事//実、  
033A : うん  
034C : もちろん両方の教科書にはあって  
035A : はい  
036C : で、その事実を見て  
037A : うん  
038C : つまりロシア史の事実とか  
039A : うん  
040C : あー、ロシアについてのいろんな、まー、情報とか  
041A : うん  
042C : それと日ロ関係の解釈とか  
043A : あー  
044C : えー、それと、ロシアの内外事情、例えば、ロシアの政治の出来事とか  
045A : うん  
046C : あれを全部まとめて  
047A : うん  
048C : 日本の教科書は、日本人の頭の中に  
049A : うん  
050C : どういう認識を入れようとして、s、えー  
051A : あー  
052C : するか  
053A : は//い  
054C : ということを研究したいんですけど  
055A : はー  
056C : で、どうしてこういうテーマを選んだのは  
057A : うん  
058C : やっぱり、教科書は、例えば日本社会  
059A : うん

060C : の一番代表的な  
061A : うん  
062C : まー、歴史の扱い方とか  
063A : うん  
064C : 歴史の認識  
065A : うん  
066C : をこう表現するんですね。  
067A : あー  
068C : だから教科書に書いたものを分析したら  
069A : うん  
070C : やっぱり全ての日本の国民国家の、うん、まー、え、どう言えばいいですか。// 笑  
い  
071A : 笑い  
072C : 正式的に  
073A : う//ん  
074C : みとまった知識  
075A : う//ん  
076C : よくわかるんですね。  
077A : あー  
078C : で、ロシアについて、eh、まー、正式的に認められた  
079A : うん  
080C : まー、認識も、分かることができる (1) と思うんですけど。  
081A : あー  
082C : で、その知識の中に  
083A : うん  
084C : ステレオタイプという//ことが  
085A : うん  
086C : ロシアに対してのステレオタイプも出てくるかもしれないです。  
087A : あ、そう//ですね。  
088C : で (1) ロシアに対して本当にひ、あー、日本の教科書にはステレオタイプが、表

情されてるか//されてないか

089A : うん

090C : あれば、どういうタイプのステレオタイプが {笑い}

091A : {笑い}

092C : うん、あ言うことー、んー (3) まー、分析とか研究したいんです。

093A : あー

094 : (1)

095C : で、もちろん研究の資料として使うのは、あー (2) 日本に出版された教科書。

096A : うん

097C : で、多分、あー、日本の研究者とロシアの研究者なー、まー、論文とか本物使わな  
いといけないですね。

098A : うん

099C : あー、どうして、け、どうして使うかと言うと、うんー (4.5) つまり教科書に書い  
たことは

100A : うん

101C : どうしても現代の研究結果に

102A : うん

103C : いち[位置?一致?]しないといけないですね。

104A : そう//ですね。

105C : でも本当にいち[位置?一致?]するかどうか

106A : うん

107C : んー (3) mー科学的な世界にみとまったー認められた情報に、いち[位置?一致?]  
するかどうかも分析しないといけないですね。

108A : あー

109C : で (1) も、もしことわったら[異なったら]違ったら

110A : うん

111C : うーん、なぜ、違ってい//るか

112A : 違ってはいるか=

113C : =歴史家の一番大事なせつてい質問「なぜか」 笑い

114A : そうですね。

- 115C : だから、あれを分析するんですね。
- 116A : うん
- 117C : で、あー、イメージということ何かというと決まった方法論とかはないです。
- 118A : あー
- 119C : だから、ん、イメージの一定義はいろいろ存在するが
- 120A : うーん
- 121C : するですので、自分の、私の研究には一番適当なフ//フフ
- 122A : {笑い}
- 123C : 定義も探さないといけない//ですので
- 124A : あー
- 125C : で、定義だけじゃなくて方法論も
- 126A : うん
- 127C : 探さないといけないですけど、でもやっぱり (1.5) 今の段階でいえば (1.5) あー、  
シー、んー、例えば、教科書におけるある国のイメージ//の研究だったら
- 128A : うん
- 129C : ほとんど、あー、社会学的な研究が多い
- 130A : あー、と//いうより
- 131C : 社会学と、社会学と社会言語学
- 132A : あー
- 133C : わたーしは社会学者じゃないし
- 134A : うん
- 135C : 言語学者じゃないし、歴史、ん、国際関係の歴史家 {笑い}
- 136A : 歴史が専攻なんですね。
- 137C : そうですね。だから、あいう研究方法やっぱり私の研究には、うーん、なんか不  
適当と言えども、私あいう研究方法を使うことができません。
- 138A : あー
- 139C : 使ったことがないです// (1.5) から
- 140A : あ、社会学者とか
- 141C : うん
- 142A : 社会言語学者の

143C : うん

144A : 方法論というのはどういうものなんですか。

145C : うーん、まー、どんな説明しにくいですね {笑い}

146A : {笑い}

147C : あー、例えば、あー、discourse analysis とか聞いたことあるん//ですか。

148A : あ、はい、聞いた//ことがあるんです。

149C : 肯定 analysis とか

150A : あー、それは、聞いたことないです//ね。

151C : 例えば、(2) mー (2) ネガティブな意味を持ったー

152A : うん

153C : 指摘はどれほどー文章の中に

154A : あ、出てくる

155C : 出てくるか (2) ま、数学を、ふかま、含む {笑い} ですね。

156A : そうですね//ー。

157C : 時々。で歴史は一ほとんど (3) mー 事実合うかどうかどうしてこういうあー (2)  
解釈が今利用されているか

158A : うん

159C : (2) うーんという分析の方が多いです、//けど

160A : あ、そういう分析の方は多いですか。

161C : 多い。歴史の研究であって＝

162A : ＝あ、歴史のぶん//や

163C : だったら

164A : あー

165C : で、もちろん目的も、あ、うん、研究の目的もー異なってるんですね。

166A : あ、そうなんですか。どういう目的があるんですか。

167C : うーん、歴史を研究する場合、例えば (1) まー今言ったように (2) 一番大事な研究問題は「なぜ」ということ、でー (2) 社会と言語学だったらやっぱり、わからないですね {笑い}

168A : {笑い}

169C : どういう研究を持って研究してるか

- 170A : あー
- 171C : うーん
- 172A : うーん
- 173C : だから歴史の発展を分析して (2.5) どうしてこういう出来事が起こったかどうして  
          こういう      になったか
- 174A : う//ーん
- 175C : どうして、えー、(1) m--- こういう      とか、いーん、情報が結ばれたかと
- 176A : うーん
- 177C : と言うこと分析するんですね。
- 178A : あ、分析 ss いまはどの      ンまで進んでいますか。
- 179C : 今はあまり進んでないです {笑い}。
- 180A : {笑い}
- 181C : 今は方法論も探し中ですけどー
- 182A : あ、はい
- 183C : でも、えー、うーん、今述べたようにほとんど {笑い} 言語学と社会学の方法論ば  
          かり見つけてしまって
- 184A : うん
- 185C : うーん他の国の歴史教科書に現れた別の国のイメージを研究してきた人と
- 186A : うん
- 187C : 連      をとって
- 188A : はい
- 189C : 今返事を待っているところ。
- 190A : 返事をまってるどころなんです。
- 191C : で、やっぱりこういう論文を見つけたら (2.5) 論文が短いものですので研究ほうほ  
          うーの説明はあまり出てこないです。
- 192A : あ、そう//なんですか。
- 193C : だから詳しく聞こうとしたら
- 194A : うん
- 195C : (1.5) あいう研究の方法論はないとかーということ答えも
- 196A : はい

- 197C : 返事の手紙の中に出てくきたりするん//です {笑い}。
- 198A : あ、そうなん//ですか。
- 199C : とか私はあいう研究方法論わからないですけどー、でもどうやってこういう記事を書いたか私のほうわからないです。
- 200A : {笑い}
- 201C : 方法論なしに記事を書くのはちょっと、おかしいんじゃないんですか。
- 202A : うーん
- 203C : ねー。うーん、あまり返事をしてくれない、研究者達もーいらっしやる {笑い}
- 204A : あー、そうなん//ですか。
- 205C : なんか今困ってるんです。
- 206A : そう、そうですね。なかなか返事がないと、でもどうしてそういうテーマを選ばれたんですか。
- 207C : うーん、私の指導教官はー (1) ま、ロシアのイメージに (1.5) まー自分の研究の中に集中していますので
- 208A : うん
- 209C : だー私の大学も向こうのロシアの大学もあいうテーマ研究してほしいと(1)言った、まー、命令ほとんど命令//でした {笑い}。
- 210A : ほとんど {笑い}
- 211C : だからー、やっぱりしようと思って
- 212A : うん
- 213C : でももちろん自分で研究テーマを選ぶことにしたら
- 214A : うん
- 215C : 全然別の分野に移動してしまうかもしれない。
- 216A : あ//そうなんですか。
- 217C : でも私は本当に研究ししたいテーマはやっぱり向こうの大学には要らない。
- 218A : あそうなんですか。
- 219C : ですので、うん
- 220A : あーそれはちょっと残念ですね。 {笑い}
- 221C : {笑い} しょうがないです。
- 222A : あ、その教科書を

223C : うん

224C : 選びなさいというのを

225C : うん

226C : 向こうの大学からの、命令なんですか。{笑い}

227C : mー、まー命令 (4) うーん、えどう、え本当に (2) 研究テーマを

228A : うん

229C : 選ぶのは非常に難しい//問題です。

230A : そうなん

231C : 今までに研究された (2.5) こと全部知らないといけない//ので

232A : うん

233C : まー、本当に研究されていないことを選らぼうとしたらものすごく知識を持ってないといけません。

234A : はい

235C : わたしーの方はあいう知識を持って//ないので

236A : {笑い}

237C : 紹介されほとんどあいうテーマを紹介、え、されてもらった (1.5) うん、ですね。  
なんかロシアには (2.5) うーん、あいう研究がまだ行われていないというのはもちろん私の大学の、え、先生の方々も知らないが

238A : うん

239C : 調べたことはないですけど、でもー、提案として

240A : うん

241C : mーーこういうテーマを、えー、研究するのがどうかと

242A : うん

243C : mーーまず紹介してもらって＝

244A : ＝うん

245C : で、自分でこう小さい調査//研究あるかどうか、

246A : うん

247C : うーん、どれほどこのテーマを研究することが可能か

248A : うん

249C : 全部調べて、やっぱりもう時間を無 いにしないように自分のテーマを探すより

もう決まったテーマをとって

250A：うん

251C：これから 張る 張った方がいい//と思ったんですけど。

252A：あ

253C：もし自分でテーマを探せば//もっと時間かかるのです。

254A：うん

255C：でも私そのとき時間に追われて二つの大学を卒業しなきゃならなかった//ですので

256A：あー

257C：こっちの大学のマスター

258A：うん

259C：と向こうの大学のマスターですので、まだ、え、うーんそ卒業論文以外に新しいテーマを探すのはちょっと mー苦手なんか苦手ちょっと苦手だったしー知識も mー足りませんでしたしー

260A：うん

261C：あまり時間がなかったし

262A：うん

263C：で、マスターコースのテーマを続こうとしこく？こっちに続きましたら指導しすることができる先生がいらっしやらなかった。

264A：あ、そうなんですか。

265C：あいうせ専門持った先生もいましたですけど

266A：うん

267C：でもはかせーまで

268A：うん

269C：えー指導 s する人は//いなかったのです

270A：あ、そうなんですか。

271C：もうテーマを変えないといけなくなってしまう//て

272A：うーん

273C：もう向こうの大学からアドバイスを聞いて

274A：うー//ん

275C：あいうテーマがどうか {笑い}

276A : なるほど

277C : というふうに

278A : {笑い} 言ってもらったわけですね。

279C : うん

280A : あー、えー、面白いですね。どうして教科書以外のものは選ばれなかったんですか。

281C : あのー (3) えー、うーん教科書にはいちばん一国を持っている一番代表的な意見は

282A : う//ん

283C : 出てくるんじゃないですか。

284A : 出てきますね＝

285C : ＝だからー、やっぱりーイメージを見るとしたら

286A : うん

287C : 一番、うーん、深く日本の人の頭の中に一番ひかく深く

288A : うん

289C : まー存在しているイメージーはやっぱり教科書//から

290A : あー

291C : 教科書のイメージと

292A : うん

293C : うーん、論文とか雑誌とかー

294A : うん

295C : あいうマスメディアのイメージ

296A : うん

297C : 二つは一番つ、それは一般的な、なんか、研究のやり方ですね。

298A : うん

299C : 他のー国についてのイメージを mー (1) ま、一番根強くー存在しているイメージを//し調べることになったら

300A : うん

301C : うーん、もちろん mー第一に、あー、いろんな教材教科//書とか

302A : うん

303C : あのー、教育に関係がある決定とか

304A : あー

305C : うーん、調べないといけないーし、マスメディアのー、え、テレビとかテレビ番組とか記事とか、ん、調べないといけないです。

306A : あー

307C : で、マスメディアをやってる人も XXX 大にいますか//ら

308A : あ、そうな//ん

309C : 教科書にしました。

310A : あ、そうなんですか。

311C : うん。

312A : {笑い} どうしてマスメディアをやらなかったのかなー//と思ったんですけど。

313C : あー

314A : もうやってる人が//いるんですねー。

315C : うーん、います、結構います。

316A : うーん、え、どんなイメージがわかりましたか。日本

317 : (1)

318C : うーん

319A : 中でのロシアのイメージ//というのは

320C : 今詳しいことはまだですけど

321A : うん

322C : mー、えー、わたしーの場合は時期は幅広くなってしまうと思うんですけどーなんかーうまくーイメージを、えんー見ようとしたらやっぱり明治時代から今までに

323A : うん

324C : あー、ま、分析しないとイケないですけど、今私も全部やったこと、ま、がないです、まだですね。

325A : はい

326C : だから 80 年代の明治を見ることにしたらあまり、うーん (1) ロシアのイメージはーやっぱりし親しくないイメージ

327A : あー

328C : あー反対、なんか、反対 (1) 反対と思いますが mー反対の国のイメージなん//か

329A : あー

330C : 日本のー (1) 心性としんせ、ミンタリティー

331A : 精神

332C : 精神と全然違った国

333A : 笑い あ//ー

334C : イメージですね。でも一例えば、八十年代は冷 の時代ですね。

335A : はい

336C : で、冷静の時代のイメージと今のイメージを比較したら変わったか、本当に変わったか

337A : うーん

338C : ということを見るのは一番面白いと//思うんですけど、でもーこう普通の一般的な

339A : そうですね、面白そうですね

340C : 人と話し合ー、えー、時にやっぱりロシアについていろいろ聞かれたり

341A : うん

342C : いろんな話したりするんですけど。

343A : うん

344C : でもやっぱり日本人の (2) 今のイメージはーあまり親しくーない

345A : あ、今もーあま//り親しくない

346C : 今も

347A : と//言うイメージ

348C : 今はほとんどソ連時代のイメージのままに残ってしまう

349A : あー

350C : 残ってるんですね。でもそれ//は

351A : どうしてそうなってると思いますか。

352C : うん、やっぱり北方領土のため {笑い}

353A : {笑い} それおきですね。

354C : うーん、で (3) うーん (1.5) あまーり (4) ロシアと日本の間に政治的に (2) 協  
力するー分野限られているんですね。

355A : あー

356C : アメリカーうん日本はや//っぱりアメリカに向けて

357A : うん

358C : 自分の政治を行っているんですね。

359A : うん

360C : でもロシアは、うーんアメリカの、世界はアメリカのー、独占的な

361A : うん

362C : 世界になりたくないです。

363A : そうですねー

364C : だからやっぱりちょっと反対でちょっとというか//大分に反対です、ので

365A : {笑い}

366C : うーん、あいう理由、んーことは、あると思うんですけど、でー (1) 冷 、時代の  
ーロシアの扱いは

367A : うん

368C : すごく根強く残ってる//んですので

369A : うん

370C : やっぱりあいう前の時代の影響もかなり強くて

371A : うん

372C : でーあいうーどう言いますか。

373 : (1)

374C : うーん、マイナスイメージは

375A : うん

376C : (1) 残りつつあるんですね。

377A : あー、なかなか消えないです//ね。

378C : うん。

379A : どうやったら消えていくでしょう。

380C : (4) mーそれはー、うーん、例えば、マスメディアの中にロシアの扱い方を (4)  
変化しようと思っても、やっぱりーイ、イメージよりも

381A : うん

382C : ロシアの事情、を、良くにする

383A : {笑い}

384C : それはロシアの問題だと思うんですけど。

385A : あー

386C : ほとんど。

- 387A : はい
- 388C : あー、ろロシアのマイナスイメージの主な原因はロシアにあるんです。日本の頭の中に、あるわけじゃないです。
- 389A : あー
- 390C : もーロシアは自分の世界をにんげんーの (1) じんじん、まー、人生を保障をするための世界に変わったら
- 391A : うーん
- 392C : いっぱい 器を持ってるくにー
- 393A : {笑い}
- 394C : やっぱり人間向きの社会//に変わったら
- 395A : {笑い}
- 396C : やっぱりイメージも
- 397A : う//んうんうん
- 398C : よい、よい方に移動してしまうと思う//ですけど。
- 399A : あー
- 400C : でも今はー (1.5) かんりょく[ 職?]は非常に強くて
- 401A : うん
- 402C : オリガルヒの社会
- 403A : うん
- 404C : えー、ほとんどロシアはあいう社会ですね。
- 405A : あー
- 406C : なんか 1910 うん 91 年はー
- 407A : うん
- 408C : あー開脚[解約?]始まったと、思われていますけど
- 409A : はい
- 410C : でも本当に、えー、 罪革命が起こった//とおも
- 411A : 笑い
- 412C : 思えば良いですね。
- 413A : あー
- 414C : だから、あまり mーー (1.5) まロシア人はほ自分の政 にてん対していっぱい

を//持っているんですね。

415A：あー

416C：もそれは、あー、えー、他の国もあまりロシアのことを親しくープラスに

417A：うん

418C：えー見ていないとういのはあたりまえじゃないですか。自分の国民も

419A：そうですね。

420C： を持っているから。

421A：そうですね。確かにその通//りです。

422C：はい

423A：あ、論文のなんか、発表みたいなされたんですか。

424C：はい、そうですね。

425A：同でしたか。

426C：うーん、うまくいけませんでした。

427A：{笑い}

428C：あまり方法論見つけていないのですので

429A：あ//ー

430C：細かいことも説明できないです。

431A：あー

432C：だから、あー、あれこれーを例として、例えばあいう (1) うーん (2) 方法論とか  
こういう方法論が存在するということを紹介しても

433A：うーん

434C：(1) 自分の研究の中にあれをどういうふうに使えばいいか私の方は今わからないで  
す。

435A：あー

436C：ほとんど (2) 今までに見つけたうーん方法論をあまり使えないということわかりま  
すから。

437A：はい

438C：やっぱり (1) あーあいう (2.5) 理由のためにー

439A：うーん

440C：発表うまく、いけませんでした。

441A : あー残念でした。質問とか出ましたか。

442C : うん、質問は (1) まー出たですけどー

443A : うん

444C : やっぱり質問というよりも (1) わかりにくかった//というような

445A : 笑い

446C : 指摘が出たん (1) ですね。

447A : それは残念です。

448C : うーん

449A : うーん、えー、今は、じゃ

450C : うん

451A : 方法論、を探してい//るところですね。

452C : うん、うまく利用できる方法論探して

453A : うーん

454C : 他のー同じテーマを持った

455A : うん

456C : 他の研究も (1.5) まー読んでー

457A : うーん

458C : (1) その研究者達はどういう方法を使っているということをわかって

459A : うーん

460C : うん、どういうふうに自分の研究を行えばいいかということを決めるんですね。

461A : そう、そうですね。

462C : うん

463A : あー、え、ここでのー

464C : うん

465A : えーと (1) 指導教官とか

466C : うん

467A : どうやって探されたんですか。

468C : (1) うーん友達に紹介してもらった//んです。

469A : そうなんですか。

470C : うん、そうですね。でもやっぱりー、うーん、修士の時にテーマをすごく変わった

かったですね。

471A : あ//そうなんですか。

472C : 他のテーマの研究を行いたかったなんか経済に、疲れましたから。

473A : あ、経済をやっていた//ん

474C : あー日露経済関係でしたですね。

475A : あー

476C : でーあまりつまらなくてれし、ほ、元々私の元々の専門は歴史なのです。

477A : あー

478C : で、日ロかんけーま、国際関係歴史と日本学部なのです

479A : あー

480C : ので、うーん、やっぱり歴史のほう、した方がいい、面白いからと思ってて

481A : うーん

482C : ロシアの歴史をやってるー先生なら

483A : うーん

484C : XXX 大の YYY 先生しか

485A : あ

486C : いらっしやらない。

487A : あー

488C : 他のロシア語の学部の先生は

489A : うん

490C : 例えば XXX 先生は 場

491A : そうですね

492C : でー後は (1.5) ZZZ 先生は経済だけど、博士を指導できないです。

493A : あー

494C : (1) うーん、でそれしかない。

495A : あー

496C : だからもうやっぱり歴史の方、に移動しようと思って

497A : あー

498C : XXX 先生を見つけました。

499A : あ、見つけました {笑い} 良かったですね。でも自分の専門の歴史ができるように

なって

500C : うん

501A : どうして修士の時は経済にしたんですか。

502C : うーん (1.5) 向こうの XXX 大学には

503A : うん

504C : ずっと、うーん、1 年生から日露経済関係の論文を書いていたんがロシアには毎、  
年

505A : うん

506C : あー論文を書かないといけないですね。

507A : 毎年

508C : う//ん

509A : 書かないと//いけないですか。

510C : うん

511A : あー

512C : 1 年生から 5 年生まで、まー、5 年生は卒業論文なんで//すけど

513A : あー

514C : でもー、あのー、4 年間の間にー、あー、やってきたこと全部合わせて (1) も、も  
ちろん新しく見つけた、こともー入れてー卒業論文になるんですね。

515A : たいへーん//ですね。

516C : なんか日本と全然違う//です。

517A : {笑い}

518C : だからやっぱりロシアのー5 年生の卒業論文はー日本の修士課程のー論文、の同じ  
レベル//になると思うんですけど。

519A : あー

520C : うん

521A : そうなん//ですね。

522C : だからやっぱり (3) 経済をやっていたので。

523A : うーん

524C : あー、日本に留学のためにー (2) まーいろいろ (2) 申込み用紙とかあるんじゃない  
いですか。

525A : うん

526C : どういう研究テーマを今までにやっていたという//ことも

527A : はい

528C : 書いておかないといけませんね。で、自分の一最後の論文の一日本語の翻訳か

529A : うん

530C : 日本語のほんやく一 (1) と (2) ええいご一文の一ようそう?

531A : あ、要約

532C : 要約 (1) を書かないといけませんね。

533A : うん

534C : だから、も一やっぱり、留学しようとしても (1) 新しい、例えば経済の変わりに何か新しいテーマを一

535A : うん

536C : 申し込んだら一論文を出//さないといけませんなので

537A : {笑い}

538C : 新しい論文を書かないといけ//ないです。

539A : {笑い}

540C : それは無理でしたので、やっぱり、うーん、だから修士に来て、から一もう経済関係やってて

541A : あー

542C : うん

543A : そうなんですか。

544C : うん、はい

545A : あー (1) 面白いですねーフフ//フフ

546C : 笑い

547A : あー、うーん

548 : (1)

549A : 何を聞こうかなーフ//フフフ

550C : {笑い}

551A : うーん、歴史の方がやっぱり面白いですか。歴史をもう一度はじめもう一度というか歴史に移ってみて?

552C : うーん、面白いです n、n、もちろん個人的な趣味だったらもちろんおもおもーしろ  
い[面白い]ですけどー。

553A : うん

554C : でもー (1) きんき う[研究?]しようとしたら思ったら、もう研究はそんな簡単な  
ことじゃなんか一番自分の思いとかー

555A : うーん

556C : 書かないといけない、ちゃんとした論をつかって//ー

557A : そうですねー {笑い}

558C : 書かないといけないですね。それはちょっと、しんどい

559A : あー

560C : 特に私にとってゼロ、ゼロから始まるのはしんどい。

561A : あ、ゼロから//しんどいですねー。

562C : うん

563A : ですねー

564C : うん {笑い}

565A : そうですねー//#####経済

566C : だから、あまりー経済だったらもうなんとなくー資料もしてる[知ってる?]しー

567A : うーん

568C : やってる、えーmー、研究者もしてる[知ってる?]しー何が起ってるということも  
ほとんど//してるんですけど。

569A : {笑い}

570C : で、歴史だったら、まー、まったく始めてですから、だから赤ちゃんのように// {笑  
い}

571A : {笑い}

572C : 最初から歩くことを習ってる。

573A : {笑い} でも経済の時に得た知識はあまり役に立ちませんか。

574C : あまりー

575A : 立たない//ですか。

576C : 立たないですね。

577A : あー、じゃ今はどうやって資料とか探していらっしゃるんですか。

578C : うーん (1.5) 資料というのは教科書ですね。

579A : あ、教科書

580C : なんか、ぶん、うん、教科書、ほとんど教科書ですので//だから探すのはあまり

581A : あ

582C : 問題がないです//、けど文献と、して (1.5) うーん (1) まー

583A : あー

584C : いろんな記事は出てるんですけど、それはもうなんとなく調べてきましたんですけど。

585A : うーん

586C : 一番困ってるのは研究の方法論ですから

587A : {笑い}

588C : あれはー、うーん、同じテーマを持った他の研究者の論文を読んで

589A : うん

590C : あそこに出てくる文献とか、方法論に関係がある記事とか、本とか全部 (1.5) ま (2)  
もう図書館に申し込んで// {笑い}

591A : {笑い}

592C : 読むしかないですから。

593A : そうですね。え、そう同じような研究をやってる人がどれぐらいいるんですか。

594C : えー、今のイメージ研究//ですね。

595A : うん

596C : あのうすごくヨーロッパにはすごく流行ってます。

597A : あ、そう//なんですか。

598C : 特にドイツとフランス、が一番強いんですけど。

599A : あードイツかフランスのイメージですか。

600C : うん、他のくにーのイメージですけど。

601A : あー

602C : でもやってる研究者はードイツ人とかフランス人。

603A : うーん

604C : けん、教科書の研究だったら

605A : うーん

606C : 一番代表的な (2) 研究所はードイツに、あります。

607A : あ、研究所があるんですか。

608C : うん、教科書研究所もありますから。

609A : あー

610C : えー、で、ロシアだったらーm (1) うーん、イメージの研究はかなり少ないですけど。

611A : うーん

612C : アメリカだったらー (1) 国際関係における (1.5) イメージ (1) の研究はあるんですけど、でもほとんど (0.5) あー、社会学な研究です。

613A : あ//ー

614C : つまりアンケート調査とか

615A : うんうんうん

616C : あ言う方法を使って (1) 現代社会は他の国に対してどんなイメージを持っているというのを

617A : うーん

618C : うーん、明らかにする研究ですね。

619A : あー

620C : れ、き、しの研究ーは (2) 幾つかあったんですけどー。

621A : うーん

622C : でもー (1) あ言うろん、論文とか本を読んだらやっぱり (1) どういう目的を持ってこういう研究を行われた

623A : うん

624C : 行ったか、どういう方法を使ったか

625A : うん

626C : という説明はあまりなかったですので

627A : あー

628C : なぜこういう研究出てきた、ちょっと分かり難かった。

629A : あー

630C : うん

631A : どうして り書かないですか。そう、どういう方法論を使ったかとか//というのは

632C : やっぱりー出版されてるのは

633A : うん

634C : 博士課程の論文じゃなくて

635A : うん

636C : 本ですね。

637A : あ//ほん

638C : でも本の中にはあ言うせこと説明する必要がないです。

639A : あ、そうですねー

640C : うん (1) だから他の国の (3) うーん、博士かてーいのー論文を (0.5) 日本には得ることが難しいです。

641A : あー

642C : うん

643A : そうなんですか＝

644C : ＝で、日本のけイメージの研究だったら

645A : うん

646C : (1) あーmー (4) うーん、わたしー見たことないですけど、あ、うん、でもわたしーやっぱりわざわざに

647A : うん

648C : 英語に書かれた論文に集中しています。英語は読みやすいですので。

649A : あ//ー

650C : もし日本、語で書かれた論文 (1.5) を読んだら

651A : うーん

652C : もう方法論は非常に難しいことですけど

653A : あー

654C : なんか日本語で方法論の説明は読んだら、うーん、書いた//ことの

655A : {笑い}

656C : 半分ぐらいわかるかもしれないです//けど

657A : むずかしいですよ//外国語でなかなか

658C : でも、うん、英語の方がわかりやすいから、英語にしています。

659A : あー

660C : でも、うん、あれは間違いかもしれないですけど

- 661A : あー
- 662C : うん
- 663A : 韓国と
- 664C : うん
- 665A : 中国と
- 666C : うん
- 667A : 日本の間には一歴史の教科書の問題が、いろいろありますけど
- 668C : うーん
- 669A : そういふのはあまり関係ないですか。
- 670C : ありますけど
- 671A : うん
- 672C : うん、ありますねー、なんか、確かにー、あー、日本の教科書に描いた中国とか韓  
国のイメージ//の研究はあると思うんですけど
- 673A : うん
- 674 : (1)
- 675C : どっかに
- 676 : (1.5)
- 677C : うーん、でも私読んだことないです。{笑い}
- 678A : {笑い} 読まないですか。
- 679C : うーん、今はちょっと読む ssss うーん読む時間がないですけどー
- 680A : うーん
- 681C : やっぱーとりあえずー (2) イメージの研究はー (1) ヨーロッパの方に一番流行  
ってるんですのでー
- 682A : あー
- 683C : やっぱりあそこの、あー、ぶんけい[文献]を読んでから
- 684A : うーん
- 685C : 日本語の文献も読むかもしれないですけど。
- 686A : うーん
- 687C : でもそれは先の話//です。
- 688A : {笑い} それは先の、は、あー、ヨーロッパの方が進んでるですねー

- 689C : うん、そうですね。
- 690A : ヨーロッパではどこの国のイメージを主に、やってるんですか。
- 691C : (2.5) 今はー (2) うーん (3.5) 中央ヨーロッパのイメージは一番良く出てくる  
　　ですね。
- 692A : あー
- 693C : あのー、例えば、セルビアとか//ハルワティア[クロアチア]とか
- 694A : あー
- 695C : あ、あそこの地方にはー
- 696A : うん
- 697C : 　　があっただしょ。
- 698A : うーん
- 699C : だからー (1.5) うーん (2.5) あそこの地方にはーいろんな民族の間に
- 700A : うーん
- 701C : 関係はすごく今 (3.5) うーん (1) 偏りをもってる？
- 702A : うん
- 703C : 偏りを持ってるんですね。
- 704A : あ//ー
- 705C : だから、うん、(1) あー、もー、ん、や、やっぱり (1) 問題が出てくるとーけんき  
　　うーも出てくるかもしれない。
- 706A : {笑い} やっぱり、じゃ　　があまりよくない//国同士のイメージ (0.5) 研究するん  
　　ですね。
- 707C : うん、そうそうそう、あいう、うん、そうですね。あ言う問題を解決するために
- 708A : うーん
- 709C : もうー (1) うーん、イメージの研究が、行われているかもしれない//です。
- 710A : あー、そうなんですか。
- 711C : うーん
- 712A : あ//ー
- 713C : で、例えば (1) 日本、日本じゃなくて、えーソ連と//за одите
- 714A : {笑い}
- 715C : ソ連とアメリカーの関係は//ーよくなかった時代、とか、　　後からー、ま、90年ま

でに

716A : うん

717C : あー (1) ソ連、の教科書に//ー

718A : うん

719C : 出てくるー、あー、アメリカのイメー//ジの研究は

720A : うん

721C : 多かったですけど。

722A : あー

723C : うーん、でも、あの研究はちょっとー表面的でし//た {笑い}

724A : {笑い}

725C : この//# # # # #

726A : ちょっと役に立たない

727C : うーん

728A : あー//そうなんですか

729C : うーん

730A : でも 張ってください。

731C : {笑い}

732A : {笑い} 私には? 難しいテーマですけど {笑い} ありがとうございます。

### 資料 1.3 インフォーマント D の発話

001A : はじめまして

002D : はじめまして

003A : 論文の発表をされたということを

004D : あ、はい、先週の//発表しました

005A : 先週ですか。

006D : はい

007A : あーどういう内容なんですか。

008D : あー先週は、イメージ研究についてちょっと

009A : あー

010D : 発表しましたが、あのおう普通は (1) あーロシアと日本のお互いのイメージについてちょっと調べています。

011A : あーそうなんですか。

012D : はい {笑い}

013A : 最終発表ですか。

014D : 最終発表じゃない。まだ中間発表//の一つ

015A : 中間発表？

016D : うーん

017A : あーそうですか。どうしてそのテーマを選ばれたんですか。

018D : あー、なんか興味を持ってそして私が選んだ一時に (1) あー (1.5) ロシアでほとんど誰もこのテーマ (1.5) を、えー (1) 研究していなかったの

019A : あー

020D : 面白いかなーと思いました。

021A : あー

022D : うーん//だから

023A : いつの時代の？

024D : 明治時代

025A : あ、明治//時代

026D : うーん、明治時代で、でもかなりなんか多くの方が調べている

027A : あ、そう//なんです。

028D : らしいです {笑い}。  
029A : {笑い}  
030D : えーん、ただ私が選んだ時ちょっとわからなかった  
031A : あー  
032D : そういうこと、うーん  
033A : あー、そうなんですか。  
034D : はい  
035A : でもどうして明治時代にしたんですか、特に？  
036D : あー (1) そうですね。その時から始まっているのでー、ま、その時より、からちよ  
つと前に始まっているんだけど、明治時代に一番なんとかこう積極的な  
037A : うーん  
038D : イメージーあー (1) が、まー、構成 sーされたので  
039A : はい  
040D : mー面白い  
041A : あー  
042D : その時は一番面白いかもしれない。  
043A : あー  
044D : うーん  
045A : そうですね。面白そうですね。  
046D : {笑い}  
047A : 発表はどうでしたか。  
048D : 発表は大 夫だった。  
049A : {笑い} 大 夫  
050D : はい  
051A : 問題なく  
052D : そう、問題なく  
053A : {笑い}  
054D : あ、あまり新しいこと何も発表しなくてちよっところ前にやったことを  
055A : はい  
056D : まとめて発表しただけなので。

057A : あー、前にもうやってたんですか。

058D : あー、まマスターに入ってから、mー、全部であーえーと6年間ぐらい//やっています  
ので

059A : あー、じゃすごい

060D : はい

061A : 長いですねー

062D : 長いけどあまり {笑い}

063A : いやいやとんでもない {笑い}

064D : 結果が出ない。

065A : {笑い}

066D : なかなか

067A : 難しいことですか。研究するのは難しいものですか。そのテーマは

068D : そうですね。難しいです。なんかテーマはすごく広いので

069A : はーい

070D : そして研究してる人もたくさん、あー、いるので

071A : うーん

072D : もう全ての研究を (1) あー読まないと

073A : うーん

074 : (2)

075D : うーん、まー自分のことを、あまり、書けないじゃないですか。

076A : はーい

077D : それでーなんとか多くの人がやってるー (2) あーにもかかわらず

078A : うん

079D : まだ (1) 理論的な方法とか、理論的なやり方は//あまり (1) あー

080A : はーい

081D : (2.5) あつまりというかほとんど誰も (2) 説明していないので

082A : あーそうなんですか。

083D : そうというのが、なんか理論と

084A : うん

085D : じっさーい、あー、実際とかちょっと

086A : はい

087D : あー、まー日本語でわからないそのこと、実践？

088A : 実践

089D : 実践は

090A : うん

091D : すごくなにか離れている

092A : あー

093D : ような感じ、このイメージ研究で。

094A : あー//そうなんですか

095D : だから理論的なことばかりやってる人もいるし

096A : うーん

097D : なんか社会学とか

098A : うん

099D : 文学に近い、分野。それで、こういうイメージがあったイメージを描写する

100A : あー

101D : ばかりで、なんかこういう論文もあるんで

102A : あー

103D : それを一緒に (2.5) あー入れるのはすごく難しそう//です。

104A : あー、難しそうですねー

105D : うーん {笑い}

106A : あー、あ、発表の時も同じような研究をしてる人も来てましたか。

107D : そうですね。私のー (1) ゼミーに、まー私の先生もー少しこのと、えーそういうことをやってまして、そしてもう一人の、友達がロシア人の友達がいて彼女も、あー日本の教科書におけるロシアのイメージ、について、一応調べていますので

108A : あ

109D : だから (1.5) まー私のテーマにちょっと近い (2)

110A : あー

111D : はい

112A : そうですねー。どんな質問とか出ましたか。

113D : あーやっぱりこの理論、について

114A : あー

115D : 私は何をーあー (3) まー、彼女ーも

116A : はい

117D : 一応理論にすごく (1) 興味があって

118A : はーい

119D : 探していますので (1) あー、なかなか、やっぱり (1) 適応さー

120A : はい

121D : せる、なんか利用できる、あー理論がー見当たらないので

122A : あ//ー

123D : 彼女がすごく悩んでいる、らしい

124A : あー

125D : 今、うーん

126A : やっぱり理論見つけるというか、まー難しいんですか。

127D : そうですね、あーmー (1) あー、はーい難しい {笑い}

128A : あー、じゃー、これ、から、は (1) {笑い}

129D : はーい {笑い}

130A : あ、反論とかありましたか。

131D : (3) あー、聞いている人、から？

132A : はーい、なんかこれは違うとか {笑い}

133D : (2.5) うーんこれは違うということはなかったんだけどー、あー (1) やっぱり彼女ーは、ちょっと、あのうこのイメージ研究

134A : うん

135D : あーというのは、ステレオタイプを

136A : はーい

137D : 国と民族のステレオタイプ

138A : うん

139D : あるいは、なんか、ひ人のグループの (1) あー他のグループに対するステレオタイプ

140A : はい

141D : を、あー勉強していますので

142A : あー

143D : mー、だからこのステレオタイプーの、あー、まー定義も {笑い} それぞれ

144A : あああ//ー

145D : ありますし、(1) あー、まだ一致してない (2) あーそれでステレオタイプーと

146A : うーん

147D : 事実

148A : うん

149D : を、区別ー

150A : はい

151D : する (0.5) あー (2) 区別するかしないか、えーする必要があるか

152A : あー

153D : する必要がないか、というまー問題もありますし、はー、だから (2) うーん (4.5)  
ま、まー (1) 事実が存在しなくて

154A : はーい

155D : 存在するのは私たちの、えー、あー、ステレオタイプ、人、人間が持っているイメ  
ージ

156A : うん

157D : 事実に対するイメージ、自分に、あー、自分のイメージとか

158A : うん

159D : 他の人のイメージとか、そういうのがしか、あー存在してない (1.5) という学者が  
多いので

160A : あー

161D : だから (1) ステレオタイプと事実を区別するーことも、あ、なんとか、こう、無意  
味である

162A : あー

163D : という人が多い、あーので、ちょうどこの、あー日本の教科書におけるロシアのイ  
メージを、勉強している友達は

164A : うん

165D : このステレオタイプと事実の区別ーの、仕方について聞きました。

166A : あー

167D : うん、それについてちょっとかなんかみんなで (1) まー  
168A : 話し合い  
169D : 話し合いました、はい。  
170A : あー、どういう立場なんですか。  
171D : あ、私はやっぱりなんかこう事実はあーまー存在しない//ど[ちらかというと]  
172A : あー  
173D : 存在しないというか (2) うーん (2.5) こうど[行動]は  
174A : うん  
175D : 事実なんだけど  
176A : こど?  
177D : こうど[行動]  
178A : どういうこうどですか。こうどう[行動]?  
179D : うん、行動、うーん、ごめんなさい、あーこの行動についての (0.5) 人の解釈?  
180A : うん  
181D : は (1) みんなイメージにしかすぎない  
182A : あー  
183D : ということで、あー、うーん、だからー (2) 例えば彼女の場合にはーなんか、あー  
日本の教科書にはー  
184A : うーん  
185D : 日本とロシアの関係の歴史はこんなふうに描かれている  
186A : うーん  
187D : そしてこの中で、そういうことは事実で、そういうことは事実じゃない  
188A : うん  
189D : といえないと私は思います。  
190A : あー  
191D : なんか (1) k、ある行動はあったかなかったが  
192A : うん  
193D : あー、まーある程度  
194A : うーん  
195D : (1) あーはっきり言えるなんですけどー

196A : はい

197D : その向こう側はどういう (1) あ一つもりで

198A : あ

199D : そういう行動をとったか、すごく言いにくい場合が多いので

200A : うーん

201D : うーん、だからそういう解釈は、もうそれぞれ

202A : あー

203D : ちょっと、あー、めちゃくちゃ

204A : いえいえいえ、あー

205D : はい、ちょっとこういうことについて話しました。

206A : あー、すごい

207D : あー//ー

208A : みんなの意見はどうでしたか。

209D : どうでしたーでしょう。まー先生は、あー、先生は、なんかわ、割と私の立場と同じ

210A : あー

211D : 意見を持ってますしー、うーん (3) それで (1) 他の皆さんはあまりこの一問題についてはー (1.5) あー何も言わなかったんで

212A : あ//ー

213D : だから、なんかこう三人で

214A : あ、三人で#####

215D : はい

216A : { をしてから} すみません。

217D : あー

218A : あー、あ、今はどれぐらいな、やってるんですか。論文 {0.5} 論文はどれぐらい進んでいますか。

219D : まだ進んでない全然

220A : あー

221D : あー、まーテーマとそして資料少しずつ集めていますし、あのうドクターに入ってからあーん (1.5) 日本の新聞に日本のメディアに//明治時代のメディアに

222A : あー

223D : 見えるロシアというテーマになりましたので

224A : あ、はい

225D : だから、あのー、ちょっと私にとってこのメディア//ということも新しい

226A : うーん

227D : あー (1.5) 分野なので、資料、あー、決めるーには時間かかりました。

228A : あ//ー

229D : なんかどうい新聞を取った方が良いか//ちょっと見るために

230A : あー

231D : (1) それで今ちょっと新聞の、あーロシアに関する

232A : うーん

233D : あー記事をまー集めていて、あーだから最初はこれを集めて、それからそれを読ん  
で

234A : うーん

235D : それからまー (1) あー (1) 分析する分析したか、く、つもりなんですけど。

236A : あー

237D : まだまだ、あー集める

238A : あ

239D : 集めているところです。

240A : あーどうしてメディア、にされたんですか。

241D : (2) このイメージ研究ーの場合にはー現在だったら割と資料が集まり、やすいなん  
ですけど//明治時代だったら (1) あー (2) やっぱりこう人のー

242A : そうですね

243D : 書いた手紙

244A : うん

245D : とか (1) あー論文とか (2) メディア? (0.5) この新聞、あー雑誌

246A : うーん

247D : (1) とかは資料に当たる。

248A : あー

249D : だーからーメディアは、一応一番扱いやすい

250A : あー

251D : そういう意味で。

252A : あ、そうなんですか。

253D : あー

254A : あ、修士の時はどういう感じだったんですか。

255D : 修士の時にロシアを旅した4人の

256A : うーん

257D : あのう当時の日本人の日記を通して、あーその日記の中、にはロシア、どんなロシアが見えたか

258A : あー

259D : ということについて書きました。

260A : あー

261D : だから、あ、私は別にこの日記をあー続きたかったけど、資料がなかった//まー

262A : あ、もうなかったん//ですか。

263D : まーまだたくさんあるかもしれないけど、ただ私は見つけれなかっただけ//かもしれない。

264A : あー

265D : だからやっぱりもう資料から {笑い}

266A : {笑い} 資料たくさんある方が {笑い}

267D : 方からそうそう始めることにしました。

268A : あー、メディアというのは日本のメディア？

269D : 日本のメディア//うーん

270A : あー

271D : あ、一番良いのはもちろんなんかこう日本のメディアを見て、そして同じ時期のロシアのメディアを見て、//それを比較する、なんですけどー

272A : うん

273D : あーちょっとこのドクターの

274A : うん

275D : 三年間、あーではーそれはちょっと、無理ー、あー、なーことなので

276A : はーい

277D : もう日本に集中して、今度。

278A : あー

279D : はい

280A : 資料たくさんありますか。

281D : 資料はかなりたくさんありますけどー

282A : あー

283D : すごく、あーm (1) みつかりゃ、あー、にくいとか、すごくあー扱いにくい

284A : あー、どうしてですか。

285D : あー、 の新聞はー

286A : うん

287D : 読みにくい {笑い}

288A : あーそうですね。

289D : あーなんかこう、だからー、あー、一応6つの新聞があって

290A : はい

291D : (2) あーま6つを、見たいなんですけど。その中で一つだけCD-ROMは、ん、CD-ROM版

292A : あ、はいはい

293D : があって、それはすごく扱いやすい//わけワードで調べるから

294A : あー

295D : 調べられるから、あもう他のは、もうー

296A : 全部###

297D : そうそうそう、ページをうーん

298A : あー//ー

299D : めくりながら。それであー (1) マイクロフィルムもあるんだけど

300A : あー

301D : それはすごく読みにくいしー (1) あーだからそういうのもちょっと (1) すごくゆっくり//、進んでいる。

302A : あー何年分ぐらい、読むんですか。

303D : (3.5) 明治の前半やりたかつ、たのでー、あー (4) なんかやってみてすごーくたくさん量がありますので

304A : うーん

305D : それで、日本とロシアの関係の中の一つに

306A : う//ん

307D : 集中することにしました。

308A : うーん

309D : それはシベリア鉄道と

310A : うん

311D : シベリアとシベリア鉄道の建設

312A : あー

313D : に集中して、ちょっとあつまー当時の日本の政治の背景、あー (1) でこのシベリア  
鉄道に対する日本の政 の日本政 か日本のこの

314A : うん

315D : メディアの態度

316A : あー

317D : みたーいなど、思いました。

318A : シベリア鉄道の現実## と日本は直接に関係しているんですか。

319D : あーそうですね。当時なんか日本も極東にすごく興味を持ってて

320A : はー//い

321D : ロシアもちょうど同じ時期に//あのを鉄道、ペテルブルクから

322A : うん

323D : あー、ウラジオストクまで鉄道、あー建設することを

324A : うん

325D : 決めましたので、あー (1) ま、日本だけじゃなくて、他の西洋の

326A : あ

327D : あー諸国にとってもすごくそれは心配の、理由となりました。

328A : あー

329D : だから、ロシアは鉄道、あー建設して、

330A : うん

331D : すごく早く東洋に進んで

332A : うーん

333D：だから、もしかして日本との、 来に 突になる、かもしれない

334A：あー

335D：だから、シベリア鉄道に関する記事はかなり多かった//当時は。

336A：あーそう//なんですか。

337D：建設が始まる前にも

338A：あー

339D：なんかいろんな論 があってシベリア鉄道の建設はすごく日本にとって ないとか

340A：あー

341D： なくない、この10年間はまだ心配することない

342A：あー

343D：できるまで、いろいろのこういうのはありましたので。

344A：あー

345D：うーん、そして、結

346A：うん

347D：あの一、当時のちょうどあの日露 の

348A：うん

349D：直前にあたる時期なので、あーだから当時の、あの一ロシアの のイメージに

350A：うん

351D：すごく、あーなんとか影響を与えたこのシベリア鉄道の建設。

352A：あーそうなんですか。

353D：うーん、だからなんか (1.5) シベリア鉄道建設が、始まる前に、ロシアは ない、  
　　というか、そういうのは少なかったけど。

354A：うん

355D：なんかこう建設のあー、ま、話しが始まってから (1) あーロシアは ないとか//  
　　なる

356A：あー

357：(2)

358D：まーいろいろ

359A：あー、そ//うなんですか。

360D：そういう内容の記事が、はい、現れるようになりましたので (1) えすごくこういう

ロシアの (2) え、まー恐ろしいイメージあーが (1) そのせいで

361A : うーん

362D : あー (1.5) つよーまって[強まって]きました。

363A : あー

364D : うん

365A : そうなんですかー。

366D : はい

367A : あー

368D : {笑い}

369A : じゃ、それまで、は、そんなに、ロシアに対するイメージは悪くなかったけれども

370D : うー//ん

371A : シベリア鉄道がきっかけになってちょっと、悪くなった

372D : それだけ//ではないけど

373A : かな？

374D : なんか、あー、ま、ロシアの (1.5) それもまだにもロシアの としてのイメージも  
ありました。

375A : あ、そうなんです//か。

376D : 他の、そうですねー、なんかまだ、あー、他の事に基づいてのイメージだったなん  
ですけど

377A : はーい

378 : (1.5)

379D : うーん (0.5) どっちかというと、そうですね、このシベリア鉄道の建設は

380A : うーん

381D : あー (1) 日本にとって、初めての

382A : うん

383D : なんとというか (4) 実際的な

384A : うん

385D : あー、実際的な (1) さとか、実際的な、あー心配

386A : あー//ー

387D : になりました。

388A : あー

389D : 前の心配は

390A : うん

391D : みんなちよつとこの、あーロシアの行動に基づいていたわけじゃなくて//なんか

392A : うん

393D : いろんな に、ロシアについての情報//とか、あー、その中に もあったんですけど。

394A : うん

395D : (1.5) あーいっ、こういろんな (1.5) まーこんな に基づいていた

396A : うーん

397D : のに (1) 今度は、なんとかもう直接ロシアの行動に基づいての//なんか

398A : あー

399D : (1) 実際的な心配になりましたので

400A : はーい

401D : うーん (3) そうですね。

402A : あー

403D : まー (1.5) 大事な大事なとか、まーロシアの日本におけるロシア

404A : うん

405D : のイメージの構成に

406A : うん

407D : とって大事なことだった。

408A : あー、そうなんです//か。

409D : うーん

410A : あー

411D : はーい

412A : もう時間が、はーい、じゃ

413D : はい

414A : この辺で

415D : あ//りがとうございました

416A : ありがとうございます。

417D : はい

418A : 張ってください//すごいですねー

419D : はい、ありがとうございました。

#### 資料 1.4 インフォーマント E の発話

001A : 修論の発表

002E : うん、うん

003A : した? // 先日

004E : いや、修論発表って、私研究生 // だから

005A : あ、研究生だから

006E : うん、修論発表じゃなくて - // -

007A : あ、じゃ論文、なんかの発表した?

008E : 何かそうしました。

009A : {笑い} あ // そうなんですか。

010E : あの - 2 つ。最初 - は -

011A : うん

012E : あの - - あの自分の論文、自分の研究について

013A : う - // ん

014E : 発表しして -

015A : うん

016E : 次の発表は -、え - と (1) 地域という - ものは -

017A : うん

018E : 地域ということはどういうことなんですか - というすごい、あの -、ま - ロシア語で やってま、やりました // けど -。

019A : {笑い} ロシア語

020E : {笑い} だから、そのロシア語で地域というものは -

021A : うん

022E : あの -、どういう人はどう書いたとか -

023A : う - // - ん

024E : あの -、ま - それについて発表しました。

025A : あ、 // 地域

026E : さい最後の 2 つの発表が

027A : あ - -

028E : うん

029A : 地域というのはどういうことですか。どういうこと？

030E : あーいろんな意味//では {笑い}

031A : いろんな意味 {笑い}

032E : いろんな意味があってー

033A : うん

034E : 例えばー、ま、狭い意味とひ広い意味ー

035A : うん

036E : もあって、まー私ー国際関係と地域学ー// {笑い} だから専門は地域学だから

037A : うん {笑い}

038E : あのー地域というのは国際関係論

039A : うん

040E : からみて、あのー (2) 地域という// (1) こと。

041A : 地域というのは中心と周りっていう、周りは地域

042E : うー//ー

043A : それとも全て、何とか地域という

044E : いやそれ中心と地域ーじゃなくて、まー、そういう意味もちろんあるんだけどー

045A : うん

046E : まー地域というのは、なんか、例えば一国の中に

047A : う//ん

048E : 地域もあるでしょう。

049A : うんうん//うん

050E : 後は、国ーと国は繋がって地域に入ってる//から、だからどういうーところを見て

051A : あー

052E : 地域に入れるとか。

053A : うんうん//うん

054E : それを、いろいろ見て、まー地域というのはいろんな学問には

055A : うーん

056E : あのーそういう言葉もあってー

057A : あー//ー

058E : だから、経済 (1.5) にもーあのうそういう、えー (2) え、日本語でわからない

ア パ リ ー テ イ カ  
г е о п о л и т и к а {笑い}

059A : あー//ー {笑い}

060E : まーそういうち、地理政治みたいとか {笑い}

061A : あー//ー

062E : それ、いろんな学問に入ってるから、なんかそれはまーあの一後は論文に役立つかどうかまだわからないけど//ー。

063A : うー//ん

064E : けっこう、そういう、今の研究テーマはー「アジア太平洋地域への

065A : うん

066E : 日ロ関係影響」だから

067A : うー//ーん

068E : 地域という言葉入ってるから、一応、見てみようと思って {笑い}

069A : あいう地域###

070E : そうそうそう、でもまだロシア語だけ見てて、あの//ー

071A : うん

072E : そのロシア語での、ロシア人の研究者

073A : うん

074E : の本とか見て入れた。

075A : あー//ー

076E : これから日本語で見てみよう//かなーと思って

077A : 笑い ちょっと大変

078E : うーん

079A : えー、え、でもどうして、その (1) 太平、え、アジア//太平洋地域

080E : アジア太平洋地域

081A : の

082E : への日露関係の影響。

083A : を

084E : いや、あれ、私ねー、あの一 (1) m一、XXX 大学の

085A : うん

086E : そつろーん[卒論]のテーマは「アジア太平洋地域一 (2.5) の

087A : うん  
088E : 日本の役割」  
089A : うーん  
090E : には、日本の、まー、それぐらい//だったから  
091A : うーーん  
092E : だからもう一応アジア太平洋地域を研究していたからー。  
093A : あー  
094E : 今回はまー日本に来てーあの一、その(1) 日露関係何かやろうと思って//だから  
095A : あー  
096E : どういうこの地域に影響を与えている  
097A : あー//ー  
098E : 見てみようと思ったんだけど、すごいこの地域はでかいから  
099A : 東ア//ジア###  
100E : うーん、あの一ある研究者はね  
101A : うん  
102E : あの一ラテンアメリカもーあの一そのインドもー入れるから。  
103A : あ、太平洋  
104E : だからねー//  
105A : 笑い  
106E : {笑い} それ、ちょっと// 笑い  
107A : あーどうして  
108E : うん  
109A : インドも入れるん？  
110E : mーまーそれはーあの一ーま、アジアの一部だか//ら  
111A : あ、アジアの一部  
112E : アジア太平洋、だから太平洋ーに出る国とアジアに入ってる国とか。だからアジア  
　　と言うのもちょっと微妙で  
113A : 微妙  
114E : {笑い}  
115A : {笑い} あー実//のは###

116E : だから今の所は—その、自分の研究を略しようと思って—  
117A : う//ん  
118E : ちょっと地域はでかい地域を略しようと思って—  
119A : う—ん  
120E : 今度は—たぶ—ん— (1) たぶ—ん極東国々  
121A : う—ん  
122E : というものにしようか//と思って。  
123A : あ、アジア太平洋じゃなくて//極東  
124E : s——そうですね。ま—、けっこうあ—の—極東わたし日中関係と日韓関係にも興味あ  
って—  
125A : あ—//—  
126E : ま、あれもちょっとみ見て—いろいろ見て—あ—の— (0.5) 領土問題とか {笑い}  
127A : #####  
128E : 教科書、歴史問題とか {笑い}  
129A : {笑い}  
130E : だから—、う——ん、なんか面白そう  
131A : あ—、でもどうしてそんな問題に興味を持ったん？  
132E : う———ん (0.5) わたしね、ま、も、え、あ、あ—の—大学に入ったとき—  
133A : う//ん  
134E : わたし歴史学部だったんだけど—  
135A : う—ん  
136E : すごい歴史をいっぱい勉強してて  
137A : うん  
138E : そんなに、 のことはそんなに好きじゃない  
139A : {笑い}  
140E : なんか、今のこ、とに興味があるから  
141A : あ—//—  
142E : だから—、すごい、あ—の—、例えば、ニュースを、毎日ニュースを読んだり  
143A : う—ん  
144E : 見たりしてて—、なんか、ニュースに何か国と国の何かあ—の—起こる時とか

- 145A : うーん
- 146E : すごい興味、すごい興奮//みたいで、おー、おー中国はそういったとか {笑い}
- 147A : {笑い}
- 148E : おー
- 149A : あー
- 150E : ま、全部国じゃない、ま、お、う、え、アジアをま、あのー専門は (0.5) あ、とう  
東洋一学だから
- 151A : うんうんうん
- 152E : だからー、ま、アジアに興味あってー//ははは {笑い} 特に
- 153A : あー
- 154E : おー北朝 そう言った
- 155A : {笑い}
- 156E : 馬 じゃないとか {笑い}
- 157A : 馬 じゃない
- 158E : {笑い}
- 159A : あー、そうなんだー
- 160E : まー、あつとねー
- 161A : う//ん
- 162E : 難しいなのはー、そのー、極東 (0.5) 国々でもー
- 163A : うーん
- 164E : なんか、あのーけっこうアメリカは
- 165A : う//ん
- 166E : すごい日本に影響を与えてるからー
- 167A : うー//ん
- 168E : だから、アメリカをけっこう入れないとーな、何か、たッ足りない
- 169A : あ//ー
- 170E : 感じがあって、だから、アメリーッカをどうや、どッ入れようかどうかちよっとす  
ごい悩みが多くて
- 171A : あー//ー
- 172E : うーん

173A : すごーい、たいッ発表はどう、うまく行った？

174E : (1.5) まー、普通 {笑い}

175A : {笑い} どんな質問とか、出たか？

176E : あーうーうん、だいたいねー、みんな明治時代とか研究してるから//、だから

177A : {笑い}

178E : だいッわたしの発表をき、聞いてーみんなー (1) 「やー、このテーマは全然わからないから別に質問とかない」 // {笑い}

179A : {笑い}

180E : 普通はそういう、「すごい面白そうなんだけど全然わからないから」 {笑い}

181A : {笑い}

182E : 普通はそう言われてる {笑い}。

183A : そうなん、先生とか？

184E : (1) せんせーいはー、ま、最初の発表はー

185A : う//ん

186E : そのー、あのー、わたしね、その時どういう本を読んだとか//ー

187A : うん

188E : その研究のために。なんか、結論を出したとかじゃなくて//ー

189A : うん

190E : あのー、自分の、やってるー、ことをみんなに発表した。

191A : うー//ーん

192E : だから、その時先生は、あ、これも読みなさいとか

193A : うーん

194E : あのーあれも読んだらいいとか

195A : うーん

196E : 読んだ方がいいとかなんかそういう指示みたい

197A : うー//ーん

198E : した (1) 後、まー、みんなから別に {笑い}

199A : {笑い} 何も、よくわからない

200E : まー、あのーある人は、もう一人の XXX

201A : うん

202E : さんは—なんか にけいじ、経済を  
203A : うん  
204E : 研究していたから—ちょっと経済の面から  
205A : う—ん  
206E : あの—相談があったんだけど—。  
207A : あ—//—  
208E : でも、ま—、ちょっとわたし、s—経済じゃないから  
209A : うん  
210E : ちょっとまた違って  
211A : あ—//—  
212E : う—ん  
213A : でも経済の影響あり  
214E : そう—だね—。だから、もう今もうあの—ちゃんと決めないといけない、あの—ど  
ういう——なんか、経済も政治も、  
215A : う//ん  
216E : その—文化も—一緒に—研究するのは大変だか//ら  
217A : はい  
218E : {笑い} 今決めないといけない。  
219A : あ——どれに一番興味があるの？  
220E : ま—、けっこう政治なんだけど—  
221A : あ—//—  
222E : 専門政治学じゃないからまたちょっと微妙  
223A : {笑い}  
224E : いけるかどうかわからない。指導教官の専門も—  
225A : あ—  
226E : ちょっと違って  
227A : う—ん  
228E : だから—、ま—、いろいろ考えないといけ。もしかすると  
229A : うん  
230E : そう、そういうテーマを—趣味にして {笑い}

- 231A : 趣味に//して
- 232E : 違うテーマにしようかなーと思//って
- 233A : 全然違う//テーマに
- 234E : 後資料、そうですね、資料は大変
- 235A : あー
- 236E : あのー、まー、みんなはねー
- 237A : うん
- 238E : 明治時代を、あのー、研究しててー
- 239A : うん
- 240E : あのー、資料と言うのはーなんか の本とかー
- 241A : うんうん
- 242E : の何かの、日記とかー
- 243A : うーん
- 244E : そういう新聞とかーすごい珍しいものを使っててー、例えば
- 245A : う//ん
- 246E : 日本に一つの場所しっにしかない//とかー
- 247A : あー
- 248E : なんか、すごい真面目で//やってるみたいで
- 249A : {笑い}
- 250E : 私の資料というのは新聞とか雑誌とか。
- 251A : うー//ん
- 252E : でも (1) たぶんね、今のところからみ、今の、今、の、ころから見るとー
- 253A : うーん
- 254E : と、あのー、 来からみるとー、ぜんぜんー事情が違うかもしれない。
- 255A : うー//ーん
- 256E : その、だからー、今ねー、例えば今から明治時代を見てー、もー歴史的に研究  
してるんだけどー、今はーその今の日口関係を研究するとー、なんか、政治ー
- 257A : うん
- 258E : 的になっちゃう。
- 259A : うんうんうん、あ、//そうか。

260E : うーん//だ

261A : それで政治、に興味//がある？

262E : だからねー政治学校、うん、専門ではないしー

263A : うん

264E : 多分また難しいところもあるかもしれない//しー、だからちょっと、あのー、もう

265A : うんうんうーん

266E : 来年修士に入ってー、テーマを考え//ないといけない。

267A : {笑い} そう//なん

268E : まー、一応今のテーマを変えたんだけどー、あのーそ###した時でもね//ー

269A : あー、そうか。え、じゃー、あのー (1) 入試の時

270E : うん

271A : はー

272E : うん、その//アジア太平洋地域

273A : アジア太平洋 {笑い}

274E : {笑い}

275A : そうか、

276E : {笑い}

277A : えー、アジア太平、日露間

278E : うん

279A : 日本の役割？

280E : は、卒論日本の役割だった。あとーロシアの修士に入ってー、あのーーーうーー  
ん日本語で何というー、言った方がいいのかなー。あのーえー (2) ロシア (1.5)  
外交政 におけるー

281A : うん

282E : えーーー (1) 極東国々の役割

283A : あーーー

284E : を研究してたんだけど、途中でやめて

285A : {笑い}

286E : 日本に来たから {笑い}

287A : {笑い} あーー

288E : だからまだあれ途中

289A : 途中//続きは

290E : ロシアの修士は—わたしもう国家試験を、あの—、受けて

291A : うん

292E : もう、あの—、したんだけど。あと、そっ、あの—修士論文を出さないといけない  
ん//だけど。

293A : あ—

294E : もうすぐもう時間なくて、なんか3月に試験、国家試験があつて、もう4月から日  
本。だから—、その時修士論文を書く時間がなかった。

295A : あ—修士論文どうする？ここで書いたものを送る？

296E : だから、ま—、今は—ここで 張って修士を卒業したいんだけど—、でも向こうも  
—、あの—、う—ん、修士論文

297A : うん

298E : 書いたら、書けば、書ければ

299A : 書ければ

300E : {笑い} 出せる

301A : {笑い}

302E : 出すことが、できるかもしれない。

303A : あ—

304E : ま—、一応 XXX 大学だから {笑い}。

305A : {笑い}

306E : ですね。

307A : # # # # #

308E : そこ、仕事したこともあるし、だか//ら

309A : そうなの？

310E : う—ん

311A : あ、そうか—、え—、ど、その続きは日本でやらない？

312E : (2) う—ん、う—ん、ま—、あれも政治の話しになっちゃったから。だから、  
どうだろうね。

313A : 難しそう？

314E：うーん

315A：先生？

316E：うーん

317A：そうか

318E：あの一、うん、ここのXXX先生のテーマも合わないしー//とか

319A：あ、そうか//先生

320E：だから、まー、いろんなそういうところ見ないと {笑い}

321A：そうだね。

322E：そういう点も {笑い}

323A：見ないといけない

324E：そうねー。

325A：あ、そうかー。え、どんな(1.5)役割があ、ある、実際には、日本、日露関係とか？

326E：うーん、まー、今日露関係はそんなによくないから

327A：うん

328E：だから、もちろん、いい影響、//与えられない。

329A：{笑い}

330E：例えば、安全(1)安全さ？ {笑い}

331A：うん

332E：安全から見ると

333A：うん

334E：{笑い} うーん、あまり、安全には、//役に

335A：{笑い}

336E：安全に役に立たないとか、だから が悪いから

337A：うん

338E：あの一、まー//、いいえい、いい影響もー与えられない。

339A：{笑い}

340E：{笑い}

341A：あー、じゃ、アジア全体にあまりよくない影響を与えてる。

342E：うーん、だから、逆にー

343A：うん

344E : あのー私の、まー、この研究では//ー  
345A : うん  
346E : 例えばね、その、もー 来を考えて//ー  
347A : うん  
348E : シナリオ//考えてー  
349A : うん  
350E : 例えばー、ロシアと日本は同 したら  
351A : う//ん  
352E : とか、そういうもーあのー平和条約をむすん、むす、結んで  
353A : うん  
354E : あー (1) あのー、同 とか、なんか、そういうなにか、あのー、パートナーシッ  
プみたい作ったらー  
355A : うん  
356E : どうになる、か、とか。  
357A : うん  
358E : あのー、例えば、今中国は強くなってー  
359A : う//ん  
360E : だから、それは日本は、一人で、対立できない。  
361A : うん  
362E : ロシアもーちょっと、まー、いろんな事情で  
363A : {笑い}  
364E : なんかあのーモスクワ遠いしー  
365A : あ//ー  
366E : なんかアジア、アジアにおける ros、mos、ロシアの、部分はちょっとーそんなに強  
くない//しー  
367A : うーん  
368E : いろんな (0.5) 点でー  
369A : う//ん  
370E : あのー、あまり (1.5) 別々、に、対立できないけどー//ー  
371A : うん

372E : 一緒だったら、たぶんすごいこの地域に  
373A : うーん  
374E : 強くなって、お互いに//あの一  
375A : うーん  
376E : 助け合ったり (1.5) //うーん  
377A : あ一  
378E : だから、それ、は一、そ、そ、それは目的なんかそういう、あの一、見せる  
379A : う//ん  
380E : あの一 {笑い} あの一、 良くすればーどん、どういー//ことに  
381A : あ  
382E : なるか、どういう影響与えられる、か、とか {笑い}  
383A : あー//一  
384E : ま一、今のところを、何も無い、から、//そん  
385A : あああ  
386E : だから、何も、そうすずいたら[続いたら]何もならないみたいでーだからもう世界  
はそのグローバリゼーション//の時代  
387A : うん  
388E : (1) にすごい世界は早く一  
389A : うん  
390E : 変わってるし一  
391A : うーん  
392E : だから、何かしないと一  
393A : うん  
394E : 別々になっちゃったら、すごい、あの一 (1) あの一利益にならない理由なの  
395A : あー、それを、じゃ、(2) 提示するのが  
396E : {笑い} m ま一// {笑い}  
397A : 論文の役割になるそ//の  
398E : まだそういう、そんなに自身ない// {笑い} かな {笑い}  
399A : {笑い} えー、あ、そうかー//一  
400E : またいろいろ考えないといけない//もちろん

- 401A : うーん、具体的にはどんなことをやらないといけないの？
- 402E : うーん、考え中だから {笑い}
- 403A : {笑い}
- 404E : 考える {笑い}
- 405A : 考える
- 406E : 具体的に考える {笑い}
- 407A : あーん
- 408E : でも、分からない、全然
- 409A : うん
- 410E : だから今本当にそのあの一月中、日韓、日露関係について本を読んでてー
- 411A : うん
- 412E : 面白いところを見てー
- 413A : うん
- 414E : うーん、あっとーどうしようかなー。
- 415A : あー
- 416E : {笑い}
- 417A : また入ってから
- 418E : そうねー {笑い}
- 419A : 考える
- 420E : // {笑い}
- 421A : {笑い} そうかー
- 422E : まー、あの一、たぶん (0.5) 2月か、3月に//そんな
- 423A : うん
- 424E : その (0.5) えー (0.5) けんき うーせい論文
- 425A : うん
- 426E : とか、なにか、あるかもしれない//けど
- 427A : あー
- 428E : ないかもしれないわか//らない
- 429A : ないかもしれない、あー
- 430E : うーん、次修士に入ったから、まー、それ研究生、だけだったら

431A : う//ん

432E : その2年、研究生だけだったら、あのーけんき うーーせい論文、研究論文

433A : う//ん

434E : あるんだけど、修士、次に、入ったからないかもしれな//い。

435A : あーー

436E : なかつたらいいね {笑い}

437A : ない方がいい?

438E : そう

439A : あまり継起[?]研究[?]は難しい

440E : なかつたら嬉しいな {笑い}

441A : {笑い} やっぱり研究はあまり好きじゃない

442E : いや、そん、そうじゃなくて、まだ具体的なことは何も言えないから＝

443A : ＝あー//ー

444E : だから、そういう (0.5) なんか、狭い (0.5) あのー、ぐたい、具体的な研究じゃないからー、自分の研究について私たくさん言える (0.5) 本当に、だからでもまっ、またたくさん勉強しないとイケな//い

445A : うーん

446E : うーん、だから、どうしようかな

447A : {笑い}

448E : {笑い}

449A : {笑い} そうかー、じゃ、これぐらいで

450E : うん

451A : 終り//、終わりましたよ

452E : {笑い}

資料 2. 本調査の資料

資料 2.1 「ストーリー構成法」の絵カード

図 a-1: 絵カード 1



図 a-2: 絵カード 2



図 a-3 : 絵カード 3

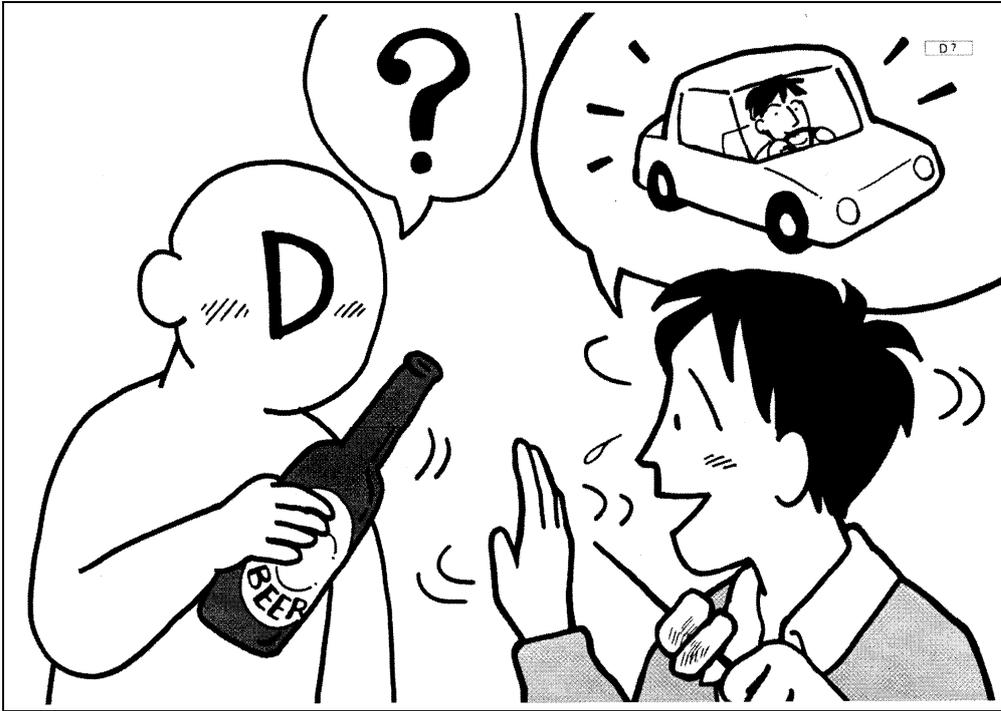


図 a-4 : 絵カード 4

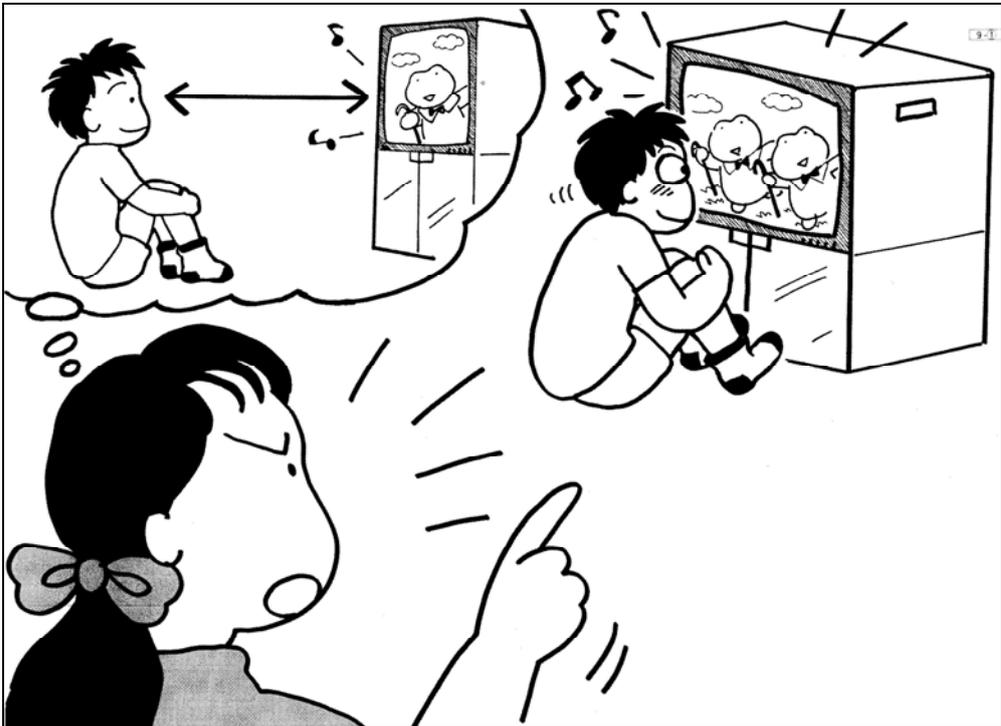
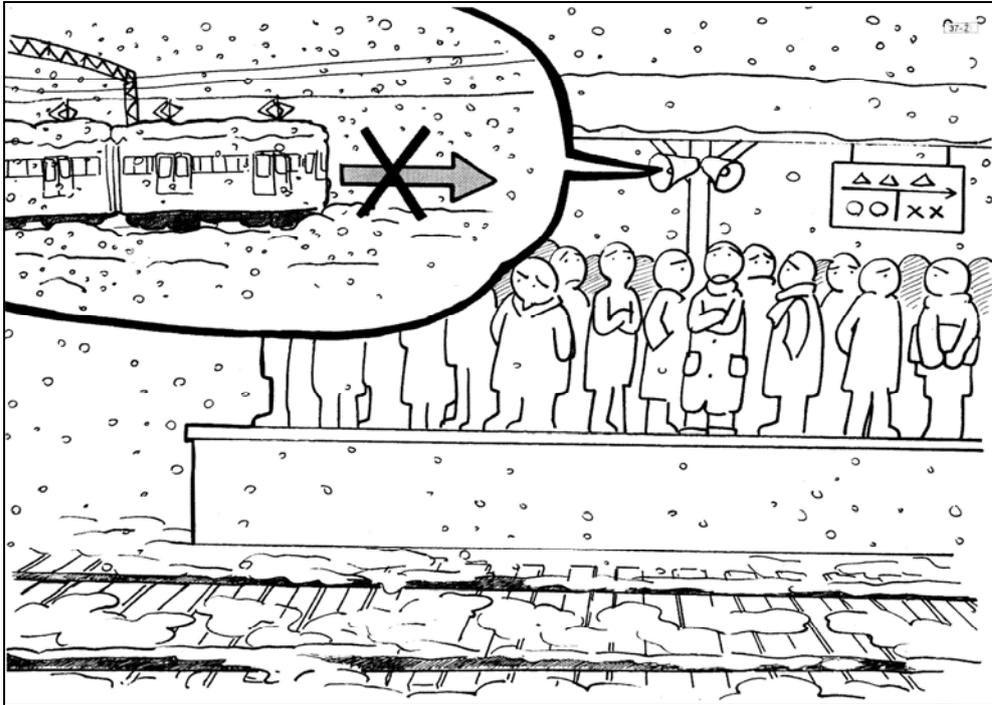


図 a-5 : 絵カード 5



## 資料 2.2 本調査の発話の文字化資料

### 資料 2.2.1 インフォーマント 2g1 の発話

#### 「半構造化」インタビュー

01A : はじめまして。マ//リーナです。

02C : はじめました

03A : どうぞ宜しくお願いします。

04C : どうぞ宜しくお願いします。

05A : お名前は？

06C : 私は (0.5) うん、えーXXX です。XXX です。これは私の、えー名前です。

07A : はい、えーとー、XXX さんは、今何年生ですか。

08C : えー、私は今2年生でー、去年私は1年生でした。

09A : うーん、いつ日本語を勉強し始めましたか。

10C : えーとー、よくはつきりわかりませんがー、(0.5) えー (1) 大学に入った後、えー日本語の学科とー、えー東洋歴史学科に、えーで、日本語を勉強し始めました。

11A : うーん、わかりました。どうして日本語をべきょう、勉強し始めたんですか。

12C : えー、日本語がとてもー、いい、うーんー、あーいい語、で、えー中国語と比べて、もつとー、えー (1.5) えーもつと簡単で (1) えー会話のれんしゃ[練習]とーえー漢字の勉強し方はもつと (0.5) 簡単と思う、もつと簡単だと思います。

13A : うーん、わかりまし//た

14C : でもー、えーそして日本語がとても、えーm、えーきれいで、面白いえー語です。(1) えーとー、子供のとき、私はー、えーmー、たくさんの漢字をー、を、書くことが大好きでした。

15A : うーん

16C : そしてー私の、ZZZ、えーも、日本語をー、えーm (1) んー、十年間ぐらい (1) 勉強しています。今大阪にいます。大阪に住む、今大阪に住んでいます。

17A : あ、そうですか。大阪のどの辺に住んでいますか。

18C : どの辺？大阪は日本にー、えー

19A : うーんー、あー、おーさんは大阪の南の方ですか。北の方、どの//辺

20C : よくわかりません。

- 21A : あ、そうですか、うーん。えーとー、日本語はどうですか。難しいですか。
- 22C : はーい、日本語はロシア語とー英語と比べて、えーもっと、難しく、えー日本の会話と日本新聞雑誌は他の外国の映画とえー他のー (0.5) 外国のえーいーkhm 他の、外国の、語と比べてー (1) もっと、難しいと思います。
- 23A : うー//んー
- 24C : えーとー、そしてー漢字を勉強するのは難しいです。
- 25A : うー//んー
- 26C : 日本語が中国語と同じ、えーたくさんの漢字がある語です。(1) ーもー日本語は、えー英語と、えー特に英語と比べて、えーもっとーえーかわいい語です。
- 27A : うーん、わかりました。日本へ行ったことがありますか。
- 28C : 残念ながら、日本へ行ったことはありません。そ//れは私の希望です。
- 29A : もし、行くことができたなら、行くことができたならどこへ行きたいんですか。
- 30C : もし、私は日本へ行ったら、まず、第一に、東 と 都と大阪 (1) えーへ、だい行きたいです。これは私//の希望です。
- 31A : それはどうしてですか。
- 32C : えー大阪えー大阪と 都と東 は (1) 日本のえーえー、日本のえー一番きれいな町でー、日本史、えーm、え、こ、え、古代時代からーえー現代時代まで、えー日本史と関係のある町です。そーしてー、いろいろなー (0.5) えー (0.5) えー (1) そしてー、いろいろな名所を見ることができます。例えば、東 へ行ったら、えー高い建物とー、えーm、えーとー日本史と関係のある美術館と映画館と銀座通り、をー、見ることが大好きです。
- 33A : うーん、わかりました。日本人の友達がありますか。
- 34C : えー、はーいー、うんー (1) ー人の友達です。今、さっ、サンクトペテルブルクに住んでいてー、えー、 ルツェン、 ルツェン教育大学、えー ルツェン教 (1) ルツェン記念教育大学で、勉強しています。今4年生で (0.5) えー (1) えー今、えーm、4年生でロシア語をー勉強しています。
- 35A : う//んー
- 36C : あとで、日本で、ロシア語をー、えー (1) えー日本語、日本語を、教えるつもりです。
- 37A : うん、わかりました。その友達と一緒によく ーんでいますか。

- 38C: (1) はい、よく んでいます。でも、時間があつたらー、私はいまー映画館とー、  
えーとー、レストランへ行きます。(1) でもー//今年は
- 39A: どこへ行きますか。
- 40C: えーm、いろいろな s、えー、サンクトペテルブルグ、の中心にある映画館へ、えー  
行ったことがあります。
- 41A: うん
- 42C: いろいろな映画をー見たことがあります。
- 43A: 例えば、具体的に、どこへ行きますか。
- 44C: えー、具体的にー、えーバリカード//、へー行ったことがあります。
- 45A: うん
- 46C: うん//そしてー
- 47A: あ、これから、未来、 来、例えば、来週とか、再来週は一緒にどこかへ行ったら、  
どこへ行きますか。
- 48C: えー 来の場合は一、うんー、まだはっきりわかりません。たーぶんー、えーm、ミ  
ラージュ・シネマという映画館へ、えーmー、行くかもしれない、でも、よくわかり  
ません。
- 49A: うん、どうしてバリカードですか。
- 50C: バリカードはーサンクトペテルブルグの(0.5) えーサンクトペテルブルグの映画館、  
の中で(1) 一番有名な映画館と思います。
- 51A: うんー、映画館とかレストランの他にどこへ行きますか。
- 52C: えー、サンクトペテルブルグの代表的なところへー行ったことがあります。例えば、  
えーーm、 殿とか、えーm、えーm (1) 夏の公園などへ行ったことがあります。
- 53A: どうして 殿へ行ったんですか。
- 54C: 殿はサンクトペテルブルグの、えー名所の、ん、ん、ん、えー、さ、さ、サンク  
トペテルブルグの名所の内では、えー一番有名なところで、えー世界的に有名な建築  
家ラストレリによってたてら (0.5) たてられ (0.5) えー建てられた建物で、(1)  
えー、えー、大勢のロシアのザー、えー、とー、 が、えーーmー 殿、えー、  
に住んでいました。
- 53A: うん、わかりました。ありがとうございます。

### 絵1について

あー、この絵について、khmkhm、えー、この絵を見たら (1) 女の人を (1) えーえーおん、女の子が (1) 見られます。女の方は、たぶんー、えーm (1) mー病気になるました。えー (1) でーもー (0.5) うーんー、病気になるって (1) えー、彼女が け者ではないと思います。えーmー、彼女が (0.5) えーそのくらし、えーそのクラスとグループについて (1) えーm、思っていて (1) えーm、彼女の意見では先生はちょっとー、えーちょっと、mー、mーちょっと (1.5) mー厳しいと思います。ちょっと厳しいとって、えー彼女がー授業ー、をー (1) うーんー休んだことが、えー (1) 好きではないと思います。他の学生が (0.5) えーm (1.5) うーんー (1) えー、クラス、にー (1) 他の学生がクラスにいます。 (1.5) えーとー (1) 先生はちょっと厳しいとって、でもー、えーm (0.5) うーんー、彼女が学校へ、えー行ったら (1) えーm (1) うーん、彼女の休み方、えー、を、説明ーできると思います。以上です。[筆者：どんな説明できますでしょうか]彼女の、休み方、どうして彼女がーその授業を、えーmー、mー (1) 休んだことを、説明できる。[筆者：例えば、彼女は どうして授業を休みましたか]彼女が病気に、えー、病気に (0.5) なってから、授業をー、うーんー、休まなければなりませんでした。

### 絵2について

あー、難しい絵ですねー。(1) えー、男の人が (0.5) うーん、部屋に、入った後、かわいい (1) 女の子とーとか (1) うーん、男の子 (0.5) をー、見ました。えーと、男の子、が、えー、今 (0.5) えー (1) 寝ていて (1) うーんー (1.5) 部屋に入った男の子、部屋に入った男の方はー (1) えーm (0.5) うーんー (1) 他の部屋、へー (1) うん (1.5) 他の部屋へ行くつもりで (1) うーん (1) 静かに、行くつもりです。静かに行くつもりです。(1) えーとー (2) 私の考えでは、彼が今 (1) えー (0.5) ブルーに (1) えーブルーに (0.5) なった人です。ブルーに、えーブルーにな、ブルーに、なりやすい人と思います。[筆者：それはどうしてですか]彼女がパニック、えーパニックがいます。(2) えーとー、この絵を見てから (1) えー、この人が (2.5) え、この人が (1) やさしい人で、うーmー (0.5) え、他の人について、いつも思っている人です。[筆者：はい]以上です。

### 絵3について

あー (1) えーm、このー (1) え、この絵を見てから (1) 私が (0.5) お を飲むことがけいこう[ ]によくないと思います。(1) えー、このえ、え m、m、えー、これはたぶん二

人の友達で (1) えーm、ひとつの友達からお をいつも、えー飲んでいて (0.5) えーkhn  
 (0.5) うーん (1) 他の友達にお を飲みましょう (1) いかがですか (1) とー、えー (1)  
 と言っています。しかし、他の人は、えーお が によくないと思って (1) えーお  
 を飲んではい、あーお はいけないと思います。えーとー (1.5) うーんー (0.5) うーん、  
 実はお は、えー によくないと思います。お をたくさんーの、お をたくさん飲ん  
 でいる人は (1) えーm、うーん、いつも (1) えーmー (1.5) っ払ったの人になります。  
 (1.5) [筆者: どうして車が描かれていますか] うーん、この人はず、ず、いつも自動車に、  
 え、えー、自動車に乗って、えー、自動車にー、えー乗ってお を飲むことが、えーmー (1)  
 えーm、国際、えー (0.5) 国際方法に対しています。(1) そしてーえーmー、それから、私  
 がこの人がー、うーんー (1.5) 賢いと思います。実は、お をー、えー、車に乗って、お  
 を (1) 飲むが、え、お を飲んではいけない。

#### 絵4について

うーんー、次の人は (1.5) この絵を見てから、あー二人の人、をー (0.5) 見ることができ  
 ます。えーーm (1) えーm、このーひとーの、この人の中では (1) えーmー (1) 一つが  
 (0.5) えーーテレビをー、今テレビを見ています。えーテレビの映画が、えーーm、とて  
 もー、え、面白くて、これはー (1) たぶん、アメリカ の、え、あー、アメリカ の映画  
 です。えーとー (0.5) えー、この、この、男の人は (1) うーんー (1) えーこのえ、この  
 映画はとても面白いと思って、えーとー、うーん、と思っていますが、えー、彼のお  
 さんがー (1) えー反対と思います。反対と思います。(1.5) えーとー、彼女が (1) う  
 ーんー (1.5) うーんー (1) この人のー、えー (0.5) について、思って (0.5) この  
 人の について、え、えー思っているから (1) えーテレビをそんなに近く見ることがー、  
 えーmー (1) とともー に良くない、と思っています。えー、それでー、えーちょっと  
 怒っています。[筆者: はい]以上です。

#### 絵5について

最後に (1.5) この絵を見てから (0.5) 大勢の人を、見る事が、できます。これはー (0.5)  
 えーmー、たぶーん、ふゆー、えー、休みで (0.5) えー、このー、え、この大勢の人が  
 (1) たぶーん映画館、んー (0.5) 映画館へ (1) 行きたいんです。(1) えーとー、でもー  
 (1) 自転車、え、えーでもー (1) えー電車が (0.5) えーm (1) うんー (1) でも、電車  
 が来ないとー (0.5) えーmー、とー、と、しつていつ、と知っているから、ちょっとー (1)

えーmー (0.5) 良くない思っていて (0.5) と良くない思っていて、えーとー、真面目な顔が、しています。(1) まじめ顔をしつ、えっ、mま、えー、まじめな顔をしていて (1) うーん、何をしなければならぬとー、えーと、思っています。えーとー私、私の考えではー、えー 気が、えー、寒すぎます。この人のー、えーふくー[服]は、とても、あーとても、うーん (1.5) えー、あたたかいから (0.5) とてもあたたかいーですが、人がちよつとー、えー人の気持ちが、悪いと思ひます。えーとー (0.5) うーん (1) うーん、しい感じが、いる人です。[筆者：はい]以上です。

## 資料 2.2.2 インフォーマント 2g2 の発話

### 「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : あー、私は－XXX です。どうぞ宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは今何年生ですか。
- 04C : えー、今、えー18 歳です。
- 05A : 何、年、生、ですか。
- 06C : あー (0.5) いまー2 年生です。
- 07A : 2 年生ですねー。いつ日本語を勉強し始めましたか。
- 08C : あーm (1) 去年 (0.5) あー日本語、を、勉強しています。
- 09A : うん、去年からですねー。
- 10C : は//い
- 11A : どうして日本語を勉強し始めたんですか。
- 12C : あー、私の意見では (0.5) あー日本語は (1)、あー (1) とても (0.5) あー、面白い (1) です。えとー (0.5) あー (1) 難しいです。あー、ですから、あー私は今 (0.5) あー、日本語を (0.5) あー、勉強しています。
- 13A : 日本語は難しいと言いましたねー。どうして難しいですか。
- 14C : えーーm、日本語 (0.5) あー、のー、あー文法は、一番、あー難しいです。
- 15A : 例えば、何が難しいですか。
- 16C : あーー (3) あー日本語の (0.5) あー (1) 文法と漢字 (0.5) あー、とー (0.5) あー、づうやく[通訳?] (1) あー、です。
- 17A : (4) じゃー、あー、日本へ行ったことがありますか。
- 18C : あー、いいえ、あー、まだ行ったことがありません。
- 19A : もし、日本へ行くことができたなら、どこへ行きたいんですか。
- 20C : あー (2) うーんー、大阪とーあー東、へ、あー行きたいです。
- 21A : どうして大阪へ khm 行きたいんですか。
- 22C : あー大阪は、あー (1) 一番、あー (0.5) 面白い、あー (1.5) うーんー町です。(2.5) えとー (0.5) あー (1) 大阪は (0.5) あーn、長い歴史がありますから、あーここへ (0.5) あー行くは (1) あー (2) 面白いです。
- 23A : うーん、わかりました。日本人の友達がありますか。

24C : あー、はい、あー日本 (0.5) あーーじんの友達は (0.5) あー、あります。あー (1) イーメール (0.5) あー、によって、あー友達と (0.5) あー (1) はな、はなし、話します。

25A : その友達はサンクトペテルブルクに来たことがありますか。

26C : あー、いいえ、あーサンクトペテルブル、サンクトペテルブルグへ、あー行ったことが (1) ありません。

27A : もし、その友達は、サンクトペテルブルクに来たら、サンクトペテルブルクのどこを案内しますか。

28C : (2) えー (0.5) サンクトペテルブルグに (1) あー (2) あー、ペトロパブロスク、あー要、あー、えーとー (0.5) あー (2) ネフスキー、あー、プロスペクトへ、あー (1) 行きます。

29A : どうしてあそこへ行きますか。

30C : あー、このところは、あー一番有名な、あー、ところです、から (0.5) あー、たくさん、あー、サンクトペテルブルグの観客が、あー大勢あります。

31A : うん、その他に、どこへ行きますか。

32C : あーmー (2) 例えばー、うーんー (1) レストラン、とーカフェ (0.5) あー、へ、あー、行きます。えと、あー私の {笑い} ところへ行きます。

33A : うん、はい、わかりました。

### 絵1について

あー (2) この (0.5) 絵はー (1) あー (3) きれいですね {笑い}。あー、この、あー、絵で (1) あー (2.5) あー、人がー、あります。えー、えと (0.5) あー、この、あー、人は (0.5) あー (2) 学生です。あー (1) 今 (1) あー (1.5) あーこの人は (0.5) えーmー (2) あー (2) わるい (1) あー (1) わっわ、悪いです (0.5) あー、から、あー、お者さんへ、あー、行きます。えと (0.5) えー (1) よ、今 (0.5) あー (1) あー大学へ、あー行きたい、あー (1) です。あーこれは、以上です。

### 絵2について

あー、この (1) 絵に (1) あー (1) 赤ちゃん、あーが、あーあります。あー (2) あー寝ています、あー、から (0.5) あー (0.5) あ、人は、あー、部屋、あーに (0.5) あー (2) い、いあー、いき (0.5) あー、行きます。あー (1) 赤、ちゃんは (0.5) あー (0.5) あ

ー (1) 部屋の中に、あー、寝て (0.5) あーいます。あー、以上です。

### 絵3について

あー (1) この絵に (1.5) あー (1.5) あー、この絵に、ふたり人あーが、あーあります。  
あー (1) 人は (1) あー (0.5) あービールを飲んでいる人、は、あー他の、あ、人に、あ  
ービールを、あー (2) ビールは (1.5) うーんー (2) ビールをあげました。あー、あげま  
す。あー (1) あー人は、あー運転する、あー人ですから、あービールを、あー (1) 飲み  
ません。あー彼は (1) あー (2) うん、彼は (1) うーんー (2) あー食事を (1) あー (1)  
します。(2) あー (1) 以上です。

### 絵4について

あー (1.5) この絵に (1) あー (1) 赤ちゃんは (1) あーテレビを、あー見て、あーいま  
す。あー、お婆さんは (1) あー (1.5) あー (1) この (0.5) あー赤ちゃん、あー、に (0.5)  
あー (2) えーあー (1) あー話してー、あーいます。あー (0.5) え、テレビのそば、あー、  
に (0.5) あー (1) 悪いです (0.5) あー (2) あっ (0.5) この、あー、人が、あー (1)  
あ、コメディ、を、あー (2) 見ます。あー、以上です。[筆者：(4) さっきに、あのー、  
あー、悪いと言われましたね。 に悪いと言わ//れましたね]あー、はい[筆者：それは  
どうしてですか]あー (4) uhum あー (0.5) はを[目?]うーんー、が悪いです。(2) 笑い  
でしょう (2) あー (3) うーんー[筆者：はい]

### 絵5について

あー、はい (1.5) あー (1) このー (1) あー、絵に (1) あー (1) 電車が (1) あーー (2)  
行きません。あー (1.5) 人々、あーが[沈黙1秒]あー、人々が (3) うーんー (3.5) あー  
この (2) あー電車 (0.5) あー、に (0.5) あー、乗り (1) 込みま、あーせん、あー (1)  
あーこのへや、oi この、あー絵に (1) あー、たくさん人々が、あーあります。あー (1.5)  
あー (1.5) これは、あー です。あー (1) 笑い 以上です。

### 資料 2.2.3 インフォーマント 2g3 の発話

#### 「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : XXX です。どうぞ宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは、今何年生ですか。
- 04C : (1.5) 18 歳です。
- 05A : 何、年、生で//すか。
- 06C : あ、何年生、2 年生です。
- 07A : いつ日本語を勉強し始めましたか。
- 08C : (1.5) うーんー (2) 今年 (1) あっ (1.5) 2 年前 (1) え日本語を勉強し始めました。
- 09A : どうして日本語を勉強し始めたんですか。
- 10C : これはー (0.5) うんー難しい、問題 (1) だろう (1) わかりません {笑い}
- 11A : あ、でも、何か理由がありましたね。
- 12C : にほーんの一文学が好きです。
- 13A : あ、そうですか。一番好きな (1.5) 作家は？
- 14C : 一番好きな (1) うーん、わかりません。あ子供の時、私はー (1) あー、アニメを見たことがあります。
- 15A : うーん
- 16C : そしてー (2) うーんー、いろいろな (1) 音楽、うーんー (1) 聞きました。
- 17A : 日本語はどうですか。難しいですか。
- 18C : 漢字が難しいです。
- 19A : どうしてですか。
- 20C : {笑い} おぼえ、ません {笑い} おぼ、おぼえ、ません。
- 21A : うーん (2) 日本へ行ったことがありますか。
- 22C : いいえ
- 23A : もし、日本へ行くことができたなら、どこへ行きたいんですか。
- 24C : 東 へ行きます。
- 25A : どうして東 ですか。
- 26C : わか//りま
- 27A : 都とか、 良ではなくて

- 28C : う//ん
- 29A : どうして東 ですか。
- 30C : 東 と 良 (2) うー (0.5) いろいろ (0.5) うーん、東 が一番大きい (1) 日本語  
の (1) うーんー (1) 日本語の町です。そして、うんー (1) 都にはいろいろな  
(1) 殿 (1) そしてー (1) うーんー (1.5) い、いろいろな 殿があります。
- 31A : うん。日本人の友達がありますか。
- 32C : (1) はい {笑い} います。
- 33A : その友達は、サンクトペテルブルクに来たことがありますか。
- 34C : いいえ (1) わたしはー、うんー、その日本人、ろあー (0.5) 私はロンドンに (1)  
ロンドンで、その日本人と会いました。
- 35A : うーん、もし、その友達はサンクトペテルブルクに来たら、サンクトペテルブルクの  
どこを案内しますか。
- 36C : (2.5) {笑い} わかりません。
- 37A : ちょっと考えてください {笑い}。
- 38C : うーんー、案内して？
- 39A : どこへ連れて行きますか。
- 40C : (2) うーん、エルミタージュへ連れて行きます。
- 41A : どうしてエルミタージュですか。
- 42C : (2)
- 43A : 夏 殿ではなくて
- 44C : (1) 夏 殿 (1) ^{ド ス ト エ フ ス キ ー} _{о с т о е в с к и} の博物館
- 45A : う//ーん
- 46C : そして (1) うーん {笑い} ^{ネ フ ス キ ー} _{е в с к и} ^{プ ロ ス ペ ク ト} _{П р о с п е к т} [ネフスキー大通り] (2.5)  
いろいろな、うーん、場所 (2)
- 47A : まず、エルミタージュでしたね。どうしてエルミタージュですか。
- 48C : エルミタージュにはいろいろな (1) うーmー (2) 歴史のー (2) うんー、歴史の (3)  
{笑い} (3) {笑い} わかりません (3) この言葉を (1) うんー (1.5) おぼえ、おぼ  
えることができません。
- 49A : 他の言葉で
- 50C : (4) 他の (1) うーんー (2) 歴史の、うーんー、歴史の場所について (3) 話せます。

51A : うん、わかりました。

### 絵1について

うーんー (1.5) この絵には (2) あー (2) この、彼女は (2) 病気 (1.5) 病気です。(1.5)  
うーんー (1) これはー (1) うーんー (2) き うじ[時?] (2) い ss、そのときー、  
あー (0.5) 彼女の先生は (0.5) あー、クラスを始めます (1) 始めています。(1.5) うー  
ん (1) そのー女のー、子は、うーん、学部へ行きません。(7.5) 以上です。{笑い} [筆者：  
どうして彼女は学校へ行かないんですか] (3) うーんー、彼女は病気です。

### 絵2について

うんー (2.5) そのー、うーんー (2) この絵には (0.5) あ、この絵では、うーんー (1)  
子供が眠っています。(0.5) うーん、たぶん (1) うーんー、この男の人はー (0.5) あー  
(1) 子供の父で、あ、子供のお父さんです。(1) あー、そのー、このー、うーん、父は (1)  
うーん (1) どこかへ (2) いくこだ、行くことがほしいです。(1) うーんー、かーれ[彼]  
はー (1) うんー (1.5) 彼はーそのこどもー (2.5) えーその子供が (3.5) お k、おきれ  
ません (1) {笑い} (3) {笑い} (2) [筆者：どうぞ、どうぞ] (3.5) うーんーー (4.5) [筆  
者：それで] (1) それでー (3.5) では、うーんー、父さんは (1) うーんー (1) この子供  
は (1) えー (2) n (3) ねむら、ん、うん、ねむ (2) このこ、子供は (0.5) n 眠る s、眠  
る (1) 眠り (2) ねむれだっている {笑い} 忘れちゃった (6)。

### 絵3について

(3) この絵では、うーんー (2) 二人 (1) 人々はー二人がいます。あー (1.5) D さんは  
ー (1) うーんー (1.5) このー、男の人はー、ビールを (3) 飲みたいです。(1) あー (2)  
この男の人は (1) うーんー (1.5) 運転 (0.5) しなかなければ、なりません (1) からー  
(1) うん (0.5) ビールを (1) をー、飲むことができません。

### 絵4について

うーんー (3.5) このー (1) 絵では (1.5) たとえばー (1) うん、あ、女の子、と、男の  
子 (0.5) がいます。そのおとこのこー (0.5) はー (1) テレビをしています。(1) その女  
の子はー (1) うーんー (0.5) その女の子はー (0.5) あー (1) うーんー、男の子を見て  
(1.5) うーんー (0.5) 彼はー (1) テレビを見ます、見ています。(1.5) 以上。[筆者：  
彼女は何を言ってますか] (3.5) うーん、ゆって? (1) ゆ[担当教員：言う] (1) ゆは何

ですか。[担当教員：言うは]ゆは？[担当教員：Сказать]あー、いう (2.5) 例えばー (1.5) テレビを見ないでください。(2.5) [筆者：もうちょっと見てください] (3) うん、う (1) あー (1) 気をつけてください。(1.5) うーんー[筆者：どうして、この子は気をつけなければならないんでしょうか]あー彼のー、目、目に悪い、です。[筆者：うーん、はい]

### 絵5について

(2) うーんー、このーえー[絵]では (1) 人々、えお (1) 人々が多い (0.5) います。(3) 雪が降っています。(2) 例えばー (1.5) 彼らはー (1) うーん (2) うーん、うちへ行きたいです。(2) うーん (2) その時、うーん、電車が (1) うーん (0.5) えっ、雪をーえー (2) 雪をー降るから (2) うーん (1) 電車が (1) うーん (1.5) 行けないで (1) 行けない (0.5) です。(2) [筆者：以上ですか]はい

## 資料 2.2.4 インフォーマント 2g4 の発話

### 「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : うーん、えー、私は XXX と申します。宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは、今何年生ですか。
- 04C : あー、いまー (1) あー (1) うーん、じ うー (0.5) き うー、ねん、せいです。
- 05A : 何、年、生ですか。
- 06C : あー (1.5) ごめんなさい (1) すみませんが、いまー (2) うーんー、さんー (1) んー、3 年生です。
- 07A : 3 年生ですか。
- 08C : はい
- 09A : いつ日本語を勉強し始めましたか。
- 10C : (2.5) うーんー (1) えー、うーんー (0.5) 2 年ぐらい、うーんー、前で (1) 日本語を勉強、はじめました。
- 11A : どうして日本語を勉強しはじめたんですか。
- 12C : うーん (1.5) あー、とてもーきれい語と思います。
- 13A : うーん、日本語はどうですか。難しいですか。
- 14C : うーんー (0.5) あ、もちろん難しい、あー、文法が、とても難しいと思います。
- 15A : うーん、わかりました。日本へ行ったことがありますか。
- 16C : あー残念、え、**he**、行ったことはありません {笑い}。
- 17A : もし、日本へ行くことができれば、どこへ行きたいですか。
- 18C : うーんー (1) うん (1) あー (1) うーんな、うん、とうきょうー[東 ]とーかー、大阪とかー {笑い} いろいろな町、に行きたい// (1) 行きたい。
- 19A : どうして東 へ行きたいんですか。
- 20C : (2.5) うーん、うーん (2.5) うーん、お m、面白い町と思います。
- 21A : うん、どうして東 おもち、面白いですか。
- 22C : (2.5) あー、うん、とても大きい、うーんー (1) あーsi、うん、東 の生活はーとてもにぎやかだと思います。
- 23A : うーん、日本人の友達はいますか。
- 24C : あー、はい、たくさん、います。

- 25A : うんー、その友達はサンクトペテルブルクに来たことがありますか。
- 26C : あー、あ、はい、うんー、あー、うーん、この友達、はー、うん、サンクトペテルブルグ (0.5) え、え、にー今、住んでいます。
- 27A : うーん、その友達と一緒によく ー 住んでいますか。
- 28C : えー、はい、もちろん。
- 29A : どこへ、行きますか。
- 30C : (1.5) あー、えー私のところとー、うーん、友達のところー、うーん (0.5) あー常にー (0.5) うーん、 ー び、 ー 住んでいます。
- 31A : その他に？
- 32C : うーん、他に、うん、うーんー (3) あ、うんー、うちで {笑い} えーよく ー 住んでいます。
- 33A : うん、どうして家でよく ー 住んでいますか。
- 34C : あー、大好き、うーん、ですから {笑い}。

### 絵1について

- (2) あー、この絵では、うーんー (0.5) あーあのー (1.5) うーん、えー、あー病気のーかども[子供]が (1) あー、かいています。うん (1) えー、彼女はー、うーんー、授業についてー、えー (0.5) 考えています。(2) うーん、たぶーんー、彼女はー (1.5) えー、学校、へ、行きたい (2.5) 以上です。[筆者：どうして彼女が学校へ行きたいんですか]
- (3) うーんー (2) うーん、たぶん、授業がー、うーんー、好きです。(2) うーんー (0.5) うーんー、難しい (1.5) 難しい授業が (1) うーんー (1.5) えー (0.5) えーsーえー (2) さぼれたら (0.5) さぼりったら (1.5) えーmー (1) 心配、しています。

### 絵2について

- うーんー (1) うーんー (2) うーんー (3) うん、この絵について、はなーすー[話す]ことが難しいと思います。(1) えー、意味がちょっとー (1) うーんー、わかりませんでした {笑い}。ふたりひとがかいています。(1) うーんー (0.5) あー、子供とー (1) うーんー (2) あー男の人 (4) [筆者：子供は何をしていますか] (1) うーんー (4.5) うーんー (9) [筆者：子供は何をしていますか] (6) あー、子供は (0.5) あー (0.5) ねー、うーん、ねー寝ます。[筆者：Uhu、男の人は何をしていますか] (2.5) うーん、男の人は寝ません {笑い} [筆者：uhu、男の人は寝ていません。じゃ、何をしていますか]あーm (0.5) えー

彼はー (1) あー、え、え、何かについてー、心配しています。[筆者：uhuー]あー、えー (0.5) しかしー、何について、あー (0.5) わかりません。[筆者：Uhu (2) 男の人は今泳いでいるんですか] (4) うーんー (1) うーん、はい (3) [筆者：じゃ、今、子供は寝ています]Uhu (1) [筆者：ここは[絵に起きて泣き出している赤ちゃんを指で指す] (1) あー、寝ていません。[筆者：寝ていません。じゃ、男の子、男の人は、何を心配しているんですか] (3) あー、m、もし (0.5) あーかどもー[子供]がー (0.5) えー (0.5) うんー (2) うんー (1) 寝てー (1.5) 寝ていませんいたら (1.5) えーこれはー、うーんー、悪いこと (1) と思います。[筆者：Uhu (1) はい、わかりました]

### 絵3について

uhu (8.5) うーんー、あー (0.5) あーこの絵は、うーんー (1.5) あー運転 (1) えー、運転することについて (1) あー、もしー (1) うーんー (1) えーあの人はー (1) え運転、するつもり (0.5) つもりです、え、彼はーうーんー (1) えービールがー、うーんー、だめです。 (1.5) うーんー (1) うーんー (0.5) この意味と思います。

### 絵4について

(2) あー、うーんー (1) あー、あのー (0.5) ふたりかども[子供]がー、んー、テレビー (0.5) あー、テレビを (0.5) 見えています。 (0.5) うーんー、うん、一人、うーんー、あかども[子供]が、とても、うーんー (1) えー近いでー、うーんー見えています。え他の子供が (0.5) うーんー (1) うんー (1) えー近くない (0.5) うーんー (1) テレビを見ます。いいえ (1) うーん、もしー (1) うん (0.5) えー (1) うーん、ちかーい (1) 近いでテレビを見ることがー、目が、悪い (1) うん、です、目に悪いです。 (1) えーm、khmー (1.5) あー (1) この女の子がー (1) うーん (1) うんーそれー、えーそれを考えて (1) ーいー、考えています。

### 絵5について

(3) あー、駅でたくさん、えー人々が、うーんー、え、います。うーん、khkh、人々、が (0.5) 彼らはー、うーん、電車を待ってーいます。しかしー、うーんー (0.5) 電車がまだ来なかった。 (1.5) えー (0.5) うーんー (3) うーんー (1.5) khmーどうしてー (0.5) えー (1) うーんー (1) 彼らは、あー、わかりません。えー、たぶーんー、うんー (0.5) 雪がー (0.5) たくさんー (1) あります (1) えーm (1.5) うーんー (3.5) うんー (1)。

## 資料 2.2.5 インフォーマント 2g5 の発話

### 「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : (1.5) はい、よ (0.5) 私は XXX です。どうぞ、宜しく。
- 03A : XXX さんは、今何年生ですか。
- 04C : あのー (0.5) 今、2年生です。
- 05A : いつ日本語を勉強し始めましたか。
- 06C : あー日本語ー (1) うーんー (0.5) あのー (1) あー、いちー、1年間半、1年半間 (1)  
あー前にー、勉強し始めました。
- 07A : どうして日本語を勉強し始めましたか。
- 08C : うーんー (1) 日本語が大好きですから。
- 09A : あ、そうですか。(2) 日本語はどうですか。難しいですか。
- 10C : うん、とっても難しいだと思います。
- 11A : それはどうしてですか。
- 12C : (1) うーんー (1.5) 日本のー (0.5) 漢字がとっても難しい (1) です。
- 13A : うーん、日本へ行ったことがありますか。
- 14C : いいえ、行ったことはありません。
- 15A : もし、行くことができたなら、どこへ行きたいんですか。
- 16C : (1) あのー (1) 東 に行きたいです。
- 17A : どうして東 ですか。
- 18C : うーんー (1) 東 はいちばんー (1.5) うーんーきれい町、きれいな町だと思います。
- 19A : その他に、どこへ行きたいんですか。
- 20C : その他には、(1.5) うーんー (1) 都っとかー、大阪とかー、行きたいです。
- 21A : どうして 都へ行きたいんですか。
- 22C : (1) うーんー、関西べーん、が大好きですから。
- 23A : あ、そうですか。
- 24C : うん {笑い}
- 25A : うーんー {笑い} なるほど。日本人の友達はいますか。
- 26C : はい、います。
- 27A : その友達はサンクトペテルブルクに来たことがありますか。

28C : はい、その友達はサンクトペテルブルクに住んでいます。

29A : あ、今住んでいるんですか。

30C : はい

31A : うん、その友達と一緒に良く 住んでいますか。

32C : はい、よく 住んでいます。

33A : その時、どこへ行きますか。

34C : あのー、映画とかー (1) カフェとかー (1) うーんー、いろいろなところ、に、うー  
ん、行きます。

35A : どうして映画に、映画を見に行く、いつ、行ってるんですか。

36C : うーんー (1) 日本とーロシアの映画はー (1) んーとっても面白いだと思います。

37A : うーんー、わかりました。

### 絵1について

うーんー (2.5) あ、この絵ではー (1) あのー (1) こどーもはー (1) うーんー病気になる  
りましたー。(1) でも、うーんー、彼女はー (2) うーんー (2) あー、べんきょうー (1)  
についてー (1) うーんー (1) 考えています。(2) うーんー (2) 彼女はー (2) うーんー、  
熱があります。(1.5) あのーあーーそしてー (1.5) うーんー、 をー (2) うーんー (1)  
飲まなければなりません。(3) うーんー (2) 夢の勉強はー (1) うーんー (0.5) くじには  
じめっ (1) 始めます。(4) うーんー、それから、なーにー? (1) 先生はとってもきれいで  
す。{笑い} あのー (8) [筆者: 彼女はー授業に、出席しますか] (1.5) うーんー (2)  
はーい、出席します。(3) うん、彼女はー、うーんー (2.5) 気にしています。(1.5) [筆者:  
どうして気にしてるんですか] うーんー (3) 勉強したいですから {笑い}。

### 絵2について

あー {笑い} (1) うーんー (2) この絵ではー (0.5) あー、子供とー (1.5) あー (1.5)  
子供とー (1.5) お父さん (0.5) うーんー (3.5) あー、がいまーす。(2) 子供は寝ていま  
ーす、(1) がー (1) うーんー (1) お父さんはー (1) {笑い} (1) あーんー (3) ちよっ  
ー (1) お父さんは何? (5) お父さんは {笑い} うーん、 い顔をしていまーす。{笑い}  
うーんー、こどもー (1.5) うーんー (2) お父さんはー (2) あー子供がー (1) うーんー  
(1) 寝た方がいい (1) だと思います。(2.5) うーんー (2.5) そしてー (3) うーん (1)  
子供はとっても可 い顔 (1) ですー (2) うーんー [筆者: お父さんは何をしたいんですか]

あーmー (1.5) お父さんはー、うーんー (2) 部屋をー (1) 出したい、だとおも、出したいと思います。(3.5) うーんー (3.5) [筆者：お父さんは、どういうふうに歩いていますか] (3) お父さんはー (1.5) とってもー (4) うーん、静かに、歩いています。[筆者：それはどうしてですか]うーんー (2) こどーも (1.5) あー、子供はー (2) あー (6) 起きない方がいいです[筆者：うーんー]から。

### 絵3について

{笑い} あー {笑い} これはー (1) うーんー (1.5) このしゃしつ、あー (0.5) この絵ではー (2) あのー、うーんー、二人がいまーす、ねー。(2) あのー (2) あるー (1) ある人はー、ビールがーああー、大好きな人です (0.5) けどー (1) あのー (1) 他のひとはー (0.5) ビールが好きじゃない (0.5) です (0.5) 好き (0.5) ではありません。(1.5) あのー (1.5) この人はー、あー (1) sー、えービールー (0.5) が、好きじゃない人はー (2) うーんー (1.5) ビールー、あー、あっ、車 (2) 車に乗って、ますからー、ビールー (1.5) うーんー (1) 飲みたくない、ですー。(3.5) うーんー (2)

### 絵4について

次はー (1.5) あっ (1) うーんー、この絵ではー (1) あー、お母さんとーお、子供 (1) がいいます。(1.5) こどーもはー (1) テレビをーずっと見てまーす。あのーお母さんはー (0.5) うーんー (1) 気にし (0.5) てー (2) あー (0.5) こどーもにー (1) 「これはだめー！」だどいい、だ (0.5) っと言います (1) 言ってます。(1) うーkhm (2) テレビをー (2) あーmー (0.5) ずっと見るとー (1) 早くー (1) あー (1) m 目が病気になる (0.5) かもしれませぬー。(2.5)

### 絵5について

はーいー (1) あー {笑い} (1) 最後のー絵ではー (1) あーmー (2) これ (0.5) です。(0.5) あのー (1) うーんー (3) 電車のー (9.5) うーんー (2) ひとー、あー (0.5) 人は大勢います。(1) いー、この人はー、電車を待っています。(1) うーんー、ある人はー (0.5) い顔をしています。(1.5) うーん (1) とっても寒いから (1.5) です。(2.5) 他の人はー (2.5) 悲しそう (0.5) です。(2) うーんー (1) とっても寒いですから (2) あのー (1) あっ、声はー (1) あっ、アノンサ[アナウンス]はー、あー (1) 「電車がー (1) あー (1) ありません！」、だどいい、言ってます (2) からー (1) この人々はー (1) うーん

— (2.5) とっても— (2) 悲しそうです。(2.5) うーん— (2) しがってい {笑い} ます。  
[筆者：どうして、電車がなかなか来ないんですか]うーん— (2.5) あ— (0.5) うん、こ  
れはふゆ— (1) です。(1) それから— (0.5) うーん— (1.5) 雪が降ってます。(1) 雪  
がたくさんありますから— (1) 電車がなかなかありません。

## 資料 2.2.6 インフォーマント 2k1 の発話

### 「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : はい、XXX です。どうぞ宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは、今何年生ですか。
- 04C : あー、今 2 年生です。
- 05A : 2 年生ですね。いつ日本語を勉強し始めましたか。
- 06C : あーm (1.5) 去年日本語を勉強し始めました。
- 07A : どうして日本語を勉強し始めたんですか。
- 08C : あーm (1) 学校でーちょっと日本語を、勉強しましたー (1) えー (2.5) からー、えー日本語を (0.5) 勉強し始めました。
- 09A : うーんー、なるほど。日本語はどうですか。難しいですか。
- 10C : はい、とても難しいです。あ//ー
- 11A : どうしてですか。
- 12C : かんじー (1) とー (1) 文法、は、とても難しいです。
- 13A : うーんー、なるほど。日本へ行ったことがありますか。
- 14C : あー、いいえ、まだありません。
- 15A : もし、日本へ行くことができたなら、どこへ行きたいんですか。
- 16C : えあー (2.5) うーんー (1) 東 へ行きたい {笑い} (0.5) えー (1) です {笑い}。
- 17A : どうして東 なんですか。
- 18C : {笑い} うーんー (2) いちばーんー、えー日本のいちばーん大きな町からです {笑い}。
- 19A : うーんー、その他にどこへ行きたいんですか。
- 20C : あーm (2) 縄へ行きたいです。
- 21A : 縄ですか。
- 22C : はい、暑いからー、行きたいです。
- 23A : うーんー、日本人の友達はいますか。
- 24C : あーm (0.5) いいえ、まだいません。
- 25A : もし、友達がサンクトペテルブルクに来たら、サンクトペテルブルクのどこを案内しますか。
- 26C : (1) あーm (2) サンクトペテルブルグー (2) あーのー (1) 中心です {笑い}。

27A：具体的に？

28C：具体的にー、ちょっとわかりません (1.5)

29A：うーんー、ちょっと考えてください。どこへつれて行きますか。

30C：(2.5) えーmー (5) うーんー {笑い} (2.5) ちょっとわかりません {笑い}。

31A：うーんー、あの、もし、日本人の友達が

32C：はい

33A：ロシアに来たら

34C：はい

35A：その友達と一緒に、どこへ、行きますか。

36C：あーmー (4) えーmー (1) サンクトペテルブルグの中心に行きます {笑い}。

37A：例えば

38C：あー、例えば——、あーm (1.5) え (2) 例えば— ^{ネ フ ス キー プ ロ ス ベ ク ト}  
евски проспект  
[ネフスキー大通り]へ行きます {笑い}。

39A：どうして、ネフスキー・プロスペクト[ネフスキー大通り]へ行きますか。

40C：あーmー (3) あーmー (5) {笑い} (2.5) あーm、見物をしたいからー (0.5) あー、  
^{ネ フ ス キー プ ロ ス ベ ク ト}  
евски проспект [ネフスキー大通り]に行きます。たくさん、いろ  
いろな、うーんー (3) うーん {笑い} 古い建物があります、から (0.5) です。

41A：はい

### 絵1について

あーmー (5) あーmー、この女のこー[子]は (1) あー (1) 病気だと思います 笑い。(1.5)  
病気だ t、うん (0.5) だっと思います。うーんー (2) うちで寝ています。あー、 を (1)  
あー (1) 飲みましたー。(0.5) えー (2.5) 女の子、友達は、学校にー勉強しています。笑  
い 以上です。[筆者：彼女は学校へ行きますか]あー、いいえ、行きません、です。行きま  
せん。[筆者：どうしてですか]あーm (0.5) 病気だからです。

### 絵2について

{笑い} (2) あー (2) おこちゃん[赤ちゃん]はー (0.5) 寝ています。(0.5) あーmー (1)  
あー (1) そしてー、男のこー[子] (2) うーんーーはー (1.5) 静かに、になりたい {笑い}  
です。(4) [筆者：それはどうしてですか]うーんー (3) おかちゃん[赤ちゃん]はー (1)  
寝ていま、えーねてい (1.5) えー (1) 寝ていますからです。

### 絵3について

あーmー (3.5) 男のこー[子]は話しています。あー (3) あーmー (2) Dさんー、はー (0.5) ビールを (1) 飲んでいます。あー (1.5) あー、Dさんの友達はビールを (1) あー、飲みませーんー。あー (3) あー (3.5) じどうーしゃー[自動車]で、行きますからです。

### 絵4について

(3) うーんー (4) 男のこー[子]はー (1) あー、テレビを見えています。あー (2.5) あー、あー (4.5) あー (6) とても、あー、ちかーい[近い] (1) えー、座っています {笑い}。  
(1) えー (2) うーんー (0.5) たぶーんー、あー、この女の人はー (1) 男の、子のー、あーm、お母さんです。あー (1) お母さんーはー (1.5) あー (5.5) えー (1) あっ (9) {笑い} わかりませーん。(2) 難しい絵 {笑い} です。[筆者：お母さんは何を言ってますか]あーm (2) テレビからー (1.5) ん (1) 遠い {笑い} に、あー (3) 座ってとー言います {笑い}。[筆者：それはどうしてですか]あー (2) テレビはーあー (2.5) うーんー (0.5) 目に、悪いからです。

### 絵5について

うーんー (2.5) ひとびとーはー、うーんー (2) えきーでー、えー (0.5) あーmー (1.5) あー、電車を (1) あー、待っています。あー (0.5) です。あー (2) あー (1.5) 寒いそうです。(0.5) あーm、雪が降ります。あーm (4) でんしゃー[電車]はー、来ません {笑い}。[筆者：どうして、電車は、どうして、なかなか来ないんですか]あーm (3) たぶーんー、あー (1.5) ふゆー、あー、雪が、たくさん (1) あ (1) があるからです。

## 資料 2.2.7 インフォーマント 2k2 の発話

### 「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : あー、はじめまして。XXX です。宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは今何年生ですか。
- 04C : あー、今はー、あー2年生です。
- 05A : いつ日本語を勉強し始めましたか。
- 06C : あー (1) えー、2年、えー前、から (0.5) 勉強します。
- 07A : どうして日本語を勉強し始めたんですか。
- 08C : えー (1) たても[とても]面白いとおも、と思います。
- 09A : どうして面白いですか。
- 10C : あー (3) 難しいですから {笑い} からです。
- 11A : 何が難しいですか。
- 12C : あ、かんじー[漢字]んーと、文法が難しいです。
- 13A : 日本へ行ったことがありますか。
- 14C : はい、えーこの (0.5) えー、 休み、行きました。
- 15A : どのぐらい、日本にいたんですか。
- 16C : あーm (1) えーじ う sーえーじ う、さん、えー、日ぐらい
- 17A : うーんー
- 18C : えー、そこで住んでいました。
- 19A : 日本どこへ行ったんですか。
- 20C : あー (1) わたーし、えー私たちのホテルはー、あー大阪、えー、えー、にー、で  
す (0.5) にありました。あー、####、あー (1.5) 神 やー、あー (0.5) 良  
や (0.5) 都、うん、えーm、m も、えー (0.5) 見ました。
- 21A : uhmー、もう一回日本へ行くようになったら、どこへ行きたいんですか。
- 22C : あー (1.5) うん (1) えー (0.5) 例えばー、あーサッパラ[ ]えー、へ行きたい、  
えー、えーとー (1) あーとうきょうーあー、もちおろん行きたいです。
- 23A : どうして へ行きたいんですか。
- 24C : あー (1.5) あー (2.5) あー (2) えー、きれい、きりいな、あー (1) えー (0.5)  
えーし、しぜんーえー、あ、こっこ、そつ s、s、そこには、あそこにはーきれい

自然と思います。

25A：うーん。日本人の友達はいますか。

26C：あーm (1) あー、いいえ、あ、あ、いません。

27A：もし、日本人の友達がいたら、その友達に、サンクトペテルブルグのどこを案内しますか。

28C：あー (1.5) あー (0.5) たとえー、あー (1) えー ^{ネ フ ス キー} ^{ブ ロ ス ベ ク ト} ^{е в с к и} ^{п р о с п е к т}  
[ネフスキー大通り]見にいいいい、いー行きまーす、あー

29A：それはどうしてですか。

30C：あー (1) あー、これは (1) あー有名なー (1) えー道とーつと思います。

31A：うーんー、その他に、どこへ行きますか。

32C：あー (0.5) もー (0.5) あーえー (1) エルミタージュへ、えー行きまーすー。

33A：それはどうしてですか。

34C：あー (0.5) あ、それはー、あー (1) あー (1) えー有名なーあー美術館、と思いまーすー。

35A：うーんー

### 絵1について

えーm (2) えーこのー (0.5) えー絵にーえーは (0.5) えー (0.5) えー女の、あー子 (0.5) あー彼女はー (1) えー病気と思います。えー (1) あー (1) ええーえ (2) えー を (0.5) えー飲むからですー。えー (1.5) えー、あー、彼女は (0.5) えー (1) えー学校 (0.5) へ行くー (0.5) えーの夢、えー、夢がある (2.5)。[筆者：彼女は学校へ行きますか]えー (1.5) あー (0.5) いいえ、えー今はー、病気、えー、からです。

### 絵2について

えー (3) あーー (1) この絵に (0.5) あー (0.5) あー (1) 子供、が、あー寝まーすー。あーお (0.5) 男はー静かに (1) えー行きまーすーえー。えー (1.5) あー (0.5) えー (6.5) えー (4) [筆者：どうして男の人は静かに歩いてるんですか]あーm (2.5) こえー (2.5) あーこどーも、子供、あー (1) おっおっおきたいではありません (4)

### 絵3について

(4) えーmー (2) あー、この人はー (0.5) うんてんし (0.5) あー (0.5) えーええ、

それから (0.5) えーんん、んビールー (0.5) えー をーあー (0.5) えー飲みません。(1.5) あーあーあのー人はー (0.5) あー (1.5) えーんーび、えー (1.5) え、彼に、えー (0.5) ビールをー、あー (0.5) あー、あげます。[筆者：uhumー (1) で、彼は何を言いますか] あー、もういちどーお願い、します。[筆者：[絵を指しながら]Dさんは、この人に (1) ビールを (1) 飲みましょう、と言ってます]はい[筆者：じゃ、この人は、何を (1) 答えますか]あー (0.5) 彼は、えー、うー、自動車を (0.5) う運転し、しまーすーえー (0.5) それから (0.5) 飲みません。

#### 絵4について

(5.5) あー (0.5) うーこの人は (1) えー (1.5) えー (0.5) えーt テレビを見まーすー、あーけど、あー (0.5) でもー、あ、えー (1.5) えー近い、えー近く (0.5) にー、えー、えー座っています。あー、あのーひとー、あの人はー (0.5) あー (1) えー (1.5) えー、khm、とお、遠いに (0.5) えー (1) すず座ってくださいと言います。(2) [筆者：それはどうしてですか]あー (1) えー、tっテレビを見、えー、ちっちゃかーく (1) えーテレビをみることーはー、 ないです。(1) あー[ 帯電話が鳴る][筆者：もう一回、言ってください]あー (1) えー (1) ちかーくにテレビを見ることは、 ないです。

#### 絵5について

(3.5) あー (2) あー (0.5) おー、あー、大勢人が (1) あー (0.5) 立っています。(1) あー (1) えー (2) それ、から、あーあんしょ[アナウンス?]えーあります。あー (1) えー (1) ええー (0.5) 「てえー (1) で電車が、えーえーきつき、来ません」と言いまーすー。[筆者：どうして電車がなかなか来ないんですか]あーm(2) えー (1) たくさーんー (0.5) あー、ええー雪が、あー (0.5) あーあるからですと、うーから、うーだと思ひます。

## 資料 2.2.8 インフォーマント 2k3 の発話

### 「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : XXX です。どうぞ宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは、今何年生ですか。
- 04C : あー、私は、いまー、うーんー、はっさいです。
- 05A : 何、年、//生ですか。
- 06C : あーねんせーい、に、いいー、2年生です。
- 07A : いつ日本語を勉強し始めましたか。
- 08C : あー (2) うーんー、おととーいー始めました、日本語を勉強することが (1) 始めました。
- 09A : どうして日本語を勉強し始めたんですか。
- 10C : (2) うーんー {笑い} khmkhm (0.5) これは難しい質問です。 {笑い} あー (1) うーんー、んー日本へ行きたいです。
- 11A : うーんー、日本へ行ったことがありますか。
- 12C : いいえ、ありません。
- 13A : もし、行くことができたらどこへ行きたいんですか。
- 14C : あーmー (2) うーんーー (1) 東 へ行きたいです。
- 15A : どうして東 へ行きたいんですか。
- 16C : あー (1.5) うーー (1) これはー、うーー (9.5) うー (1) {笑い} わかりません。  
(3) これはー (0.5) きれい町です {笑い}。
- 17A : うーん、日本人の友達がいますか。
- 18C : いいえ、いません。
- 19A : もし、日本人の友達がいたら、その友達にサンクトペテルブルグのどこを案内しますか。
- 20C : (1.5) うーーんー (1) もう一度、お願いします。
- 21A : もし、日本人の友達がいたら、その友達と一緒に、サンクトペテルブルグのどこへ、一緒に行きますか。
- 22C : あーmー (1.5) うーんーー (4.5) んーー、いろいろなーうーんーー (3.5) {笑い} いろいろなところへ行きます {笑い}。

23A : 例えば？

24C : あー (0.5) 例えばー、うーんー (0.5) えーエルミタージュ美術館 (1) んー (2) とー、うーんー、いろいろなびじ つかーんーとー、うーんー (3) んー (3) うんー (1.5) {笑い} いろいろなところです。

25A : それはどうしてで、どうしてエルミタージュへ行きますか。

26C : あーmー (3) うーんー、これはーうーんー、きれいな美術館です {笑い}。

27A : 日本語はどうですか。難しいですか。

28C : はい、とても難しいです {笑い}

29A : どうして難しいと思っていますか。

30C : あーm (2.5) khmー (2) かーんじ[漢字]がー難しいです。あー (2) 漢字がー、うーんー (8.5) うーんー (1) 言葉はわかりません。(3) 文法がーあー難しいです。

31A : わかりました。

### 絵1について

あー (1.5) うーんーんーんー、これはー、うーんー女の (0.5) 子です。(1.5) あーm (2.5) あーー女の子はー、うーんー (0.5) 寝ています。(2.5) うーんー (4) うーんーーうんー (5.5) うーんー (3) {笑い} それは教室です。(1) うーんー (3) うーんー (4.4) この教室で、あー (1) よにん[4人]います。(1.5) うーんー (9) [筆者：女の方は元気ですか] (2.5) うーんー、いいえ (1.5) 病気です。[筆者：で、彼女はこれから学校へ行きますか] うーんー、いいえ行きません。[筆者：それはどうしてですか] (3) うーんーんー、病気ですから。

### 絵2について

えーm (1) あー (2) これはーうんー (0.5) うーん (2.5) 男の子です。(0.5) あーm (0.5) あー男の人はー (1) あーm (1) あーーあー (2) 男のこー、あー (1) が、うんー (1.5) おかない[起きない?]ために、あー、静かー (1) で、行きます。

### 絵3について

あ {笑い} あー (2) あーmー (2) の、あー、この人はー、あーえー、じてんしゃー[自転車] (0.5) が (1) あります。(0.5) あーm (1) そ、あー、この人は (1) うーんー (8) ビールがあります。(1) あーm (2.5) うーんー (1) あー、えーそのひとーはー、あーこ

のひとーにー、ビールがー、うーんー (1.5) あげます。(2) うーんー (3) このひとは、  
うーんー (1) うーんー (3.5) びつ、ビールをあー (3) あーmー (14) うーんー飲みま  
せん。うーん (1) あー (13) [筆者：どうして飲まないんですか]あー (0.5) うー (1)  
うーんー、車があるからです {笑い}。

#### 絵4について

(2) あー (2) khkhm (3) あーその子は、うーんー、テレビ、あー (1) を見まーす。(2)  
あーmー (3.5) えーうーんーんー (1) うーその子はテレビ、あー (4) うーんーから (0.5)  
近いです。(1) あーmー (0.5) うーんー (1.5) お母さんは (2) あー (3) あーこー[子?]  
にー、あーmー (3.5) うーんー (3.5) えーmー、テレビから、あー (6) по-дальше (5.5)  
うーんーわかりません。あー (15.5) あーmー (0.5) テレビを、あー近くー (1) にー (1.5)  
うーんー (2) 見ませんと言います、mー (0.5) みー (8.5) み (0.5) 見ない (1) と言  
います。[筆者：Uhum] (2) [筆者：以上ですか]はい。[筆者：お母さんはどうしてそれを言  
いますか] (1.5) あー、うん (1) kh-khm (2) えー (5.5) うーんーテレビを、近くに  
ー (0.5) 見る (2.5) うーんー (1) はー、あー ないです。

#### 絵5について

khkhm (1.5) うーんー (1.5) あーこれはー、あー (0.5) 駅です。(1) あー (4) あー  
ー (3) うーんー (1) 人が大勢います。(1) あー (2) うーんー (3) 気が、あーさ  
むーい[寒い]です。(1.5) あー (1) うーんー (1) じてーんしゃー[自転車] (1) うーんー  
うー (2) うん、自転車、うんー (1) 電車がありません。(4) как-то так (1) [筆者：  
どうして電車が来ないんですか]うーんー (7.5) さむい、寒いからです。いいえ、うー  
んー (2) うーんー (1) 雪がありまーす。(3)

## 資料 2.2.9 インフォーマント 2k4 の発話

### 「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : (1) うーんー、私は XXX です。どうぞ宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは、今、何年生ですか。
- 04C : あー私はー2 年生です。
- 05A : いつ日本語を勉強し始めましたか。
- 06C : (1) えー私は、去年 (0.5) えーに、えー日本語を (1) えー (1) 勉強、始めました。
- 07A : どうして、日本語を勉強し始めたんですか。
- 08C : あー (1) うーんー、私にー日本はー (1) えー (0.5) 私は (1.5) 日本うんーー (1) あーは好きです。(1.5) うーんー (1) 日本語はー、えーとても面白い (1.5) ええー (1) とても面白いです。
- 09A : それはどうしてですか。
- 10C : (1.5) あー (1) うーんー (4.5) わかりません {笑い} (2.5)。
- 11A : どうして日本語が面白いんですか。
- 12C : もーへは (0.5) えー日本語はー、あー、あっ、漢字は、えーあります、えーk か、ああるから、から (0.5) 日本語は面白いです。
- 13A : うーんー、日本へ行ったことがありますか。
- 14C : あー (1) 日本 (1)
- 15A : 日本へ、行ったことがありますか。
- 16C : あー、はーい、あります。(0.5) あー、えー、私はー (0.5) えー、休みに、日本に行きました。
- 17A : どこへ行きましたか。
- 18C : あー、大阪に {笑い} 行きました。
- 19A : 大阪はどうでしたか。
- 20C : あー (1) とてもーあー、大きいーえー (0.5) えー (1) とても大きい町です。えー (0.5) うん、うん、ですがー、えーー (1) うーんー (0.5) うるさいです。
- 21A : うんー、もし、もう一回、日本へ行くようになったら、どこへ行きたいんですか。
- 22C : えー (3) あー、すみません、{笑い} ちょっと
- 23A : もう一回

24C : あ、はい//、そー、あー

25A : もう一度、日本へ行ったら、どこへ行きたいんですか。

26C : えーほ北海道とー、えー、えー、mー、東 えーにー行きたいです。

27A : どうして北海道へ行きたいんですか。

28C : あー、北海道の自然はーあえーきれい (0.5) きれいです。

29A : うーんー、日本人の友達はいますか。

30C : あー (1) えー (0.5) ありません。

31A : もし、日本人の友達はいたら

32C : はい

33A : サクトペテルブルグのどこへー緒に行きますか。

34C : えーサクトペテルブルグに、えー (1.5) えーmー (0.5) え、エルミタージュ、  
えーとー (0.5) えー (1.5) えー (0.5) えーロシア (1.5) 美術館え、に、えー、と  
ー、あー (1) ペテルゴーフ、えー (1) ペテルゴーフと (1) えープスキン、えーに  
ーえー (0.5) 行くと思います。

35A : それはどうしてですか。

36C : えー (2) えー (1) この (0.5) あーそのと、とこ、あーところー、はー、えーと  
ても、えー (0.5) きれいです、えーm (1) 有名のです。

37A : うーんー

### 絵1について

うーんー (2.5) うーんー (1) おん、なん (1) 女の子 (1.5) えー、はー、えー病気で  
す。えー (1.5) えー (2.5) うーんー (0.5) えー (1) 勉強、えー授業、えーに、えーあ  
りません。えー (1) えー (1) んー授業、には、さん、えー (1) えー3人、えー、えーよ  
ん、4人あります。えー (3) えーえー (2) ベッドの、えー、隣に、えー がありま  
す。(1) うーんー (2.5) えー (1) 9時間です。(2) [筆者：うーんー、女の人はいか  
ら学校へ行きますか]あー (5) おん、女の人はい (1) 学校 (4) うーんー、行きませ  
ん。んーが、学校へーき、来ません。[筆者：どうしてですか]えー (1) 病気で、から。

### 絵2について

えー (1.5) 女の、子は、えーoi 男うーんーえーこ、子供はー、えー (1) うーんー  
寝ています。えー (2) あー (1) おっ、うーんー (1) あー男の人はー、えー静かに、え

ー (1) えー (0.5) kk、子供、えー、子供にーえー (0.5) 行きます。えー (3) あー (1) あー、男の一人はー (1) えー (3.5) あー (5.5) あー (0.5) あーこども、をー (0.5) えー起きる、えー (0.5) おき (3) あー (1) お k、起きらなーい、えーおきらない、えー (1.5) を、ほしいです、えー (2) えーmーですから。えー (2) うーんー (4) 子供がベッド、にー、えーねーています[寝ています]。(3) [筆者：以上ですか] うーんー (2) 以上？ (1) aha (2.5) うーんー (3.5) [筆者：終わりですか]あー (2) 終わり？えー、いいえ (1) [筆者：じゃ、もうちょっと話してください {笑い} ] {笑い} えーこども[子供]はー、えー寝ています。えー、男の人はー、子供にーえー行っています。えー、こ、子供はー、えーまどー[窓]、に隣 (0.5) んん、となーり[隣]にー、窓の隣にー、んー寝ています。

### 絵3について

うーんー (4) うーんーおと、男のーえー (2) あー (2) んーあー (3) 男の一人はーえー、あつ、ふた (1) 2人に話しています。えー (3) えー (0.5) あ、あの一人はービール (1) をーえー飲んでます。えー (0.5) 友達を (1.5) えービール (1) を (1) えー (2.5) えー (2.5) えー飲みたい、えー (1) かどうか、えーと、あーmー (2) えー (0.5) 問題をします、しています。あー、この、人はー、えー、車を (1) えーmー (4) えーうん、てん、し します (1) 運転します (1) えーからー、ビールを、えー (1) えーんー飲み、えー飲みたくないです。

### 絵4について

うーんー (2) あのーえー、あつ、この子供はー、えー (1) テレビを (0.5) えーみて、mーmーみ、mーmー見えています。えー (1) えー (0.5) あー、こ、あのー子供の、あー母はー (1) えー (2) うーんー (0.5) 近い、えー、に (0.5) えー (3) えー (2) 近いに、えー (1) テレビを (1) えー見る、えー、とー (0.5) えーあー、目に なーい、とー言っています。えー (1) とーえー (1) 遠いに (1) えー (2.5) えー遠いに、えー (4) んーしーすー、えーすわって (0.5) えー (2) えーす、遠いに、えーす、座るとー言っています。

### 絵5について

えー (2) えー (0.5) え、え、でんしゃー[電車]はー、えー (1) あつ、雪が、えー

(1) えーゆきー (0.5) はー、えー (1) えーー (2) たく (1) えーー雪は、降っています。  
えー、えー電車は (1) えーー (0.5) んー電車はー、駅にー (0.5) えーー (0.5) きて、  
えーき、きき、来ません。えーーkー、えー人はーたくさん (0.5) 駅にー、えー (1) えー  
(3) えーー (1.5) まー、えー電車を待っています。あーー (0.5) とてもー、えー (1) あ  
っ、えー (2) とてーもー、うーんー、寒い。

## 資料 2.2.10 インフォーマント 2k5 の発話

### 「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : 始めまして、XXX です。どうぞ宜しくお願いします。
- 03A : (2) すみません、お名前はもう一度お願いします。
- 04C : XXX
- 05A : XXX、XXX さんは今何年生ですか。
- 06C : あー18 歳です。
- 07A : 何、年、生ですか。
- 08C : あー2 年生
- 09A : いつ日本語を勉強し始めましたか。
- 10C : あーmー去年 (1) はじ、去年にー始めました。
- 11A : どうして日本語を勉強し始めたんですか。
- 12C : あーmー (0.5) 日本の文化とれきしー[歴史] (0.5) あー大好きーから (0.5) あー  
(1) 日本語を、あーべんきょうー[勉強] (1) しー始めました。
- 13A : うーんー、日本語はどうですか。難しいですか。
- 14C : あー、ちょっと難しいー、あー漢字とー、あー文法 (0.5) 難しいと思います。
- 15A : どうしてそう思っていますか。
- 16C : あーちょっと、このあー (1.5) あー (2) 読むこと、漢字の読むことー (1) あー  
ちよつとー、たくさん、たくさんがあります。あー、そしてー (0.5) あー、ぶん  
うー[文法] (1.5) うーんー (1) ロシアー (0.5) あー (1.5) んー全然違います。
- 17A : うーんー、なるほど。日本へ行ったことがありますか。
- 18C : あー、はい、ありました。
- 19A : いつ行きましたか。
- 20C : あー (0.5) そー (1) あー (1) あーことしー[今年] (1) いちがつー[1 月] (0.5)  
あーからー、あー (1) そして (0.5) あー、そうですね、あじ うー (1) あーにが  
つ、じ うー (1) よんにちです。
- 21A : うーんー、日本のどこへ行きましたか。
- 22C : あー、大阪に行きました。
- 23A : 大阪はどうでしたか。

- 24C : あーmー ちょっと ないと思います {笑い}。
- 25A : それはどうしてですか。
- 26C : あー—khm— (0.5) ない、あー町に—、あー、あー止まりました。あーヤクザと—、  
売 と— (0.5) khmkhm どろぼう—たくさん、khmkhm、いました。あーそして—、あ  
—私たちのホテルは、あーちょっと、あー (1) 一番やすい (0.5) あーホテル—、で  
した。
- 27A : あー//—なるほど。
- 28C : そして—ちょっと、ちょっと ない {笑い}
- 29A : {笑い} なるほど。じゃー、もし、もう一回、日本へ行くことになったら、どこへ行  
きたいんですか。
- 30C : あー、とうきょう—[東 ] (1) と思う。あー (0.5) あー、この— (0.5) 今回、あ  
—khmkhm (1) あー可能性が—ありませんでした。あ東 、東 へ行ったら、あーm  
(1) そして (0.5) あー (2) うーん—、行く— (0.5) こと、え—できたら、あー東  
へ (1) 行きたいです。
- 31A : どうして東 へ行きたいんですか。
- 32C : あー—m— (1.5) あー—たくさん、あー (1) 歴史の—、あー場 (1) と行って (0.5)  
あー見た—い。(1) で—、あー秋葉原ん—、で—あー、あー (1) この— (1) 通訳 (1)  
エレクトロ通訳[電子辞典?]を、あー、買いたい。あと— (0.5) あー (1) ほん (0.5)  
本当の、あー (1) を、食べたい、あー東 の (0.5) あーいちば[市場] (1) 市  
場で (0.5) たびたい[食べたい]です。
- 33A : うーん—、なるほど。日本人の友達がありますか。
- 34C : あーm—、うーん— (2.5) いいえない、あーいま—あり、い—ません。
- 35A : もし、日本人の友達ができたら、その友達にサンクトペテルブルグのどこを案内しま  
すか。
- 36C : あー (1) あー私の、khmkhm、町に案内 (0.5) あーしたいです。あー—あの— (0.5)  
あー、たくさん、あー (2) び—ところ (0.5) が、ありますから—。あーあと—で  
— (0.5) あー歴史の— (0.5) 中央に—あ— (1) うーん— (1.5) 観 、します。
- 37A : うー//ん
- 38C : あーし、したいと思います。
- 39A : たとえば

40C: あー—m— (1) うーん、例えば、あー (1) # # # # # #、えーネヴスキー—通り (0.5)

あー— (1) あー

41A: どうしてですか。

42C: あー {笑い} あ、たくさん、あー (1) あー古い—、あー建物があります。あーたく

さん、あー (1) えー (1.5) えー (4.5) khm— (0.5) きょうどう[教 ?]と—、あ

と、いちば—、あーГостинный Двор、あー (1) と—あーネヴスキー通りで、あー (1)

うーん—、かえること—、あー (1.5) えー— (1.5) 行くことが、あー、できます。

そしてネヴスキー通りは、一番 (0.5) あー (1) 面白い、あーところ—と—思います。

43A: うん、ありがとうございます。

### 絵1について

あー (1.5) このえーに—、あー (2) 女のこ— (1) あーを、あー (1.5) あーかきました

—[描きました]。あー (1) この (0.5) こ— (0.5) こども、あー病気に— (1) になりました。

あー、いま— (3) 夢を (1) あー— (1) m—見えています。あー (1) 子供の (0.5) あ

— (1) あっ、あーこのこども— (1.5) は (0.5) あー (1.5) あー (0.5) クラース— (0.5)

に— (1) あー—、いいません、あー、から、あーずっと— (1) 心配、あーします。えー、

そして、えー、いま— (1) あー (0.5) この (1) あー (1) 表現、あー (1) と (1) 夢を、

m—見えています。

### 絵2について

(3) この、あー (1.5) 子供が、あー (1.5) あー (0.5) 寝ているから— (1) あー (1)

たぶ—ん— (1) うん— (2) あー (3) たぶ—ん (0.5) あーお父さん (1) あーこの子供、

あー (2.5) 起きらないために、あー (0.5) 静かで、あー— (1) お父さんの部屋に、あー

部屋へ、えー、行っています。

### 絵3について

あー (1.5) あっ (0.5) あーこの絵は、あー (2) あーふ— (1) ふたり—ともだち— (1)

あー— (1) この—変な人 (1.5) D (0.5) とかつ (2) えー、書いた (1) あー—ビールを、

あー (0.5) あー—飲んでいますが、あー、と— (1.5) あーん—# # # #飲んでいますが。あ

— (1) あー (1) え、ともだ—ち—と— (0.5) あー (2.5) あー (5) あっ、友達と一

緒に—、あー、ビールを—、あー—飲みたいです。しかし—、この友達は—、あー、車を

(1) あー (0.5) うんてんーするから、えービールをー、あーんー、のめらない[飲めない]です。

#### 絵4について

あー (2) あ、この (0.5) あー、子供の、あー子供のー (1) お母さんは、あー (1) あー (1) えーテレビについてー (0.5) あー (3) 大声で、あー、話しています。あー (1) たぶーん (0.5) あー (1) うーんー (0.5) テレビーにー近いー (0.5) あー (0.5) と (1) すわ (1) ったら、あー (1) めーが、あー悪くー (1) なります。

#### 絵5について

あー今 (1) あー (2) あ、 で、あー、この、あー人々はー、えー、d、電車を (0.5) あー (1.5) あー (1) まっ (1) ています。あー、しかしー、あー (2) あーゆきー (1.5) えー (1) で、あー、電車が、あー (1) あー (2) 走れません。

## 資料 2.2.11 インフォーマント 2k6 の発話

### 「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : XXX です。どうぞ宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは、今何年生ですか。
- 04C : あー、今は2年生です。
- 05A : 2年生ですねー。いつ日本語を勉強し始めましたか。
- 06C : えー、えー、私はあーm (1.5) あー (1.5) あー、にせーんー (2.5) 2005 年に  
ー (0.5) えー日本語を (1.5) 勉強はじめました。
- 07A : どうして日本語を勉強し始めたんですか。
- 08C : えー日本の文化とー、にー、ごー[言語?]はー、あーとても面白いと (1) あー思  
いますからー、あー勉強はじめました。
- 09A : うーん、日本語はどうですか。難しいですか。
- 10C : はい、難しーい (0.5) です (1) が、あ、面白いです。
- 11A : どうして面白いとっていますか。
- 12C : うーんー (1.5) うーんー (4) あー欧 のごー[言語?] (0.5) とー (1) え、全然、  
にー (2.5) 似ていない、と思います。
- 13A : うーん、日本へ行ったことがありますか＝
- 14C : ＝いいえ、まだありません。
- 15A : もし、行くことができたなら、どこへ行きたいんですか。
- 16C : あー (1) もちろん、東 (1) とーや、おおさかー (1) やー (1) あー 良などの  
ー、まちー (1) えー、を見たいと思います。
- 17A : どうして東 ですか。
- 18C : あー (1) 東 はー、えー日本のーし とー[首都] (1) から (1.5) えー (0.5) 行き  
たい (0.5) です。
- 19A : うーん、日本人の友達がいますか。
- 20C : あー (1) まだいません。
- 21A : もし、日本人の友達ができたなら、その友達にサンクトペテルブルグのどこを案内しま  
すか。
- 22C : あー (2) えー (0.5) 友達 (0.5) 日本語、日本の友達？

23A : uh//um

24C : ですか。あーm (2) えー、にほーんのー友達があーできたらー (0.5) えー (0.5) サンクトペテルブルグのーいろいろな (0.5) ところ (1) この友達をー、えー (1) 見せたーい、と思います。

25A : 例えば

26C : 例えばー、エルミタージュとー (0.5) あー (1) 夏のこうえんー[公園]とー (1) うーまーいろいろなところを (0.5) 見せたい (0.5) で//す。

27A : どうしてエルミタージュへ行きたいんですか。

28C : エルミタージュはー、えー、あ世界のー、えー (4) エルミタージュはー、とてもー、大きーいびじ つかーんー[美術館]からー。(1) えーmー (1) えー有名な (0.5) 美術館です。

29A : うん、ありがとうございました。

### 絵1について

(5.5) あー (1) このー (1) 女の子はー (1) びょうきーですからー (0.5) あー (2) 授業のー (1.5) あー、授業、えーー (2) えー (2) 授業でー (0.5) えー (1) じ、授業にー (1) えー、いません。あー (0.5) 授業の夢 (1) が、あります。

### 絵2について

(2.5) えー、このひとーはー、えー部屋でー (1) えーー (1) 静かーにー、え、こどもーがー (0.5) 起きないために (0.5) えー静かにー (1) あー (2) 走ります、走っています。

### 絵3について

(5.5) えー (1.5) この人はー (0.5) うーんー、ビールー (0.5) を、あー、飲んだあとでー、えー (0.5) くるまーをー、運転するー (0.5) のー (1) はー、とてもー なーいーとー (0.5) 言います。[筆者：うーん]はい、いいえ (2.5) じゃー (4) あっ (1) わかりました。(1) この人、えー、右の人はー (1) えーー左のひとービールをー (1) あー (2.5) ビールをー、うーんー (2) 飲むーか、とーいー、言ってー (0.5) えー、左のひとーはー (0.5) え、くるまー、あー (1.5) をうんでーん、えーするからー、あ、ビールを飲むのはー (1) うん、ビールを飲むことが (1) できません。

#### 絵4について

(3.5) 男の子はー (0.5) テレビをー (1) m、み (0.5) えー (1) 見ているー (1) えー  
です、見ているーんー (1) 見ていますー (0.5) がー、あー、子供のー (1) あー、母はー、  
うーんー (1) テレビーをー (1) うーんー、近くーみ、見るー、とー、えー (0.5) 目に悪  
くーにーなるー (2) と言います。

#### 絵5について

(4.5) うんー (2) この駅にーえー (0.5) 人がー (0.5) 多いー、えー (2) が、あー (1)  
ありますー。えー (2) うーんーー (1.5) 電車にー (1.5) ま (1) 電車に待ちます (1) か、  
んー待ちまーすがー、えー (1) うーんー (3) 「電車がー (1) あー、きー来ないー (0.5)  
あー (1) 電車がー来ない」 (1.5) とー、アナウンスをー (1) します。(4) このはー、ア  
ナウンスーにーついて (0.5) のイメージ、ですが？ (2) はい？ (1) いいえ？ (2) あ  
のー (0.5) [筆者：電車が来ないというアナウンスですね]はいー[筆者：どうして電車が来  
ないんですか]あー (2) がー (2) たくさん降ってー (1) えーmー (1) いるー (0.5) そ  
う (2) から (1) 電車がー、あー (2) えーー (1.5) 来ない、と、言います。[筆者：うん]  
わかりません。

## 資料 2.2.12 インフォーマント 2k7 の発話

### 「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : はじめまして、XXX です。どうぞ、宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは、今何年生ですか。
- 04C : (1) 今、2年生です。
- 05A : 2年生ですね。いつ日本語を勉強し始めましたか。
- 06C : (1) あー (0.5) 1年せいーでしたー (0.5) えー1年生 (1) あー (2.5) んー (2.5) あー1年せい (1.5) のー時にー (1) あー日本語、を、勉強、始めました。
- 07A : うん、どうして日本語を勉強し始めたんですか。
- 08C : あー、日本のー (0.5) 文化がーす、とても好きーですから。
- 09A : うーん、日本へ、日本語はどうですか。
- 10C : (1.5) とても難しい (0.5) あー (1) です。
- 11A : どうしてですか。
- 12C : (1) あー (13)
- 13A : どうし//て
- 14C : あー//あー
- 15A : 難しいと思っていますか。
- 16C : はい (1) あー (1) だーいがーく、の、時、前に (1) あー (1) あー (1) おうーし、欧 の (1) あー (1) 語[言語] (0.5) あー、を、勉強しました。(1) えー欧 の語、はー (1) 日本語 (0.5) あー (1.5) んーと (0.5) とてもー (1) あ (14.5) あっ (4.5)
- 17A : じゃ、もう一回どうぞ。
- 18C : はい (1.5) あー (9) あー、日本語のー (1) あ、かんじー[漢字] (0.5) とー (1) あー (4) あーうんー (1.5) 日本語の漢字 (1) あー、とてもー難しい、いろー、あー (1) とても難しいです。
- 19A : うーん、日本へ行ったことがありますか。
- 20C : いいえ、ありませんでした。
- 21A : もし、日本へい、行ったら、どこへ行きたいんですか。
- 22C : あー東 (0.5) とー (1) 都 (0.5) へ、行きたいです。

23A : どうして東へ行きたいんですか。

24C : (2) あー (0.5) 東は、都ですから。

25A : うーん。日本人の友達がありますか。

26C : (2) いいえ (1) あーまだいません (1) た (1) います、いません。

27A : もし、日本人の友達ができたなら、友達に、サンクトペテルブルグの、どこを案内しますか。

28C : (3)

29A : サンクトペテルブルグのどこへ行きますか。

30C : (11) あ、あー (2.5) え、え、ー、いろーいろー (3) 場所 (1) があります。

31A : 例えば

32C : 例えばー (1.5) あー (1) あー、いろいろな美術館 (1) へ (4.5)

33A : どんな美術館へ行きますか。

34C : あー (1.5) エルミター (0.5) ジュ (0.5) んー美術館、へ行きます。

35A : どうしてエルミタージュへ行きますか。

36C : エルミタージュはー (1) あーサンクトペテルブルグの一番美術館です。

37A : うーん。ありがとうございました。

### 絵1について

(3) あーmー (1) この絵にー (0.5) あー、女のこども (1) あー (1) です。(1.5) あー、こどもはー (1.5) あー (1) 病気です (0.5) から (1) あー (2) 勉強しません。

### 絵2について

(4.5) あー (2) この絵にー、こどもー (0.5) あー (1) はー (1) あー起きます。(2) あーm (2) あーおっとこのひとー[男の人]はー (1) あー (0.5) こどもー (1) あー、がー (1) あー (0.5) おきーれー、らない (1) あー (1) ですからー (0.5) あー (0.5) とても (1) 静かにー (1) えー行きます。

### 絵3について

(5) えー (3.5) この絵にー (1) あーおとき、おとこひとーはー (1.5) あーあーあーえー (2) あー (2) じ (0.5) じてーんしゃ[自転車]にー (1) あー、話します。(2.5) あ (2) k、あ (3) おーとこのひとはー、あー (1) なにーをー食べまーす (0.5) えー (0.5) あっ、

食べます (1) あっ (1) た (0.5) たべー (1) とー (1) 食べます、食べます。(1.5) あー (1) あー (1) 男の人のー (1) 車にー (0.5) 話します。[筆者：うん、Dさんは何を言ってますか] (1) [筆者：このDさんは、何を、言ってますか] (6) わかりません (2.5)

#### 絵4について

(2) うーんーkhm (1.5) あこのー、絵にー (1) こどもー、あはー、テレビを見ます。あー (1) 子供の (1.5) 母 (1) あー (1) は (1.5) あー (0.5) あーm (2.5) あーmー (1) めー (0.5) にー (0.5) おぶない[ ない] (1) と言いまーす。(2) あー (8.5) あ、こども (1) あ mー (0.5) こどもが (1) あーテレビをー (1) あー (4) すこし (2) 見まーす (3) とー (2) うーんー (1) とー (1) おい (0.5) いします。

#### 絵5について

(4) あーm (0.5) あ、人々はー (1) あー、駅 (0.5) にー (1) あー、います。(2) あー (1) あーmー (5.5) がー (1) khmkhmー (0.5) あーいちばんひとーはー (1.5) あーでんしゃー (1.5) あー (1) が (1) 行きません、と、言います。(1.5) いっ、言っています。(2) [筆者：どうして電車が来ないんですか] (3) あーmー、あー (1) ふ (3) ふふ (2.5) ふゆ (1) あー (0.5) でー (0.5) あー (5.5) ですから (4)。

資料 2.2.13 インフォーマント 2k8 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : 私は XXX です。どうぞ宜しく。
- 03A : XXX さんは、今何年生ですか。
- 04C : 今、私は 2 年生です。
- 05A : いつ日本語を勉強し始めたんですか。
- 06C : あー私はー (0.5) あーmー (1) あーにせーんー、あーmー (1) ご、あー (3.5) 2005  
年に、始めました。
- 07A : どうして日本語を勉強し始めたんですか。
- 08C : あーこれはーとても面白いですから (2) え、え、日本語を、あー、勉強する始めま  
した。
- 09A : 日本語はどうですか。
- 10C : (2) あー、むずかし、ちょっとむ、難しいです。
- 11A : どうして難しいと思っていますか。
- 12C : あー漢字のー、書き方はー、あー難しいです。
- 13A : うーん、日本へ行ったことがありますか。
- 14C : いいえ、ありません。
- 15A : もし、日本へ行くことができたなら、どこへ行きたいんですか。
- 16C : あーm (1) わたーしはー へ行きたいと思います。
- 17A : ですか。
- 18C : は//ーい
- 19A : どうして へ行きたいんですか。
- 20C : あーm (0.5) わかりません {笑い}。あー、きれいな町ですから。
- 21A : うーん、日本人の友達がいますか。
- 22C : はーい、私は日本人の友達が (0.5) います。
- 23A : その友達はサンクトペテルブルグに来たことがありますか。
- 24C : いいえ、あー (1.5) ありません。
- 25A : もし、その友達は、サンクトペテルブルグに来たら、サンクトペテルブルグのどこを  
案内しますか。

26C : (1.5) あーmー (3) 私はまだ、わかりません {笑い}。

27A : ちょっと考えてください。

28C : あー私のうち (2) {笑い}

29A : どうしてまず自分のうちへ、連れて行きますか。

30C : (1.5) あー (6) {笑い} あー、わかりません {笑い}。

### 絵 1 について

(2) hmー (3) あーこの絵にー (0.5) あーmー (1.5) あー女子、あー、がいまーす。あー彼女はー (0.5) あー (1) うーんー (2) ねま、ん、あー、寝ていまーす。あー (1) あーmー、彼女はー病気、あー (1) あー病気と思います。(1) あー夢が (1) あー (0.5) あーmー (3.5) えー (2) 夢がー、あ {笑い} (2) 夢がいまーす。(1) あーmー (5) あーテーブルにー がーありまーす。あー私は (0.5) 私はー (0.5) あーmー、あっ、彼女は (0.5) あー (0.5) を飲んだから (0.5) 笑い あー、いろいろなー (0.5) あー (3) あーmー (5) {笑い} いろいろなー (0.5) 夢が (1.5) あーm (1) {笑い} (2) わかりません 笑い。

### 絵 2 について

(2.5) あー (0.5) あー、この絵にー、あー (1) あー (1.5) 児童がー、あー (1.5) 寝ていまーすー。あー (1) おとーなーはー、あー、起きない (0.5) あー (1.5) ために、静かにー (0.5) 行っています。

### 絵 3 について

(5) あー、この絵にー (0.5) あーmー (2) あーふたり人はー話しています。(1) あーmー (4) あーmー (4.5) mービールについて話していまーす。あー、ビールの飲んだ (1) あー、人 (2) あー (1) ビールの飲まない人はー、ビールの飲んだ人にー、あー (1) あーmー (0.5) っ払い人はー (1) {笑い} あー (3) あー (1) 自動車 (0.5) をー (2) あーmー (3.5) 自動車でー ないです。(1.5) mー (4.5) あーm (1.5) それからー (0.5) ビールー (0.5) あー (9) ビールののみ、あー飲むことはー (0.5) あー (0.5) だーめです。

### 絵 4 について

(1.5) あー、この絵にー、あーmー (1.5) あーおどこのこー[男の子]はー、あー、テレビを見ています。(1) あーm、とてもー (1) あーちかーくに見ています、あー、からー、あー (1.5) あーmー (2) 女の子はー、あっ、あーm (1) すみません (1) あーm (6) 母 {笑

い} 母は、あーm (1) おどこ[男]のー、あーこーにー、あーmー (1.5) あーこれはー (0.5)  
あーーmー (2) ーにー、あー、悪いとー (0.5) あー、言っています。

### 絵5について

(1) あー、この絵にー、ああー、駅でた、あー人が大勢いまーす。(1.5) あーm (3) あー  
mー、電車はーいないからー (0.5) あーmー (0.5) 人がー (0.5) あー待っていまーす。あ  
ー、しかしーあー 気が悪いですからー (0.5) あーmー (1.5) とてもー (0.5) あー、寒  
いです。(1.5) えーmー (4) [筆者：以上ですか] (3) [筆者：終わりですか]はーい、終わ  
りました。

資料 2.2.14 インフォーマント 2k9 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : XXX です。どうぞ宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは、今何年生ですか。
- 04C : 2 年生です。
- 05A : 2 年生ですねー。いつ日本語を勉強し始めましたか。
- 06C : あーm、去年 (0.5) 日本語を (0.5) 勉強はじめました。
- 07A : どうして日本語を勉強し始めたんですか。
- 08C : (1) 日本はーおもしろーい国ですからー {笑い} 日本語をー (0.5) 勉強はじめました。
- 09A : 日本語はどうですか。
- 10C : とても難しいです。
- 11A : どうして難しいとっていますか。
- 12C : うーんー、かーんじ[漢字]はー難しーい、そしてー、あー (1) ぶん うー、が難しーい (1) ですから (1) 日本語はー (0.5) 難しいで//す。
- 13A : うーんー、日本へ行ったことがありますか。
- 14C : いいえ、日本へ行ったことはありません。
- 15A : もし、日本へ行くことができたなら、どこへ行きたいんですか。
- 16C : うーんー、まず東 、あー行きたーいです。
- 17A : どうしてまず東 ですか。
- 18C : {笑い} うーんー (0.5) 東 はー、あー (4.5) うーーんー (1) 面白い町ですからー (0.5) そこへ行きたいです。
- 19A : うーん、東 の他にどこへ行きたいんですか。
- 20C : うーんー (1) 大阪とー 良とー {笑い} みんな日本のーおもしろーい町へ (0.5) 行きたいです。
- 21A : うんー。日本人の友達がいますか。
- 22C : あー、ざんねんー、いません。
- 23A : もし、日本人の友達ができたなら、その友達にサンクトペテルブルグのどこを案内しますか。

24C: あーmー (1) まずーネヴスキープロスペクトー[ネフスキー大通り]=

25A: =どうしてまずネフスキー・プロスペクトを案内しますか。

26C: あー、大きーいー、あーmーー (3) {笑い} プロスペクトですからー (1.5) あー (3)  
うーんー (2.5) 案内 (1) したいです。

27A: うーん、その他に？

28C: そのほーかにー (1) ペテルホーフへを案内、あー (0.5) する (1) あー案内します。

(1) ペテルホーフー、はー (0.5) あーm (0.5) とてもきれーい (1) ところす  
から、そこへ (0.5) あー (1.5) 案内します。

29A: うん、ありがとうございました。

### 絵1について

あー (2) こ、あー (1) こちらはー (1.5) あーmー (3) ー子供でーす。あー (3) あた  
ーまがーいたーい (1) ですからー、あー (1) 学校へ (0.5) 行きませーん。あーーmー (3)  
授業 (0.5) を、あー (0.5) 授業 (3.5) を、思います。(1.5) 授業のついて思います。

### 絵2について

うーんー (3) こちらはー子供 (1) あー子供です。子供はー、あーにています[寝ています]  
から (1.5) あーこのひとーはー (1) あーmー (2) あー (1) 静かん、静かにー (1) あー  
ー (1.5) い、行きまーす。

### 絵3について

あー (1.5) こちらはー (0.5) 友達です。あー (1) 一人はービールを飲んでいます。しか  
しー、あー、このひとーは (1) あーmー (1.5) 自動車がーいますからー (0.5) ビールを  
飲んでいません。

### 絵4について

あーーmー (1.5) こちらはー子供 (0.5) あーです。子供がテレビを見ています。しかしー  
(0.5) あーー (0.5) 母はー (1) あー子供にー (1) あーmー (4) あー (1.5) 目にー悪く  
ーなりまーすー (0.5) とー話します。(2.5) うーん

### 絵5について

(2.5) これはー (2.5) うーんーー (3.5) {笑い} (3) あー (3) 人が (1) あーーお (1)

おおぜーいー、いますー。電車がー行きませんー。(4.5) うーんー (1) 大勢 (3.5) [筆者：  
どうして電車が来ないんですか] (1.5) うーんー (4) あき (1) ですから 笑い 電車が  
行きません。[筆者：うん]

資料 2.2.15 インフォーマント 2k10 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : (1) ああ、よよ (0.5) XXX です。どうぞ宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは、今何年生ですか。
- 04C : あー、私はー2年生です。
- 05A : 2年生ですね。いつ日本語を勉強し始めましたか。
- 06C : (1) 去年、にー (0.5) べ (0.5) 日本の勉強しーなー、し、勉強 (2.5) べ、べん、  
勉強 (1) 日本語を (1) 勉強 (1) なーえーり {笑い} 勉強しな、勉強になりました。
- 07A : うんー、どうして日本語を勉強し始めたんですか。
- 08C : (1) あーmー (2) 日本、語の文化 (0.5) が、大好きです
- 09A : うーんー
- 10C : (1) kk けどー (1) あー、うんー (0.5) 日本語を勉強しな、うんー、勉強 (1) する  
(1.5)
- 11A : うーんー、日本語はどうですか。
- 12C : (2) 日本語は、うーんー、難しいーで、ですんーがー、{笑い} 面白いです。
- 13A : どうして面白いとっていますか。
- 14C : (1) あー (4) ほかーのー (4.5) 私はーほかーのー {笑い} 語に#### (1.5) 面白  
い (2) たくさん漢字がー {笑い} ほかの (1.5) ぶん (1) うんー文化、ぶんこ (0.5)  
грамматика (0.5) ほかーのー (2) なにかー (0.5) えー、面白いです {笑い}。
- 15A : 日本へ行ったことがありますか。
- 16C : いいえ、いいえ (2) ありません、えり、ありません。
- 17A : もし、日本へ行くことができたなら、どこへ行きたいんですか。
- 18C : (0.5) 日本語で、日本?日本へ、日本、うんー、 都、えー 都と、## (1) に、  
も、もういちどーお願いします、あー。
- 19A : 日本へ行くことができたなら、どこへ行きたいんですか。
- 20C : あ、東 とー、あー、うーんー、 都 (1.5) と、んー 良 (1.5) へ、行きたいです。
- 21A : どうして東 へ行きたいんですか。
- 22C : 東 はーあー (3.5) きょう、ふ (2.5) 一番大きーい (1) えー (2) забыла как сказать  
えー東 、えーはー (1) 日本 (1) にー一番 {笑い} 一番、んー (2) mーま (2)

大切な町です。##### {笑い}

23A: 日本人の友達がありますか。

24C: いいえ、あー、あ、hーはい (0.5) あります。

25A: その友達はサンクトペテルブルグに来たことがありますか。

26C: (1) はーい (0.5) んー私の友達はー、サンクトペテルブルグでー (0.5) ロシア語 (1.5) を、勉強しています。

27A: その友達と一緒によく んでいますか。

28C: (2) あっ (0.5) いま (0.5) 私のためだちはー、日本へ帰り (0.5) 帰りました。

29A: うーんー、その友達は、サンクトペテルブルグにいた時に、どこへ行きましたか。

30C: (1) サンクトペテルブルグにー、どこへ、いま (2) も、もういちどーお願いします。

31A: その友達は、サンクトペテルブルグで、留学していた時に、その友達と一緒に

32C: う//ーんー

33A: どこへ行きましたか。

34C: (2.5) カンセーター[コンサート] (0.5) へー (2) さ、行きました。

35A: どうしてですか。

36C: (2) あーごー、音楽ー (1) がー大好きですー、だい、大好きー (1) ですが、うんー (4.5) カンセーター、あーカンセーターへ行きました。

### 絵1について

(4) あー (2) じょこー (1.5) はーあーね、な、病気です。(2) 学校をやす、あーですか  
らー、あ、学校をー (1.5) や、あー (3) 休みます。(1) あー (1.5) いまーき うじ (0.5)  
です (1) くじです。(3)

### 絵2について

(5) これはーおかちゃん[赤ちゃん]

これ以上録音が残っていない。

資料 2.2.16 インフォーマント 3g1 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : 私は XXX と申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは、今、何年生ですか。
- 04C : 今私は 3 年生です。
- 05A : 3 年生ですか。いつ日本語を勉強し始めたんですか。
- 06C : あー (0.5) khm (1) 二、えー四年から、日本語を、勉強し始めました。
- 07A : あ、そうですか。どうして、日本語を勉強し始めましたか。
- 08C : あー (1) khm (1) 20 (1) 21 年 (0.5) 前 (0.5) 私はカムチャッカに生まれたから、  
あの一、私の両親がたくさん時間を日本、に、す、日本で、え過ごしたから、私も、  
日本に好きになりました。
- 09A : うーん、なるほど。日本語はどうですか。難しいですか。
- 10C : 難しいと思いますが、あー (0.5) とても好きです。
- 11A : う//ん
- 12C : あの一、すごい好きです。
- 13A : どうしてですか。
- 14C : {笑} (1) あーm (2) 私は、たくさん、あー、日本、人の友達がありますからー (1.5)  
あの一 (1.5) あー (1) その (4) ちょっと難しいです。
- 15A : うーん、分かりました。日本へ行ったことがありますか。
- 16C : あ、まだ (1) えー、日本に (1.5) 行ったことはありませんが、あの一、四月に (1)  
私は (1.5) えー、三人と一緒に、大阪の、大学に、大阪に、あー、留学しようとし  
ます。
- 17A : うーん、えーと一、大阪のどの大学ですか。
- 18C : あー、英語で University City えー (1) Osaka City University
- 19A : うー//ん
- 20C : あの一、日本語、で、まだ分からない。
- 21A : 日本へ行ったら、どこへ行きたいですか。
- 22C : うーん (2) あー、東、や、都 (0.5) や、それから (0.5) 良も、あー (2) 訪  
れ、たいと思います。

23A : どうして東 へ行きたいですか。

24C : あー (2.5) あー、私の友達が、東 に、住んで、いるからです。

25A : うーん、そうですか。ロシア人の友達ですか。

26C : いいえ、日本人です。

27A : うー//ん

28C : XXX という、友達です。

29A : あ、そうですか。その友達はサンクトペテルブルクに来たことがあります//すか。

30C : はい、来たことがあります。あの一、二年前 (1) えー (1) 彼はイギリスで (1) あ  
のー、留学、して、いた (1) から、あの一ロシアにも、あー (1) 行きました。(1)  
えー、ピテル (1) モスクワに？ピテル、ピテルに行きました。ピテルに友達に (1)  
なりました。

31A : うーん、そうですか。えーと一、その時、どこへ行きましたか。

32C : (1)

33A : サンクトペテルブルクのどこへ行きましたか。

34C : 友達と？

35A : はい

36C : 一緒に

37A : (1)

38C : うーん (1) khm (2) 美術館 (0.5) や、それから (1) の動物館、に (1) あー、それ  
から 場にも (0.5) 一緒に、行ったことが (0.5) 行った、ことがあります。

39A : 動物館へ行きました、動物園へ行きましたか。

40C : すみません。

41A : 動物園へ行きましたか。

42C : 動物園

43A : どうして、動物園へ行きましたか。

44C : あの一、私は、とても、動物が (0.5) 好き、ですから、(1) あの一、それから、彼、  
あー (1) も (1) あの一 (1) 面白いと、言ったから、(1.5) あー、行きました。

45A : はーい、分かりました。

### 絵1について

あのー (2) 男の、子が (2) ベッドに (2) あー (4) 眠って (1) いて (1) 風邪を (1.5) ひいたと思います。(0.5) あのー (3) 女の子の、そばに、の (0.5) が (1.5) あります。

(3) あーm (4.5) 彼女 (2.5) う、えー、が、あのー (2.5) 学校の教室 (0.5) で (1) えー (0.5) じ うぎょう[授業] (5.5) 授業 (1) を (0.5) 覚えると思います。(2) あ、あー (1) все? どうぞ (3) あのー (11.5) 時に授業が (1) あー (1) 始まった後 (0.5) あのー皆が教室に (0.5) いますから、あー (0.5) その (1) この、あー、女の子が、いません。

### 絵2について

(4) あがー (9) 赤ちゃんが (1.5) あー、寝る (0.5) うち (1) あのー (1) 父は (2.5) あー (3.5) ちょっと (1) あーm (2) 忙しく、なってー (0.5) あのー (0.5) 散歩をしようと思いました。

### 絵3について

あが、khm (10) あのー、車 (2) で (0.5) 乗ったら (1) あのー、お を (8) 飲むこと、うんうん、飲む (1) あのー車で乗ったら (1.5) あっあ、ビールを (4) 飲むため (0.5) です。

### 絵4について

(10) うんふ (5) 母は (1) あのー (2) 彼女の息子が (1) あー、テレビ (2) を近く (1.5) に (1.5) 見ますから (1) しています[っています]。(2) [筆者:はい] (3) しる? しています。(3.5) 彼がー (4.5) おとく[遠く]にー、テレビを見なければなりません。

### 絵5について

(4) うん (10.5) 駅にー (1) 人が (0.5) 大勢です。皆 (1) がー (3) 車 (1.5) を (0.5) 待って (1) いてー (1) あー (1.5) とても (0.5) 寒いです。あのー (3.5) ゆきー[雪]、が (0.5) たくさん (0.5) 降って、いたからー (2.5) あのー (1) khm、はたらかー (1.5) 働きません[動きません]。以上です。

## 資料 2.2.17 インフォーマント 3g2 の発話

### 「半構造化」インタビュー

01A: はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。

02C: はじめまして、私の名前はXXXです。サンクトペテルブルク国立大学の3年生です。

どうぞ宜しくお願いします。

03A: うーん、3年生ですねー。いつ日本語を勉強しはじめましたか。

04C: あー (1) 二、四年、からー日本語を (1) 勉強しています。

05A: うーん、どうして日本語を勉強し始めたんですか。

06C: あー (1.5) 私が、えー (1) 12歳 (1) あー (2) あー、私がじう、えー、12歳の時 (1) あー、父は を打ち始めました。その時、えー (1) は、あーとても、美しい (1) ボード (0.5) ボード・ーム (1) とー (0.5) あー、かんじ、あー (1) 思いました。そして、あー、道、に、あー興味、ぶかくなりました。ですから、日本語は、とてもーきれいな、あー (2.5) あーがいろ、こくご[外国語] (0.5) と思って、あー日本語を、勉強したい (1) とー (0.5) 思いはじめました。(1.5) ですから、あー (1.5) 東洋学部に (0.5) あー、合格しました。

[一回録音を止めた]

07A: えーと、うーん、(2) 日本へ行ったことがありますか。

08C: はい、あー去年 (1) あー一週間 (1) あー、日本に行ったことがあります。

09A: その時、どこへ行きましたか。

10C: 東 (0.5) と、 都に行きました。

11A: 都はどうでしたか。

12C: 都は (0.5) あー (1) あー、素晴らしかったです。えー、 都は (0.5) あー、一番好きになりました。

13A: あー、なるほど。それはどうしてですか。

14C: あー (1.5) きよみず、あー (0.5) であら、清水寺 (2) あー (0.5) で、きよみ (0.5) えー清い水を飲んで、(1) 美しく (1) あー (0.5) そ、あー、そして (0.5) あー、もみじ、を (2) めて、(1) あー、 都 (2) に、えー (1) に (1) えー (0.5) おち (0.5) えー落ちました。

15A: うーん。もう一回日本へ行くようになったら、どこへ行きたいですか。

16C: (1) もう一度、 都 (0.5) へ (0.5) えー行きたいとおもます[思います]、と思いま

す。そして、良 (0.5) 良に、えー (1.5) えー (1.5) えー (1) ととても行きたい  
と思います。

17A : どうして 良へ行きたいですか。

18C : あーm (2) いっせー[エッセー] (0.5) に、あー (0.5) 書かれた (0.5) あー、ほう  
っこく[報告]を読んで、あー (0.5) 良における大仏を、あー (2) 見るように、あ  
ー、見たい、ように、なりましたから。

19A : 日本人の友達はいますか。

20C : はい、います。

21A : えーと、その友達は、サンクトペテルブルクに来たことがありますか。

22C : (1) はい、あー (0.5) 二人、あー、一人の友達は、今サンクトペテルブルグにい  
ます。あー (0.5) そして、あー、二人[番目]の友達は、まだあー日本に (1) いて、  
あー四月にサンクトペテルブルグに来ます。

23A : うーん。その友達と一緒にサンクトペテルブルクのどこへ行きますか。

24C : うーん (2) ペトル、Петроградская сторона (0.5) に (0.5) 行くと思います。な  
ぜなら、あー、その友達は、ピテルFMという映画を (0.5) mー見て (1) あー (0.5)  
うん (1) あ、そのところ (1) を (1) そのところを (0.5) あー (1) み、見たい、  
と思っているように、なら、あーなったと思います。

25A : はい、ありがとうございます。

### 絵1について

うん、この絵は、あー (1) 女の子は (1) 病気になって (1) あー (1) 家に (1.5) あー (1)  
残ったのです。あーしかし (1) うん (0.5) あー (3) あー、しかし、授業のー (2) あー  
(1) うめ[夢]を (1) えー、見て (1) あー (0.5) ととても、あー (1) あー、悲しい、悲し  
そうです。

### 絵2について

(4) あー (2) あー、赤ちゃんは (2) あー (2) 赤ちゃんは (1) うーん (0.5) 寝ていま  
すが、(1.5) あー (1) 父は (1) うーん (1.5) あー、え、外へ (2) 行きそうです。(1.5)  
あー、えー、しかし (0.5) あー、えー、外へ、外へ行ったとたん、あー (1.5) あー (1)  
あー (3) なく、あー (3.5) 泣く (5.5) 泣き、あー、泣き出すでしょうと思って、えー、  
ちょっと、あーm (1.5) もじもじしています。

### 絵3について

(2) うん (1.5) あーjeeさんは (2) 友達に (1) 「ビールを飲みますっ、mービールを飲みませんか」と言って (0.5) あー (2) あー (1) と言いますが、えー (1) 彼の友達は (1.5) あー (0.5) あー (2) 「運転なら、ビールを (1.5) 飲んではいけない」、と (1) 答えます。

### 絵4について

(7) あー、あー (1) 女の子は、あー、彼女の (1) あー (1) に、あー (2) 「君が (1) とても、あー、君が、あーえー (2) テレビに近すぎる (2) ほどに、えー、座ってる」と (0.5) 言えます。[筆者：もうちょっと話してください] {笑} おん、男の子は (0.5) あー (1) んー (1) テレビを見ます。あー、しかし (1) あー (0.5) あー、彼とテレビの (1) 間 (1) あー (1.5) は、あー、とても、あー、近いです。(1.5) あー、彼の は (2) あねー、あねーさん[お さん]は (1) お さんは (1) あー (1.5) 怒ります。[筆者：はーい] 怒っています。

### 絵5について

(2.5) あー (2.5) 駅で (0.5) えー (2) 人々が大勢います。あー、しかし (2) うーん、うんで、電車が、あー (1) まだ来ていません。あーな、あー (0.5) な、あー、「どうして」、皆が、思っています。あー (1.5) たぶん (0.5) あー (2.5) 大雪のせいで、(1.5) あー (2) あー (2) 来ることができません。

資料 2.2.18 インフォーマント 3g3 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : あー、私の名前は、あーXXX です。宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは、今何年生ですか。
- 04C : あー、いまー、あー3年生です。
- 05A : 3年生です//ねー。
- 06C : はい
- 07A : いつ日本語を勉強しはじめましたか。
- 08C : あー、あー二、あー四年に、日本語を、勉強はじめました。
- 09A : あ、そうですか。
- 10C : はい
- 11A : どうして日本語を勉強し始めたんですか。
- 12C : 日本語を、勉強ーをーしたかったです。
- 13A : うーん、そうです//か。
- 14C : そう
- 15A : どうして日本語を勉強したかったんですか。
- 16C : {笑い} 分かりません。ど//んな
- 17A : 日本語の、日本の文化が好きですか。
- 18C : あー、うーん (0.5) はい、そうです。{笑}
- 19A : なるほど。日本語はどうですか。難しいですか。
- 20C : あーちょっと難しい、あーしかし、あーとても面白いです。
- 21A : どうして面白いですか。
- 22C : (1.5) {笑} あー、いろいろなーあー (2) うーん、日本語ーに、あーいろいろな、あー (1) こと、あー (1) が (2.5) あー (0.5) 多いです。{笑} #####
- 23A : 日本へ行ったことがありますか。
- 24C : あー、もう一度お願いします。
- 25A : 日本へ、行ったことが、ありますか。
- 26C : あー (0.5) 行ったことがありません。
- 27A : もし行くようになりましたら、どこへ行きたいですか。

- 28C : あー (0.5) 東 へ行きたいです。
- 29A : どうして東 ですか。
- 30C : あー (1) 東 はー、あー (1.5) とても、あー、あー (0.5) 大きい、えー (1.5) えー、町 (0.5) ですからー、あー (1) 行きたいです。そしてー、あーとても、あー (0.5) 有名な (1) うん (0.5) ゆうめいな {笑い} 町です。
- 31A : 東 の他に、どこへ行きたいですか。
- 32C : あーm (1) 大阪、へー (1) 大阪やー、あー (1) うーん、ほっかい、あー、すみません、ヨコガマ[横 ]えーやー、あー 都へ、行きたいです。
- 33A : 日本人の友達がいますか。
- 34C : (1) いいえ、いません。
- 35A : もし、日本人の友達がいましたら、サンクトペテルブルクのどこを案内しますか。
- 36C : あーm (1.5) たとえばー (2.5) khm khm khm、たとえば、ネフスキー、あー (1.5) あー、ネフスキー {笑} проспект、えー、で、えー会います。
- 37A : うん、どうしてですか。
- 38C : (1.5) あーm (3) とても、あー、サンクトペテルブルグのあー有名な (1.5)、うーん、もっとあー有名な、あープロスペクトです。
- 39A : うーん、そのほ//かに
- 40C : まー
- 41A : どこへつれて行きますか。
- 42C : (2) あー (0.5) サンクトペテルブルグ?
- 43A : そう//ですね。
- 44C : あーはい、あーm (2.5) 例えー、あー、エルミタージュ、へー (1) 行きます。
- 45A : どうしてエルミタージュですか。
- 46C : {笑} エルミタージュはー、あー (1) 有名なー美術館、です、から (1) あー、日本人、えーに、あー (2) あー日本人、えー、が (1) うーん、この美術館を、大好きです。
- 47A : はい。ありがとうございます。

### 絵1について

khm khm (4) あーkhkh あー (2) так, так (1) khkhm (2) あー (1) 女、あーはーちょっと

(1) あ、病気、あーなりましたから、(1.5) うーん (1) あー学校へ、あー行きませんでした。(1) あー学校にー、あー (2) あー先生、あー、はー (1) このことについて、あー (2) おぼえ、あー、ました、あとで、(2) うーん、так (1) うん、このことをー (1) うーん (3) 見ました можно。うーん (1) так (4) うーん (3) {笑} так、так、так、так、так、khmkhm (3.5) うーん、以上です。

### 絵2について

あーm (1.5) так えーm、うち、えー、で、あー子供は、あーm (1) あーねましつ、あー寝ますから、(2.5) あー (1) 父、は、あー、khmkhm (2.5) 父は、あー (2) うーん (1) так (4) 父はー、あーm (7) わかりません {笑い} 父は、あー静かに、khm (1.5) ドアをあー (1) うーm (0.5) 開けたいです。

### 絵3について

はい、khm (2.5) あーта-к あーkhmkhm (1) おー、男の人あーー、は、あー (1) えーm (2) ビール (1) あーを (1) так、運転する、うー、から、ビールを (0.5) あー、のま、あー、так、ビールをあー (1) 飲ません[飲みません]。

### 絵4について

та-к、うーん、うんうんうん (3) あー (1.5) うーん (2.5) так (1) khkhkh (1.5) 例  
えーあーmー (2.5) khm、例えば、あー、おんなひとはー、あー男の人、あー、と一緒に  
あー (2.5) うーm、映画を見たいです (1) 例えば。しかしーうーん (4) khm (2) いろい  
ろなワリアントがあります {笑い} [筆者：どうぞ]はーい、khmkhmkh-m[筆者：遠慮なく]  
はい、はい (1.5) うんうんうん (0.5) うーん (0.5) так、例えば、女の人ーはー男の人、  
あー (2) うーん (0.5) が、あー映画をーあー (2) うーん (0.5) так (1) うーん (2)  
так так так так так (0.5) 映画をーあー (8) みなんでほしい[見ないでほしい]です、例  
えー (2.5) {笑い} 以上、はい、あー (1) 女の人、あー男の人ーあーが、あーm (1) あ  
ー、テレビ、あーー (1.5) のあー (2) よる (0.5) あー、てっテレビのあー (2.5) あ、  
前に、あー (1.5) так 近く (0.5) нет、так так близко близко (0.5) あー近くえーテ  
レビに、えーm (3) うーん (1) так (0.5) テレビえーにーえー (3) すあー (1) 座り  
ない так すわる、すわる (1) すわりません、以上 господи ужас

### 絵5について

あは-khm (2.5) あ-m (1.5) так (0.5) あ-m (1) あ-しんかんせ-んあ-は-あ-m  
(1.5) うん、так так так (1) 新幹線は-あ-遅くあ- (1) なります、あ-から (0.5)  
あ-m (1.5) kh-, так あ-m (1) 遅くなります、あ-から、う-ん (1) так う-ん khkh  
(4) 絵のあ-m (2) 員は (3) **Марина остановите на минутку** あ-じゃ、あ-駅のあ-  
m (1) あ-員は、あ-m (1) あの-このことについて-あ-m (1) あ- (0.5) 待っている  
あ-人、あ-に、あ-m (2) 話しています。[筆者：はい]以上です。

## 資料 2.2.19 インフォーマント 3g4 の発話

### 「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : はじめまして、XXX です。どうぞ宜しくお願いします。
- 03A : 今何年生ですか。
- 04C : いま、3 生です。
- 05A : うーん、いつ日本語を勉強し始めましたか。
- 06C : あー (1.5) いつ、あー (2) いつから、ですか。
- 07A : そうですね。
- 08C : あー (1) いち、えーいちねん、えー1 年生だった時、日本語をあー、べん (0.5) あー (2) うーん (2) 勉強するはじめました。
- 09A : どうして日本語を勉強し始めたんですか。
- 10C : khh 、あー (1.5) 私はーあー (1.5) あにっあー (1) アニメ (0.5) とーに、えー日本、の、音楽、が、あー (0.5) えー好き、だから、あー日本語を、勉強、し始めました。
- 11A : うーん、なるほど。どんなアニメが一番好きですか。
- 12C : あー、私はーあー走り屋について、あーアニメ、が、好き、です。例えば、イニシャル・ディ^{イニシャル}[頭文字D]です。
- 13A : うーん
- 14C : しげの ーのアニメです。
- 15A : わかりました。日本へ行ったことがありますか。
- 16C : いいえ、ありませんでした。
- 17A : もし、日本へ行くようになったら、どこへ行きたいですか。
- 18C : 私はーあー (1) 群馬へ、行きたい、です。
- 19A : 群馬ですか。
- 20C : はい
- 21A : どうして群馬へ行きたいですか。
- 22C : わたし、えっあー、私はーあーイニシャル・ディのアニメ、が好きだから、私はー (1) あそこ、に、あー (0.5) えっ (0.5) うーん、車をか、あー、買いたい、そしてドラテックを (0.5) あー (1) 教えたいです。

23A : うーん

24C : khh

25A : その他にどこへ行きたいですか。

26C : あー (0.5) 東 へ、行きたいです。

27A : 東 ですか。どうして東 へ行きたいですか。

28C : 東 はー、あー (0.5) おお (0.5) 大きい、あー (1) と (0.5) き、あー (0.5) き  
れいな町だと思います。

29A : うーん、なるほど。日本人の友達がいますか。

30C : はい、います。

31A : その友達はサンクトペテルブルクに来たことがありますか。

32C : はい

33A : いつ来ましたか。

34C : あー (1) わかりません。あーえ (0.5) しり、知りません。

35A : うーん。その友達は一年前来ましたか。今年来ましたか。

36C : あー (1) 一年前来ました。

37A : うーん、その時どこへ一緒に行きましたか。

38C : あー (2) 日本人ですか。

39A : 日本人ですね。

40C : うーん (3) うーん、し、うーん、しり、知りません。すみません。

41A : 日本人の友達はー

42C : うん

43A : いないですか。

44C : (0.5) あー (2) いいえ、います。

45A : います。

46C : うん

47A : で、その友達はロシアに来たことがありますか。

48C : はい

49A : で、あのーその友達と一緒に//サンクト

50C : あ、その友達と//一緒

51A : 一緒にサンクトペテルブルクのどこへ行きましたか。

52C : あー (0.5) うーんーげ、あー (0.5) ーげーせんへ、えー (1) 日本人の友達と一緒に、行きました。

53A : うーん、どうしてあそこへ行きましたか。

54C : うーん (1) だから、あーkhhm あー、ですから、あー (1) あ、あー (1.5) にほ、日本人の友達 (0.5) あー (1) と、あー、私は (1) うーん (2) び、ビデオ ゲームが好きだ、好き、えー (1) だ、えー、好きですから。

55A : うーん、なるほど。ありがとうございました。

### 絵1について

うーん (2) あーこの、あー (1) 絵にはあ、あー (2) あー病気なか、あー (0.5) 病気な少女がいます。あー (1.5) あー、この少女は、あー (1) うーん (0.5) えー (2) この、あーkhm、この少女は夢をあー見えるです。あー (1) うーん (1) うーん、ゆ、あー、夢の中に、あー彼女 (1.5) あー (1) うーん (1) ちょっと難しいなー、あー (0.5) khm 彼女はじぎよ、あー授業に、今いま、いません。(1) うーん (1) この授業はあーとてまた、あー大切だと思います。

### 絵2について

うーん (1) あー (1) この絵、うん (0.5) あー、この絵に、あー、こど、あー子供とおと、あー男の人、が、います。あー (1) うーん、子供は、あー、ね、ねむ、あー (1.5) ねむり、眠ります。あー、男の人は、あー (1.5) し、あー、しずか、に、えーで、えー (2) あー出た、あー出たいです。えー (3) うーん、以上です。

### 絵3について

うーん (2) あっ (1) うーん、この絵、には、あー (2.5) あ、二人の、あー、人、が、います。あー、khm (1.5) うーん、あー (4) えー、み、右の男の人、は、あー何か、食べます。あー左のおとこ、あー男の人、は、あー、ビールがのん、あー、ビール、を、飲みます。あー、右の男の人、は、あー (1) く、あーkhmkhm (2) くる、あー、あー (11) あ、車 (0.5) 「車に乗ったら、あーお、を、飲むな」、と、あー、あー話します。

### 絵4について

はーm (1) うんー (3.5) umhm (1) あーkhm、この絵、の、中、えーこの絵にー、あー (1) 子供、は、テレビ、をー、見ます。あーkhm (1) あー、あ (1) この子供の母は、あー (1.5)

うーん (1.5) あー (2) うーんー (3.5) あー (1.5) うーんー、ちょっと難しい、言葉忘れ  
れました、すみません。[筆者：違う言葉で]うん？[筆者：言ってみてください]うーん、  
あー (1.5) うーん (1) て、あー (1) うーん (1) 母は、あー (1) て、あー (2) うーん  
ーテレ、あー (1) 「テレビを、あー、見ないで」、と、あー、はな、と話します。うーん (0.5)  
以上です。[筆者：どうしてですか]あー、で、あー (0.5) あーみじk、あー、短い (1.5)  
うーん (0.5) 短い、あー座っ、座っている、だから、ですっ//、からです

### 絵5について

あー、khm、こ n、あー (2) この絵、には、あー (1.5) 駅、えー、駅んー、んー (1) 駅  
んーの、駅に立っている人が多いです。んー、うーんー (2) あーこの絵、の中にー、あー、  
です。あーkhm (1.5) うーん (1) あー (1) であー誰か、あー、列車が、あー (1) うー  
ん、列車が、あー (1) の、乗りません (0.5) うーん、と、あー、話しました。(2) [筆者：  
どうしてですか] (1) うーん (0.5) あー (1) ゆ、あー、雪が、あー、さ、あー、沢山か  
らです。

資料 2.2.20 インフォーマント 3g5 の発話

「半構造化」インタビュー

01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。

02C : 私の名前は (1) XXX です。宜しくお願いします。

03A : XXX さんは、今何年生ですか。

04C : 3 年 (0.5) です。

05A : いつ日本語を勉強し始めましたか。

06C : あーm (1) えっえっ (2) 引っ引っ引っ {笑い} い、あーm (1) あー年 (0.5) あー、  
ですか。

07A : unhm

08C : (0.5) あーm (1) 二、あー、四年です、あー、四年から

09A : うーん

10C : 始めました。

11A : どうして日本語を勉強し始めましたか。

12C : (1.5) うーん、だから (1.5) あーm、日本の、文化と (1) あー (0.5) 文化が、あー  
大好きです。あーm (1) 子供の時から、あー日本語 (1) と (0.5) 日本の、うーん、  
文化 (1) を (1) あー、勉強ー (2.5) したいと (0.5) 思います。

13A : うー//ん

14C : したかった

15A : 日本へ行ったことがありますか。

16C : はい、とてもいったかった[行きたかった]、いったかい[行きたい]

17A : 行//った

18C : いったい[行きたい]

19A : 行ったことがありますか。

20C : あ、ありません。

21A : ありません。日本へ行くようになりましたら、どこへ行きたいですか。

22C : あーm、例えば、うーん (1) 大阪へ、うーん (1) とか (1) あー東、へ (0.5) え  
ー (0.5) 行くことが、あー (1.5) あ、とても しいです。

23A : どうして大阪へ行きたいですか。

24C : (1.5) あー、大阪は、うーん (1.5) 私のところで、あー、大阪はとても美しい町で

す。

25A : うーん

26C : うーん (1.5) だから {笑い}

27A : なるほど。日本人の友達はいますか。

28C : あー、いいえ、いません。

29A : うーん、もし日本人が、日本人の友達がいましたら

30C : uh//um

31A : その友達に、サントペテルブルクのどこを案内しますか。

32C : uhum (2.5) あー、例えば、うん例えば (2) あーm (1) エルミタージュへ、うーん (2.5)

あーm (2) エルミタージュへ、うんーうーmー (1) 散歩 (0.5) あーします。(2) うん、うん、そっ、そうです。{笑い}

33A : どうして、エルミタージュへ//行きますか。

34C : あっ (1) あーm (0.5) エルミタージュは、うーん、一番 (1) 大きくて、うーん (1.5)

あー (2) 印象的な、あー、ところ、うーん、です。

35A : わかりました。

### 絵1について

umhm (4) この絵 (1) に (2) あーm、わたしは、あー (1) 病気になる、うーん (2) 彼女 (1) うーん (0.5) を、とか、あー (1.5) 女の子 (1.5) を、見ます。あーm (1.5) 病気になる、うーん (2) あーuhm (1) あっ、あー病気、うーん (1) に、あーなったから (2) あーm (4.5) あーm 大学をー学校とか学校 (0.5) うーん、に、あー、この、あー、女の (1) 女の子が、うーん、いません。あーm (4) あー、このか、kk か {笑い} kk 彼女は (0.5) あーm (0.5) 学校について、k、考えます。

### 絵2について

あー (12) うーん (2.5) 例えば、この絵に (3) えー (4) あーm、あっあー、この絵に、あー、父はー (1) あー (0.5) 静かに、あーm (2) 部屋を (2) 行きます。あー (3.5) あー、子供は (1) あー (1) 眠っています、えーいっいっいっいるから (2) あーこの父は、あーm (1) 静かにい、行きます。あーm (3) この子供をー (4) そうです (4)

### 絵3について

あー (2) あっはー (5.5) あーm、この (1) 絵に、うーん (4) うーん (4) あーm (5) あー、この人は、あー (1) あー、乗る (2) んー乗る、あー、から (1) あー (1) ビール (2) は、うーん (2) あー (1) 飲ま (1.5) あー (1) 飲まなかった、なかつ (0.5) うーん (1) あー、え、飲む、だめです。あーm (2) あー、乗るとーあー、ビールは、もらわない {笑い}

### 絵4について

あっあー (9.5) あーm (2) 母は、うーん、子供、に (1.5) あー (4.5) あーm、母は子供に (1) あー (4.5) 「テレビを (2) あーm (3.5) あー、テレビを (0.5) えー (0.5) 見たいと (1) あーm (1) あーm (2) よ、よいところ、うーんに、あー座ってください」と言います。(1) あーm (2) とおり[遠い?]とこっ、と、あー (2) とおる[遠い?] (1) ところ (2) は (0.5) 一番 (0.5) 良い (1) です。[筆者：どうしてですか]あ、あーm (2) あーm (7.5) так (2) あーテレビのところ、あー (1) に、あー (1) うーん (2) あっ、あーm、あ、あー、え、テレビのあー前にあーす、んーんー座る (1.5) と、あーm (2) あーm目が病気になりました {笑い} になります。

### 絵5について

あー (4.5) うーん (7.5) 新幹線の駅 (2) に、あーたくさんのひとーが人々がー、います。あーm (3.5) information (1) から (2.5) あーm (3) うーん (1) informationは、あー、「新幹線、が (1) あっあっあー (1.5) あーm (2) 雪がうーん (1) 降るうっうっうーん (1) あーk、から (1) あーm (2) うーm、新幹線、は、あーm (3) 乗ることができません」。

資料 2.2.21 インフォーマント 3g6 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : はーい。私の名前はXXXです。あー、今年、二十歳になりました。
- 03A : うー//ん
- 04C : あー、私、あー (0.5) あー二月四日に生まれました。サンクトペテルブルグはーあー私が生まれた、あー (1) 都市です。
- 05A : なる//ほど
- 06C : あー、あー、でも、うーん (2.5) {笑い} あーm (1) あー、わたーしー、あーはー、あー、日本を、あー (1) あー勉強し始めた理由は (2) あー、いろいろあります。あー、でも主な理由は、あー日本とあー日本文化と日本人、あー、に、あー (1) 興味をー持っている、あー (1) あーことです。
- 07A : いつ日本語を勉強し始めたんですか。
- 08C : うーん、あー、あー二 あー四年、あー、に、あー日本を、勉強し始めました。
- 09A : 日本語はどうですか。難しいですか。
- 10C : {笑い} もちろん、難しいです。
- 11A : どうしてですか。
- 12C : うーん (1.5) あー (2) あー、文法は、あー一番難しいえーと思います。あー (1) んーそして、あー (0.5) あー漢字、あー (0.5) を、あー、書き方とー、あーm、うーん、覚え方もとても難しいです。あーですから、あー、全部、あー (1) あー、日本語はー、あー難しい、と思います。
- 13A : なるほど。日本へ行ったことがありますか。
- 14C : うーん、いいえ、ありません。
- 15A : もし、日本へ行くようになったら、どこへ行きたいですか。
- 16C : うーん (2.5) ところですか。大学ですか。
- 17A : どっちでもいいです。
- 18C : うーん (1.5) あー日本へ、うーん (1) うーん、えー日本へ行くことがー、あーできれば (1.5) あー (1) あー東、あーや、あー 都を (1) あー、行きたいと思いません。
- 19A : どうして東 へ行きたいんですか。

20C: うーん {笑い} あー、まず、東 はー、あー、うーん、あー日本の、あー (2) あー首都、あー、で、す首都です。あー、そしてー、あー (2) 東 、あーについて、あーいろいろ、うーん (1.5) あー調べて、あー、え聞いて、あー (1) うーん、読みました。あー、ですから、あー (2.5) あー私が (2) 受けた (1) あー、印象、では、あー私のイメージに、あー強い影響を与えました。

21A: う//ーん

22C: あーですから、あー東 へ行きたいです。

23A: じゃーあのー日本の大学で留学できましたら、どんな大学へ行きたいですか。

24C: うーん、あーm (3) えー、一番、あー (2) うーん (2) あーいつ行きたいえー大学 (1) はー、うーん (1) あ、東 国立大学、あー、だと思えます。あー、でも、あー (0.5) 都大学でも、あー (1) あー早稲田大学えーでも (0.5) あー、どちらでもいいと思えます。

25A: うーん、わかりました。日本人の友達はいますか。

26C: うーん、まだいません。

27A: じゃー、もし友達がいたら、その友達にサントペテルブルクのどこを案内しますか。

28C: うーん、あー、まず、あ、エルミタージュを、案内します。{笑い}

29A: どうしてまずですか。

30C: うーん、んーエルミタージュはー、あーサントペテルブルグ、な (1) サントペテルブルグのー、あー、一番有名な、あー (1.5) うーん (1) あー、博物、えー館、あーだからです。

31A: うーん、なるほど、その他に？

32C: その他に {笑い} あーm (2.5) うーん、えっえっ、えーさん、あー (2) なー日本の友達、あーm (0.5) いたら、あー、サントペテルブルグのあー主な (1) あー (1.5) あー (1) 通りを、あー散歩したり、あーm (1) 印象的な、うーん (1.5) あーところを、あー見せたり、あーm (1.5) あ、カンシヨ[観 名所?]あ、を、あ、カンシヨ[観 名所?]へ、あー、行ったりしましっ、えーしました。

33A: ありがとうございます。じゃ、次はこの絵について話してください。

### 絵1について

(7) はーい、うーん (2) aha (1) あー (1) この、あー (1) 絵には (2) あー (2.5) あ

ーかぜを、あ、ひいている、あー (2) 女の子 (0.5) は (1) あー (3) あっあっ、こ、この、あー (1) あーこの絵、絵には、あーかぜを、かぜで、あー、寝込んでいる (0.5) うーん、あーおん、女の子 (2) あーはー、あー次の、あー、ような、あー夢を (1) あー (0.5) 見えています。{笑い} あー (2.5) あー (1) いいえ {笑い} 違う {笑い} あー (1.5) うん (9) unhum (1) はい、わかりました {笑い} うーん (1) うーん (0.5) あー (1) あ、女の子は、えーかぜをひいて、あー (1) あー授業、あー (0.5) うーん、学校の授業、あー (1) あー (1.5) を、あーm (1.5) あー、え、出席、あー、することが、あー、できない、あーように、あー、心配しています。

### 絵2について

(24) はーい (1) うーん (2.5) あー (3) あーm (0.5) うん、赤ん (1) は、あー静かに、あー、寝ています。あー (1) な、赤ん が、あー、あ、寝ている部屋 (0.5) あー、には (0.5) うーん (1.5) あー他の人が、あ、います。あー (1) あーそしてー、うーん (2) うーん、あー、赤ん は、あー、(3) あー (0.5) 泣かない、あー、ために、あー (0.5) あーこの他の人は静かに部屋を (0.5) あー (2.5) 出たいかもしれません。

### 絵3について

(16) うん、あーこの、あー (1) あーいえには、あっ、こ、この絵には、あー (1) あー、二人がいます。(1) あーm (2) あー左に (0.5) あー (2) あー立っている、あー、ひとり、あー右に、あー、立っている人、あーに (0.5) あー (2) あー (1.5) うん、あー、左に立っている人は、あー、右に、あー、立っている人が、ビールを飲んでほしい (1) です。あー、でも、うーんー (3.5) あー (2) あー、右に立っている、あー、ひとり、では、うん、ビールを (0.5) うーんー (2) あー (1.5) あー、飲みたくないです。(1) おー運転 (1) あー、する (2) あー (0.5) つもり (0.5) あ、だからです。

### 絵4について

(21) うんー (1) あー (2) あー、この、あー (1) あー、この絵には、あー (1.5) うーん、母親と一息子、###が、います。(1) うーん、あー、母親は、あー (4) あー、えー (2) あー、息子 (0.5) あー、が、あーテレビ (1) ###を (7.5) あーてっ、あー (3.5) あー、な、むすっ、あー、母親は、あー息子、あー (0.5) が、あー、え、ずっと、あーテレビの前に、あー、テレビを、あー見ている (1) あーので (1) 怒ります。(1) あーm (1)

あー (0.5) もし、あー子供は、あー (1.5) あー (4.5) あーやくーあー (2) あー、50 {笑い} あーサンテメートル[センチメートル] (0.5) あー (2) う、うーんー (6.5) あー50  
サンテメートル、あー、に、んー (2) あーテレビ (1.5) あーから後ろに、あーすわっ  
(1) えー座っ、たら、うーんー (1) あー、母は、あー (3) うーんー (3) あー (2.5) 怒りません。

### 絵5について

(15) aha (1.5) khmー (1.5) あー (1) あー、駅にー、あーひとび、人 (1) は、大勢います。あー (0.5) えー (0.5) き、 節はー です。(1) あー (2) うーん、はい、駅にー、あー (1.5) あー (2) あー、電車を待っている、あー人々 (0.5) は、とても (2) 寒そうです。(0.5) あー、でも、うーんー、電車 (0.5) がー、あー (1) あ、来ることが (0.5) あー (1.5) あー (1) できないかもしれません。(1.5) あー(5.5) あー、大雨 (1) あー、で (0.5) あー (1.5) あー、電車、て、はー (3) あー、ずっと (1.5) あー (0.5) 走ることが、できません。

資料 2.2.22 インフォーマント 3g7 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : はい。はじめまして、XXX です。どうぞ宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは今何年生ですか。
- 04C : いま二十歳です。
- 05A : 何年生で//すか。
- 06C : oi、すみません、3年生です
- 07A : 3年生ですね。いつ日本語を勉強しはじめましたか。
- 08C : (1.5) えー (1.5) 中学校 (1.5) で、勉強はじっ、日本語を (0.5) 日本語を、勉強はじめ、えっ (0.5) 勉強を、しはじめました。
- 09A : あ、そうですか。どうして中学校の時、日本語を勉強し始めましたか。
- 10C : (1) うーん (2) 面白かったと思いました。
- 11A : うーん、そうですか。日本語が面白かったですか。
- 12C : うん
- 13A : それとも、日本の文化が面白かったですか。
- 14C : 日本語も日本の文化も面白かった (1.5) で、だと思いました。
- 15A : うーん、わかりました。日本語はどうですか。難しいですか。
- 16C : うん、はい、難しいです。
- 17A : どうして難しいですか。
- 18C : {笑い} あー (1) えー (3) えー日本語を (3.5) よく話すために (1) えー 張る (1) はず、はずです、が、私はー (2) 張りません。
- 19A : それで難しいですか。
- 20C : はい {笑い}
- 21A : {笑い} わかりました。日本へ行った事がありますか。
- 22C : いいえ、ありませんでした。
- 23A : もし、日本へ行くようになったら、どこへ行きたいですか。
- 24C : うーん (2) え (2) 北海道に、行きたい、です。
- 25A : 北海道ですか？
- 26C : は//い

27A : どうして北海道行きたいで//すか。

28C : えー、私はー (1) あー、アルハン リスクにー (1.5) えー生まれました。ん、です  
からー、アルハン リスクが、北の町ですから、私はーきたー[北] (1) の (1) とこ  
ろにー行きたいです。

29A : うーん、なるほど。北海道のどこへ行きたいですか。

30C : うーん {笑い} えー、たと、例えば、 ーにー行きたいです。

31A : ーですか。う//ーん

32C : うん

33A : 日本人の友達はいますか。

34C : えー、いいえ、いません。

35A : もし、日本人の友達がいたら、その友達にサンクトペテルブルクのどこを案内します  
か。

36C : (1.5) うん (6.5) たぶん、えー (0.5) いろいろな美術館を (2) み (1) 見せたり (0.5)  
えー (1) 小さい (1) うん (1) 通りを (2.5) 散歩したり、します。

37A : うーん、例えば？

38C : (2)

39A : どんな美術館ですか。

40C : {笑い} (1) あー例えばー (1.5) えー、もちろん、えー、エルミターージュ、やー (1)  
ロシアの、美術館 (1.5) です。

41A : うーん、どうして、一番最初はエルミターージュですか。

42C : エルミターージュは、一番 (1) 有名な、と思います。

43A : うーん、わかりました。

### 絵 1 について

(4) うん (3) えー、так (3) この絵の (0.5) 女の子 (1) は (0.5) 病気に (1) なりま  
した (1.5) えー (1) なりましたから、えー、学校を (1.5) えー (0.5) 休みました。(2)  
えー (2)

### 絵 2 について

(9) えー (1) この絵の、男の (0.5) 子 (0.5) が (1) あー (1) 赤ん 、を (8) おこれ  
て[起す?] (2) 泣かない、ために (3) えー (4) 静かにー、どこかに (3) いー (0.5) 行

っています。

### 絵3について

(6) あー (1) Dさんはー (0.5) あー (1.5) 友達にー (2) ビール (1.5) が (0.5) えー (2) す (4.5) すずめ (2) すずめる[勧める]が (1.5) 友達が (1.5) えー、ビール、を (1) ことー、わかります[断ります]。あー、運転すす、する (1) つもりですから。

### 絵4について

(4) [一 録音 止] あーこの絵の女の子が (1) 男の子に、えー「テレビから、もっとー、うーん、遠く (2.5) 座ら、なければ (1) ならない」と (1.5) いい (0.5) 言います、言っています。[筆者：それはどうしてですか] (2) うん (2) えー、テレビから、あー (1) 近い、座るとー (1) えー (8) 害を受けます、受け取れます。

### 絵5について

(9.5) うーん khm (5) えー (1) 、にー (2) えーm (4.5) 駅、で、馬車を то есть не 馬車 a (0.5) 電車を (1) 待っている人たち (2.5) に (1) あー (6) 電車、が (1.5) えー (11.5) 止めましただと (1) 言われています。

資料 2.2.23 インフォーマント 3g8 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : (1) こっち、こちらこそ (1) どうぞ宜しく (0.5) おー、XXX と申します。
- 03A : XXX さんは、今何年生ですか。
- 04C : (1) 私はー (0.5) 3 年生です。
- 05A : 3 年生ですねー。いつ日本語を勉強し始めたんですか。
- 06C : (1) あーm、二、二年に (1) あー (1) 始めました。
- 07A : 二、2002 年ですね。どうして日本語を勉強し始めましたか。
- 08C : (1) うーん、ただ来て (1) 見て (2) ほしくて (1) 始めました。
- 09A : あ、そうですか。何がほしかったんですか。
- 10C うーん (7.5) うーんー (2.5) 私の、得意 (0.5) ところは (1) あー (2) 言語、学  
ですからー (1.5) その得意ところを (1) 進めるために (1) あーm、何かを、したか  
った、です。
- 11A : うーん、わかりました。日本語はどうですか。
- 12C : あーm、中国より、とてもー、いいです。あーm、中国なら (2) うんー、中国語より、  
とてもいいです。あー (1.5) そして、ドイツ語 (1.5) もー (0.5) あー (2) うーm、  
面白い (1) です。あ//ー
- 13A : それはどうしてですか。
- 14C : (5) ええ、よくわかるから、です。
- 15A : うーん、なるほど。日本へ行ったことがありますか。
- 16C : ありません。
- 17A : もし、日本へ行くようになったら、どこへ行きたいですか。
- 18C : うーん (2) 北海道、しー (2) 大阪 (1) しー (2.5) うーんー (1) 北海道のさ、  
(2.5) うーん (1.5) い 縄、です。
- 19A : 北海道、大阪、 縄ですね。
- 20C : はい
- 21A : うーん、面白いですねー。どうして 縄へ行きたいですか。
- 22C : あー、あそこはー (1) とてもいい (0.5) あー (2) s、あー (3) す、水上 (3.5) う  
ーん (2) 言葉は (0.5) あ、忘れてー

- 23A : 他のこ、言葉で
- 24C : うーん (3) 多い (1.5) 数 (1) 魚がありますところ (0.5) あー、あるところ
- 25A : うーん、魚が好きですか。
- 26C : あー、はい {笑い} 見るとかー、食べるとかー、どっちも (0.5) いいです {笑い}。
- 27A : わかりました。えーとー、さっき、　　へ行きたいと言いましたね。どうして　　へ  
行きたいですか。
- 28C : あーm (3) 北海道はー、えー (1) 全部、うんー (0.5) すべての日本 (1) とー、ち  
よっと、違う (1) とー、ひ (2) 言う人がー (1) いるからー (1) あーそれを (0.5)  
見たい (0.5) と思います。
- 29A : わかりました。日本人の友達はいますか。
- 30C : いません。
- 31A : もし、日本人の友達がいたら、その友達に、サンクトペテルブルクのどこを案内しま  
すか。
- 32C : (4.5) 興味あるならー (1) あー、博物館でしょう。そしてー (1.5) うーんー、そ  
してー、んー、いろいろな (1) クラブとかー (4) あーサンクトペテルブルクはー (0.5)  
あー (1) 全部 (0.5) あー、いい、と思います。み、mー、見るーところーがー多い  
から
- 33A : うー//ん
- 34C : です。
- 35A : わかりました。えーとー (1) 興味があるならとおっしゃいましたねー。(1.5) どん  
な博物館へ、連れて行きますか。
- 36C : もちろん、エルミタージュ (0.5) です。
- 37A : どうしてももちろんですか。
- 38C : うーんー、有名ですからー。(1) そしてー (1) あーm (5) そして、私はー、映画が  
好きです。
- 39A : うーん
- 40C : うんー (1) 画 (1) 絵、絵、絵が好きです。
- 41A : わかりました。ありがとうございました。

### 絵1について

うーんー (2) その子はー (0.5) 病気ですからー (1) あー (0.5) 学校を休みました。あーmー、そしてー、 を飲みます。あーmー (2) 今はー (2.5) 十時です。(2) #####  
うーんー、そしてー、そのー、子はー (1) 熱があります。

### 絵2について

(2.5) あーm (2) 男の子はー (1.5) あー (2) 大きい (0.5) あー音が、出さないように  
(1) あー (2) アパートを、だしたい (1) あ、んー (2) だしっ (0.5) んー (2) hmー  
(1) だしたがる (2) だs、んーだしたがりそうです。あー (1) おき、あー、大きい音が  
ー、あ (1) 出す (1) なら、子供は (0.5) あー (4.5) あー (1) お、おこってー (0.5)  
泣く、泣くでしょう。

### 絵3について

男の、あー、あー (1) おと、男はー、運転するからー (2) あーー、ビール、はー、飲み  
ません。

### 絵4について

(9) 子供はー (1) あ (1.5) テレビを見る (1) あー時、あーとても (1.5) 近い、え、と  
てもー近づいているからー、あーm、母 (1.5) はー (0.5) 怒ります、うーん、怒っていま  
す。

### 絵5について

(5) 人々は (1) えー、悲しい顔をしてる。(1.5) あーm (2.5) れ、あーm、列車がー着い  
て (1) いないからでしょう。(4) [筆者：電車がどうして着いてないんですか] (2) うー  
んー、雪が (0.5) 降るから。

資料 2.2.24 インフォーマント 3k1 の発話

「半構造化」インタビュー

01A : はじめまして。マリーナです。

02C : あー、はじめまして XXX です。どうぞ宜しくお願いします。

03A : 宜しくお願いします。アンナさんは、今、何年生ですか。

04C : あ、3年生です。

05A : 3年生ですね。

06C : はい

07A : うーん。いつ日本語を勉強し始めましたか。

08C : あー (1) あーさん、ねん、あとー、あーん、から、あー、日本で、勉強、んー、えー、勉強 (2.5) をはじめま、えー、はじめ、んー、はじめます。

09A : うーん、分かりました。どうして、日本語を勉強し始めましたか。

10C : あー (3.5) あー (2) うーん学校で、あー、私はいろいろのあー日本の、あー、本、あー、日本の、日本語の本、あー (1.5) えー読めましたから、そして、あー、日本の、あー、映画を、あー (1) あー、大好き、だから、うーん (1) あー (3.5) えー、非常に、うーん、うーん、(2.5) ドール (1.5) あー、ドールという映画 (1) えー、ですから、あー日本語を、あー、勉強 (2) あー (2.5) 始めました。

11A : 分かりました。えーと、日本へ行ったことがありますか。

12C : ありません。

13A : う//ん。

14C : ありませんでした。

15A : もし、日本へ、行くようになりましたら、どこへ行きたいですか。

16C : あー (4.5) 東 (1.5) 東 と大阪 (2) と、行きたいと思います。

17A : うーん。どうして、東 と大阪ですか。

18C : (1.5) あー (1.5) あー (3) あー東 (0.5) と大阪で、は、あー (2) えー (1) あー、いろいろの、大学が、あるから。(2) んー、そして、うーん、大きい町ですから。えー、うーん、うーん、(5.5) {笑い} そうです。

19A : 分かりました。えーと、日本人の友達がありますか。

20C : あります。あー、いち、あー年生、あー (1) 一年生、あー (9.5) あ、そーこの大学に、あー (2) あー、日本 (1.5) じんの友達、あー (1.5) とー、あー会いました。

あーん、えー、(2) あーXXX の先生、XXX 先生の、あー (1) うーん (2.5) 授業 (1)  
あー、授業に、あーん、ZZZ とー、ZZZ です。

21A : その友達がロシアに来たら、サンクトペテルブルクのどこを案内しますか。

22C : あー (2) うーん (1.5) 大学ーにー (1) あいましっ、会います。そして、えー (1)  
映画、映画へいきましっ、行きます (4)

23A : はい、ありが//とう

24C : いろいろな場所 (1) 場所 (1) に会いました。

25A : ありがとうございます。

### 絵 1 について

うーん、あ、これは、あ (4.5) うーん (5.5) あー (1.5) あー、これはー、あー (2) じょうせい[女性] (2) じょうせい[女性]はー、あー、うーん (4) あー (4) 夢、あ、夢を見ます。あー (1) あー、この夢は (4) あー (1.5) 授業について夢です。あー (2.5) うーん (1) 授業は、あーん、 時にはじめましっ、始めます。(2.5) そしてーそのじょ、じょうせい[女性]は、あー (4.5) うーん (5) 痛い、痛いです、痛いと思います。(7)

### 絵 2 について

この授業にはおじーさん (2.5) と、おじーさんは (1.5) んー (5) あー (2) 子供の (0.5) 子供 (9) 子供のばしょー[場所] (1.5) あー (3) 子供のばしょー[場所] (4.5) うーん (5) 子供場所の違い、うーん、子供の場所 (1) に (2.5) 静かに、あー、歩いています。

### 絵 3 について

うーん (8) 右の人は (1.5) あー (3.5) えー (0.5) D さん (3.5) に、あー (9.5) ビールー (8) ビールを飲む (3.5) うーん (1) 飲んだら (2) 車 (1) 車にー乗りません 笑い

### 絵 4 について

あー、この女性は (1) あーん (4.5) たとえば (2) あなたの (1.5) うーん (3) あに、あなたのあに (4) に (4) テレビをー (0.5) あー (17)

### 絵 5 について

(10) あー、人々は (0.5) あーん (10.5) mー (23) не могу все слова вылетели

## 資料 2.2.25 インフォーマント 3k2 の発話

### 「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : はじめまして XXX と申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは、今、何年生ですか。
- 04C : 今、3年生です。
- 05A : うーん。いつ日本語を勉強し始めましたか。
- 06C : うーん、3、4年前ぐらいです。
- 07A : あ、そうですか。どうして、日本語を勉強し始めたんですか。
- 08C : mー、色々な、あー、文学や、あー、m、文化の、ことなどを読んで、日本の、あー、こと、あー、興味 (1.5) うーん、(3.5) あーm、興味、あー (3) があるのを感じて、あー、もっとたくさん、し、知りたいと思いました。
- 09A : うーん、分かりました。えーとー日本へ行ったことがありますか。
- 10C : あー、行った事が、ありません。
- 11A : もし、日本へ行くことができたら、どこへ行きたいですか。
- 12C : うーん、どこへも行きたいです。
- 13A : あ、そうですか。{笑い} えーとー、あの一、たとえば？
- 14C : あー、たとえばー、うーん、 都、あー (2) 東 も行きたいと思います。 縄も行きたいと思います。
- 15A : あー、 縄も行きたいんですか。えーと、どうして 都へ行きたいんですか。
- 16C : あー 都には、あー、古い文化の建物が、たくさん、あー、ある、そう、あー、です、から {笑い}
- 17A : うーん、なるほど。XXX さんは、日本人の友達が、いますか。
- 18C : うん、はい、います。
- 19A : えーと、その友達がサンクトペテルブルクに来たことがありますか。
- 20C : はい、来たことがあります。
- 21A : うん、その時、どこを案内しましたか。
- 22C : あー、エルメタージュ[エルミタージュ]と一緒に行了きました。
- 23A : え？どうしてエルミタージュへ行きましたか。
- 24C : エルミタージュは一番有名なところだと思いますから

25A : うーん、なるほど

### 絵1について

うーん、今 時です。あー、今学校で、あ、勉強、が、始まります。あー、でも、私は、熱あるので、あー (2) ベッドで、n、寝ています。

### 絵2について

あー (4) 私の (2) 友達 (3) あー (0.5) 私の友達、あー、が、用事、あー、私の、あー、赤ちゃんが、いる、あー友達が、用事があったので、だんなさんと一緒に赤ちゃん、あー (2) あー、を、n 残りました。あー、でも、そのだんなさんは、おかちゃん[赤ちゃん] (1)、んー (2) の世話が、あまり、あー、できません、あー、から、なきそう、に、思っています {笑い}。

### 絵3について

うーん (2) 友達と、あー、一緒に、あー、レストラン、あー、へ、食べに行きました。あー (3.5) あー、レストランで、あー (2.5) バルベキュー、を、あー、食べました。あー、友達は、うーん、(2) あー (0.5) ビール、を、あ、飲みましょう、と、あー言いましたが、私は、あー、運転しているので、あー、ビールは飲めません。

### 絵4について

うーん (2.5) あー (1) テレビ、あー、が、近く見ると、あー、目が、悪くなるので、(1) でっテレビとちょっと、離れた方がいいです。

### 絵5について

あー、電車が大雪で不通になったので、あー、あ、ちょっと、あー、時間に、ります[遅れます]。あー、電車に乗りたかった、あー乗客は、かわいそうに、見えます。

資料 2.2.26 インフォーマント 3k3 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。宜しくお願いします。
- 02C : XXX です。宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは、今、何年生ですか。
- 04C : 3 年生です。
- 05A : 3 年生ですね。いつ日本語を勉強し始めたんですか。
- 06C : (1) 3 年前、だとおもいつ、えー、3 年前と思います。
- 07A : うーん。どうして、日本語を勉強しはめっ、し始めたんですか。
- 08C : 今分かりません {笑い}
- 09A : 笑い 何か理由がありましたか。
- 10C : (1)
- 11A : 映画とか、映画が好きとか？
- 12C : (2.5)
- 13A : 日本語の、日本の文化が好きとか、日本語は難しいとか？
- 14C : (3) ありません、いいえ。
- 15A : うーん、なるほど。XXX さんは、あの一、日本人の友達が、いますか。
- 16C : はい、います。うーん、はい、います。
- 17A : その友達がロシアに来たことがありますか。
- 18C : はい、えー、はい、えー (2) あー、彼は、えー、ロシア、えー、に、あーきたこと  
がいましてっ、えー、います。
- 19A : えーと、サンクトペテルブルクに来たことがありますか。
- 20C : はい、あります。
- 21A : えーと、その時、どこを案内しましたか。
- 22C : あー、大学、えーで、とー、あー、私の友達、あー、家で、あー案内しました。
- 23A : どうして友達の家を案内したんですか。
- 24C : (2) あーm、(8) так договорились {笑い}
- 25A : 笑い なるほど。日本へ行ったことがありますか。
- 26C : いいえ、ありません。
- 27A : もし、日本へ行くようになりましたら、どこへ行きたいですか。

28C: 東 へ行きたいです。

29A: どうして、東 へ、行きたいですか。

30C: あー—m—東 はとけい[都会]ですから。

29A: うーん、なるほど。

### 絵1について

あーm— (2) うーん (1.5) あーm (1) あーm、この映画に、えー (0.5) あーm— (3) あー私はあー、うーя не знаю {笑い} あーm—、m—、あーm、女の、あー、女の子、あー (1.5) は、あー、病気、です。うーん (2.5) うーん、私は、うん (2.5) あー (1) をみ、m—、見ます。あー (1) あー (3) 彼女は、あーm (3) えー学校に、うん、学校 (6) うーん (6)

### 絵2について

あーm、わたしは、あー、この絵、あー、絵に、あー、赤ちゃん、うー—ん、あー、赤ちゃんを見ます。(2) あー (2.5) あー (6) あー (2) うーん、彼の (0.5) あーm、父 (3.5) я вообще ничего не помню. Я не могу так, я волнуюсь. Я не могу, все я разволновалась очень сильно.

### 絵3について

あー (0.5) うーん、この人、あー食べます。あーうー—ん、他の人あー、あー—m (1) あー、ビーあー、ビールを飲みます。あー (1) あー (0.5) この人、あー (1) あー (2) うーん、の m、うー—ん (3.5) あーm (5) нет я пытаюсь вспомнить (12) あー、この人、あー、車を— (1) 走る、あー、車を (0.5) あーm— (3) うーん не помню

### 絵4について

あー、子供が、テレビ、あー、m—、を見ます。あー、彼の (2) うーm、母? (2) と思います。あー、k、彼の、なー、母 (1) あーm— (2.5) うーん— (5) あー (6) うーん (4) うーん彼の母、あー、彼に、あー (3) あー (2) дальше 座る {笑い} あー——m (3) あー (2.5) 座るを、あー (4) あー (3) просит {笑い} я не могу сообразить

### 絵5について

うーん、これは、あーm—ふ です。(1) あーm (0.5) 駅の、えー、駅で、あー—m (1.5)

あーm (3) うーん (1) たくさん、あー、人、が、います。あーm- (3) あーーm、電車 (6)  
あーm (2) 電車が、あー (5) опаздывает。うーん не помню как будет {笑い} うーん  
(3) 雪が降っています。

## 資料 2.2.27 インフォーマント 3k4 の発話

### 「半構造化」インタビュー

01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。

02C : どうぞ宜しくお願いします。私は XXX です。

03A : XXX さんは、今、何年生ですか。

04C : あー、私は、今、3年生です。

05A : 3年生ですね。いつ日本、日本語を勉強し始めたんですか。

06C : あー (2.5) うーん、1年生です。

07A : うーん。どうして日本語を勉強し始めましたか。

08C : あー (0.5) あー、とても、あー、日本語、あー、が、日本語が好きです。あー私の、あー母は、あー (2) 、あー日本、あー日本で、うーん、h、あー、はた (1) 働き、働きました。

09A : あ、そうですか。お母さん日本で働いていたんですか。

10C : はい

11A : えーと、日本へ行ったことがありますか。

12C : いいえ、ありません。

13A : もし、日本へ行くようになりましてら、どこへ行きたいですか。

14C : うーん、東 、とー、大阪

15A : 東 と大阪ですねー。

16C : は//い

17A : どうして大阪へ、行きたいですか。

18C : あ、分かりません。{笑い}

19A : じゃ、東 はどうしてですか。

20C : あー、東 、は、あー (1) えー (1) 一番有名な、あー、町、です、あー、日本には。

21A : うふ m

22C : ですから

23A : うーん、なるほど。えーと、日本人の友達がいますか。

24C : あー、い、えー、いいえ、いません。

25A : もし、日本人の友達がいたら、その友達にサンクトペテルブルクのどこを案内しますか。

26C : (1) あー、(3.5) 案内？

27A : サクトペテルブルクのどこを案内しますか。どこへ連れて行きますか。

28C : あー、大学に、連れて行きます。

29A : どうして、大学ですか。

30C : 笑い

31A : 大学は大好きですか。

32C : はい、大好きです。 笑い

33A : 笑い なるほど

### 絵1について

えー (3) あーこの、絵、に (0.5) お、絵で (0.5) あー、びょう、あー、病気 нег не 病気 (2.5) あー女性は、あー、彼女は、あー (0.5) うーん (0.5) あー病気ですから、あー、彼女は、あー、学校、で、あー来ませんでした。

### 絵2について

うーん (4.5) あー、赤ちゃんは、えー (2) えー眠ります。えー (2.5) うーん (1) 彼のー (2) えっ (2) {笑い} 彼の父、は (2) うーん (2) とても (6) {笑い} (15)

### 絵3について

あー、この人は、うーん (1) あー (1.5) あー車、えー (2) で (1) あー、のっ、あー、乗って (2) あー (1.5) 乗ってから、あー、ビール、えー {笑い} ビールは (2) あービールを、あー (3.5) 飲まない。

### 絵4について

あーhm (6) あー母は、あー、彼女の (1) あー (2) 彼女の子供 (1.5) あー (0.5) を (1) あー (0.5) テレビ、あー (3.5) hmmm (8) mmm (22) mーち、ち、近い、えーдистанцию {笑い} не знаю как сказать、あー (2.5) うーん、彼女は彼の、oi、彼女の、子供は、あー、 れています、えー (1) れて (1.5) あー (10)

### 絵5について

あー (1) この絵で、 です。あー、ですから、あー (2.5) あー、hm、新幹線、えー、が (0.5) えー (1) あー (2) あー走らない。

資料 2.2.28 インフォーマント 3k5 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナです。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : あー、XXX です。こちらこそ
- 03A : えーと、XXX さんは、今、何年生ですか。
- 04C : 私は、{笑い} 3 年生です。
- 05A : 3 年生ですか。いつ日本語を勉強し始めたんですか。
- 06C : うーん、一年、あー、生? から、あー日本語を、勉強、あー (1.5) 始めました。
- 07A : うーん
- 08C : 勉強することが、あー、はじ、めました。
- 09A : なるほど、どうして日本語を勉強し始めたんですか。
- 10C : あー、難しい質問だー。でも {笑い} あー (1) バカな答えでは、あー、私は、あー、アニメがとても好きです、だから、あー (1.5) あ、好きだから、あー、日本語を、あー (0.5) 勉強することが、あーほしかった。
- 11A : うーん、なるほど。どんなアニメが好きですか。
- 12C : うーん (1) 全然 {笑い} 全部アニメ
- 13A : うーん、ドラえもんとか?
- 14C : うん
- 15A : トトロとかですか?
- 16C : あ、トトロはー、あークラシックと思う。
- 17A : う//ーん
- 18C : あー、今、うーん、たとえば、あー、honey and clover というアニメ、が好きです。
- 19A : なるほど。日本へ行ったことがありますか。
- 20C : ありません。
- 21A : もし、行くようになりましたら、どこへ行きたいですか。
- 22C : うーん、hmhmhmhm (1) 北海道、へ、行きたい。
- 23A : 北海道ですか。
- 24C : はい。
- 25A : どうして北海道へ行きたいですか。
- 26C : うーん、北海道は、khm (1) うーん、一番、あー、寒い (1) あー、一番寒い (1) あ

ー (0.5) あ、日本、で、北海道は、一番寒い、ところと思う。

27A : え、寒いところが好きですか。

28C : はい、ロシアのように {笑い}

29A : なるほど。日本人の友達がありますか。

30C : うーん (1) khmkhm (1.5) あーたぶん、はい、あり、います。

31A : その友達がサンクトペテルブルクに来たことがありますか。

32C : はい、あります。

33A : えーと、いつ来ましたか。

34C : うーん、私の友達はー、あーサンクトペテルブルグで、ロシア (1) 語、を、あー勉強 (1) して、います。

35A : あー、今のところ

36C : うーん、はい

37A : なるほど。えーと、その友達と一緒にどこへ行きますか。

38C : うーん hhmhmhmhm (1) エルミタージュと、 画バール、で、行きました。

39A : どうしてエルミタージュへ行きましたか。

40C : あー (1) khmkhm、エルミタージュは、あー、サンクトペテルブルグの、あー (1) hhmhmhmhm 文化、не、やー (2) 美術館、короче что-то с этим связанное {笑}

41A : {笑}

42C : あー (1) あー、歴史の、センターです。

43A : なるほど。ありがとうございました。

### 絵1について

えーと (3) 可 い ちゃん {笑い} あーm、km (1) この絵 (1) で (1.5) あー私は (2) あー (1) びょうーきー、あーm、女、を、見ます {笑い}。あーそん (2) この女は (2) うーん (2) 学校のこと (1) を、いつも (3) 思います。(1) ね {笑い} (5) 以上です。

### 絵2について

やっぱりー、khekhe、uhuhuhuhu これは父さんと思う。これは赤ちゃんです。以上です。[筆者：もうちょっと話してください] {笑} 父さんは上手ではない。{笑い} だから (1) あ、赤ちゃんは、mー、よく (2) あー泣いて (1) いたから、あー (1) 父さんは、あー (3) とても心配 (2.5) した。(1.5) 私はバカと思う {笑い}

### 絵3について

(5) そ (4.5) 分からない (1) 全然分からない {笑い} (4) [筆者：以上ですか]はい {笑}

### 絵4について

うーん (7) ロシアでいい? {笑} [筆者：日本語で]khmkhmkhm (8) うーん (8) できません {笑い}

### 絵5について

うーんこの絵 (1) で (1) あー (3) 私は、あーm (1) 駅を (1) 見る。あー (1) でも、この絵、で (1.5) あーm、hmhmhm、あー の時 (3.5) が (1) ある。あー、人々は (0.5) あー (1.5) 新幹線を (3) あー (1) 待って (1.5) いた。以上です。

資料 2.2.29 インフォーマント 3k6 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。マリーナと申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : XXX と申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは、今、何年生ですか。
- 04C : 3 年生です。
- 05A : 3 年生ですね。いつ日本語を勉強し始めたんですか。
- 06C : 年、ですか。
- 07A : いや、いつ？
- 08C : あーm (1) 二、あーよ、四年から、あー (1.5) あー日本語を勉強して、あーいます。
- 09A : なるほど、どうして日本語を勉強し始めたんですか。
- 10C : あーm 日本の、文化、あー、が大好き、あーですから、勉強、あー日本語を勉強、(0.5) あーすることを、あーはじめました。
- 11A : うーん、分かりました。日本へ行ったことがありますか。
- 12C : ありませんでした。
- 13A : もし、日本へ行くようになりましたら、どこへ行きたいですか。
- 14C : あー、東へ、行きたいです。
- 15A : 東 ですか。どうして東へ行きたいですか。
- 16C : あーm (3) 東 は首都ですから {笑}
- 17A : うーん、なるほど、 都とかじゃなくて、東へ行きたいですね。えーと日本人の友達はいますか。
- 18C : あーm (0.5) 一人、が、います。
- 19A : うーん、その人は、ロシアに来たことがありますか。
- 20C : はい、ありました。
- 21A : いつ来ましたか。
- 22C : あーm (1.5) 去年、と思います。
- 23A : うーん、その時、どこへ行きましたか。
- 24C : あーm (2) Невский あーпроспект (1) ネフスキー大通り、あーを、あー散歩して いました。

25A : その他に？

26C : うーん (2.5) あーカフェー、で、あーm (1) うーん (4) えーきょう 都というカフェーで、 を、食べました。

27A : うーん、どうしてあそこへ行きましたか。

28C : うーん (1) この人は (0.5) あーとー、私も、あー日本の料理を、あー好きですから。

29A : うーん、なるほど。夏 殿とかへ行きましたか。

30C : (1) もう一度お願いします。

31A : 夏 殿へ行ったことがありますか。その友達と一緒に。

32C : 夏き う？

33A : 殿。

34C : わかりません。

35A : いいです。はい、じゃ、次はこの絵について話して下さい。

### 絵1について

あーこの人は、あー家、で、います。あーm、頭と (2) な、なにを、あー、痛いですから、あーだ、あーm、が、学校へ行きません、でした。

### 絵2について

うーん (2.5) あー赤ちゃん (0.5) あー、は、あー寝て、うーん、寝ています。(2.5) あーこの (1.5) あこの、あー、うーん (1.5) あの一、あーm (0.5) えー (0.5) 父、あー、この、あー、お父さんは、あーm (1) 部屋を、あー、はい、入りたいです (2.5)。[筆者：以上ですか]以上です {笑}

### 絵3について

あー (1) あーDさんは、mー、男の人、に、あー、「ビールを、あーm (1.5) うーん (1) のっ、あー (3) 飲んでください」、あー、飲むこ (2) [他人による発話：飲みましょう] {笑い} あー (1) 「ビールを、あーの、のん (1) ビールを飲みましょう」、あーm、と言います。あーでも男は、あー「いいえ」と、あーこたえ、答えます。あーm (1.5) うーん (2) 車を、あー (2.5) 運転するか、運転 (4) あーー運転、あー、車を、運転、運転する、うーん、から、あー、ビールを、飲みません。

#### 絵4について

あー (3) お母さんは、子供、に、あー (1.5) うーん (2.5) あー (0.5) え (1) TV セットを、あー (2.5) 見ることやめてくださいと、あー (1) 言います。(2) 以上です {笑}

#### 絵5について

あー (1) 人たちは、あー—m (2.5) えー、れ、列車を、あー待っています。でも、あー列車はあー、来ません。(4.5) {笑い} [筆者：もうちょっと考えてください]あー (4) あっあー (2.5) はい、分かりました。うーん (7) おおうき[大雪]、あー雪、が、降ったから、あー列車は、あー来ません。

資料 2.2.30 インフォーマント 4g1 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。セレダと申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : (2)
- 03A : お名前は？
- 04C : あー、XXX と申します。(1.5) どうぞ宜しくお願いします。
- 05A : XXX さんは今何年生ですか。
- 06C : 4 年生です。
- 07A : 4 年生ですね。いつ日本語を勉強しはじめましたか。
- 08C : (1) あー、学校の一、2 年生から (1) 勉強し (0.5) あー、勉強は (1) 勉強して  
います。
- 09A : あ、そうですか。どうして日本語を勉強しはじめたんですか。
- 10C : (1.5) あー (1.5) 学校で (1) 科目でした。
- 11A : うーんー、そうですか。日本へ行ったことがありますか。
- 12C : (1.5) はーい (1) はちねんせん (0.5) はちん (0.5) 8 年前 (1) 行ったことがあり  
ましたが、その時 (0.5) 日本語が全然わからなくて、とても (1) 難しかった、です。
- 13A : うーん、その時 どこへ行きましたか。
- 14C : (1) 東 へ行きました。
- 15A : 東 ですね。どうして東 へ行ったんですか。
- 16C : (1.5) あー、kh-m (0.5) 山学院の一 (1) あー、がくせいーい、た、ち、にーhome  
stay に、行きましたからー (1.5) 山学院はー、東 にあるから、東 に行きまし  
た。
- 17A : うーん、なるほど。日本人の友達がありますか。
- 18C : (2) はーい (0.5) います。
- 19A : その友達はサンクトペテルブルグに来たことがありますか。
- 20C : (1) はーい (1) います。
- 21A : 今、住んでいますか。
- 22C : いいえ、あー (2) ある年前 (1) 来たこと、がいます。
- 23A : うーんー、で、その友達と一緒によく びましたか。
- 24C : (1) いいえ、あまり (0.5) あー、 びに行きませんでした。

25A : どこかに、一緒に行きましたか。

26C : (1) あー (1.5) カーへ[カフェ]とー、あー (2.5) いろいろな美術館に行きました。

27A : うーんー、どんな美術館へ行きましたか。

28C : うーんー、例えばー (0.5) エルミタージュ (0.5) そしてー、あー (3.5) 宗教美術館にも行きました。

29A : どうして宗教美術館に行ったんでしょうか。

30C : (2) その友達は一、あー (1.5) ロシアの一、あー、キリスト教に興味があったからです。

31A : うーんー、なるほど。

### 絵1について

うん (3) あー (0.5) そのー (0.5) 女のこーは一、あー、病気のせいで (1) 学校で出席、あ、欠席します。

### 絵2について

(4.5) あー、たぶんー、この、男の (0.5) 人はー (1) お父さんとか、お兄さん (1) あー、彼のー、あーmー (2.5) 赤ちゃんはー (1.5) あー、今寝て (0.5) 寝ていますが、彼はー、あー、その赤ちゃんはー、起きてー、うるさくなる (1) のを (1) とても緊張します。

### 絵3について

(4) 男の人はー (0.5) あー (3.5) 車を運転するから (0.5) ビールを、飲みません、今。

### 絵4について

(4.5) あっ (1) たぶーん、お さんは (2) あー (4.5) さんにー、sーそんなに (0.5) あー、テレビにちか、近くて (0.5) あー、近いに座ってー (0.5) あー (1) あまりよくないと、教えています。(3.5)

### 絵5について

(4.5) あー (1) 雪のせいで (0.5) えー (1) 電車が遅刻します。

資料 2.2.31 インフォーマント 4g2 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。セレダと申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : えー (1.5) はい、えー、私はー、XXX と申します。(0.5) えー (1.5) どうぞ宜しくお願いします。  
{笑い}
- 03A : XXX さんは今何年生ですか。
- 04C : 4 年生です。
- 05A : 4 年生ですね。いつ日本語を勉強しはじめましたか。
- 06C : うーんー (2.5) んー (1) 3 年半前ぐらい (1.5) 始めました。
- 07A : うーん、3 年半前ですね。どうして日本語を勉強しはじめたんですか。
- 08C : {笑い} うーんー (1) 実はー (1) いろんな理由があります。うん (0.5) いろんな理由があった。あー (1) 例えばー私はー子供の時から、あー (1) 者などのー、あー (1) 日本の (1) 芸と係わったことが、あー (1) 興味深かった。(0.5) あー (0.5) そのほかにー、あー (1.5) うーんー (1) 父はー、あー革命の前 (0.5) 日本でー (0.5) よんにん[4 年]住んでいたもんです。えー (1) それから、もー、えー、日本と係わる (0.5) すべてのことはー (0.5) 面白かった。
- 09A : うーんー、なるほど。日本語はどうですか。
- 10C : うーん {笑い} (0.5) うーん、私は閉鎖的な人だからー、うーん、話すことはちょっと難しい。えー (1.5) 経験がー少ないから。うーんー (1) 漢字などー (0.5) あー、がー、詳しいからー、あー (2.5) 本を読むことがー、上手と思います。
- 11A : じゃ、漢字が得意ですねー。
- 12C : はい {笑い}
- 13A : なるほど。日本へ行ったことがありますか。
- 14C : いいえ、まだ (1) うーん、ことがなかった。
- 15A : もし、行くことができたなら、どこへ行きたいんですか。
- 16C : (1.5) あーmー (1.5) どこへもいいですけどー、あー (1.5) うーんー (1) 選択がー、あー (0.5) できる場合 (2) えー、三重県のー (0.5) ウワレ町へ行きたい。
- 17A : それはどうしてですか。
- 18C : うーんー、そこはー (1) 者のー (1) 博物館です。
- 19A : うーんー、なるほど。じゃ、日本人の友達がありますか。

20C : はい、います。

21A : その友達、サンクトペテルブルグに来たことがありますか。

22C : はい

23A : いつ来ましたか。

24C : (1) あー、この秋のーあー (1) はじめ (1) はじめに

25A : うーんー、じゃ、その時に、いろいろなところへ行ったんでしょうか。

26C : はい

27A : どこへ行きましたか。

28C : あー (1) 例えばー (1.5) うーんー (1) エルミタージュヤー、あー (1) ネフスキー  
大通りのそばの (0.5) Пышечная[店の名前] {笑い} などにー、うーんー、行った  
ことがある。

29A : どうして Пышечная へ行きましたか。

30C : うーんー、日本では、пышки など (0.5) あー (1.5) пышки、えー、というー、  
の、あー (0.5) えー、料理はー (1) ないだから、これはー、あー (2) うーんー、  
うん (0.5) 日本の方た、日本の方のためにー (0.5) 面白いかもしれない。

31A : うーんー、ロシアの独特なものですねー。

32C : はい

33A : うーんー、なるほど。

### 絵 1 について

うーんー (5) この、女のこー、え、たぶんー、えー (2) 中学校の学生です。えー (0.5)  
今はー病気だから、あーー、うんー、がっこうー、えー (2) えー (1.5) 休むしかたない  
ですけどー、あー、うーんー、学校、あーー (2) えー (0.5) いつでも学校を思います、  
え gg 学校について思います。

### 絵 2 について

(5) うーんー (3) このひとー、あー (2) こどもをー、あー (1) 目覚ますのがー、ちょ  
っと いたようです、 いたそうです。(3) 以上 {笑い} [筆者：もうちょっと考えてくだ  
さい] (5) [筆者：男の人は何をしてるんでしょうか] (1) あっ (1) これはー (0.5)  
でしょう (2) いいえ (3) ちょっとー (1.5) わかりにくい {笑い} [筆者：うーんー]わか  
りがたい。

### 絵3について

(3.5) うーんー (3) あのー男の人はー、あー (1.5) あー (0.5) 運転しなければなら  
いからー、あー (1.5) ビールを飲むことがー (1) えー (1) 判断します。

### 絵4について

(3.5) ここはー男の子 (1) あーm (1) テレビにー (0.5) うーんー (1) 近すぎたから (1.5)  
そのー (1) これ、お さんでしょう (1) お さんはー (1.5) うーん (1) 彼を る (2)。

### 絵5について

(5) うーんー (2.5) このー、一周するひとびとー、あー (0.5) たぶん、えー、列車を待  
っている (1.5) 待っているんですがー (2) えー (2) れっしゃー、あー (1) うーんー (1.5)  
来ます (0.5) 来ません (0.5) 来ないようです。(2.5) それから、皆はー、ちょっとー (4)  
ちょっと悲しい {笑い} [筆者：電車は、どうしてなかなか来ないんでしょうか] うーんー  
(2) うーん (1) 雪がー多すぎるから (2) あっ {笑い} えー (2) ちょっとー、電車がな  
いから、車両はー、あー (1.5) う、動けません。

資料 2.2.32 インフォーマント 4g3 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。セレダと思います。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : どうぞ宜しくお願いします。
- 03A : お名前は？
- 04C : あー、名前はーXXX です。
- 05A : XXX さんは、今何年生ですか。
- 06C : 今、4 年生です。
- 07A : 4 年生ですね。いつ日本語を勉強しはじめましたか。
- 08C : 小学校の 1 年生から日本語を勉強//しはじめました。
- 09A : あー、そうですか。うーんー、どうして日本語を勉強しはじめたんでしょうか。
- 10C : うーん//ー
- 11A : 小学校のー//年生の時
- 12C : {笑い} がっこで、私たちはー (1) うーんー、特別の目的がありました。日本語と英語 (黙 0.5) を勉強しました。(1) あー、その他、私はー (2) 私の子供の時から日本語が大好きでした。(1) それから、私は東洋学部にてー (1.5) うーんー (1) 東洋学部の、うーんー、学生になりたいと思いました。
- 13A : うーんー、なるほど。日本語はどうですか。
- 14C : (2) うんー日本語は {笑い} もちろん、大好きです。とても面白いです。
- 15A : どうして面白いとっていらっしゃるんですか。
- 16C : (2.5) あ、面白いは、ちょっとおかし、おかしいの意味が
- 17A : うーん//ー
- 18C : あると思います (0.5) いいえ、日本語は (0.5) うーんー (1.5) 日本語は私のー (0.5) あー (1) 生活の (1) 一部になってー (1) 私にとってとても大切なものです。
- 19A : うーんー
- 20C : あー (1) 来、私はー、あー (1) 日本語 (0.5) とー (1) うーんー (0.5) 私の生活をか、関係したいと思います。
- 21A : うーんー、なるほど。日本へ行ったことがありますか。
- 22C : (1.5) ありました {笑い} 行ったことができました。
- 23A : いつ行きましたか。

24C : うーんー (1) にせん (1) うーんー、2000 年 (0.5) にー (1) 日本に (1) あー10  
日間だけ (1) に行きました。

25A : その時どこへ行きましたか。

26C : 東、のー (0.5) あー (0.5) 東 に行って、山学院という、学校の (1) khm (0.5)  
お客とー (0.5) 客と、生徒になりました。

27A : うーんー、なるほど。じゃ、もう一回行くことができれば、どこへ行きたいんですか。

28C : (1) いろいろなところに行きたい

29A : 例えば＝

30C : ＝と思います。うーんー、もちろん (1) いろいろな古い町に (0.5) 古い都市に行き  
たい、です。例えば、良とか (0.5) 日、に行きたいです。

31A : どうしてそれはもちろんですか。

32C : (1) 私は、私の専門は歴史だったら {笑い}

33A : うーんー、なるほど。じゃ、日本人の友達がありますか。

34C : はい、います。

35A : その友達はサンクトペテルブルグに来たことがありますか。

36C : (1) うん (1) うーんー、もちろん、行ったことがあります。

37A : その友達と一緒によく びましたか。

38C : はい

39A : その時どこへ行きましたか。

40C : サンクトペテルブルグに？

41A : そうですね。

42C : うーんー、博物館とか美術館に行ったことが、ある (1) のにー、あー、若い人だっ  
た {笑い} だから (0.5) あまり美術館が好きでは、ありません。そしてー (1) うー  
んー (1) いろいろな友達が、あるのでー (1) あー、kh-m (1.5) 私の友達は普通 (1.5)  
うーんー (2) 話すことが、大好き (0.5)

43A : うーん//ー

44C : です。それで、私たちはたくさん (0.5) うちで話します。

45A : うーん、なるほど。じゃ、美術館とかへ、あまり行かなかった、んですね。

46C : 行きました。khmkhm、よく (0.5) 行きませんでした。

47A : うーんー、なるほど。

48C: エルミタージュ、もちろん、エルミタージュとか、ペトロパヴロフスク要 に行きました。

49A: うーん、ありがとうございました。

### 絵1について

(8) 日本語で? {笑い} [筆者: もちろん] うーん (1) kh-m (1) うーん、女の子はー (0.5) khmkhm、朝早く起きてー (1.5) うーんー、熱が (0.5) khmkhm、出ました。Khm (1) 熱が出てー、彼女は (1.5) うーんー (0.5) あー (0.5) その日にー、彼女は (0.5) うーんー 大学?、学校にー (0.5) 行かなければなりません、でした。(1) しかしー、えーんー (1.5) 熱 (0.5) 熱、のでー (0.5) 熱 (0.5) 熱が出た、出たから (1.5) kh-m (0.5) 行くことができません。(2.5) うーんー (1) それはとても (1.5) 悪い (1) うーんー、残念、ですけどー (1) 彼女はたぶんー、あー先生 (1) うーんー (1) とかー、同じクラスの人々に電話、をしたいと思います。

### 絵2について

(3) {笑い} うーんー (1) [筆者: まーちょっとリラックスして、ごゆっくり] 私、私も子供がいます {笑い} それで。うーん、赤ちゃん (0.5) は、うーんー、ゆっくりー (1) 寝てー (1) うーんー、お父さん (1.5) はー (1) 赤ちゃんのー (1) 近くにーとても静かでー、行きます。[筆者: はーい] なぜなら、あー、こどもー (1) こどもー (1.5) 子供が起きる (1) と、とても (0.5) うーんー大きな声で泣きまーす。

### 絵3について

(10.5) あ (1) あー (0.5) 友達はー (0.5) シャッシリクをー食べる (1) 食べます。(1) うーんー (1.5) 男の人はー (1) 運転者だから (1) うーんー、ビールを、飲みたくないです。

### 絵4について

(6) うーんー、kh- (3) 子供はー (1) あー (2) テレビをm (1) 見るときー、とても近くにー (0.5) あー (1) え、テレビ (1) とても近くにーテレビ (0.5) テレビの前に座ります。(1) あー、こっ、それでーお母さんはー、khm、怒らせました。(1) お母さんに怒らせて、あーお母さんはーkhm、khm (1) うーんー (0.5) もっと (1) うーんー (1.5) うー (0.5) kh-m (3) え、それしなさい、と (0.5) 言ってー (1) あー (1.5) あー (2) うー

んー、子供とーテレビの (0.5) 間にー、もっと長い (1) あー距離 (1) うーんー、がある方が いい (0.5) と言います。

### 絵 5 について

(3) khm (2) たくさんの人々はー (1.5) 長い間 (1) 電車を、待っています。電車はー (1) えー (2) あー、雪がー、あるので (1) 来ることができません。(1) それはー、あー (2) 上にー、ある (2.5) ものからー (1) 人はーそういうことを言います。(1) 電車は (0.5) いけ、行けません。

## 資料 2.2.33 インフォーマント 4g4 の発話

### 「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。セレダと申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : はじめまして。XXX と申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは今何年生ですか。
- 04C : いまー (0.5) 4 年生です。
- 05A : 4 年生ですね。いつ日本語を勉強しはじめましたか。
- 06C : あー (1) あー (1.5) 3 年間 (1.5) 前、勉強はじめました。
- 07A : 3 年間前ですね。どうして日本語を勉強しはじめたんですか。
- 08C : あー (1) あー (0.5) あー (2) はっきりな、理由がー、あ、ありません。(1) あー (0.5) あー (0.5) 安部こうぼ[公房]、のー (1) 本を読んでー (1) そのあとー、あー (1) 東洋学部 (0.5) あー日本語を (0.5) 勉強 (0.5) しはじめま、しはじ (1) あー (4) そのあとー、日本語をー、勉強しはじめました。
- 09A : うーんー、なるほど。じゃ、日本語はどうですか。
- 10C : あー (5.5) うーんー (1.5) 外国語はー、うーんー (1.5) 難しいです。日本語も、難しいです。
- 11A : どうして日本語は難しいと思っていらっしゃるんですか。
- 12C : 外国語です、んー、ですから {笑い}。
- 13A : うーんー、なるほど。日本へ行ったことがありますか。
- 14C : いいえ、ありません。
- 15A : もし、行くことができれば、どこへ行きたいんですか。
- 16C : あー (1.5) 都、へ行きたいです。私はー (1.5) あー、の、について学年論文を書きました。(0.5) 都にー、あー、裏家 (1) あー (1.5) あーm、裏家のー、あー (0.5) 今日庵 (0.5) という建物があります。(1) みたいです。{笑い}
- 17A : うーんー、なるほど。もしかしたら、日本人の友達が、いますか。
- 18C : (1) はい、います {笑い}
- 19A : その友達はサンクトペテルブルグに来たことがありますか。
- 20C : はい、あります。
- 21A : いつ来ましたか。
- 22C : すみません。

23A : いつ、来ましたか。

24C : あー (2) うーんー (2) これはー、kk くがつー (3) えーにせーんー、あー、ろくね  
ん 月で、だ、でした。

25A : 去年の 月、来//たんですね。

26C : はい

27A : その時 (0.5) よく びましたか。

28C : はい {笑い}

29A : じゃー、どこへ行きましたか。

30C : あーm (1.5) サクトペテルブルグの (0.5) あん、案内しました。ちょ、ちょっと  
だけ

31A : どの辺を案内しましたか。

32C : すみません

33A : どの辺

34C : うーんー (3) あのー、あー (2.5) エルミタージュじゃなくてー (1) あー、あのー  
なつ、夏の、公園へ、行っ、ったり (1.5) あのー (4) 忘れました。

35A : じゃ、エルミタージュへ行っていないんですねー。

36C : (1) はい {笑い}

37A : どうして、エルミタージュへ行かなかったんでしょうか。

38C : (1) 時間がありません {笑い} でした。

39A : うーんー、なるほど。

### 絵1について

あー (2.5) いま (2) うーんー (3) あー、このえー、にはー、あー病気になったー女の子  
(0.5) がー描かれています。(1) 女のこはー (2) うーんー (1) これは、あー (2) 風邪  
をひいたー女の子、子ではありません (1) ではないと思います。(1) 病気になった女の子  
です。(1) あのー、女の子はー (1) あー (3) ね、て (0.5) います、寝ていると思います。  
あのー、あー (2) 夢にはー (0.5) あのー、学校にー、あー、学校 (1) についてー (0.5)  
夢 (1.5) を見ます、見えています。(1) うーんー (0.5) 今はー、うちにー (1) いt (0.5)  
いてー、学校にー (0.5) いません {笑い}。あのー (4) あー、これは (0.5) 朝、ですー。  
(1) あー学校の授業がー始まります。(2) 以上です。

### 絵2について

(10.5) これ、あ、あ、(0.5) うーんー、これは子供ですか。[筆者：そうですねー、子供です]うーんー (1.5) あのー (0.5) あー (0.5) この (0.5) 絵にはー (1.5) 子供と、あー (1) おと、お父さん (0.5) がー (0.5) 描かれていますー。(2) 子供はー、寝てい (1.5) あー (1) 寝ていながらー、あー (0.5) お父さんはー (1.5) うちに、出よう (1) としています。(1) あのー (1) あー (5) うーんー (0.5) 静かうちに、出ようとしています。(1) あー、あのー (5.5) あー (0.5) 子供は、あー (1) 寝ていない時 (0.5) あー、大きい声で (1) あー、んんないて (0.5) いるからー (1) お父さんはー (1) あのー、あー (6) お父さんはー、え、あー、この、えー (0.5) 子供の大きい声が います。[筆者：はい] だと思います {笑い}。

### 絵3について

(4) あー (0.5) このー、絵にはー (1) あのー、運転者と (2) あー (1) {笑い} お化け (1) がー (1) んー描かれています。(1) 運転者はー (0.5) あっ、この、あー (1) [筆者：これはDさん]Dさん {笑い} あのー (1) これはー (1.5) パーティー、パーティーのような (1) 気持ちです。(0.5) あのー (0.5) あー (1) 右の、方はー (1) あのー (0.5) 運転 (1) パー、パーティーのあとー、運転 (2) あー (1) 運転、えー (2) しようと思、ってるからー (1) あのー (2) び、うーんー、ビール？ (1) をー (1) あーmー (0.5) 飲んではいけません。

### 絵4について

(1.5) あー (6) うんー (2) あー (4) これは、あー (3) うーんー (1) とー、あー (0.5) おん (1) お さん (0.5) でしょう。あのー、あー、 はー、あー、テレビをー、あー (1.5) うーんー (2) 近いから見えて、いるからー (1) あー、お さんはー (3) うーんー (1) にー、だめと (0.5) 言っています。

### 絵5について

(2) うーんー (2) うーんー、え、最後はー、あのー、あー (3) うーんー (1) ほ、ホームにー、あー (1) 人々がー (1) 大勢です。あのー、あー、しかしー、あー (1) 電車はー (1.5) あー、雪のせいでー (1) あー、電車はー、遅刻していますー。

資料 2.2.34 インフォーマント 4g5 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。セレダと申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : 宜しくお願いします。
- 03A : お名前は？
- 04C : XXX と申します。宜しくお願いします。
- 05A : XXX さんは今何年生ですか。
- 06C : 21 歳です。
- 07A : 何、年、生ですか。
- 08C : あー、すみません。えー、4 年生です。
- 09A : 4 年生ですね。いつ、日本語を勉強しはじめましたか。
- 10C : (1) うーん (1) 1 年生からー勉強しています。
- 11A : どうして日本語を勉強しはじめたんですか。
- 12C : あー、難しい質問ですねー。(1) うーんー (1) ちょっと (0.5) わかりません。東洋学部で勉強したいですから。
- 13A : うーんー、なるほど。日本語はどうですか。
- 14C : (1.5) うーんー (1) 時々難しいですがー、とても面白いと申します (0.5) と思います。
- 15A : 何が難しいですか。
- 16C : うーんー (1.5) えー、漢字とー (1.5) うーん (0.5) 言葉の意味、時々ロシアの言葉とー違いますね。
- 17A : うーんー、なるほど。漢字は、どうして難しいんですか。
- 18C : どうして {笑い} えー、ヨーロッパのー、字とー、とても違います (0.5) ので (1.5) うーんが、うーん、漢字を書くことがとても好き (0.5) 大好きです。
- 19A : うーんー、なるほど。日本へ行ったことがありますか。
- 20C : いいえ (0.5) ありません。
- 21A : もし、日本へ行くことができれば、どこへ行きたいんですか。
- 22C : あー、ど、どこでもいいです。{笑い}
- 23A : {笑い} どうしてどこでもいい//いんですか。
- 24C : あ (2) うーんー (2) 行ったことがありません、から、どこでも (1) 一番 (1) よい、

と、わかりません (0.5) がわかりません。

25A : uhum どこがいいか分かりません (0.5) ですね。うーん、日本人の友達がありますか。

26C : (2) はい (0.5) います。(1) うーんー (2) 時々、うーんー日本 (0.5) から来た学生としり [知り合い]になります。

27A : うーん、じゃ、その友達と一緒によく ーんでいますか。

28C : (1) すみません。

29A : その友達、日本人の友達と一緒によく ーんでいますか。

30C : あ、 ーんでいますか。

31A : あ、会ったりどっか、い//ろんなところへ行ったり

32C : はい、はい、わかりました。うーん、よくではありません。うーんー (1.5) ちょっとー、うーん (1) 一月にー、一回、 ーびます。

33A : うーん (3) じゃ、その友達と会う時に、どこへ行きますか。

34C : うーんー、いろいろなカフェへ (1) カフェやークラブやー (1) えーm、美術館などーと (1) など (1.5) ところへ (0.5) 行きます。

35A : うーんー、どんなクラブへ行きますか。

36C : あー (0.5) サンクトペテルブルグのー、え、ファッションクラブ (1.5) です。うーんー、例えばー、ダーチャとー、グリボエドフというクラブです。

37A : うーん、どうして、あそこへ行きますか。

38C : (1.5) うーんー (2.5) どうしてわかりません。好きですから。

39A : うーん、なるほど。

### 絵1について

あー (2) うーん、この絵にー (2) あー、おんなじよ、うーんーがあります。学生ですね。うーんー (0.5) かれはー (1) 勉強しています (1.5) ぼ、勉強しているそうです。(1) うーんー (2) うん (3.5) あーとー (2) あのー (0.5) 授業が休みます。[筆者 : uhum、どうして授業を休んでいるんですか]うーん (1.5) 元気が悪いですから。

### 絵2について

あのー (1) この絵についてー (0.5) 赤ちゃんとー (1) うん、父がーありま、がいます。(1) うん、赤ちゃんはー (0.5) 寝て (0.5) いる、からー (0.5) 父はー、あー (1) お父さんはー (1) うーんー (1) 部屋、から (2) できます[出ています]。

### 絵3について

(1.5) うーんー、このえーにー (2.5) うんー誰か、「 を食べましょう」とー言います (0.5) んがー (0.5) このー (1) おとこひと (1.5) oi、すみません、この男性はー、「いいえ、ありがとうございます」と言います。うーんー (1) 電車をー (1) 電車がー、電車をー運転 (1.5) しますから。

### 絵4について

(2) うーんー、このえーにー (3.5) うん (1.5) と (1.5) がありまーす。(1) あー (0.5) かのじょーは (2) うーんー、「そんな近いにテレビをみ (0.5) せないでください (0.5) 見てないでください」 (1.5) と言います。[筆者: Uhum (1) もうちょっと話してください]うーんー (2) テレビでー (2) お、面白くない (1) cartoon (0.5) が (0.5) あり、あると思います。(1.5) この (2) 彼はー (1) ちょっとー (1) うーんー (1) 馬 でしょう {笑い}。

### 絵5について

うーんー、最後にー (2.5) うーんー (0.5) 人々はー (1) うんー (1.5) でんし (3) 電車へ、え、待っています。電車がありません。(1) うーんー (1) ちょっとー (1.5) 雪が降っていから。

資料 2.2.35 インフォーマント 4g6 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。セレダと申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : 宜しくお願いします。は//じめまして。
- 03A : お名前は
- 04C : XXX と申します。
- 05A : XXX さんは今何年生ですか。
- 06C : 4 年生です。
- 07A : 4 年//生ですね。
- 08C : あ、3 年生です {笑い}。
- 09A : 3 年生ですか。
- 10C : えーm (1) 4 年生と一緒に授業を受けています。
- 11A : あー、なるほど。じゃ、いつ日本語を勉強しはじめましたか。
- 12C : (2) えとですねー。(0.5) 7 年前 (2) ごろ {笑い}
- 13A : うーん//ー
- 14C : 勉強しはじめました。
- 15A : どうして日本語を勉強しはじめたんですか。
- 16C : うーんー、もともと (0.5) 外国語に興味を持っていたのでー (1.5) 隣の学校では日本語は教えられたので (1) それはきっかけになって (2.5) 勉強したくなりました {笑い}。
- 17A : うーんー、なるほど。じゃ、日本語はどうですか。
- 18C : {笑い} 日本語はとてもきれいな響きのー (1) 言葉の響き自体はーとても美しいと思いますしー、でも文法的にはーいろいろ {笑い} 問題がありますので (0.5) なかなか難しいと (0.5) 言ってもよいです。
- 19A : うーんー、分かりました。じゃ、日本へ行ったことがありますか。
- 20C : はい
- 21A : いつ行きましたか。
- 22C : (1.5) 2002 年と、2005 年
- 23A : うーんー、旅行で行きましたか、それと//も
- 24C : 留学

- 25A : (1.5) 留学
- 26C : 留学で
- 27A : うーん//ー
- 28C : 行ってきました。
- 29A : どの辺へ行きましたか。
- 30C : うーんー (1) 東 {笑い} 東 でした。
- 31A : うーんー (1.5) 東 、どうでしたか。
- 32C : (4.5) うーんー、一言で表せない {笑い} (2) ことですねー。東 というのは＝
- 33A : ＝まー、どんな印象が残ったか、もうちょっと、どんな印象が残ったか＝
- 34C : ＝どんな印象が残ったかと言うとー、あまり、悪い印象はーあまりありません。
- 35A : うーん
- 36C : いい思い出ばかりです。
- 37A : うーんー、分かりました。じゃ、勿論、日本人の友達がありますね。
- 38C : [ く ]
- 39A : その友達はサンクトペテルブルグに来たことがありますか。
- 40C : はい、あります。
- 41A : その時、あのー、その友達にサンクトペテルブルグのどこを案内しましたか。
- 42C : (21) えとですね。ロシア美術館が好きですからー (0.5) まず最初はロシア美術館につれて行きました。それから、イサーク寺院のー上に登って、あそこからパノラマをー (1) 一緒に、見ました。あーとーはー、ネフスキー大通りですねー {笑い}。
- 43A : {笑い} はーい

### 絵1について

(4) このーみ、この絵を見れば、わかるのはー、このー (2) 描かれている女の子はびょうきーち うみたいでー (1.5) うーん、 も (1) 見えますしー (0.5) あとねつー、も (0.5) 出してるかもしれない。{笑い} でー (0.5) しかもー (1) 夢を見てるみたいなんです。[筆者: はい]うーんー、どの夢 (1) かというと (1.5) たぶん夢、ではなー、どうだろう {笑い} (2) この夢で自分がー学校にいないというー (1) 学校では普通に授業が行われているのに、この子だけはー、留守で (1) 授業に参加できない (1.5) のでー、たぶんー (1) {笑い} ちょっと悲しい思いをするかもしれません。

### 絵 2 について

(10) えーとですね。このー (0.5) 絵ではー、赤ちゃんがー (1.5) 眠っていて (2.5) でー (1) 入ったーおじさんは (3) この子を起さないように静かに、えー、静かと言うか (0.5) 静かに入ろう (1) 部屋に入ろう (0.5) としています。

### 絵 3 について

(4.5) この絵ではー (1.5) えーとーですねー、一人のー、方はー (1) 運転士をする予定のー、ある (0.5) 方にー、 を (1.5) うーんー、ご 走したい (2.5) ですが、この運転する予定のある人はー断ります。

### 絵 4 について

(14) {笑い} (2) [筆者：まー、ごゆっくり] (5) これは子供がー、あ、えー子供がテレビばかり見ている、あまり何もー (0.5) 他の、他に (1) 宿題とか勉強はー全然してないのでー、お母さんに れているみたいんです。

### 絵 5 について

(7) 電車が止まっているみたいんーのでー (1.5) あー (0.5) 大雪で (1) 事故が発生したかもしれないしー (2) で、このー、放送もーあります。(2) 電車が (1) うーんー (1) 動かないと言うことは放送されてー (0.5) でー、このそと、んー (0.5) で待っている人はー (1.5) けっこうたくさんの人々が集まってー (1.5) 人込み (1) の状態ですねー。

資料 2.2.36 インフォーマント 4g7 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。セレダと申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : はじめまして。XXX ともう、申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは今何年生ですか。
- 04C : 4 年生です。
- 05A : 4 年生ですね。いつ日本語を勉強しはじめましたか。
- 06C : 4 年生 (1) になった時から (1) 日本語を勉強しはじめました。
- 07A : どうして日本語を勉強しはじめたんですか。
- 08C : (1) あーんー (0.5) 日本 (0.5) えーんー (0.5) 子供の時、日本に (0.5) 日本へ、行きたかったから、日本語を (0.5) 勉強したかった。
- 09A : うーんー、なるほど。日本語はどうですか。
- 10C : (1.5) ちょっと難しいです。
- 11A : どう//して難しい
- 12C : でもー面白いです。
- 13A : どうして難しいと思っていらっしゃるんですか。
- 14C : うーんー、私にはー (1) あーんー (2) 発音は難しいです。
- 15A : うーんー、なるほど。文法とか漢字は
- 16C : 大 夫です。
- 17A : あー、そうですね。うーん、日本へ行ったことがありますか。
- 18C : いいえ、まだありません。
- 19A : もし、行くことができたらどこへ行きたいんですか。
- 20C : 東 へ行きたい
- 21A : どうして東 ですか。
- 22C : あー (1) たぶん東 はー (1.5) 大きい、大きい都市ですからー (0.5) あのー、いろいろなことがある (1) ととてもにぎやかな都市です。
- 23A : うーんー
- 24C : ですから、東 へ行きたい。
- 25A : その他に？
- 26C : (1) そのほっ、 都 {笑い} 次 (0.5) 次に 都へ行きたい。(1) 都はサンクトペ



ビーを飲んでくださいと一言います。(0.5) でも、あの(2) このおと、おとこ(0.5) 男は運転しますから(1.5) うん、ビアー(1) ビールは(1) 飲むはできません。

#### 絵4について

(13.5) うん(1) たぶん、母と子供の(0.5) 絵です。(1) こど、子供が、テレビ(1) テレビをみ、見ると(1) き(2) 音楽は(1) (3) 音楽は、とても高いです。(1) それから(1.5) お母さんはちょっと、怒って(1) こども(0.5) 子供は(1) (0.5) もっと静かに(0.5) してくださいと言いました。[筆者：もうちょっと見てください](5) [筆者：テレビが2台と(0.5) 子供が、男の子がふたり](2) あ、分かった。(2) あの、子供とテレビの、間(0.5) には(1) 場所がありません。ですから、は、お母さんは怒って、子供がもっと遠く(1.5) に、テレビを(1) 見るの方がいい、見るの方がいい(1.5) と言いました。

#### 絵5について

(3.5) うーん(1) これは駅です。たぶん電車は(1) 雪で(1) 止まりましたから(1) あ、来ることができません。ですから、人々は待たなければならない(0.5) ありません。

資料 2.2.37 インフォーマント 4g8 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。セレダと申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : (1) あー、私は XXX と申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは今何年生ですか。
- 04C : (0.5) あー、今 21 歳です。
- 05A : 何年生ですか。
- 06C : あー (1) あっ (0.5) 4年生です {笑い}。
- 07A : 4年生ですね。いつ日本語を勉強しはじめましたか。
- 08C : あー m (1.5) うーん (1) よん (0.5) 4年前 (1) あー、日本語を、あー勉強 (0.5) あー (1) 勉強する、勉強することが始めました。
- 09A : うーん、どうして日本語を勉強しはじめたんですか。
- 10C : {笑い} あー m (1) あー (1) 日本はとても好きです。あー、日本の (0.5) あー、文化とー歴史は面白いです。さらに (0.5) あー、日本語は難しいです。あー、私は (1) ある人は、あ、できない (0.5) 難しいことが好きです。
- 11A : うー//ん
- 12C : あー、ですから、あー、日本語を (0.5) うーん (1) あー、勉強 (1) うーん (0.5) すると (0.5) あー m (2) うーん (0.5) あ (0.5) うーん (1) あー覚  
して、えー、かくご (1) あーしました。
- 13A : うーん、なるほど。じゃ、日本へ行ったことがありますか。
- 14C : あー m (1) うーん、いいえ、うーん、ことはありません。
- 15A : もし、行くことができたなら、どこへ行きたいんですか。
- 16C : あー m (0.5) 東 (1) あるいは、うーん、  
、あるいはーおおさこ [大阪]  
{笑い} あ、大阪 {笑いながら} または {笑い} または、えー m、  
都、あー  
(1) あー、  
都だと思います。
- 17A : どうして  
へ行きたいんですか。
- 18C : うーん (1) {笑い} ZZZ 先生は から 来ました。あー、彼女は、うーん、い  
ろいろなおもしろーい (0.5) あー、歴史、この (1) 町についての、あー、歴史を、  
はな、あー、歴史を話しました。ですから、あー、この町を (1) うーん、見た  
いです。

19A : うーんー、分かりました。日本人の友達がいますか。

20C : (0.5) サンクトペテルブルグにー、うーんー (0.5) 今、いません。

21A : うーんー、でも前に、あのー、留学していた人と、あのー、ちょっと良くなりました、ね。

22C : うーんー

23A : じゃ、その時、あの、その友達と一緒によく びましたか。

24C : (1.5) うーんー (2) あーmー (3) うーん (2) あーロシアの (0.5) 友達？ロ//シア

25A : に日本人の//友達でー

26C : あー日本人

27A : あのー、ロシアで、サンクトペテルブルグで留学していた人

28C : うーん (2) あー//ー

29A : という友達

30C : (1) あーm、うん (2) うーんー、例えばーYYYさんはーサンクトペテルブルグにーいましたー。あー (1.5) うーんー、私はー、XXXさんとー、YYYさんと、一緒に 店で びましたー。あーmー (1) うーんー (2) ある夜はー、うーんーー (2) あ (0.5) パーティーを (0.5) うーんー (1) しましたー。あー、 とー、いろいろな日本のー (1) うーんー、うん (0.5) 日本の料理が、ありました。

31A : ロシア料理は、その時、作りましたか。

32C : あー、日本の、あー日本の料理 (0.5) あー、いま、ありましたー。あー、YYYさんはー、あー、にほーんー、でー (1) あー (1) うん (1) をーするー (1.5) ひとー (1) あー (2) あ (0.5) ひとー (0.5) 人です {笑い}。

33A : いたま//え

34C : をする、あ？

35A : 前

36C : 前 (0.5) あー、うん、ですからー (0.5) うーんー (0.5) あ (0.5) 本当なー (0.5) あー日本の (1) を、あー作りました。

37A : うーん、その人作って、くれました。

38C : 作ってくれました、はい。

39A : なるほど。

### 絵1について

(2) {笑い} (3.5) あー (0.5) これは女の子? {笑い} あーmー (2) うーんー (2) 病気があり (1) 病気があります、あー、病気があります。ですからー (1.5) 学校へ (2.5) うーんー、いけ、行けませんでした。ですからー、うーんー (3.5) うーんー (4) うーんーうん (1) んーですからー、うん (2) もしかしたらー (0.5) え、先生はー、他の、うーんー (0.5) 学生 (0.5) に (1) うーんー (0.5) 「どここの (0.5) 女のこー、あー (1) ですか」とー (0.5) あー (1) 聞きます。

### 絵2について

(2) {笑い} Что это? {笑い} あー (5) あっ (1.5) {笑い} うーんー、これはー小さい子供 (0.5) あーm (1.5) うーんー (4) うーんー、日本語で分かりました (1) うーん (6.5) うーんー (9) うーんー (4.5) うん、日本語でわか、あー忘れしました (0.5) спать [筆者: 寝ている] あ、寝ている。この子供は寝てーいます、あーがー (1) うーんー (4) うーんーこの子供のー、うーん、お父さんはー、あー (0.5) この子供はー (1) うーんー (0.5) 寝ている、と (1) あ、寝ていることがほしいです。がー (1.5) あー (2) うーんーhuhum (5) あー、彼はー (1) うーんー (1) 部屋からー (2) はいー (1.5) ると、わかりません。あー (1) うんうんだからー、この子供は (2) うーんー (2) この後 (0.5) うーんー (3) 寝ていません。(5) うーんー (1) [筆者: 以上ですか] 以上です {笑い}。

### 絵3について

(2) あー (6.5) この人はーよっ (1.5) うーんー (3) うーん (2) 飲みたいではありません。あー (2.5) うーん、彼はー車がありまーす。あー (0.5) しかしたらー、家へ (1) いけ、あー (1) 行けなけれ、ば、あ、行かなければなりませんですからー、あー (2) あー、ですからー、あー (2) 飲みたいではありません。[筆者: はい (1.5) 次は] えー、このひとはー {笑いながら} わかりません {笑い} [筆者: Dさん] はい、Dさんはー、あーmー (2) うーんー (1) わかることができま、うーんー、わかるー、ことができませませんでした {笑い}。

### 絵4について

(5) うん (4) うーんー (3.5) {笑い} (6.5) うーんー (0.5) {笑い} (2.5) この女の (0.5) 子はー (1) うーんー (2.5) ん (1) このー、男のー、人一緒にー (1) うーんー (0.5) びたいです、がー (1) あのー、男の人はー、テレビを (1.5) あーm、見えています。[筆者:

もうちょっと考えてください]あ、これはー (0.5) {笑い} (7) あー、そうですね。(1) うーんー (1) あー、彼はー (0.5) うーん、とても (3) ちかーいー (1) んー、うーんー (3) あー、この人はー、あーmー、うーんー、彼はー (1) 近く、あーテレビー (1) うーんー、えー (0.5) うーんー、テレビーに、近くー、あー座っていますかー、この女のひ、女の子はー、うーんー、彼はー (2) うーんー (3) 長く座っ (0.5) ている、と (0.5) ほし、あー (0.5) んーほしいです。

### 絵5について

(6) この人々はー (1) でんしゃー (2) 電車を (1) 待っていますーす (0.5) がー (1) うーんー (0.5) 雪がーありまーす (1) あー、ですからー {笑い} (3) 長くー (1) 待っている (0.5) と思います {笑い}。

資料 2.2.38 インフォーマント 4g9 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。セレダと申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : はじめまして。XXX と申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは今何年生ですか。
- 04C : あー (2) 今はー (1) 4 年生学生です。
- 05A : 4 年生ですね。いつ日本語を勉強しはじめましたか。
- 06C : (2) 3 年間前 {笑い}
- 07A : どうして 3 年間前、日本語を勉強しはじめたんですか。
- 08C : うーんー、からー (0.5) うーんー、何か新しい外国語、勉強 (1) うーんー、勉強し  
たかったです。
- 09A : うーんー、じゃ、その前に、あのー、他の言語を勉強したことがありますね。
- 10C : はーい、あります。うーー、例えば、あのー (1) 学校でー (1) フランス語と英語 (1)  
を、えー英語がべんきょうー、うーんー、したことがあります。
- 11A : どうして二つの言語を学校で勉強しましたか。
- 12C : (2) {笑い} から、うーん (0.5) 勉強しなければなりませんでした {笑い}。
- 13A : まー、普段はー、あのー、学校で一つの外国語をみんな勉強しているんですけど、XXX  
さんの場合はー、あのー、二つの言語になったんですね。それはどうしてですか。
- 14C : 良い学校でした {笑い}。
- 15A : うーん
- 16C : {笑い}
- 17A : じゃ、日本語はどうですか。
- 18C : 大 夫 {笑い}
- 19A : 大 夫って、あのー (0.5) 難しくないんですか。
- 20C : はい、うーんー (0.5) 難しくてー、えー、ん、ん、面白い (0.5) 外国語です。
- 21A : うーん、日本へ行ったことがありますか。
- 22C : いいえ、oi は、えーーーいいえ、ありません。
- 23A : もし、行くことができたなら、どこへ行きたいんですか。
- 24C : (1) うーんー (1.5) 東 とか、北海道とか s-mーいいと思います {笑い}。
- 25A : どうして北海道へ行きたいんですか。

- 26C : うーんー、からー、うーんー、 気はー (1.5) うーんーロシアーようにです  
{笑い}。
- 27A : その他に理由がありますか。
- 28C : (1) すみません、もう一度
- 29A : その他に、理由が、ありますか。
- 30C : (4) うーんー (2.5) はい、あります {笑い}。から、えーー、え、今、日本の 踏  
家、と働いていまーすーそれでー、あー、うーん (0.5) あー、かつおんな、え、  
かつおの[大野一雄は] (0.5) あー、一番有名な、日本のぶどうか[ 踏家]です。え  
ー、かつおー[一雄] (1) おーの[大野]のー、うーん (4) デモほんこうー (0.5) 読  
みたい、え、とても読みたい、ですがー、この本はー、うーんー (1.5) 日本で、ん  
ー、だいたい、買うことができます (0.5) それで。
- 31A : うーんー、分かりました。日本人の友達//が
- 32C : がー、うーんーすみません {笑い}。
- 33A : どうぞ
- 34C : あーはー、たくさん理由あります。
- 35A : うーんー、じゃ、日本へ行ったことがありますか。
- 36C : (2)
- 37A : あ、そう！
- 38C : {笑い}
- 39A : えーとー、日本人の友達がありますか。
- 40C : はい (1) あ//ーとも、おとこ
- 41A : その友達はサンク
- 42C : うーん
- 43A : はい、どうぞ、どうぞ
- 44C : (1.5) 多い (0.5) 多い友達が {笑い} います。はい、どうぞ
- 45A : その友達はサンクトペテルブルグへ来たことがありますか。
- 46C : はい
- 47A : その友達は、今、サンクトペテルブルグにいらっしゃるんですか。
- 48C : sー[雑音]3 人がいます。
- 49A : うーんー、じゃ、その友達にサンクトペテルブルグのどこかを案内しましたか。

50C : (3.5)

51A : サントペテルブルグのどこかを、サン、案内しましたか。

52C : カオ (2) カオは何ですか。

53A : (1) サントペテルブルグのどこか

54C : あーどこか！

55A : 案内しましたか。

56C : (1) うーんー (5) わからない {笑い}。

57A : まー、普段はー、あのー、その友達と会って何をしてるんですか。

58C : (1) あーどこから？うーんー (1.5) あーー (0.5) んー、大学であるパーティーに  
(2)

59A : うーんー、なるほど。じゃ、もし、他の友達、まだサントペテルブルグに、来たことのない、友達が、サントペテルブルグに来たら、どこを案内しますか。

60C : (1.5) あー、例えばー、mー (2) うーんー (2) あーー私のー中国の旅行の時にー、あー、多い日本人 (0.5) と、会ったことが、んー、あります。それでー (1.5) うーんー、例えばー、中国からーに {笑い} 日本人の友達がいまーすー。例えば (0.5) うーんー、タイランドから (0.5) 日本人の友達

61A : じゃ、その人たちは、その友達//は

62C : うーん

63A : サントペテルブルグに、来たら

64C : あのー (0.5) あー、えー

65A : じゃ、来たことの、来たことはない。

66C : uhum

67A : もし、サントペテルブルグに来たら、

68C : uhum

69A : どこ、どこを、サントペテルブルグのどこを案内しますか。

70C : (3) はい、えー {笑い}

71A : どこを、案内するのは、どこを見せますか。

72C : (2) うーんー (5) うーん、うーん、たくさんところ、うーんー (2) あるーナイトクラブとかーある美術館とかー (1) ある 場とか (1.5) たくさんところ

73A : うーんー、どんなクラブへ連れて行きますか。

74C: (3) グリボエドフとか {笑い} うーんー、サンクトペテルブルグにはー、あー、たくさんクラブで (1) 行ったことが、あー日本人と行ったことがあります。

75A: うーんー、どうしてグリボエドフへ行きますか。

76C: (3) うーんー、あのー、うーん、うーん (1) うーんー (2) ある時にー、うーんー、日本人の友達は、ウォッカを飲みたかったです。それでー (0.5) 私は「はい、みんな、グリボエドフへ行きましょう」と言った {笑い}

77A: なるほど。

### 絵1について

(3.5) この絵にはー (0.5) あー、に、うーんー、この (0.5) 絵にはー (1) うーんーんー病気 (0.5) なった (0.5) 彼女 (2) が、んー、え、がれてまーす[描かれています]。  
(1) えーこの彼女はー (2) がっ、こう (1.5) についてかんー、考えます。(1) 以上です {笑い}。[筆者: もうちょっと考えてください]あー (4) うーんー (2.5) あ、彼女のー、先生はー、うーんー、例えば、こん、彼女の名前はーマシャーです {笑い}。えー (1) 先生はー (1.5) あー (0.5) みんな (0.5) マシャーー (1) どこ (1) どこかと (1.5) うーんーいー聞くー、ことにー、ついて、考えます。(2) うーんー (1) [筆者: 以上ですか] はい、以上です。

### 絵2について

(2) うーんー (4.5) あの人のーお、はー (1) 眠っています、(1) がー (0.5) この人はー (0.5) ある (1) パーティーへ行かなければなりません。それでー、とても、静か (2) あー、歩いています。

### 絵3について

(12) ふたり友達はー、うーんー (4) あ、あ、食べ物を、食べ (0.5) てます。えー (4) この人はー (2) うーんー (1) うーんー (1.5) この人はー、khmー、友達とビールのみたいたですがー (0.5) うーんー (2.5) この人は (0.5) あー (0.5) 私はー、うーんー、く、車でーえー、帰ると言ったー。(1) それでー、ビール、えー、ビール飲んではいけない、いけません。

### 絵4について

(8.5) あー (3.5) あー (1) この (0.5) えーにはー (1) うーんー (2.5) お母さんと

— (0.5) 子供、が、m—、ん— (3.5) います。え—、お母さんは— (0.5) ん、子供に  
— (1) う—ん— (0.5) あ—例えば「あなたは、と、う—ん、あなたはテレビからと  
ても近い座ってる」(0.5) と (1) う—ん— (1.5) とい {笑い} (2) ということが—、う  
—ん—、言います。{笑い}

#### 絵5について

(4) 多い人々は— (0.5) う—ん—、れんしゃ[列車?]の駅で (1) う—ん—、あ—れん  
しゃ[列車] う—ん (1) を、待ってます、(0.5) が— (0.5) う—ん— (3.5) う—ん—  
— (5) が、う—ん— (1.5) う—ん—、たくさん— (1.5) 雪があるそれで、う—ん—  
(1) oi え—、たくさん雪があるだから、oi それで (1) あ—、oi それから {笑い} あ  
—列車、あ—来ては—、いけない、と—聞きます {笑い}。

資料 2.2.39 インフォーマント 4g10 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。セレダと申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : どうぞ宜しく。XXX と申します。
- 03A : XXX さんは、今、何年生ですか。
- 04C : 今は4年生です。
- 05A : 4年生ですねー。いつ日本語を勉強しはじめましたか。
- 06C : えーとー (1) 小学校のー、5年生でしたので (1) あー何年前ぐらい {笑い} えーとー (0.5) もう9年前ぐらいでしたね {笑い}。
- 07A : うーんー、長いですね。どうして、小学校で日本語を勉強しはじめたんですか。
- 08C : えーとー、小学校でお父さん (0.5) 日本語の先生でしたので (1) あー、ですからー (0.5) あっ、家族には私とお父さんお さんも日本語勉強、しますので (1) ま (1) その理由で {笑い} 勉強しはじめました。
- 09A : うーんー、日本語はどうですか。
- 10C : 面白くて難しいです。
- 11A : どうして難しいと思っていらっしゃるんですか。
- 12C : (1.5) うーんー、話すのは面白いもちろん (1) あー、でも (1.5) 漢字はー {笑い} えー、ちょっと大変です。(1) あー (2) まー、たぶん (0.5) 読む、のはー、ちょっと難しいと思います。
- 13A : なるほど。じゃ、あのー、日本へ行ったことがありますね。
- 14C : はい、そうです。
- 15A : どこへ行きましたか。
- 16C : あー (1.5) 東 に住んでいました。
- 17A : どうして東 にす、住むことになったんですか。
- 18C : あー (0.5) お父さんはー東 のXXX大学で (1) えー (0.5) 仕事をしましたのでー (1) あー (1.5) い、あー、家族と一緒に (0.5) その一年間東 に住んでいました。
- 19A : うーんー、なるほど。じゃー、日本人の友達がありますねー。
- 20C : 日本人の友達はー、いませんすけどー、日本のー学校でー (0.5) 中国の友達があります {笑い}。
- 21A : うーんー、なるほど。その友達と何語で話しましたか。

22C: まー、日本語で話しました。

23A: じゃー、その友達は、もし、サンクトペテルブルグに来たら、サンクトペテルブルグのどこを案内しますか。

24C: (1) まー (1) 始めにはもちろんエルミタージュ美術館 (1) あとはー (1.5) ま (0.5) たぶん、車でー、町の中に、ぐるぐるして、ぐるぐるすると (1) あっちこっちー行ったり (1) うーんー (1) まー少しー、ずつ (0.5) うーんー、案内します。ぜんぶ町を案内します。一番きれいなところ

25A: うーん//ー

26C: 案内したいと思います。

27A: 最初に、まず、エルミタージュ、に行くとおっしゃいましたね。

28C: う//ーん

29A: それはどうしてですか。

30C: まー、エルミタージュはー世界中のー (1) {笑い} 一番有名な美術館としますので、誰でもどのせき、どの国でも、エルミタージュを (1) 知っています。たぶん (0.5) あー、ロシアのサンクトペテルブルグの (0.5) あー、サンクトペテルブルグにー (1.5) あー何を知っていますー、か (0.5) という質問するとー、たぶん、エルミタージュ美術館という答えが (0.5) 聞くことはできます。

31A: うーんー、分かりました。

### 絵1について

うーんー (1) この絵にはー (2.5) うーんー (2.5) 病気になった女の子が (1) 見えます。  
(1) うーんー、がっく、うーんー (1) たぶん (1) しょー、小学校か中学校のー学生です。  
(1.5) 病気になったのでー (0.5) 学校行くことはでき、できませんでした。

### 絵2について

(2.5) あーと {笑い} ちいっちゃん子供が寝ていますのでー (0.5) お父さんは (1.5) 静かに (1) えー (0.5) 部屋を出ます。

### 絵3について

(2.5) えっとー (1) あっ、たぶん、ふたつ、あー、2人の友達はー (1.5) うーんー、シヤッシリクを食べる時 (1) あー (1) 一人はビールを飲んでます。(1) あー (2.5) ふた、

あー、その、あー (4) もう一人はー運転しますので、ビール飲むことはできません。

#### 絵4について

(2.5) うーんー (1.5) あ (1) お母さんの考えではー、あー、子供はテレビが (1) 近くすぎる (0.5) 見ているので (1) もっと遠い (0.5) もっと遠くに、座ったほうがいい、と言っています。

#### 絵5について

(4) えーとー (3.5) 人々はー (1) 駅でー、電車を待っています、けどー (1.5) あー (1) でん、え (0.5) 大雪で電車はー (0.5) 走れませんかというニュースを、聞こえます。(4.5) [筆者：どうして電車がいないんですか]あー、雪がー、たくさん降りましたので。

## 資料 2.2.40 インフォーマント 4k1 の発話

### 「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。セレダと申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : はじめまして、私の名前は XXX です。宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは今何年生ですか。
- 04C : 私は今 4 年生です。
- 05A : 4 年生ですね。いつ日本語を勉強し始めましたか。
- 06C : あ、私は—5 年 (1) 間ぐらい前に— (0.5) 日本語を、あ、勉強しに—、あ— (1) 始まりました。
- 07A : う—ん、どうして日本語を勉強し始めたんですか。
- 08C : 私は—一年間ぐらい、 都で住んでいましたから—、日本は—、あ—、好きになりました。
- 09A : あ、そうですか。
- 10C : うん
- 11A : 都のどの辺に住んでいましたか。
- 12C : あ—、私は山科で、住んでいました。母は、あ—、仕事していますから—
- 13A : うん
- 14C : うん
- 15A : なるほど。日本語はどうですか。
- 16C : 日本語は— (0.5) ちょっと難しいです。
- 17A : あ、そうですか。どうしてですか。
- 18C : あの、漢字はとても難しいです。あ— (0.5) あ、新聞を読むことは、大変です。
- 19A : う—ん、なるほど、じゃ—、あ—、1 年間日本に住んでいたんですね—。
- 20C : はい、そうです。
- 21A : その時、あ—、どん、どこへ、行きましたか。
- 22C : 私は—、あ、いろいろなところへ行きました。しかし、私はちょっと、日本の学校で—勉強しました。
- 23A : uhu
- 24C : あ—、毎日日本の学校へ行きました。
- 25A : う—ん、学校の他に、あ—、どこかへ見学とか—旅行へ—、旅行に行きましたか。

26C: はい、もちろん、私は一回に東 に行きました。あのー、 都でいろいろな寺へ行きました。

27A: どうして東 へ行ったんですか。

28C: あっ、あー、母はー、あのー (0.5) あーmー、会議がありましたからー

29A: うーん

30C: 私たちはー東 へ行きました。しかし、わた、あー、東 で (0.5) あ、2 日間ぐらい (1) いました。

31A: なるほど。日本人の友達がありますか。

32C: うん、はい、います。

33A: その友達はサンクトペテルブルグに来たことがありますか。

34C: うん、まだで、もー、え、たぶん、来年

35A: うー//んー

36C: 来ます。

37A: そうですか。じゃ、その友達に、サンクトペテルブルグのどこを案内しますか。

38C: (2) うん、サンクトペテルブルグでーいろいろなー (0.5) ところがあります (0.5) からー (0.5) あのー、私の友達はー (1) あのーダンスをしていますからー (0.5) マリインスキー・パ、あ、うーんー、マリインスキ (1) 場へ行きたいです。

39A: うーん、なるほど。

### 絵1について

(5.5) この、これ、この写真 (0.5) で、学校 (1.5) です。(1) そう思います。で、しかしー (1) あのー (1.5) 一つのー女の子はー寝 しました。(1) あっ (1) たぶん (1) あっ[筆者: ちょっと考えてください]あっ、はい (5) あっ、いいえ、たぶん (0.5) あの、この女の子はー病気になるました。あのー (0.5) えー、ベッドのそばに が (0.5) あります。[筆者: Uhu ]あー、先生は (0.5) うーmー (1) 今、あー学生にー (1) えー (1.5) 「返事をしてください」と言いました。しかし、女の子は (1) いませんでした。[筆者: うーん、彼女は どうして来てないんですか] (3) 知りません。たぶん (1) かぜをひいた。[筆者: uhum]そう思います。

### 絵2について

(1.5) {笑い} (1) ちょっとわかりません。(1) [筆者：ごゆっくり (1) ちょっと時間をとってください] (1) この写真でお父さんと (1.5) あっ、赤ちゃんがいます。[筆者：uhum] (2.5) 赤ちゃんは (1) ねて、寝ています。しかし、お父さんは何について、考えていますか。(2) わかりません。[筆者：何でしょう] (1) あっ、子供は (2) たぶん、子供は泣いていますと思いました。(0.5) しかし、子供は (1.5) 寝ています。(1.5) {笑い} [筆者：それで]それで (1.5) あー！ (0.5) はい、わかりました。それで、お父さんはゆっくり、あのー (0.5) たぶんどこへか行きます。[筆者：うん、じゃ、もう一回お願いします] (1) この写真でお父さんと赤ちゃんがいます。お父さん、えー (0.5) え、赤ちゃんは (1) あのー (0.5) あ、寝ていますからー、お父さんは外へ行きたいです。

### 絵3について

(5) あ、一人、おー、男の人はー (0.5) あ (1) くら、車でーどこへか、行きます (0.5) からー、あのー、お はー (0.5) 飲みたくない、です。

### 絵4について

(4) あ (2.5) テレビ、のー前に、すむ[座る?]ことは、だめです。たぶん、あー、目にー (2) あのー (1) ないからー、あ (0.5) ちょっと (1) 1メートルぐらい (2.5) うーんー {笑い} (1) あ、すむ[座る?]こと、とー、あのー、あー (0.5) 本、あーmー、テレビの、 はー1メートルぐらいー (1) しなければならない。[筆者：はい] {笑い}

### 絵5について

(4) この写真でロシア (1.5) と思います。あのー、雪がたくさん降りましたからー、電車はー (1.5) あのー (1) 来ません。[筆者：はい、ありがとう//ございました]たぶん、遅くなりました。

資料 2.2.41 インフォーマント 4k2 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。セレダと申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : はじめまして、XXX と申します。どうぞ宜しく。
- 03A : XXX さんは今何年生ですか。
- 04C : 今 4 年生です。
- 05A : 四年生ですね。いつ日本語を勉強し始めましたか。
- 06C : あー、にほんごー、えー、2002 年に、えー、勉強する、えーことを、はじめました。
- 07A : どうして勉強しはじめたんですか。
- 08C : あー、私がー卒業した学校ではー、あーにほーんー歴史、そして (0.5) 日本文化の  
授業んーがあったからー、あー私にととも (0.5) あー面白いでした。
- 09A : うーん、日本語はどうですか。
- 10C : あー、面白い、しかしーえーうーんー、とてもー、難しい {笑い}。
- 11A : どうしてそう思っているんですか。
- 12C : あー、うーんー、ぶん んー[文法?]ですからー、あーmーヨーロッパごーのー、  
えー、んーうーんー、ヨーロッパごーの変わって、うーん、難しいと思います。
- 13A : うーん、日本へ行ったことがありますか。
- 14C : あー、まだー行ったことがありません。
- 15A : もし、行くことができたら、どこへ行きたいんですか。
- 16C : あー (0.5) 東 へ行きたいんです。
- 17A : どうして東 ですか。
- 18C : あーmーんーんー、生活はー、あー学生、えー、にとって、うーん、面白い面白  
いと思います。
- 19A : うーん、そうですか。日本人の友達がありますか。
- 20C : えー、いません {笑い}。
- 21A : もし、あー、日本の、日本人の友達ができ、その友達が、サンクトペテルブルグ  
に来たら、さんと、サンクトペテルブルグのどこを案内しますか。
- 22C : (1.5) あーmー {笑い} あー、まずー、えーんーサンクトペテルブルグをー見せ  
ます。
- 23A : (1) 具体的には

24C : (1.5) あーmー、えー町の中心 (1.5)

25A : 例えば

26C : 例えばー、あー (0.5) えーえー、ー の 殿、あー、そして、あーmーネフスキー  
大通り (0.5) うーんー、えー、そして、辺りの場所。

27A : うーん、まず、あのーサンクトペテルブルグの中心だ、とおっしゃいましたね。どう  
してですか。

28C : あーmー、kh//mー

29A : 夏 殿とかではなくてー

30C : ですからー、うーんーーえー、ペテルブルグのー建物はーとてもきれい。

31A : うーん、なるほど。ありがとうございました。

### 絵 1 について

あーmー (1.5) u-huhumー、こっちー、えー (0.5) うんーーー学生はー (0.5) えー病気  
になりました。(1) んですからー (1) あー授業をー (1.5) 休みます。

### 絵 2 について

(5) あーこっち、あーーmー、mー、子供ちゃんは、うーんー、寝ているから (0.5) えー  
(0.5) この (1) 男は、あーm (0.5) うーんーー黙って、えーーーー、うん、黙って、歩  
いて見ます。

### 絵 3 について

(2) うーんー (2.5) あーmー、こっち、ひとりは (0.5) あーアルコールの飲みものー (0.5)  
あー (0.5) 飲んでいるー。(0.5) うーんー (1.5) うーーんー、しかしー、えー (1.5) お、  
別の人は一、うーんー、車を、あー (0.5) 使ってから、あーアルコールのー、あっ、アル  
コールをあーー、うーんーー飲みたくない。

### 絵 4 について

(8) うーんー (4.5) あー、こっち、うーんー、一人のー、こどもはー、あーテレビをー  
みっ、うんーー見えています。しかしー、えー (1.5) うーんーーうんー別の、あー (1) 子  
供ちゃんはー (1.5) うーんーー (1) あっ、別の子供ちゃんにとってーあーそれはー、い  
やなものだと思います。[筆者：もうちょっと考えてください] (18) あ、{笑い} わかりま  
した。あーmー (1.5) うーんー、この、子供ちゃんは (0.5) うーーんーーえー、ちょっとー、

えー、うんー、近い、えー、近いにー、テレビを見ている。(3) [筆者：で、その女の人は？] (1) えー {笑い} 女のひ (0.5) えー人にとって、うーんー、あ、「それはー、うーんー、あ正しくないなもの」とー思っています。[筆者：それはどうしてですか] あーmーテレビをーおー (1.5) えーmー (1) 近いにー、えー、を見ること (1)

#### 絵5について

(3) うーんー人々はー (0.5) えー列車を (0.5) あー (0.5) 待っています。あー、えー、しかしー (1) うーんーえーえーラジオ[ラジオ]で (0.5) え「列車は、うーんー、できることができない」と、案内しています。(4) [筆者：電車はどうしたんですか] (2) うーんー (0.5) あー電車はー (1) うーんー (1.5) うー (0.5) 来れません。(1.5) うーんー、とラジオ[ラジオ]で案内しています。

資料 2.2.42 インフォーマント 4k3 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。セレダと申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : はじめまして、私は XXX です。どうぞ宜しく。
- 03A : XXX さんは今、何年生ですか。
- 04C : 4 年生です。
- 05A : 4 年生ですね。
- 06C : うん
- 07A : いつ日本語を勉強しはじめましたか。
- 08C : あー m (0.5) に sー、にせん、さんねんにーあーはじまり、はじめまりました。
- 09A : どうして日本語を勉強しはじめたんですか。
- 10C : あー m {笑い} 私、あー、父の夢でした。ですからー、うんー、あー日本語を勉強して、はじめました。
- 11A : あ、そうですか。XXX さんの夢ではなくて、お父さんの、夢でし//たね。
- 12C : はいはいはい、そ//うです。
- 13A : なるほど。日本語はどうですか。
- 14C : 難しいです。
- 15A : どうして難しいと思っていらっしゃるんですか。
- 16C : あー (1.5) ロシアじんーーにとってー、あー日本語の、あー文法はとても難しいだと思っています。
- 17A : うーん、そうですか。具体的には？
- 18C : あ (1)
- 19A : 例えば、何が難しいですか。
- 20C : うーんーー {笑い} 例えばー (4) сложно сказать、ん、日本語でーうーんーー難しいーいしつめい[説明]難しいします。
- 21A : うん、わかりました。じゃー、あの一、XXX さんは、日本へ行ったことがありますか。
- 22C : いいえ、ありません。
- 23A : もし、行くことができたらー、どこへ行きたいんですか。
- 24C : {笑い} あー、東、へー行くという夢を、抱きます。
- 25A : あ、そうですか。

26C : うん

27A : 東 ですか。

28C : はい

29A : どうして東 へ行きたいんですか。

30C : あーmー、日本の中心 {笑い} ですからー

31A : うーんー、なるほど。日本人の友達がありますか。

32C : あー、はい、います。

33A : その友達はサンクトペテルブルグに来たことがありますか。

34C : はい、あります。

35A : いつ来ましたか。

36C : あーmー (2) 2年あと {笑い}

37A : うーんー

38C : あー、あー、そしてー今 (3) 一人だけ (0.5) あー友達、がいます {笑い}。

39A : うーんー、で、あのー、もう一人は、2年前、サンクトペテルブルグに来たこと//が

40C : あー、はい、はいそうです。

41A : なるほど。その時、その友達と一緒にどこへ行きましたか。

42C : あーサンクトペテルブルグに？

43A : そうですね。

44C : うーーんー (1) さん しましただけ {笑い}。

45A : どの辺、散歩しましたか。

46C : あーm (2.5) ネヴスキー大通り、あーんー、そしてー (1) クラブへー行ったー (0.5)  
そして (1) 店でー、うーんー、会いました {笑い}。

47A : うーんー、どんなクラブへ行きましたか。

48C : あー、例えばー (1) Moloko というクラブ、あー、そして Red Club という {笑い}  
あー (1) いろいろな

49A : うーん、どうして、そのクラブを選びましたか。

50C : {笑い} あーmー (2) mーおなじー、あーおんがくー (0.5) あーがー、 、好き (0.5)  
好き、え、でした、あーmー (0.5) ですから {笑い} あーそ、そのく、あークラブへ、  
い、行った、行きました。

51A : うーん、なるほど。

52C : {笑い}

53A : ありがとうございます。

### 絵 1 について

(7.5) うーん、彼女はーあー病気にー、あー (0.5) なってー、あーがっこうーをー休みましたー。あーそしてー を (1) 飲んでいまーすー。いまー夢をー、見てーいまーすー。

(1) {笑い} あー (1) クラスの、授業を、m、見まーすー、見えています。

### 絵 2 について

(9.5) 赤ちゃん、あー、今赤ちゃんはー、あーーんー寝てーいまーす。あーですからー、あーお父さんはー (0.5) あー (0.5) разбудить (1) не помню как по-японски (3) uーhumー (3) как будет разбудить (4) [筆者：ちょっと、他の言葉で言ってみてください] (3.5) あーmー、あー、い、あー、ですからーお父さん、は、あー、赤ちゃん (1) んー、泣きはじ mーmー (1) はじまる、あー (2) うーんー、はじまる (3) という可能性、がー、あーmー (1.5) うる sー、うる (0.5) せまず、うる бояться うるさい (4) うーんー、ちょっと難しい {笑い}

### 絵 3 について

(12) うんー、男の人はー、あーm (1) びー[ビール]をー (0.5) あーmー、飲みません、ですからー、あーm (2) あーー (2) господи、машину водить (3) う、運転 (0.5) をーします {笑い}。

### 絵 4 について

(15.5) khmkhmー (2.5) あー男の子はー、あー (2.5) テレビに (1) をー (2) ち、ちかにテレビをー、あーm (0.5) 見ているのでー、あー母はー、うーんーし (2.5) しかりていまーす[ っています]。あーmー (1) ちょっとー (1.5) 遠い (2) あー (1.5) でー {笑い} あーテレビをー、見るー、うん (3) 見るようにとー頼みます。

### 絵 5 について

(18.5) あー雪がふってーいまーすー。あーですからー (1) あー (1.5) 電車はー、あー行くことができませーん。あー (1.5) господи (3) {笑い} たくさん雪が降った {笑い} 降ってしまいました {笑い}。

資料 2.2.43 インフォーマント 4k4 の発話

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。セレダと申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : はい、はじめまして、あーXXX と申します。
- 03A : XXX さんは、今何年生ですか。
- 04C : 4 年生です。
- 05A : 4 年生ですね。いつ日本語を勉強しはじめましたか。
- 06C : うーん (1.5) にせん (0.5) さんねん (0.5) からー (0.5) 日本語を勉強しています。
- 07A : どうして日本語を勉強しはじめたんですか。
- 08C : (1) うーん (1) 本当に知りません。きれーい、あー、きれいことばーからです。
- 09A : うーん、なるほど。日本語はどうですか。
- 10C : うん、日本語は難しいです。でもー、いま中国を勉強しはじめましたー。中国より、日本語はー、あまり難しくないです。
- 11A : それはどうしてですか。
- 12C : 中国は一番難しい言葉と思います。
- 13A : あー、中国語は一何が難しいですか。
- 14C : なんに
- 15A : 何が、難しいですか。
- 16C : うーん、発音は一番難しい＝
- 17A : ＝うーん、日本へ行ったことがありますか。
- 18C : いいえ、まだ、ありません。でも、来年、留学するつもりがある。
- 19A : あ、そうですか。どこへ、行くんですか。
- 20C : 新潟へ行く
- 21A : あー新潟ですか。うーん。どうして新潟へ、行くことになりましたか。
- 22C : うん、可能が (0.5) ありますから。
- 23A : 具体的には
- 24C : うーんー (1.5) あー、私たちの、え、サンクトペテルブルグ国立大学はー、新潟大学とー、交流 (0.5) します。
- 25A : うーんー、なるほど。じゃー、日本人の友達がありますか。
- 26C : はい、います。

- 27A : その友達はサンクトペテルブルグに来たことがありますか。
- 28C : はい、サンクトペテルブルグに留学します。
- 29A : あー、今しているんですか。
- 30C : はい
- 31A : うーん、じゃーその友達と一緒によく nderんですか。
- 32C : はい、よく nderん
- 33A : その時、やー、どこへ、行ってるんですか。
- 34C : うーんー、いろいろなところへ行きます。例えばー、きつさてーんへー (0.5) い、  
行きまーす。そしてー (1) うーんー (1) 時々一緒に勉強しています、宿題をしま//  
す。
- 35A : 一緒に勉強されるんですか。
- 36C : はい、はい
- 37A : どうして一緒に勉強しているんですか。
- 38C : うん、その友達はー私、にーたいへん手伝います。
- 39A : あー、なるほど。
- 40C : うん
- 41A : じゃー、あのー、まー、たまに、あのー、会ってー
- 42C : うん
- 43A : 一緒に 店で時間を過ごすん//ですね。
- 44C : うん、はい
- 45A : どんな 店へ行きますか。
- 46C : うーんー (1) 日によって違います。
- 47A : {笑い}
- 48C : えー (3) はい {笑い}
- 49A : 例えば
- 50C : 例えば (0.5) あーs、あーmー、Subway へ、行きます。そして、し、日本人はーСевер  
という 店が大好きです。
- 51A : あ、そうですか。どうして日本人は大好きなんでしょうか。
- 52C : おいしいケーキからだ。
- 53A : あー、なるほど。

54C : うん

55A : ありがとうございます。

### 絵 1 について

(2) うん (3) はい (1) これは、日本の (0.5) 学校の、絵です。うーmー (2) 子供はークラスにいますが、あー、そのー、あー、んー、女の子はー病気になってー (0.5) 学校に来ません。

### 絵 2 について

(4) うん (1) 小さな子供はー (0.5) いま (0.5) 寝ていまーす。(1.5) おっ、お父さん？ (0.5) お父さんでしょ、お父さん、はー (0.5) あー、部屋に出ます。(1.5) うーんー、子供をー (0.5) おき、おきーらない、ために (2) 部屋に出ます。

### 絵 3 について

(3) うん (2.5) あー、人はー (1) あー (1) 今くる (0.5) 車のー (0.5) 今レストランにいます。でま、今日はー (1) 車の運転、して (1) あー、ビールを、飲みません。

### 絵 4 について

(2.5) h-m (2) 子供はーテレビ (0.5) をー見ることがー、好きだそうです。(1) でも (0.5) あー子供の (1) 母はー (1.5) 「だめ」と言います。(1) だめ (2) [筆者：どうしてだめだとー (1.5) 言ってるんでしょうか]うん、あー！子供はー、あー、うーん、テレビの近いにいまーす。(1) でもー、母はー (0.5) あー、「もっと遠く座ってください」と (0.5) 言う (0.5) 言います。

### 絵 5 について

(5) {笑い} (4) いまー (3.5) うん、あー、んー、その絵はー、ふ の時、 の時です。あー、人々はー電車を (0.5) あー待っていまーす。(0.5) でもー、電車が来ませーん。(1) ですからー、人々はーが、我 しています。

## 資料 2.2.44 インフォーマント 4k5 の発話

### 「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。セレダと申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : はじめまして。あ、XXX だと申します。宜しくお願いします。
- 03A : XXX さんは今何年生ですか。
- 04C : あい、今 4 年生です。
- 05A : 4 年生ですね。いつ日本語を勉強しはじめましたか。
- 06C : あーm、日本語をー、え (1.5) 2003 年から勉強しています。
- 07A : そうですね。どうして日本語を勉強しはじめたんですか。
- 08C : あー学校からー日本にー、え (1) 興味があったからー、えー日本語と日本文化 (1) とー日本歴史 (0.5) をー、勉強しー、はじめました。
- 09A : うーん、なるほど。日本語はどうですか。
- 10C : えー、難しいです。漢字はちょっと難しい。
- 11A : うーん、そうですか。日本へ行ったことがありますか。
- 12C : まだです。
- 13A : もし、日本へ行く、行くことができたら、どこへ行きたいんですか。
- 14C : あー、たぶーんー関西とー (0.5) 東、んー、へ、行きたいです。
- 15A : どうして関西へ行きたいんですか。皆さんは東、行きたがってるんですけど。
- 16C : あー、東にはー大阪とー都がーある、からー。えーそして (0.5) えーいろいろな歴史のところ、も、あります。
- 17A : うーんー、なるほど。(2) じゃー、もしかしたら日本人の友達が、いますか。
- 18C : (1) ちょっといます。(1) います {笑い}。
- 19A : その友達はサンクトペテルブルグに来たことがありますか。
- 20C : あ、そのーんー友達はにほ、うー、サンクトペテルブルグに来ました。そしてサンクトペテルブルグに、えー (1) 会いました。
- 21A : うーん、いつに、あーサンクトペテルブルグに来ましたか。
- 22C : あーんー夏とー (1) あーmーmhhm (1) 今年の一、学年 (0.5) の時、うーんー、会いました、友達になりました。
- 23A : うーんー、なるほど。その友達は今サンクトペテルブルグにいらっしゃいますか。
- 24C : 残念ながら、日本へ帰りました {笑い}。



(0.5) と思います。はー (0.5) お、にー「あのー (1.5) テレビを見ないで」と言っています。(0.5) そうと思います。[筆者：うーん、もうちょっと考えてください] (1) uhum、もうちょっと (2.5) 第一のテレビにはーふたりの が (1) あるとー (1) うん、あります。あーm (0.5) 他のー (1) テレビにはー (1.5) 一つのー があります。[筆者：まー、じゃなくて、ちょっとテレビについて考えてください] {笑い} [筆者：どうしてふたつの、どうして二台のテレビがあるんでしょうか] どうして {笑い} 心理学のものですか。[筆者：心理学じゃなくて、もうちょっと考えてください] あのー、んー、二つのイメージは、うーんー (1) のイメージです。(2) たぶん (0.5) についてお (0.5) 覚えています、のーおーmm もいんでいます。(1) あー！うるさ、うるさくなりました、たぶん。(2) [筆者：はーい] おとうさん (1) 音がとても高いです。

#### 絵5について

aha、これはー、えーロシアの普通のげしき[景色]です。(1) あ (2) たくさん、お、大勢の人たちがー (0.5) 車 (1.5) 車と思います、車を (3) 待っています。(1) そして、寒いからー、あのー (0.5) 寒いし (1) 寒いしー、あーmー、雨がー (0.5) 降るしー (0.5) 人たちがー、あーmーう、車に、んー乗りたーい、と思います。(3.5) aha (2) 駅の人たちが (2.5) 駅の人たちが「車がー来ることがーできんー (1) できない」とー、言いました (1.5)。[筆者：それはどうしてでしょうか] (1.5) あーmー (1) 雨がたくさんー降ったそうです。

## 資料 2.2.45 インフォーマント 4k6 の場合

### 「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。セレダと申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : はじめまして。XXX と申します。サンクトペテルブルグ大学の4年生です。
- 03A : 4年生ですね。いつ日本語を勉強しはじめましたか。
- 04C : うん、1年生の時からです。
- 05A : うーん、どうして日本語を勉強しはじめましたか。
- 06C : うん、はじめにー、日本史の教師にー、あーなりたかった、です。
- 07A : あ、そうですか。どうして教師になりたかったんでしょうか。
- 08C : うーんー {笑い} (0.5) ちょっとー今わ//かりません
- 09A : 通訳ではなくて
- 10C : うん、歴史がー、え、日本史がー、一番好きだったからです。
- 11A : うー//んー
- 12C : うん、がくせー、えーとー、生徒の時、学生のー (1) あー、時から (1) ちょっと難しいーです。
- 13A : うーん、なるほど。日本語はどうですか。
- 14C : うん、おもしろーい、おもしろーいじゃないけど、えと、漢字がー一番好きです。
- 15A : 漢字が好きですか。
- 16C : はーい
- 17A : どうして漢字が好きなんんでしょうか。
- 18C : うーんー (0.5) 絵のようです。えーとー、例えばー漢字をー、んー初めて見たとーき、あ、漢字のぶぶんーをー、あーわかればー、漢字のー意味をよくわかり、わかるようになります。
- 19A : うーん、なるほど。じゃー、日本へ行ったことがありますか。
- 20C : うん、残念だ。なんで (0.5) ありませんでした。
- 21A : うーんー。もし、行くことができれば、どこへ行きたいんですか。
- 22C : うん (0.5) あー他の学生のように、とうきょうーへ行きたいです。
- 23A : どうして東 へ行きたいんで//しょうか。
- 24C : うん、一番大きな町です。そーしてー、えーとー、歴史的のセンターでした。えと、時代センター (0.5) でした。

25A : うーん//ー

26C : えどー[ ]時代がー一番好き、歴史的、歴史にー、 時代がー一番好きです。

27A : うーんー、なるほど。じゃー、もしかしたら日本人の友達が、いまー、いるんでしょ  
うか。

28C : はい、います。でもー、えーとー、Eメールを使つt、使え、使えますけどー、あー  
よくてがみー、の交換しません。時間がありませんからです。

29A : うーんー、その友達はーサンクトペテルブルグに来たことがありますか。

30C : うん、残念なんでー {笑い} そういうことはありません//でした。

31A : うーん、じゃー、その友達がサンクトペテルブルグに来たら、サンクトペテルブルグ  
のどこを案内しま、しますか。

32C : うん、はじめにー ルミタージュ[エルミタージュ]をー (0.5) んーの案内します。  
あー、そのあーとー (0.5) えーと、マリインスキー 場 (0.5) へ、一緒に行きます。

33A : うーん、どうして、まず、エルミタージュへ行きますでしょうか。

34C : うん、エルミタージュはー、一番大きなー博物館だからです。とても有名です {笑い}

35A : うーんー、なるほど。

### 絵1について

うん (3) うん (1) うん、このー (1) えーはー、えっと、夢のようと思います。えとーが  
くせーいーはー病気にーなったけど、ゆーめにー、あー学校の授業を見まーす。(1) え、  
んー、そして、ちょっと、残念のこと感じりまーす、t、た、たーぶん。(1) でもよくわか  
りません。ちょっと変なんです。

### 絵2について

(2) 次はー、えっと (0.5) あー、これはー (0.5) わかーいお父さんです。(0.5) やー彼  
は {笑い} あー、初めに、あー、お父さんになったけどー、子供はー、いまー、寝てーい  
ーるー、から、ちょっと静かに歩きます {笑い} [筆者：はい]えーと、子供が (0.5) えあ  
ー、「あー」という、ように (1) びー、ならないように、そういうことをします。

### 絵3について

うん (2) 次はー、えっと (5) たぶんリラックスをする時の (1) あー男の人、は、えーとも  
だーちー、と一緒にー (1.5) うーんー例えば、んー、どこかへ (0.5) あーウォッカー

を、んー、ビールを (1) 飲まないー、飲み、飲みたくなーい、です。あー、これはう運転手だからです。[筆者：うーん]ちょっと変なイメージです。

#### 絵4について

うん (1) これは、あー家族のー、普通のー、シーンです。えーとー (0.5) 兄はー、あー、お、 にー (0.5) 「あーそういう映画を (1.5) 見ないでください」と言いまーす。(1) または、母で (1) [筆者：もうちょっと考えてください] (5.5) うん (3) あっ! (0.5) わかりました。えとー、その (0.5) 男の子はー (0.5) あーテレビを、んーm (1) ととてもー近くー見ますけどー、これは、目にー悪い。だから (0.5) 母はー、「ちょっとー (1) 遠く座ってください」とー言います、または考えます。

#### 絵5について

うん (0.5) 最後にー (0.5) うん、あー に人はー (1) えっとー (2.5) あー 車をー待ちます。(1.5) でも、何かがー、起こったからー、 車は (1) たべません[べません]。そして、人はー長く待ちまーす、その 車。

資料 2.2.46 インフォーマント 4k7 の場合

「半構造化」インタビュー

- 01A : はじめまして。セレダと申します。どうぞ宜しくお願いします。
- 02C : (2) сказать?
- 03A : お名前は?
- 04C : あ、お名前、私のね、私は XXX と申します。宜しくお願いいたします。
- 05A : XXX さんは今何年生ですか。
- 06C : あたしは、今 4 年生です。
- 07A : 4 年生ですね。いつ日本語を勉強しはじめましたか。
- 08C : (1) あー、2003 年に日本語を、勉強し、はじめました。
- 09A : うーん、そうですねー。4 年前ですね//ー。
- 10C : はーい
- 11A : どうして日本語を勉強しはじめたんですか。
- 12C : あー、うちの (1) あねーは、小学校で日本語を勉強しました。それでー (0.5) あーかのじょーのー、日本人の友達は私たちのうちによーつくーhome stay、しました。あたしは日本語のー発音はきれーい、だと思っ、あのーサントペテルブルグ総合大学の東洋学部にはい (0.5) 入りたいと決めました。
- 13A : うーん、なるほど。じゃー、日本語はどうですか。
- 14C : (1.5) 難しい (1) です、とっても。
- 15A : どうして難しいと思っていらっしゃるんですか。
- 16C : あー、あのーんーにはほーんー (0.5) ごーのー、漢字はとっても難しいです。朝から、晩まで勉強しなければならいんです。あと、発音 (0.5) とー文法も、難しいです。
- 17A : うーん、なるほど。日本へ行ったことがありますか。
- 18C : ありません。(0.5) まだです。っっております。
- 19A : もし、行くことができたら、どこへ行きたいんですか。
- 20C : あーmー、もちろん {笑い} あのー、東 を訪問したいんです。でも、私は 縄、へ行きたいんです。
- 21A : 縄ですか。どうして 縄へ行きたいんでしょうか。＝
- 22C : ＝ 縄の文化はと (0.5) ってーもー (1.5) 面白い、だと思っます。あーふつ[普通]、縄は 球でした。あのー別の (0.5) こくでした。それで (0.5) うーんー、 縄

語 (1) の発音は、とってもきれーいです。

23A : うーん//ー

24C : それでー、 縄へ行ったら、 縄弁を (0.5) 勉強したいんです。

25A : はー、わかりました。じゃ、日本人の友達がありますねー。

26C : はい

27A : その友達はーよくサンクトペテルブルグに来ました＝

28C : ＝うん

29A : ね

30C : そうですね。

31A : で、あのー、一緒に んだことがありますか。

32C : はい、あります。

33A : その時に、どこへ行きましたか。

34C : (2) うーんー、あのーサンクトペテルブルグのマリンスキー 場や (1.5) うーん  
ー、サンクトペテルブルグのクラブへ (1) 行きました。

35A : どうして 場へ行ったんですか。

36C : あのーわたしーいの、っともだちはー、バレーが (0.5) 大好きです。

37A : うーん

38C : それでよく (0.5) あのー、バレーをよ (0.5) 見に行きました。

39A : うーん、わかりました。

### 絵 1 について

(12) あのー (2.5) ベッドにー (0.5) いるー、女の子は (0.5) 病気だそうです。(1.5)  
かんー (1.5) あのー女の子はー (1.5) 高い熱がー (0.5) あってもー (0.5) べんきょ  
うー (1) に、行きたいんです。(2) しかしー、熱がーとっても高いですから、あのー授業  
に (0.5) 来ませんで (2) 来ません。それで (0.5) 彼女は心配しています。

### 絵 2 について

(12.5) あー (1) あかっちゃーんーは (0.5) 寝ています。あかっちゃーんーのー (1) お父  
さーん (1) は (0.5) あーmー (0.5) 彼の子供は (1) 泣くー (1) あの (2) んー泣くー (0.5)  
とー (3) とってーびっくりうちから (0.5) 出ると思います。[筆者 : うーんー]静かに  
(1) 出たいと思います。

### 絵3について

(3.5) あー、「わたしは今 (1.5) 運転しなければならないので (0.5) ビール、を、飲みません」(1) という (0.5) 男、だと思います。

### 絵4について

(22.5) あ、子供はとっても (1.5) 短く (0.5) テレビを見ています。母は (0.5) 「遠くー見る方がいい」(1) と言った (1.5) と思います。

### 絵5について

(9.5) ホームー (1) にーいる人々は、列車を待っています。れ、列車は (1) 来ない、から、皆は (1.5) いらいらしています。

## 資料 2.3 フォローアップタスクの資料

### 資料 2.3.1 インフォーマント 2g1 の場合

- から：私は日本語が好きですから、大学に入りました。  
Я люблю японский язык, поэтому поступил в университет. (причина→следствие: из причины вытекает следствие)
- ので：あついで、ちょっとまどをあけください。(たまにので=から)  
Жарко, поэтому откройте окно. (иногда ので=から)
- のです (んです)：стоит в конце предложения  
いま時間がありません。会議が行われているんです。  
У меня сейчас нет времени. У меня же сейчас конференция.  
(Имеет значение «да потому что...», «да ведь...») Имеет оттенок раздражения. Перед の ожет стоять な (это связка перед です、な перед существительными)
- 一からです：「のです」に似ている。(«да потому, что...»)  
—どうしてかおのいろがわるいですか。  
—どうしたのですか。  
—いまびょうきになってきました。(=なってきたからです)
- それから、このことから、このように и т.д. (вводные слова, соединяют предложения, вывод из ситуации)  
Санкт-Петербургはゆうめいな町です。このことから、毎年大勢の人が外国から来ています。

### 資料 2.3.2 インフォーマント 2g2 の場合

- から (так как)  
私は学生ですから日本語を勉強しています。
- ので (так как, потому что)
- のです (=ので) (в конце предложения равно ので)

### 資料 2.3.3 インフォーマント 2g3 の場合

- から：べんきょうするからえいがかんへ行くことができない。
- ので：雪がふるので女の子がびょうきになった。
- だから：どして日本語をべんきょうしはじめましたか。日本語がすきだから。
- けっか、りゆ
- のに

### 資料 2.3.4 インフォーマント 2g4 の場合

- げんいん (причина и следствие)
- ですから (союз)
- ので (союз)
- そのけっか (вводное слово)

### 資料 2.3.5 インフォーマント 2g5 の場合

#### 文法

- から
- ので
- のに
- から (です)

#### 言葉

- けっか
- どうして
- なんで
- なぜ
- りゆう
- げんいん

#### 資料 2.3.6 インフォーマント 2k1 の場合

- から (после заключительной формы глагола в придаточном предложении)  
(также после прилагательного)

てんきがさむいだからさん しません。

Если から стоит в конце целого придаточного предложения, связка です заменяется на だ.

- Вопрос строится при помощи вопросительного слова どして  
どして学校に行きませんか。

#### 資料 2.3.7 インフォーマント 2k2 の場合

- から (поэтому)
- ので (из-за)
- ため (потому что)
- ですから (поэтому)

#### 資料 2.3.8 インフォーマント 2k3 の場合

- о с н. +からです (потому что)
- です+から (так как)

#### 資料 2.3.9 インフォーマント 2k4 の場合

- 3-я форма глагола +から
- 3-я форма глагола +ために
- だから
- のに

#### 資料 2.3.10 インフォーマント 2k5 の場合

- 3-я или заключ. осн. +から
- ので
- ため
- の/ん (です) (имеет оттенок пояснения причины)

#### 資料 2.3.11 インフォーマント 2k6 の場合

##### 文法

- から (так как)
- ので (так как)
- で (в значении из-за)

##### 言葉

- それで (в начале предложения)

#### 資料 2.3.12 インフォーマント 2k7 の場合

- から
- のに

#### 資料 2.3.13 インフォーマント 2k8 の場合

- から  
たくさんべんきょうしますから日本へ行きます。
- ために  
日本へ行くためにたくさんべんきょうします。

#### 資料 2.3.14 インフォーマント 2k9 の場合

Причину можно выразить с помощью связок(です)から, ので стоящих после инфинитива, если предложение в настоящем времени или после формы на ~た.

資料 2.3.15 インフォーマント 2k10 の場合

- から (потому что)

資料 2.3.16 インフォーマント 3g1 の場合

- ~たからです (разъяснение причины)
- ~のです (разъяснение причины)
- ですから (поэтому)
- のために (из-за)
- のせいで (по вине)
- のおかげで (благодаря)
- ということです。
- という理由です。
- というものです。
- によって (из-за)
- ~て

資料 2.3.17 インフォーマント 3g2 の場合

- のせいで/のせいか
- のおかげで
- [う/る]から
- ...からです。
- で
- ~を理由にして
- (の) ため
- なぜなら
- だから
- ですから

#### 資料 2.3.18 インフォーマント 3g3 の場合

- から
- ので (используется в официальной речи)
- ですから (в начале)

#### 資料 2.3.19 インフォーマント 3g4 の場合

- から (исходный падеж, одна из функций – причина. Буквально переводится как «потому что»)  
年生からです。  
Потому как студент.

#### 資料 2.3.20 インフォーマント 3g5 の場合

- +から  
お金がのったから、その本をかいませんでした。
- +のに
- +ので
- II+に
- で  
かぜで休みます。

#### 資料 2.3.21 インフォーマント 3g6 の場合

- ~で (указывает на прямую связь между причиной и совершением действия)  
子供は風邪で学校を休んだ。
- ~から (указывает на косвенную причину + результат действия будет заметен через некоторое время)  
サンルーマからしわが現れる。

彼から試験を受けることができなかった。

- ～に (указывает на причину, которая не зависит от воли говорящего или деятеля)  
暑さに気を失う人が多くなった。
- ～によって (употребляется в том же случае, что и～で)  
自身によって/で沢山の建物が壊 [壊]した。
- ～のせいで (результат действия, вызванный действием глагола в придаточной части предложения, как правило, отрицательный)
- ～ため (に) (если глагол, стоящий перед союзом ～ため (に) выражает действие, которое не зависит от воли говорящего или деятеля, союз ～ため (に) указывает на причину)
- 理由で

#### 資料 2.3.22 インフォーマント 3g7 の場合

- **закл. форма** +から
- ～の理由で
- **закл. форма** +ので
- ～の結果で

#### 資料 2.3.23 インフォーマント 3g8 の場合

- [原因・理由] で [結果]
- [原因・理由] から [結果]
- [原因・理由] のせいで [結果]
- [原因・理由] のため [結果]
- [原因・理由] ～て/で [結果]
- [原因・理由]。だから、 [結果]
- [結果]。 [原因・理由] からです。
- [結果]。 [原因・理由] のです。

#### 資料 2.3.24 インフォーマント 3k1 の場合

- だから (поэтому)
- ですから (поэтому)
- наст.-буд. / пр.вр. +から
- ~のせいで (по причине)
- ~わけです

#### 資料 2.3.25 インフォーマント 3k2 の場合

- **закл.форма глагола+から** (так как, поэтому)  
雨がふっているから、さん へ行きません。
- **закл.форма глагола** **ので** (поскольку, так как)  
その人が強そうに見えるので、けんかしないほうがいいと思います。
- **せいで** (из-за)  
彼のせいで、ニリは先生におこられた。
- **おかげで** (благодаря)  
親のおかげで、大学に入学できた。
- **で** (из-за, по причине)  
コンピューターで目がわるくなった。
- **の/глагол на** **た理由で**。
- **~て/で** (иногда имеет причинно-следственную связь)
- **原因** (причина)
- **ゆえに** (по причине)

#### 資料 2.3.26 インフォーマント 3k3 の場合

- **ので**
- **から**  
びょうきですからがっこうに行きません
- **のせいで**

- に
- ゆえに
- で
- 理由
- 原因

資料 2.3.27 インフォーマント 3k4 の場合

- ので
- から
- この理由で
- せいで
- で
- ゆえに

資料 2.3.28 インフォーマント 3k5 の場合

- ので
- で
- せい
- (の) ため (に)

資料 2.3.29 インフォーマント 3k6 の場合

- гл.た/だ+から、...です。
- гл. в инфинитиве+ので
- гл.+ため
- で
- сущ.+のために/そのために
- せいで

資料 2. 3. 30 インフォーマント 4g1 の場合

- **закл. форма глагола +から**
- **закл. форма глагола +ので**
- **форма глагола на ~て**
- **сущ./субстантивированный глагол +のせいで** (если причина и результат неприятные)

資料 2. 3. 31 インフォーマント 4g2 の場合

- **форма て/で**  
今日は寒くて^{けごろも}を着る人が多い。
- **ので** (нейтральная причина)  
日本語が好きなので二本に留学をしたい。
- **форма перечисления причин し**  
値段が安いし、日立という会社が有名し、このテレビを買うにしました。
- **форма на てから**  
この仕事を終了するから学年論文を書くつもりです。  
Только после того как закончу эту работу, стану писать курсовую。
- **何々の理由で** (по причине чего-либо)  
病気の理由で授業を休むしかない。
- **форма на だから**
- **それで、そして**

資料 2. 3. 32 インフォーマント 4g3 の場合

- **~たから**
- **~ので**
- **それで** (употребляется в начале предложения, в котором содержится следствие)
- **~ものの** (не используется в разговорной речи, встречается чаще в прессе)

- この理由で (употребляется в начале предложения, в котором содержится следствие)

あさはやくおきたから、ちょっとねむい。

この花がきれいなので、買いたいです。

この人はとてもあたまがよくて、勉強することが大好きです。それで学者になります。

高 者の数が増えたものの、特分な処理が 要だ。

#### 資料 2.3.33 インフォーマント 4g4 の場合

- から (более общая объективная причина)
- ので (обозначает более конкретную причину)  
道は込んでいたので遅くなりました。  
日本が好きですから、日本へ行きたいです。
- だから/ですから (вводят новое предложение с указанием причины действия, описанного в предыдущем предложении; ставятся в начале предложения)
- のです (ставится в конце предложения, в котором приводится причина)  
きょうはサンクトペテルブルグに帰ってきたばかりです。ですから、おととい大学に来ませんでした。
- この/その理由で

#### 資料 2.3.34 インフォーマント 4g5 の場合

- のだ/のです、срединная форма ので (используется после конечной формы прилагательного. или глагола и обозначает причину)  
食べたいので、ケーキをかいた (買った)。  
Так как хочу есть, я купила тортик.
- から (этот падеж может использоваться для обозначения причины действия)  
大学でべん教 (勉強) しているから、バイトしない。  
Поскольку я учусь в университете, я не работаю.

#### 資料 2. 3. 35 インフォーマント 4g6 の場合

- から
- ので
- には
- をきっかけに
- を契機に
- の理由で
- 訳です
- に由来する
- に起因する
- ですから
- だから
- それで
- ゆえに

#### 資料 2. 3. 36 インフォーマント 4g7 の場合

- から (присоединяется к глаголу в форме настоящего или прошедшего времени; глагол может стоять как в нейтрально-письменном, так и в вежливом стилях)  
授業が終わったから、家に帰ります。  
Так как закончились занятия, я возвращаюсь домой.  
勉強しているから、 びに行くことができません。  
Так как я занимаюсь, не могу пойти гулять.
- ので (так же как и から присоединятся к глаголу в форме настоящего или прошедшего времени, но более официальное употребление; присоединяется к глаголу, в форме вежливого стиля)  
準備をしていますので、しずかにしてください。
- の理由で (по такой-то причине)=~のせいで  
政治の {理由で/せいで}、これをするのはだめです。

Это запрещено делать по политическим причинам.

- ですから (вежливо-разговорный стиль)、だから (нейтрально-письменный стиль)(ставятся в начале предложения, чтобы показать зависимость между 1-ым и 2-ым)

今日は雨が降りそうです。ですから、かさをもつのほうがいいです。

Сегодня кажется будет дождь. Поэтому, лучше взять зонт.

- なにをした (する) □、…□、…です。  
気がよかったし、人びとがたくさんいたし、りょうこう (旅行) がとても面白かった。

#### 資料 2. 3. 37 インフォーマント 4g8 の場合

- ので (из-за)
- から (из-за)
- だから (поэтому, потому)
- なんて、どうして、なぜ (почему)
- し (и)
- せい (по причине)

#### 資料 2. 3. 38 インフォーマント 4g9 の場合

- ので (поэтому)
- から
- だから (потому)
- …し…し…します
- それで (поэтому)

#### 資料 2.3.39 インフォーマント 4g10 の場合

- ので (поскольку)
- ですから (потому что)
- のに (поскольку)

#### 資料 2.3.40 インフォーマント 4k1 の場合

- 2 осн. глагола +から (поскольку)  
雨がふりますから、会見へ行きません。
- 2 осн. глагола +ので (поскольку)  
大学の授業があるので、会えません。
- ですから

#### 資料 2.3.41 インフォーマント 4k2 の場合

- から  
きのうびょうきになったから、学校を休みました。
- ので  
雨がふるので、外にいきたくないんです。
- ~の(りゅう)で  
雨のりゅうで、外にいきませんでした。

#### 資料 2.3.42 インフォーマント 4k3 の場合

- 転(運転)するので、ビーを飲むことができません。
- 病気になりましたから、きょう学校を休みます。
- お を飲んではいけません。ですから、体の調子のために悪いことです。
- きょう散歩することができないのは、一日中雨がふっているのです。

#### 資料 2.3.43 インフォーマント 4k4 の場合

- から
- で
- ですから
- ので
- によって
- せいで
- おかげで

#### 資料 2.3.44 インフォーマント 4k5 の場合

- ので  
テストがよくできたので、いい仕事ができるようになりました。
- から  
テストを受けたから、四年生になりました。
- だから  
明日モスクワに行くつもりです。だから、マリアさんと会えません。
- それで  
きのう学校におそくまで勉強しました。それで、マリアのところにちこくしました。

#### 資料 2.3.45 インフォーマント 4k6 の場合

- ...というのは、...からです。
- ...その理由は、...からです。  
私は日本語を勉強し始めました。その理由はよい学生になりたいからです。
- で  
渋滞で授業を休みました。  
渋滞で欠席しました。
- から  
病気になりましたから、病院へ行きました。

- それで

日本語の漢字が難しいし、書き方も難しいし、それで覚えにくい。

- ゆえに

#### 資料 2.3.46 インフォーマント 4k7 の場合

- ので

あした試験があるので、勉強しないわけにはいきません。

- から

家族がいるから、働かないわけにはいかない。

- ため

昨日、山本さんのため、大学へ行きませんでした。

- で